

VIII 各教科等の実践

教科部で大切にしていること

言葉により”伝え合う力”を育むこと

言葉は、社会生活の核である。ここでいう言葉とは、音声や文字などにより、情報や意志などを伝達する手段となる表現を含むものである。

私たちは言葉をとおして他者とつながり、社会生活を営んでいる。言葉でお互いの意志や考えを伝え合うことで、社会で生きる多様な他者を理解し、共生を目指していくことが必要である。

また、言葉は他者とのコミュニケーション手段であるとともに、他者を通して自分が何者なのかを知り、自己形成・自己実現していくために欠かせないものでもある。

言葉への自覚を高め、語感を磨き、語彙を豊かにすることで、日常生活や社会生活で言葉により伝え合う力を育むことができるのではないかと考える。



願う子供の姿

単に国語の特質を知ることにとどまるだけでなく、目的に向かって自ら情報を得たり、互いの思いや考えを伝え合ったり、よりよいものを生み出したりする際に、意思疎通を図ることができる“言葉”を用いて活動する姿を願っている。

そのためには、情報を比較・分類したり、対比・因果関係を捉えたりしながら、必要な情報を選択することを通して、自分の考えを形成する姿を目指す。さらに、他者と意思疎通を図るために論理的に伝え合う活動を通して、新たな発想や思考を創造したり、自分なりのものの見方や考え方を形成したりしながら、言語能力を向上させていく姿を期待している。

小中の取り組み

- ・自分の“伝えたい”ことを伝えるために、根拠や理由を基に自分の言葉で説明できるようにする。
- ・自他の価値観を認め合ことで、自分の考えを広げたり深めたり再考したりすることができるようにする。

小学校

小学校では、“言葉”を通して語り合うための土台作りをする場であると考えている。何に注目して、どのように考えればよいのかという「見方・考え方」をはたらかせるために必要な知識・技能を育むことを目指す。また、各領域で設けられた学習過程を明確にして取り組むことで、子供たち自身も学習過程を意識し見通しをもって取り組むことができるようにする。その中でも小学校では、「考えの形成」を重点にする。“自分なりの考え”を根拠や理由を基に自分の言葉で説明できるようにしていきたい。

また、「読むこと」領域で得た学びを「書くこと」や「話すこと」の領域で活用することを通して、汎用性のある学びを実現できるようにしたい。

中学校

小学校国語科と中学校国語科の学習過程は統一されている。そのことを踏まえ、小学校で培われた「見方・考え方」を日常生活から社会生活へと更に深化させていく。その手立てとして、次のことに重点的に取り組む。

- ・グループワーク等を行うことで他者と意見を「共有」し、よりよい「考えの形成」を目指す。自分の考えを述べる際は、テキストや事実に基づいた根拠を述べられるようにしたい。
- ・シチュエーションや相手を明確にして、意図的に言葉を選ぶ必要がある状況をつくることにより、語感を磨く機会を作りたい。
- ・三段論法や三角ロジックなど、論理的に考えるために必要な技能や思考ツールを用いる練習をし、論理的に考え、表現する力を高めたい。

取り組みに対する振り返り

成 果

自分の“伝えたい”ことを伝えるために、根拠や理由を基に言葉で説明できるようにする

○“伝えたい”を引き出す課題設定の工夫

教材との出会いを大切にしてきた。子供たちが教師から一方的に与えられた教材という意識ではなく、少しでも必要感をもって教材と出会うことができるように提示の仕方や単元の構成等を工夫して取り組んできた。

課題の設定についても、意図的に子供たちの考えを揺さぶるような課題や、今までの学びの履歴を意識しながら、見方・考え方を広げていくことができるような課題、子供たち同士の考えにズレが生じるような課題など、課題設定を工夫することで、子供たちの「やってみたい!」「どうして!?!」「みんなはどう考えるのだろうか?」という気持ちを引き出すことができ、主体的かつ協働的に学びに向かおうとする姿が見られた。また、課題の設定を子供たちと共有しながら、共に創り上げていくことで「やりたい!」「伝えたい」という思いが一時的に終わるのではなく、単元を通して課題の解決に向けて粘り強く取り組もうとする姿も見られた。

○叙述を根拠に自分の考えをもつ姿

「構造と内容の把握」を基に「精査・解釈」することを通して、「自分の考えを形成」し、「共有」していくという学習過程を意識した授業をデザインしたことで、叙述に立ち返る姿が見られた。さらに、叙述に立ち返ることで叙述から想像を広げたり、叙述を基に自分の考えを言葉にして他者に伝えたりする姿が見られた。

また、「それってどこに書いてあるの?」「○ページの○行目を見て!」など、子供たち同士で叙述を大切にする姿も多く見られた。叙述に書かれていることを根拠にした考えには妥当性があり、叙述から乖離した考えには、納得できないというように、叙述を基に自分の考えを形成していくことの大切さにも気づき始めているように感じる。

自他の価値観を認め合うことで、自分の考えを深めたり再考したりすることができるようにする。

○子供たちが選択できる学び方（表現の仕方）

「考えの形成」の場面で、その方法を子供たち自身が選択できるようにしたことで、どのような方法で自分の考えを表現していくか試行錯誤する姿が見られた。「共有」の場面でも、自分の思いや考えを伝えたいという思いから、自然と対話が生まれ、様々な考えに耳を傾けようとする姿も見られた。解決の方法を選択できるということは、自分の思いやよさを生かすことができるということだけでなく、自発的に他者の考えに触れ、課題を解決していこうとする姿にもつながっているように感じた。

また、他者に自分の考えを伝える活動を通して、妥当性のある根拠を基に自分の考えを述べるようになってきた。

課 題

「やりたい!」という思いを引き出すことができた一方で、自分の活動を振り返り自己を省察する機会が少なかった。自分が選択した方法が解決する手段として適切かどうかを振り返ることができれば、より良い学び方を見出すことができるようになると思う。

また、本文の叙述に立ち止まり、その叙述を基に自分の考えをもつことのできる姿が見られたが、自分の考えとその叙述との結びつきが弱かったり、そのつながりを見出せなかったりすることで、自分の考えが他者に伝わらない（伝わりづらい）という課題も明らかになった。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

来年度も、学習過程を意識した授業づくりを通して、子供たちが叙述に立ち止まり、叙述を基に語り合うような時間をデザインしていきたい。

また、自分の考えをより論理的に他者に伝えることができるように自分の考えとその根拠にあたる叙述がどのように結びついているのか（理由付け）について考えることができるようにしていきたい。

さらに、自分の考えの表現や共有の仕方など、学び方を子供たち自身が選択したり考え出したりできるようにしていきたい。その中で、「自分の学びはどうだったのか?」などと振り返る時間（機会）も充実させることで、自分の学びを自覚化しながら学びを積み重ねていくなど、自分たちで学びを創造していくことができるような取り組みしていきたい。

単元名 おはなしをたのしもう 『やくそく』 小風さち(光村図書1年上)

本単元に取り組む子供の実態

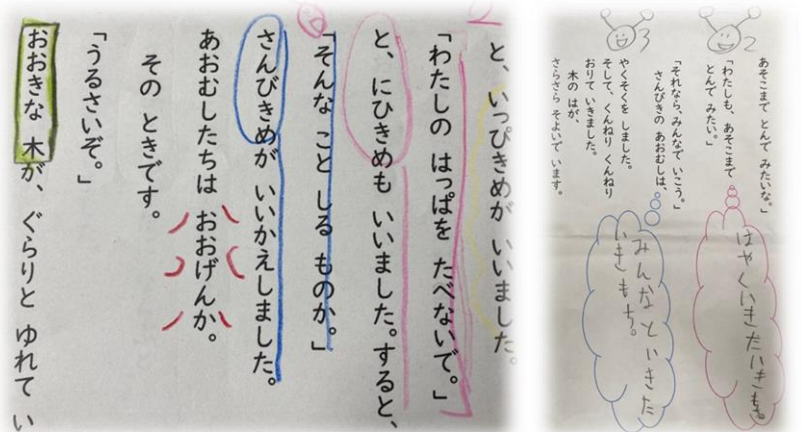
「読むこと」における文学的な文章の学習では、「構造と内容の把握」を重点に学習してきた。登場人物のしたことや言ったことに目を向けたり、挿絵から場面の様子を捉えたりしながら文章を読んできた。挿絵が児童に与える影響は大きく、挿絵からの情報をたよりにする中で、叙述への意識が薄れていってしまう児童も多く見られた。そのような児童も少しずつではあるが、挿絵と叙述とを行ったり来たりしながら、物語全体の内容を理解することができるようになってきた。また、叙述や挿絵をもとに理解した「書かれていること」から「書かれていないこと」を考える楽しさにも気づき始めている様子も見られる。

しかし一方で、想像を広げる場面では、「何か答えがあるのではないか?」という意識をもち、どこか答えを探しているような姿も見られる。場面の様子などに着目して、登場人物の行動や会話について、具体的に思い描きながら、その世界を豊かに想像する中で、他者の多様な解釈に触れ、想像を広げながら読むことの楽しさを味わうことができるようにする必要があると感じている。

本単元設定の理由

本単元の学習を通して、登場人物のしたことや様子を思い浮かべながら読み、想像したことをもとに「続き話を考える」という活動を設定する。「構造と内容の把握」「精査・解釈」を行なったことを土台として、続き話を考える活動において「考えの形成」「共有」を図ることで、叙述をもとに想像を広げることへの第一歩となることを期待したい。「精査・解釈」の場面では、どのように音読するかを考えたり、友達の読み方を聞いて理由を尋ねたりする中で、登場人物の行動や会話をより具体的に想像することができるようにする。

本単元で扱う教材「やくそく」では、他者と喧嘩したり、分かり合えたりするという児童にとっても身近な題材である。自分の体験や経験に照らし合わせて、登場人物であるあおむしたちに感情移入し、その時々言動について想像を巡らせるなど、想像を広げて読むことに必然性をもつことができる。



本単元で願う子供の姿

登場人物のやりとりの様子を思い浮かべて音読することを通して、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する姿。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○文の中における主語と述語との関係に気付いている。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像している。	○学習課題を意識して、粘り強く取り組む中で、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えたり、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像したりしようとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>【課題設定】</p> <p>○学習のイメージをもつ姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やくそく」だから登場人物は2人出てくのかな。 ・あおむしが出てくるときは、葉っぱを食べる音から始まっているね。 ・約束した後はどうなったんだろう? みんなで海を見に行ったのかな? 		
2	<p>【構造と内容の把握】</p> <p>○登場人物の行動や主な出来事など、内容の大体を捉えている姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおむしが3匹出てきたね。 ・言い合いから大喧嘩になったよね。 ・おおきな木が出てきて大喧嘩が終わったんだよね。 ・約束をした後、どうなったのだろう? 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>登場人物の行動や主な出来事など、内容の大体を捉えている姿 (発言、ワークシート)</p>	<p>重点①</p> <p>時や場所、人物の様子に関わる語句を間違えた範読を聞き、その間違いを指摘することを通して、物語の設定を捉えることができるようにする。</p>
3	<p>○会話文や行動描写の主語と述語の関係をつかえる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が言ったか「」の前に書かれているよ。 ・「3匹目が言い返しました。」のところは、「」の後に誰が言ったか書かれていたよ。 ・動きや会話の前後の言葉に注目すると、誰の言葉か分かるね。 	<p>【知識・技能】</p> <p>会話文や行動描写の主語と述語の関係に気付いている姿 (発言、教材文)</p>	
4 5 6	<p>【精査・解釈】</p> <p>○登場人物の行動や会話の様子を具体的に想像する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「だめ、だめ」のところは、慌てて止めているような感じがするよね。 ・言い合いのところは大喧嘩よりも少し優しい感じの方がいいね。 ・「そんなことするものか」は言い合いから大喧嘩に変わるところだから、冷たい感じがいいかな。 ・約束のところはワクワクした感じが出るように読みたいな。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>登場人物の行動や会話の様子を具体的に想像する姿 (発言、音読、ワークシート)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>学習課題を意識して、粘り強く取り組む中で、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をつかえたり、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像したりしようとしている姿 (発言、音読、ワークシート)</p>	<p>重点②</p> <p>どのような口調や表情で言ったのか実際に声に出して試したり、友達の読み方を聞いて理由を尋ね合ったりする中で、登場人物の行動や会話の様子を具体的に想像できるようにする。</p>
7	<p>【考えの形成】</p> <p>○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束を果たすために、蝶になってみんなで海まで飛んで行ったと思うな。 ・蛹のときにも、蝶になったらどんなところを行こうかなとみんなで話していると思う。 ・おおきな木に見てきた景色のことを話しているよ。 	<p>【指導に生かす評価】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ姿 (発言、ワークシート)</p>	<p>重点①</p> <p>子供たちが想起しにくい挿絵を例示し、自分の考えとズレが生じることで、多様な想像が生まれるようにする。</p> <p>重点②</p> <p>「いつ?」「どこで?」「誰が?」「何をしているところ?」「どんなことを話しているのだろう?」という視点で続き話を考えることで、根拠をもって想像を広げることができるようにする。また、考えの根拠を問う中で、叙述に立ち返り想像を広げることができるようにする。</p>
8	<p>【共有】</p> <p>○互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束をした後にみんなで降りて行ったから、蛹のときも、みんなで話していたのかもかもしれないね。 ・次のおすすめの場所をおおきな木に聞いているのかもかもしれないよ。 	<p>【指導に生かす評価】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>文章を読んで感じたことや分かっていたことを共有する姿 (発言、振り返り)</p>	

本時で目指す子供の姿

- ・「やくそく」をしたから、蝶になってその「やくそく」をみんなで果たしたんだと思うな。
- ・「やくそく」をした後、蝶になるまでの間もみんなで一緒に葉っぱを食べたり、話をしたりしていたと思うよ。
- ・「やくそく」を果たした後はどうするんだろう？また新しい「やくそく」をしたのかもかもしれないね。
- ・どの挿絵もこのお話の続き話になりそうだね。
- ・みんなはどんな挿絵を続き話に選んだんだろう？ そのわけを知りたいな。

○学ぶ子供の姿 ・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○学びの履歴を振り返る姿

- ・3匹の青虫と大きな木が出てくるお話だね。
- ・最初は言い合いだったけど、大喧嘩になってしまったよね。
- ・「やくそく」をしたけど、その約束がどうなったかが書いていなかったよね。

○本時の学習の見通しをもつ姿

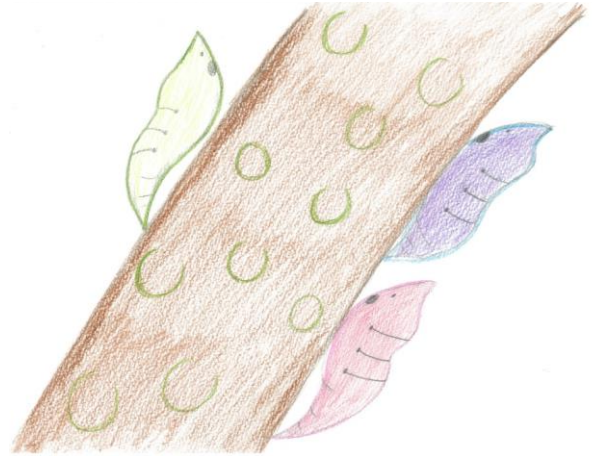
- ・このお話は途中で終わっているような感じがしたよね。
- ・続き話ってことは、3匹のあおむしが出てくるよね。
- ・あおむしが成長して、蝶になったお話じゃないかな？
- ・「やくそく」したことがどうなったかが気になるよね。
- ・いろんな続き話が考えられそうだね。

○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、続き話に合う挿絵について考える姿

- ・成長して蝶になっていると思うな。
- ・海を見る「やくそく」をしたから、みんなで海を見に行っただんじゃないかな。
- ・海に行ったら次はどこに行こうか、また新しい「やくそく」をするんじゃないかな。
- ・綺麗な海を初めて見れたから、おおきな木にお礼を言いに行っただんじゃないかな。
- ・やくそくした後、みんなで木を降りて行ったから、蝶になるまでみんな一緒にいたと思う。
- ・蛹になったときも、みんなで約束のことを話していると思う。早く蝶になりたいなって話していると思うよ。
- ・蝶になってすぐは上手に飛べないから、みんなで約束を果たすために飛ぶ練習をしているんじゃないかな？
- ・どの挿絵も続き話のような気がするね。

○互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしようとする姿

- ・続き話は1つではないのかもしれない。
- ・みんながどんな挿絵を選んだのか知りたいな。どうしてそれを選んだのかも分かるとおもしろそうだな。



■登場人物の言動について具体的に想像しているかを見取る。

重点①

子供たちが想起しにくい挿絵を例示し、自分の考えとズレが生じることで、多様な想像が生まれるようにする。

重点②

「いつ?」「どこで?」「誰が?」「何をしているところ?」「どんなことを話しているのだろうか?」という視点で続き話を考えることで、根拠をもって想像を広げることができるようになる。また、考えの根拠を問う中で、叙述に立ち返り想像を広げることができるようになる。



評価

[指導に生かす評価]

【思考・判断・表現】

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ姿(発言、ワークシート)

支援を要する子供に対する手立て

挿絵を例示し何が描かれているかを問い、本文と続き話の挿絵との共通点や相違点を整理したり、物語の内容の大体について振り返ったりすることで、時間の流れを捉え、挿絵をもとに続き話を考えることができるようにする。また、書くことが苦手な子供には、口頭で自分の考えを表現できるようにする。

本時の子供の姿

本時では、「読むこと」における「考えの形成」の学習に取り組み、物語の続き話を考えることをめざした。物語の続き話を考えるためには、「構造と内容の把握」を通して捉えてきた内容（何が書かれているか）と構造（どのように書かれているか）を基に考えることが重要になる。

授業では、書かれていること（叙述）を基にして書かれていないこと（続き話）を想像する姿が見られた。場面の様子に着目したり、経験と結び付けたりしながら具体的に想像しようとしていたといえる。

しかし、考えを支える根拠について全員で共有することが難しく、叙述を基に想像できている児童と、叙述から離れてしまい空想になっている児童の姿が見られた。考えの根拠について共有することができれば、空想に陥らずに叙述を基に具体的に想像することができるようになっていくと感じた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

【重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり】

自分と友達の考えのズレるところに「どうして!」「私はこう考える!」というような「やりたい!」につながる思いが表出するのだと感じた。続き話を考える活動は、自分の考えを形成しながらも、「友達はどうな考えをもっているのだろう?」と思いを巡らせることにもつながり、他者との対話が自然と生まれ、考えを共有しながら、自分の考えを形成していく姿も見られた。

一方で、ズレを生むために提示した教師の考えに流れてしまう児童の姿も見られた。活動の見通しをもたせようと提示する考えが、児童の思考を狭めてしまう可能性もあるのだと感じた。

また、続き話を考えるワークシートを児童が自分で選択できるようにしたことで、文章と挿絵を結びつけながら続き話を考える姿も見られた。(写真) 課題の解決の方法を自分で選択できるということは、「やりたい!」という思いを掻き立てる非常に効果的な手段だと感じた。



【重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン】

続き話を考える言語活動は単元の最初の「出会いの感想」の中で、「この話は、途中で終わっている。」「やくそくをした後のことが書かれていない。」という児童の思いを基に設定した活動である。そのため、やりたいという思いをもち、積み重ねてきた既習事項を基にしながら具体的に想像する児童の姿も見られた。

一方で、続き話を考えるという活動は、叙述から離れやすく空想になりやすい。立ち返る叙述がどこなのかを意識できるようにするとともに、「なんでそう考えたの?」「どこからそう考えたの?」というように考えの根拠について児童自身が共有したくなるような工夫も必要である。様々な言語活動が考えられるが、児童の思いと指導事項とを擦り合わせながら言語活動を設定していくことの重要性を改めて感じた。

単元全体を振り返って

本単元では、続き話を考えることを通して、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像するということをめざした。国語という教科のフィルターを通して、児童の発言や活動を丁寧に見取りながら授業をデザインしていくことを意識して取り組んだこと、学習過程を意識して学びを積み重ねてきたことが、叙述を基に想像する姿につながったと感じる。

「考えの形成」の場面では、その方法を選択できるようにしたことで、自分に合った方法で課題を解決しようと試行錯誤する姿が見られた。教師が用意したものを自分で選択するというだけでなく、解決方法を自分で創り出す児童の姿も見られた。まさに、教師の想定を超えた児童の姿であったと感じる。これからも教師の想定を超えてくる児童の姿との出会いを大切にしながら実践を行っていききたい。



単元名 この「詩」 どんな「詩」 気になる「詩」

本単元に取り組む児童の実態

9月から「詩」のおもしろさについて考える学習に取り組んできた。「音数」「繰り返し」「オノマトペ」「比喻」「リズム」など、様々な技法や効果によって、「詩」をおもしろく感じるということについて迫ってきた。「詩」の中から同じ部分を見つけることで「音数」や「繰り返し」に気付くことができるようになったり、様子を伝えるように「オノマトペ」の部分を読んだり、「詩」を読むことを楽しんでいる。

「詩」の響きやリズムを感じながら言葉のもつ意味を考える機会を増やしたいと考え、家庭学習で「詩」の音読に取り組めるようにしている。児童の中には、ことばの意味に疑問をもったり作者に注目したりする姿が見られ、「詩」や「言葉」に対する興味関心の高まりを感じている。

言葉で表現することを楽しいと感じたり得意としたりする児童がいる一方で、自分の考えをもつことが難しかったり、自分の考えを表現することに時間がかかったりする児童もいる。友達の発言や板書を見ながら、自分の気持ちに近いものを選び、表現しようとする姿も見られる。

考えたことを共有する場面では、ペアを中心に行ってきた。考えたことや感じたことを伝え合う中で、自分と比べて聞く態度が身に付いてきている。しかし、友達の考えを聞き、自分の考えを言うだけの作業的にその時間を過ごす児童も見受けられる。何が目的なのかを、明確にして活動する必要があると考える。

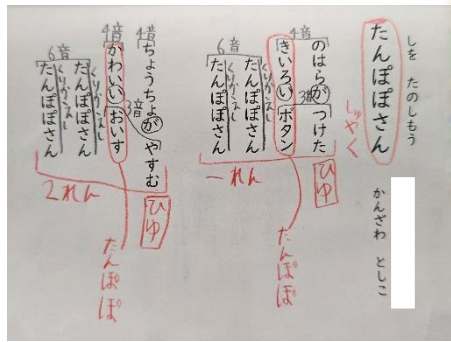
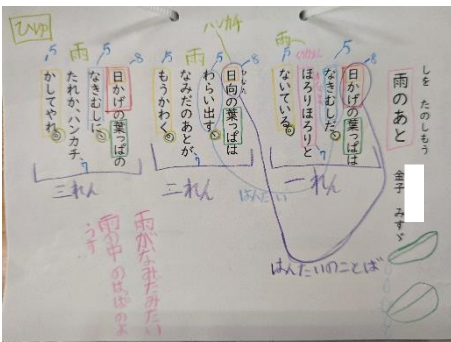
本単元設定の理由

「詩」は言葉のおもしろさを考えるのに適した教材である。日常生活の中でも、歌詞やコマーシャルなどを通して目や耳にすることが多い。「この歌のこのフレーズが好き。」「コマーシャルのこの言葉が心に残った。」という経験は、大抵の人がするものである。そして心が動いた時、人は誰かに伝えたいと感じるのではないだろうか。

本単元では、いくつかの「詩」の中から、自分が気に入った「詩」を選び、選んだ理由やおもしろさについて伝え合う活動を行う。言葉の響きのおもしろさであったり、リズムよく読める心地よさであったりと、それぞれが感じ取ったおもしろさを伝え合い共有することで、さらに自分の考えが広がっていくことを期待している。これまで学習してきた「詩」の技法や効果に着目しながら、「詩」のおもしろさに加えて、言葉や日本語の美しさを味わうこともできると考える。

児童が多様な考えにふれることができるよう、感じ取ったことを伝え合うための手段は、児童自身が選択する。絵や文で表現したり音読をしたりすることが考えられる。手段を選択することで、「オノマトペ」の部分を読んで表現してみよう、「たとえ」の部分に絵を描いてみようなど、おもしろいと感じた気持ちを素直に表現できるのではないだろうか。文で書くことが苦手な児童も、無理なく自分の考えを形成することをねらいとしている。

そして、共有の場面では、「おもしろい」と感じるどころが、人それぞれ違うということに気付き、様々な考え方があることを認め合う機会としたい。



本単元で願う子供の姿

- 自分なりに感じ取った、「詩」のおもしろさを表現する姿
- 友達と考えを共有し合い、さらに考えを形成する姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。	○「読むこと」において、詩を読んで感じたことや分かったことを共有している。	○進んで、場面の様子を具体的に想像し、学習の見通しをもって、考えたことをまとめようとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○詩の技法や効果について、気づいたことを書き込む姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〜〜」という言葉をくり返しているからこの詩の題名は「○○」だと思うよ。 ・この空欄にはオノマトペが入るね。 ・音数に決まりのある詩だ。 ・友達はどんなことを考えたか聞いてみたいな。 		<p>重点① 「詩」の題名やポイントとなる言葉を空欄にして提示する。どんな言葉が入るか、内容から想像することで、自然と技法や効果を考えることができるようにする。</p>
2	<p>○お気に入りの詩を選び、感じたことを伝える方法を考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比喻を使っているおもしろい詩だね。絵に描いてみたいな。 ・オノマトペのところが読んでいて楽しいから工夫して音読したい。 ・動作をつけて読みたい。 ・音数が決まっているから、同じように書いてみたい。 ・この詩のおもしろさを文章で紹介したい。 	<p>【知識・技能】 身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。</p>	<p>重点② 様々な詩から選択することで、他の詩と比較する状況が生まれる。自分が選んだ詩の特徴に気付きやすくする。</p> <p>重点① 感じたことを伝える方法を自分で選ぶようにする。伝えたいという気持ちを大切にす。</p>
3	<p>○詩から感じ取ったことを表現し、考えを形成する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〜〜」のところは、高い声で読んでみようかな。 ・比喻のところはこんな様子(絵)なんじゃないかな。 ・オノマトペに動きをつけたらおもしろそうだね。 ・他の方法でもやってみよう。 ・同じ詩を選んだ友達と一緒に考えたい。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 進んで、場面の様子を具体的に想像し、学習の見通しをもって、考えたことをまとめようとしている。</p>	<p>重点② 同じ詩を選んだ友達と話したり、様々な方法を試したりすることで、自分の伝えたいことを明確にして表現する。</p>
4	<p>○友達と互いの感じたことや考えたことを共有する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オノマトペのところの声を覚えて読んでいて、おもしろさが伝わったよ。 ・比喻が絵に描かれていて分かりやすい。 ・同じ詩を選んでいても、伝える方法がいろいろあって楽しいね。 ・おもしろいと感じるところは、みんな違うんだね。 	<p>【思考・判断・表現】 「読むこと」において、詩を読んで感じたことや分かったことを共有している。</p>	<p>重点② 友達がおもしろいと感じたのはどの部分なのかという視点をもって共有する。</p>

本時で目指す子供の姿

- ・技法や効果(オノマトペ、繰り返し、音数、比喻など)のところがおもしろい詩だね。こんなふうに表示してみよう。
- ・友達の考えを聞いたら、自分もやってみたくなった。参考にしてみよう一度考えてみよう。
- ・絵に描いてみたり音読してみたり、いろいろな方法でやってみたよ。「詩」っておもしろいね。

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○選んだ詩の気に入ったところについて確認し、本時の学習の見通しをもつ姿

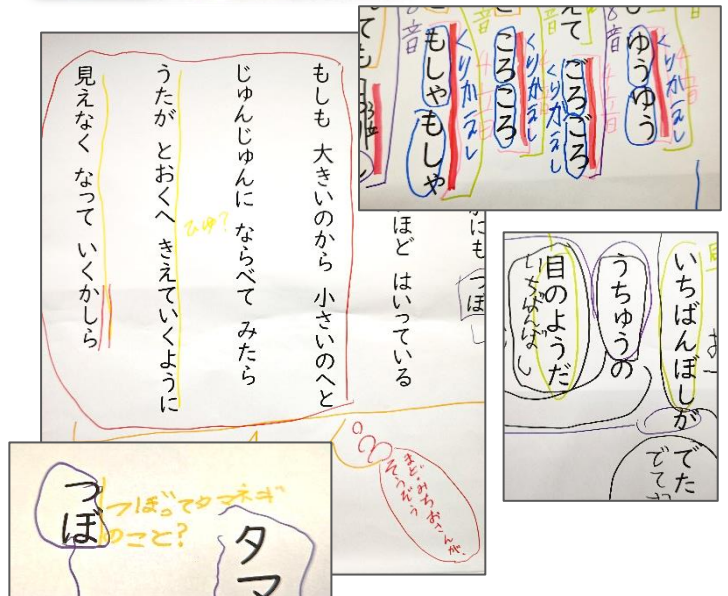
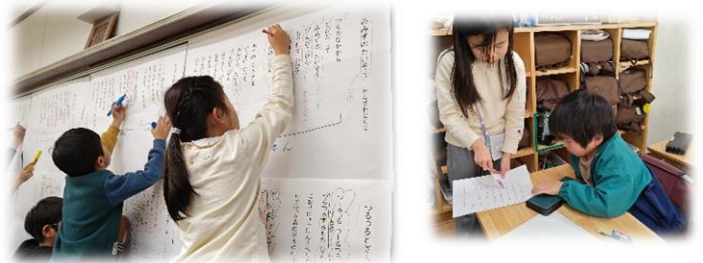
- ・ねこの様子を、いろいろなオノマトペを使って書いているところが気に入ったよ。
- ・音数が決まっていて、リズムよく読める。
- ・タマネギを切ったところが、壺に例えていておもしろいよ。
- ・「あら、どこだ?」という言葉がいつも最後に言っている。
- ・作者が「さわがによしお」ってなっているから、カニが書いた詩なんだね。だから、じゃんけんはチョコしか出せないだよ。
- ・おもしろいと感じたところを、友達に伝えたいな。
- ・伝える方法がいくつかありそうだから考えたいな。

○技法や効果に着目しながら、伝える方法について考える姿

- ・「うちゅうの 目のようだ」のところは比喻だね。空に光る目を描いてみよう。
- ・「ふんわふわ…」は優しい感じで、「べつとべと…」はゆっくり読んだら、様子が伝わると思う。
- ・「ろばの みみは うえむいて…」だから、手で耳の向きを表してみたよ。
- ・「あら、どこだ?」は3つの連で繰り返し出てくるから、動きを同じにしてみたよ。

○自分の考えを形成する姿

- ・最後の「どきん」のところは、大きな声で言ってみたら?
- ・絵に描いてみたけど、音数が揃っていないから音読するのも楽しそうだね。
- ・他の方法も試してみたけど、この詩のおもしろさは音読することで伝わると思うな。



■おもしろいと感じた場面を具体的に想像し、伝える方法を考えているかを見取る。

何をおもしろいと感じるかには人それぞれであり、正解はない。しかし、なぜそれをおもしろいと感じたのか、根拠はあるはずである。自分が想像したことを言葉で説明することは難しいが、音や動作、絵などに表すことが、おもしろさの根拠となると考える。

重点②

同じ詩を選んだ友達と話したり、様々な方法を試したりすることで、自分の伝えたいことを明確にして表現できるようにする。

評価

【主体的に学習に取り組む態度】

進んで、場面の様子を具体的に想像し、学習の見通しをもって、考えたことをまとめようとしている。(発言、ワークシート)

支援を要する子供に対する手立て

なかなか考えの形成が進まない児童の要因として、選んだ詩の場面に表現の方法が適していないことが考えられる。例えば、リズムよく読むことがおもしろい詩を絵に描いて表現しようとする、などである。選んだ詩のどこをおもしろいと感じたのか問い、それを表すための方法を一緒に考えるようにする。

本時の子供の姿

オノマトペや比喻、リズムなど、詩の技法や効果に着目することで詩のおもしろさを味わい、感じたことを進んで表そうとする姿が見られた。『ねこのこ』では、「オノマトペで子猫の様子をあらわしているんだよ。」と想像したことを絵に表していた。『タマネギ』や『おとのはなびら』では、繰り返しや比喻表現から考えたことを絵や文で表していた。「おがわのマーチ」のリズムの良さに気付いた児童は、「ぼくらおがわのたんけんたい せびれそろえてツンタッタ」を音読で表現したいと考えていた。それぞれがおもしろいと感じたことを表現するための方法を、自分なりに考えているようであった。また、次時に共有するという見通しをもっていただけ、伝えたいという他者意識が生じていたようである。ただ、オノマトペやリズムの読み方を工夫する姿を期待していたが、実際に音読する姿は見られなかった。

同じ詩を選んだ友達と考えたことを交流する場面では、感じ方に違いがあることに気付き、それを受け入れる姿が見られた。詩の中に書かれていないことを想像し、表現したことを伝え合うことで、「そんな考えもあるんだね。」と自分の考えを広げていた。今回は個人で考える時間が長くなってしまったこともあり、友達との共有を通してさらに考えを形成する姿は見られなかった。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

【重点①】

児童が様々な場面において、自分で方法を選んだり考えたりできる活動を多く取り入れた。「①いくつかの詩の中からおもしろいと感じた詩を選択する。」「②考えの形成のための表現方法を考える。」「③個人または友達と考えるか。」「④グループの形式(同じ詩、違う詩)はどうするか。」である。

特に、上記の②では、自分で見つけた技法や効果からおもしろいと感じたことを、他者に伝えたいという思いで活動することを期待していた。その手立てとして、考えの形成の場面において、感じたことを伝える表現方法を児童が選択できるようにした。絵や文など自分に合った表現方法を選び、友達に伝えたいという思いをもって活動することができたようである。

【重点②】

自分の見つけた詩の技法や効果を「詩のおもしろさ」と捉え、それを伝える表現方法を考えたが、おもしろさを伝える方法を適切に選択できた児童はあまり見られなかった。友達との話し合いでは、自分たちの見つけた技法について話す児童が多く、伝える方法までは話題になっていなかった。詩の技法と表現方法のずれを修正するためには、教師が見本として一例を見せたり、何人かの児童を取り上げて紹介したりするなど、児童に気づかせることもできたと考える。

また、全体で表現方法を考えた際には、「音読」や「動作」なども挙がっていたが、それらを選択した児童はほとんど見られなかった。児童の思考として、「他者に伝える」=「話す」⇒「話すために書く」という思考の流れが感じられた。自分の伝えたいことを明確にし、どのような方法で伝えることが適切か考える機会をつくっていきたい。

単元全体を振り返って

単元の1時間目に、詩の学習が楽しいと感じているか、児童に質問したところ、ほとんどの児童が挙手をした。また、どこが楽しいかと問うと、「リズムよく読めるところ」「オノマトペや比喻が出てくるところ」と回答した。言葉に立ち止まり、詩のおもしろさを感じていることを実感し、これまでの学習の積み重ねを感じた。

今回は、そこから一歩進んで、詩から感じたことを伝え合い多様な考えにふれることで、児童の見方や考え方が広がることを期待した。一人一人が自分の選んだ詩と向き合い、たくさんの技法や効果を見つけ、友達に伝えたいという思いで見通しをもって活動する姿が見られたことは、今回の成果であったと言える。ただ、技法や効果に着目しすぎて、それを見つけること、見つけたことを伝える楽しさの方が児童にとって価値のあるものになってしまったようである。表現の方法へと意識を向けさせるための手立てを取るべきであったと考える。

「共有」の場面では、友達がおもしろいと感じたことを知りたいという思いをもち、耳を傾ける姿が見られた。友達の発表を聞いた子どもたちの感想には、「リズムのよいところをおもしろいと思っていることが分かった。」と述べていた。自分は選ばなかった詩についても、友達はどこをおもしろいと感じ、どのように伝えるのか、関心をもっている様子であった。

単元以外の場面や文章でも、「比喻」や「オノマトペ」などを見つける児童もおり、詩がもつ教材の良さを感じる機会となった。

単元名

『少年の日の思い出』～説を立てる 論じる 評価する～

本単元に取り組む児童の実態

『飛べ かもめ』『にじの見える橋』（作：杉 みき子）や『さんちき』（作：吉橋 通夫）を題材とした小説の学習を通し、生徒たちはテキストを根拠に登場人物像を考えたり、行間を読み取る力を身につけた。今では自分の意見をただ述べるのではなく、最後はテキストに回帰できるような説を、自然と組み立てようとする姿勢が定着してきた。支援を要する生徒に関しても、説の組み立てまではいかにせよ、文中から気になる言葉や表現をピックアップし、それについて考えようとする姿も見られるようになった。

しかしながら、根拠を提示しながら自らの考えを述べる（外に発信する）力には課題が見られる。聞き手（受けて側）の理解が曖昧なまま、話し合いやグループワークが終わってしまうというケースも少なくない。

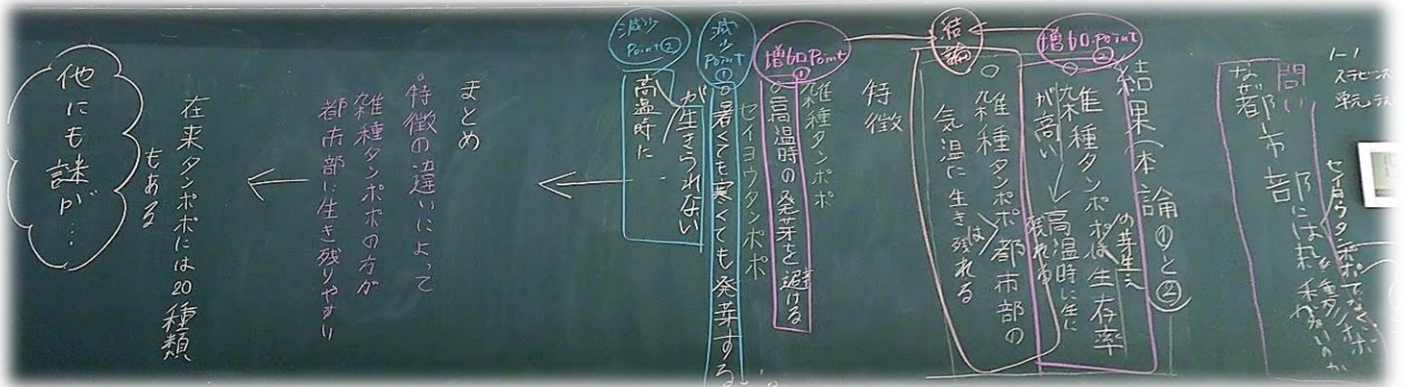
本単元設定の理由

上記の生徒の実態を鑑み、本単元では『共有』にスポットを当てて計画を立てた。1時間目～4時間目までは主に作品の読み取りに努める。主人公やエーミールの人物像、客にとっての『少年の日の思い出』の位置づけなど、テキストの描写を中心に妥当性ある読みを確立していく。

授業で得た知識や生まれた考えなどを活用し、5時間目は『客は何のために自身の「少年の日の思い出」を語ったのか』という問いにグループで取り組む。そこで以前の単元（詩『鍵』）で学習した、「虫の目」（言葉や表現などのディテールにこだわって読む方法）や「鳥の目」（話の全体を俯瞰的に見て読む方法）を活用し、テキストを根拠とした自らの考えを形成する。

そして6時間目が『共有』の時間である。ここでは、ただ友人たちの発表を聞くのではなく、そこに妥当性や根拠の信頼性があるかをクラス全体で議論し、納得解として成立するかを考える。理解の曖昧なまま他者の説を評価することは難しい。そのため、質問や意見を交わしながら、発表者も聞き手も学びが深まるような議論を期待し、本単元にこのような学習機会を設定した。

最終的には7時間目に、他者の意見が自身にどう影響したか、また自身の適切な根拠を支えに自身の意見を述べられたかを振り返り、学びを定着させることを考えている。



↑前単元の説明的文章の学習では、生徒たちが作者の論理の要点（問いと根拠、答え）を整理し、自分たちで授業する学習に取り組んだ。上の板書は実際に生徒が説明する際に書いたもの。（一部、職員のか筆あり）

本単元で願う子供の姿

- ①テキストから抜き出した適切な根拠を支えに、自らの説を聞き手に提案している姿。
- ②提案された説についてしっかり理解し、テキスト内の叙述を鑑みて評価している姿。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○(1)ウ【語彙】 事象や行為、心情を表す語句の文脈上の意味に注意しながら読み、理解や表現に必要な語句を使って説明したりしている。</p>	<p>○(1)エ「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ○(1)オ「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。</p>	<p>○進んで作品の構成や展開、表現の効果に注意して読み、課題に沿って自分の考えを他者に伝えようとしている。</p>

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと意思を生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○『少年の日の思い出』を読んでみてどう思ったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで、最後に僕はせっかく集めたチョウをつぶしちゃったんだろう。 ・エーミールはすごく嫌な奴だな。 <p>○登場人物の整理や意味調べをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「熱情」って情熱や熱心とは違うのかな。 ・「喉笛に…」ってなんで喉なんだろう。 	<p>【知識・技能】</p> <p>事象や行為、心情を表す語句の文脈上の意味に注意しながら読み、理解や表現に必要な語句を使って説明したりしている。</p> <p>(ノート)</p>	
2 3 4	<p>○客にとっての「少年の日の思い出」とはどのようなものだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「不愉快」という言葉があるから、やっぱり「いい思い出」では無いんだろうな。 ・「自分でその思い出を汚してしまった」とあるから、前は美しい思い出だったのかな。 <p>○僕やエーミールはどんな少年だったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕とエーミールはなんだか正反対だね。 ・エーミールはあくまでも僕から見た人物像なんだよね。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○(1)エ「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。</p> <p>(ワークシート・グループワーク)</p>	<p>重点②「解決のすべの育成に向けた授業デザイン」</p> <p>(1)客にとっての「少年の日の思い出」を位置づけるが学習ではクラゲチャートを用い、考えの根拠がテキストのどの部分からきているのかを明確にする。</p> <p>(2)僕やエーミールの人物像を読み取る際には、エックスチャートを用い、観点はグループで設定するよう指導する。観点別に比較することで、僕とエーミール対照的に書かれていることに気づかせたい。</p>
5	<p>○客は何のために私に「少年の日の思い出」を語ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かに許してもらいたかったのかな。 ・エーミールへの怒りを私に同意してほしいのかかもしれないね。 		
6	<p>○客は何のために私に「少年の日の思い出」を語ったのだろう。【クラス会議】</p> <p>(司会(ファシリテーター)2名 記録(黒板への板書)2名 判定(最終評価をする人)2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト P166L10 から、僕が罪を贖いたい気持ちが読み取れる。ただし、P156で「自分で汚した」とあるから、贖い切れていない。誰かに語ることで償おうとしたのではないか。 ・確かに、そうは読み取れるんだけど。誰かに語ることは贖罪になるのかな。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○(1)オ「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。</p> <p>(クラス会議・発表・単元テスト)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○進んで作品の構成や展開、表現の効果に注意して読み、課題に沿って自分の考えを他者に伝えようとしている。</p> <p>(クラス会議・ストックノート)</p>	<p>重点①「子どものやりたい!」を引き出す手立てと意思を生かす環境づくり</p> <p>(1)クラス会議は基本的に、生たちだけで運営するよう準備の指導にあたる。基本的に6つの生活班のうち5つの班が発表、残り1つの班でファシリテーター、記録、判定を担い、クラス会議を運営する。</p> <p>(2)7時間目の単元テストでは、6時間目に行ったクラス会議をもとに自身の考えを改めて述べる機会を設ける。それにより、クラス会議の結論と自身の思いは異なっているにもかかわらず、再度根拠を据えて主張することが可能となる。</p>
7	<p>○客は何のために私に「少年の日の思い出」を語ったのだろう。【単元テスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は贖罪の意味だと思っていたけれど、クラス会議の☆班の発表を見て、確かに同意を求めていたのかもしれない。 ・△班が述べていたように、今回の客の目的は罪を償いたいからだと思った。 <p>○授業を振り返り、学んだことや気づいたことについて書こう【単元テスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な解釈ができることがわかった。 		

本時で目指す子供の姿

- ①テキストから抜き出した適切な根拠を支えに、自らの説を聞き手に提案している姿。
- ②提案された説についてしっかり理解し、テキスト内の叙述を鑑みて評価している姿。

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

(1) 客は何のために私に「少年の日の思い出」を語ったのだろう。

・テキスト P166L10 から、僕が罪を贖いたい気持ちが読み取れる。ただし、P156 で「自分で汚した」とあるから、贖い切れていない。誰かに語ることで償おうとしたのではないか。

・P166L5「一度起きたことは、もう償いのできないものだ」とあるように、僕は自分で罰しても償うことができなかった。母もエーメールも誰も罰してくれないため、自分を罰してくれる人を今でも探しているのではないか。

・P155L8「箱の中から用心深く取り出し…」ののところから、少年はチョウの扱いに気を付けていることがわかる。これはP165L15「君がチョウをどんなに取り扱っているか、知ることができたさ」というエーメールの言葉がトラウマになっていて、自分は変わったんだというアピールだと思った。ゆえに、私に語ることで変わった自分を理解してもらいたかったのではないだろうか。

(2) ○班の説についてどう思うかな。

・語ることが贖罪につながるのだろうか。実際彼はP159のL1で「悪徳」と言っている。反省よりもエーメールへの怒りが強いのではないか。

・確かに母は P166L6で「おやすみのキス」しかしていない。母親として子供に罰するべきだったかもしれないね。

・自分を理解してほしいという思いはあったのかもしれないね。実際に罪の告白をする前に、P164L14「彼が僕の言うことを全然わかってくれないし」という叙述もあるね。

(1) テキストを根拠に自分の意見を述べている姿。

テキストを始発に自らの考えを述べていくが、最後はどここの叙述からそれが読み取れるか。テキストに回帰できる納得解を述べている姿を見取りたい。

(2) 提案された説についてしっかり理解し、テキスト内の叙述を鑑みて評価している姿。

単純に自分が思ったこと、感じたことではなく、他者の説について根拠を用いて評価する(批評する)姿を見取りたい。質問や意見の中で教科書のページ数や行数、ピックアップした言葉などを根拠に据えて述べている姿を見取ることができればよい。

重点①「子どものやりたい！」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

(1) クラス会議は基本的に、生徒たちだけで運営するよう準備の指導にあたる。

基本的に6つの生活班のうち5つの班が発表、残り1つの班でファシリテーター、記録、判定を担い、クラス会議を運営する。

(2) 7時間目の単元テストでは、6時間目に行ったクラス会議をもとに自身の考えを改めて述べる機会を設ける。それにより、クラス会議の結論と自身の思いは異なっている場合でも、再度根拠を据えて主張することが可能となる。

評価

【思考・判断・表現】

○(1)オ「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。

(クラス会議・発表・単元テスト)

【主体的に学習に取り組む態度】

○進んで作品の構成や展開、表現の効果に注意して読み、課題に沿って自分の考えを他者に伝えようとしている。

(クラス会議・ストックノート)

支援を要する子供に対する手立て

発表した班が述べたことについて、どこまで理解できたかを机間指導のなかで把握する。その中で、理解できていない点を確認し、状況に応じて職員側が助言、あるいは発表者から再度わかりやすく説明してもらうよう、ファシリテーターに依頼する。

自らわからない部分をファシリテーターに質問し、それに発表者が答えたり、図にして表すなどの補足等ができるようになると、さらにユニバーサルデザインのとれた授業として望ましい。

本時の子供の姿

【発表した生徒の姿】

- 自分たちの考えを、相手に分かりやすく伝えるため、言葉のチョイスや説明の順番などを工夫しようとする姿が多々見受けられた。また、中々相手に伝わらなかったときには、なぜ伝わらなかったのかを自発的に振り返り、次に生かそうとする様子も見取ることができた。
- 聴衆や評価者に納得してもらうために、自分たちの意見の裏付けをしっかりと明示して伝えることができた。文章中の叙述に沿って根拠の伴った読みを展開することで、聞いている側にとっても考えを深める良い機会となっていた。

【会議中の生徒の姿について】

- 発表する生徒が提示した根拠が適切かどうか、教科書を開いて叙述を確認しながら質疑応答する場面が多々あった。根拠と考察の結びつきの部分や、根拠を揺るがず叙述の解釈についての議論を経て、テキストに基づいた読みを深めている姿が印象的だった。

【評価者の姿について】

- 一生懸命発表した生徒に対して、誠実に評価しようとする姿が随所に見られた。また、同級生からの評価に対し、認めてもらったことへの喜びや、上手く伝わらなかった反省を自然と口にする生徒もいた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと意思を生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

「子どもの『やりたい!』」を引き出すために、今回はクラス会議という形を用いた。司会や記録、評価者を自分たちで立て、話し合いを運営していくことで、生徒の主体性を尊重した学習を展開することができた。

協議の中では話し合いのテーマ決めについて話題にあがった。今回は「客は何のために思い出を語ったのか」という問いを軸に、クラスでの話し合い活動を行ったが、この問い自体も「生徒が考え、決定しても良かったのではないか」という意見も多々あった。自分自身が読んで思った疑問が議論の対象となることで、より意欲的かつ主体的に学ぼうとする生徒の姿が期待できるのではないかと、いった仮説のものと提案であった。

しかしながら、生徒の考える問いが学習のねらいから外れるものであった場合の対応や、議題となる問いを絞っていく過程は、教師側が問いを用意することとあまり変わらないのではないかと、等の課題も浮かび上がってきた。

このような課題はあるものの、クラスで自身の読みを議題とする学習活動の中で、子どもたち一人ひとりの問いを生かしていくことができれば、「子どもの『やりたい!』」を一層引き出すことにつながることを確認し、協議を終えた。

単元全体を振り返って

文章中の叙述を手がかりに、叙述にないところを読み取る学習に注力してきた。単元の前半では読み取るための手段や方法についての確認、指導を徹底した。生徒たちは学習したことを生かし、自身の読みを確立し、他者と伝え合うといった、今回の学習の主たる活動にスムーズに取り組むことができた。

クラス会議という形で意見の共有や相互評価を行ったことで、活発なディスカッションにつながっただけでなく、自身の読みを深めることもできた。成果物として単元の最後に行った生徒のレポートを例としてあげておく。

単元テスト 少年の日の思い出

『客は何のために思い出を語ったのだろか』

1学年	
結論	蝶を盗んだつもりはなく、捕獲したつもりだった。だと分かってほしかった為。

○根拠を用いて上の結論に至った理由を下に説明しなさい。

なぜこの結論に至ったかは3つの根拠があります。まず161q12行目の「逆らいがたい欲望、、」と158q5行目の「激しい欲望、、」などいくつかアゲハを捕獲した場面とクジャクヤマユを盗んだ描写が似ていたところから。

次に、164q14行目の「全然信じようともしない、、」という言葉から盗んだのではなく、捕獲しただと信じてほしく他の蝶仲間でもある私に話したんだと読み取ったからです。最後に、161q15行目の「大きな満足感の他に、、」という言葉から、罪悪感を感じていく捕獲しただけだと少年は思っていたと読み取れたからです。

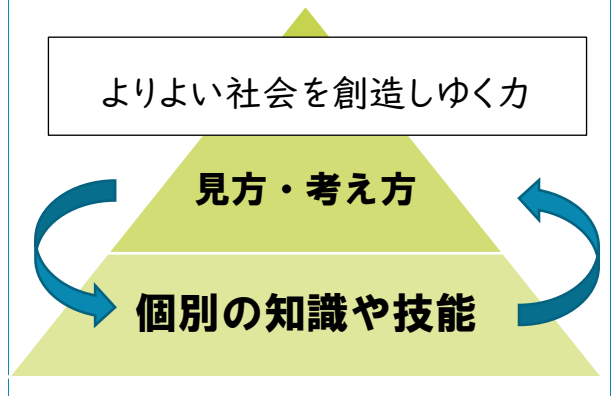
←左の生徒は、少年がチョウを捕獲する場面とクジャクヤマユを盗む場面の類似性を提示し、「盗むつもりはなかった」という弁解を「私」に理解して欲しかった旨を結論として提示した。叙述を根拠に、少年の「僕の言うことを分かってくれない」という台詞の「僕の言うこと」とまでしか書かれていないところを読んでいる点は、規準を達していると判断できるため、「B」評価とした。

教科部で大切にしていること

よりよい社会を創造しゆく力

社会科では、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育むことが求められている。

鎌倉小・中学校の社会科部としては、習得した知識・技能を活用し、(多面的・)多角的に思考して意欲的に課題を解決しようとする活動を重視する。そういった経験を積み重ねる中で、自他の人格を尊重しあい、社会を形成していく人間としての在り方や生き方などについての自覚を持てるようにし、よりよく生き、よりよい社会を創造するための資質・能力を育成することを大切にしている。



願う子供の姿

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育むために、以下のように、教科を通して願う子供の姿を設定した。

- ・ 社会から課題を見抜く姿⇒問い続ける姿
- ・ 課題の解決に向け、選択・判断(・構想)する姿
- ・ (多面的・)多角的に考え、表現する姿

これらは、互いに関連しあい、影響し合いながら高まっていく力であると考えます。

実生活においては、社会的事象に対し、常に問い続ける子供の姿や、様々な視点から考える子供の姿が現れるよう指導を進めるとともに、様々な学習の中で、粘り強く課題の解決に取り組める姿をめざす。

小中の取り組み

小中共通しての取り組み

- ・ 他者と協働して問題を解決していく学習場面を設定する。
- ・ 「社会の課題を見抜く」ことができるような社会事象に出会わせることで、子供たちの間に問いを生じさせ、選択・判断をさせるような学習材を用意する。

小学校

公民としての資質・能力に必要な「広い視野に立つ」ためには、社会的事象を多角的にとらえ、情報を広く集める必要がある。そのために、二つの手立てを行う。一つは、「人の姿」「人の営み」を通して学習をすすめる。様々な立場にある人々の思いや願い、葛藤などに出会わせ、立場による考えの違いに出会わせたい。二つ目は、業間や授業時間内での個人が探求する時間を保証することである。

中学校

課題解決のために必要となる「社会的な見方・考え方」の育成を通して、思考力・判断力・表現力を身に付け、よりよい社会を創造し、支える人として成長していく姿を願う。そのために、主体的に社会に参画したいという意欲を高めさせるための仕掛けや働きかけを大切にし、公民としての資質・能力の育成を図っていく。

また、他者と協働しながら学習課題の解決に向けて粘り強く繰り返し取り組ませる。そのために、これまで身に付けてきた「社会的な見方・考え方」を活用しながら、単元を貫く問いの答えを見出す活動を行う。

そして、自己と他者との考えや仮説を比較することや、意見交換、協働作業の時間を確保すること。特に、ICT 機器や、アプリケーションを活用し、他者の考えや過去の学習の履歴を振り返り、解決のすべを考えるための環境を整える。

取り組みに対する振り返り

成 果

日々の授業において、子どもたちの間に問いを生じさせ、選択・判断させる学習材を用意することで、「〇〇の立場で考えると…」といった発言が出てくるなど、多角的な視点で考える姿みられた。

「人の姿」、「人の営み」を通しての学習を進めていくことで、社会は人の営みの積み重ねで動いているということを実感している姿みられた。そして、そのような営みによって私たちの社会生活は支えられていることに気づくことができた。

業間や授業時間内での個人探求する時間を保証することで、休みに授業に関する体験をしてきたり、地域に出て関係者にインタビューしたりしてくる姿がみられた。

中学校3学年を通して、「単元を貫く問い」を設定し、その解決、追究をとおして、思考力・判断力・表現力を育成させることを重点に置いた。まとめの活動では、各自の培った見方・考え方を土台として議論や協働的な活動を行い、最終的に文章で既習事項をもとにまとめることや、スライドでまとめること、プレゼンテーションでのまとめを繰り返した。そのことで、思考を言語化するための表現するすべを様々に獲得しつつある。

題材については、例えば、地理的分野では、「地域の発展のために」「地域の諸課題の解決への取り組み」などを取り上げることで、社会参画への姿勢を育成しようと考えた。それらの題材があると、生徒は疑問点、気になる問いを自分の言葉であげることが多く、意欲的に学習課題に取り組み、主体的に課題解決に向けて、根拠や解決策を見つけようと学ぶ姿が見られた。それら共有していくところから、学習課題の設定をすることにも取り組んだ。他者と協働しながら学習課題に取り組むことについては、少人数のグループや全体等での資料の読解を通して課題解決に向けた道筋を考えたり、相互評価をしたりする活動を主に行ってきた。自分とは異なる視点から考えを取り入れていくことで、多角的な見方が広がっている。

課 題

日々の授業で、協働的な学習場面や、子どもたちの問いで選択・判断させる学習材を用意してきたが、実生活において「常に問い続ける」という姿まで、子どもたちを高めることができなかった。そもそも、社会的課題について「常に問い続ける」姿が必要なのかも考えていく必要がある。

選択・判断させる授業を行ってきたが、その発言内容に関しては、深まりが足りないと感じることがあった。既習内容や調べたこと、インタビューしたことをもとに考えるのではなく、限られた知識から考えられたであろう発言があったことがそう感じる一因であり、これを克服するためには、子どもたちにその学習問題に対する切実感を持たせることが大切なのではないかと考える。社会を営む人々が様々な苦勞をしながらも、行動する信念に迫っていく学習においては、十分に深めることができなかった。そのため、それらの思いに迫っていくための手立てを考えていく必要がある。

問いの立て方については、生徒の考え、思考の中から取りあげながら設定することが課題である。設定することに時間がかかってしまい、思考が深まらなかったり、妥当性が伴わなかったりすることが見られた。また、生徒の興味・関心を引き出し、主体的に課題を見出すための課題設定、問いの立て方の方法については改善の余地がある。教師側が主だって導くのか、学習者の思考、関心を主に引き上げていくのかのバランスを様々なパターンを試していくことが必要と考える。

課題解決に向けた視点として、多角的な立場から思考することで社会の課題を見抜き、解決に向かうことが大切である。と、継続して伝え続けていき、具体的で適切な判断ができるようにすることを今後も引き続き重点としていくことも必要であると考え。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

次年度も、教科部で大切にしていこう「よりよい社会を創造し行く力」は、引き続き大切にしていきたい。願う姿に関してもおおむね次年度も継続して大切にしていきたい。

子どもの間に問いを生じさせ、選択・判断させるという取り組みに関しては、小・中ともに取り組んできて、それぞれ成果と課題が上がってきている。次年度も子どもの問いを大切に作る姿勢を大切にしていきたい。そのために、指導内容の軽重をつけることで、子どもたちが探求していく時間を確保し、根拠のある選択・判断ができるように指導していくことをさらに研究し発展させていきたい。

子どもたちが心から「解決したい!」と思えるような問いを引き出すためにはインパクトのある教材が必要である。次年度はそのような教材の開発に注力していきたい。

(多面的・)多角的に考え、表現する姿は多くの場面で見られている。今後も継続して大切にしていきたい。一方で、見取り方については、より適切に評価し、生徒の学びにさらに生かされるための手立ての開発を考えていきたい。

単元名 神奈川県発「はるみ」から見えてくる日本の米作り

本単元に取り組む子供の実態

1学期の社会科は、「世界の国々」、「日本の国土」、「工業生産（自動車づくり）」、「公害（水俣病）」を学習してきた。工業の学習では、「日本の技術力」、「Made in Japan」をキーワードに、質の高い工業製品が造られていることを実感できるよう、子供の問いを大事にしながら単元を構成してきた。そして、「位置や空間的（地理的）な見方」のみならず、「事象や人々の相互関係の（公民的な）見方」まで、少しずつ子供たちは視点を広げて考えていくことができるようになってきたと感じている。また、実際の見学や、教師による取材をもとに人に出会わせ、素朴な疑問から問いを深化・焦点化させていくことができたように思う。「公害」の学習では、これまでの「事実」ベースの学習から、「情意」の伴う学習へと深化した。そして、子供たちは社会科の学習では人としての生き方（道徳的価値）が伴うことを感じ始めている。ただ、社会をつくる人々の想いに寄り添って考える力（概念的知識の獲得と選択判断）は、今後もよりいっそう培っていきたいと考えている。

本単元設定の理由

本単元は、第一次産業である農業生産（米作り）を「はるみ」という品種に焦点を当てて学ぶ。これまでの単元と同様に、人の姿に出会わせ、人の営みを通して社会の在り方を学んでいけるようにしていきたいと考えている。本単元では、「はるみ」の研究・開発に携わってきたJA 全農営農・技術センターのKさんと、県内で「はるみ」を生産する農家のAさんに出会う。工業生産の次に、「はるみ」という品種を通して農業生産の単元を設定した理由は、二つある。

一つ目は、統計資料で調べる、フィールドワークで調査する、人々の営みから多角的に考える、選択・判断するといった社会科特有の学び方ができるからだ。工業生産の学習や公害の学習を通して、子供は社会科の学び方を少しずつ理解してきた。工業生産や公害の学習で身につけてきた社会科の学び方や、磨かれてきた見方・考え方、さらには資質・能力を活かして、さらに深い学びができるのではないかと考えたからである。

二つ目は、地域の素材を大事にできると考えたからである。5年生の社会科の学習材は、これまでの学年の「地域」から「日本」へと広がり、子供にとっては自分事になりにくいことがある。生活で欠かすことのできない「お米」であっても、「日本の食糧生産」となると、どこか他人事になってしまいがちである。さらには、神奈川県は消費地であり、とりわけお米の生産量は約14000t（2021年）と少ない。子供の中でも、「神奈川県はお米の生産地ではない」という認識であるように思う。そんな中でも、JAが約20年の歳月をかけて神奈川生まれの「はるみ」という品種を開発し、日本穀物検定協会の「米の食味ランキング」において特Aを受賞する（平成28年・平成29年）にいたった。子供が、そんなインパクトのある材にふれることで、疑問や問い、そして未来への「願い」をもちながら学習を進めていきたいと考えている。

ただ、地域教材を通して地域の農業を学ぶことにとどまってはならない。地域教材をどのような活用していけば、「日本の食糧生産を学ぶことになっていくのか、本実践を通して考察していきたい。

本単元で願う子供の姿

農業生産に携わる人々（JA・農家等）の、品質のよいお米を消費者に届けるための様々な工夫や努力をとらえ、未来への「願い」をもつ姿。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。 ○食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力し、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。 ○地図帳など、各種の統計資料で調べ、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現している。 ○生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○予想したり調べたり、学習を振り返ったりするなどして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと意思を生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	○持ち寄った米袋から疑問を出し合う姿 ・いろんな銘柄があるね。どれが人気なのかな? ・同じ銘柄でもいろいろな都道府県で生産しているね。 ・どこが一番多く生産しているのかな?	【思考・判断・表現】 米袋を見比べる活動から、日本の米作りに着目して、疑問や問いを見出すことができている。(発言、振り返りの記述)	重点① 持ち寄った米袋
2	○米作りがさかんな地域はどこなのか、追究する姿 ・北海道や新潟県が多いね。 ・東北地方は全体的に多いね。 ・寒い地方の方が作りやすいのかな?	【知識・技能】 統計資料から、米作りがさかんな地域について理解することができている。(発言、振り返りの記述)	重点② 地図帳等の統計資料
3 4	○日本のお米の銘柄について追究し、なぜたくさんの品種が存在するのかを考察する姿 ・コシヒカリは全国各地で作られているね。 ・生産量が少ない都道府県でも、独自の銘柄を多く用意しているところがあるね	【思考・判断・表現】 米の品種について調べ、なぜ約300種類もの品種が誕生しているのかについて考えることができている。(発言、ノートの記述、振り返りの記述)	重点①② 米の品種調べ
5	○南魚沼市でブランド米が作られる秘密を追究する姿 ・雪解け水が関係していたんだね。 ・昼夜の気温差が大きいとおいしいお米が作れるんだ。 ・お米ってどうやって作っているのかな?	【知識・技能】 南魚沼市でブランド米が作られる要因について、気候や地理的環境、農家の工夫や努力などから理解することができている。(発言、振り返りの記述)	重点① 米の価格の資料 重点② 図書資料やクロームブック等による子供各々の調べ学習
6 7	○米作りの1年について探求する姿 ・水の管理が大事なんだね。 ・安心、安全なお米づくりのために、様々な取り組みが行われているんだね。	【主体的に学習に取り組む態度】 農家の工夫や努力に目を向けながら、お米の生産過程の疑問について調べ、解決しようとしている。(提出物・振り返りの記述)	重点② 図書資料や映像資料、クロームブック等による子供各々の調べ学習
8 9	○神奈川県産「はるみ」について迫る姿 ・神奈川県には有名な銘柄ってないのかな? ・「はるみ」は神奈川県生まれの品種らしいよ。 ・特Aに選ばれたことがあるらしいよ。 ・品種のよさだけ特A獲れたのかな? ・農家のAさんは土づくりからこだわっているね。	【知識・技能】 神奈川県生まれの品種である「はるみ」の概要について理解することができている。(発言・振り返りの記述)	重点② クロームブック等による子供各々の調べ学習 重点② JA全農Kさんへの取材記事
10	○農家のAさんが抱える悩みについて考える姿 ・10年も経ったら作る人がいなくなっちゃうかもしれないんだ…。 ・「お米ばなれ」で、農家の人の儲けが減っていくんだ。	【思考・判断・表現】 統計資料や農家のAさんの話から、農業に携わる方々の悩みについて考察していくことができる。(振り返りの記述)	重点①② 農業生産関わる統計資料 農家Aさんへの取材記事
11 12	○これからの「はるみ」づくりについて話し合う姿 ・他の県でも生産していけばいいんじゃない?「あきたこまち」みたいに。 ・県内で少ない量で生産した方が希少価値があってブランドになるんじゃない? 県内だけの生産でも、ブランド化すれば、高いお金を払ってでも食べたい人が買うのだからいいと思う。 ・でも、希少価値のままだと、多くの人に食べてもらえることにはならないから難しいなあ…。	【思考・判断・表現】 ブランド米「はるみ」を県外生産していくことについて、自分の考えをまとめることができている。(ノートの記述) 【思考・判断・表現】 ブランド米「はるみ」を県外生産していくことについて話し合い、もう一度自分の考えをまとめることができている。(振り返りの記述)	重点①② JA全農Kさん、農家Aさんへの取材記事
13	○育成者が品種改良を続ける意味について考える姿 ・はるみという品種を誕生させたのに、JAのKさんすでに新しい品種の開発に入っているね。。 ・県内でははるみの作付面積が100%ではないことって関係あるのかな? ・100点満点の品種なんてないんだね。	【知識・技能】 育成者の品種改良によって、生産者の収穫が安定し、消費者の食糧生産が支えられていることについて理解することができている。(発言・振り返りの記述)	重点①② JA全農Kさんへの取材記事 神奈川県の品種作付割合の資料 品種別の収穫時期を表す資料

本時で目指す子供の姿

「はるみ」は量が少ないからこそ、希少価値がある品種になっていくのかもね。
他県に広まったとしても、「神奈川県産はるみ」に価値がもっと生まれるんじゃないかな？

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○前時までの学びを振り返る姿

- ・農家のAさんは、「はるみ」は人気であつという間に売り切れてしまうって言ってたね。
- ・絶対量が少なくて、ほとんどがJAでしか売れないって言ってたね。
- ・でも、AさんにもKさんにも、もっと多くの人にも食べてもらいたいという想いがあつたね。

○前時からの問いについて話し合う姿

神奈川県ブランド米「はるみ」は、他県でも生産していくべきかな？

- ・コシヒカリにみたいに、全国のいろいろな都道府県で作ってもらえればもっと知名度もあがるよね。
- ・せっかく特Aをとったいいお米なんだから、他県にも広まってほしい。
- ・「はるみ」はあくまでも、「湘南の晴れた海」から作られた名前の品種だから、他県には合わないんじゃない？
- ・それに、農家のAさんも、神奈川県気候に合う品種だつて言ってた。他県の気候は合わなくて生産が伸びないんじゃない？
- ・神奈川県は生産地じゃなくて消費地。これ以上田んぼは大きく広がらないんだから、他県の土地を使わせてもらえばいいんじゃない？
- ・農家の人からしたら、広まっていったら嬉しいのかな？希少価値がある方が収入も多くなっていいんじゃないかな？
- ・JAのKさんからしたら、広まっていったら嬉しいんじゃないの？
- ・県内だけの生産でも、ブランド化すれば、高いお金を払ってでも食べたい人が買うのだからいいと思う。
- ・でも、希少価値のままだと、多くの人に食べてもらえることにはならないから難しいなあ・・・。
- ・他県で生産したとしても、「神奈川県産のはるみ」は量が少ないから価値があるんじゃないの？それがブランドになるんじゃないの？
- ・ただ、今は産地間競争が激しいから、そもそも他県で作ってもらうのは難しいんじゃないの？

重点②

これまでに獲得してきた知識、配布してきたAさん、Kさんへの取材記事、個々に調べてきたことをもとに考えさせていく。

■地元のお米の生産について多角的にとらえていくことで、自分ならではの考えとクラスとしての考えを醸成していきたい。

重点②

JA全農Kさん、農家Aさんへの取材記事

○本時の学習を振り返る姿

評価

【思考・判断・技能】

ブランド米「はるみ」を県外生産していくことについて話し合い、もう一度自分の考えをまとめることができている。(振り返りの記述)

支援を要する子供に対する手立て

安易に調べ学習をさせて膨大な情報に出会わせるのではなく、これまでの学習で獲得してきた知識、使用してきた取材記事をもとに自分の考えを持てるようにしていく。

本時の子供の姿

本時では、「神奈川県ブランド米はるみは、県外でも生産していくべきか」という問いについて話し合った。子供たちからは、「多角的」な意見が出され「希少価値」について深く考えていく時間となった。

「多角的」な意見としては、「農家」の立場、「育成者」、「他県」の立場で考えたものである。「消費者」の立場で考えた意見としては、他県で生産することで、大量生産が可能となり、多くの人々が食べられたり安く食べられたりするといった意見である。「育成者」の立場としては、自分たちが開発した品種が広まることに対してどう思うのかという意見がわかれた。「他県」の立場としては、「開発競争が激しく、ライバル県の品種を受け入れるのか?」といった、既習内容や社会の実際に目を向けた意見が出された。

授業の最後では、「他県で生産することではるみの希少価値が下がるのではないか」という意見について問い返した。多くの子がそうは考えていなかったようで、この問い返しによって子供たちの思考が再びアクティブになったように思う。「他県で生産しても、“神奈川で作られた”「神奈川県産はるみ」の希少価値は変わらないのではないか」と言った意見に、多くの子が納得解を見出したようであった。もちろん納得していない児童もおり、自分ならではの納得解とクラスとしての納得解を醸成していくことができた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと意思を生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

重点①において、神奈川県産の「はるみ」を取り上げたことは、子供たちの学習意欲を高めたり切実感を持たせたりするにはとてもよかったように思う。子供たちの中には、神奈川県も特 A をとれるようなブランド米が生まれたことで、神奈川県に誇りを持つことができた子もいたようであった。重点②においては、授業の最後に取材記事を配布することを想定していた。しかし、取材記事を配布せずに子供たちの言葉で授業を終えることにした。「はるみ」の希少価値について、農家の方や育成者の方が考えていることにまで子供たちの思考はおよんでいたからであり、授業者としても驚いた。また、授業の終わらせ方については協議会においても同様の質問があった。毎時間、①資料(取材記事)を配布して社会を営む“人”の

想いを知って終わる、②新たな問いが生まれるような資料(取材記事)や一言を出して次時へつないで終わる、③ある程度子供たちの思考が収束してきたまま終わることをなど、様々な終わり方がある。今回の授業は上述したような理由で③の終わり方を選んだことは理想的であったように思う。



単元全体を振り返って

子供たちにとって身近であるはずのお米ではあるが、実際のところ当初はお米に対する興味や関心はそれほど高くなく、生活経験によって獲得している知識もそれほど豊富ではなかった。しかし、学習をしていく過程で、おうちの人に聞いたり、お米に目を向けた買い物をしたりと、少しずつ知識が増え、興味関心も高まっていったように思う。神奈川県が生産地というよりも消費地であり、とりわけ鎌倉周辺には田んぼがほとんどなく、“日本の”食糧生産について学ぶ単元構成にしていくなは、かなり難しさがあつた。米どころの大規模農業で日本の食糧生産を学び、子供たちから遠い話で終わってしまうのか、少しでも身近な地元の農家を通して農業を学び日本の食糧生産にまで視野が広がらずに終わってしまうのかといった難しさがあつた。今回、神奈川県生まれのブランド米を取り上げ、そのお米と全国のお米を比較したり、情報を往還させたりしていくことで日本の食糧生産の全体像をとらえていくという構成にしたことは、大きな成果のように思う。また、単元の終わりには「はるみ」を生み出した K さんがさらに新しい品種を開発している話を紹介し、日本全国で災害対策や気候変動への対応、農家の収益や作業の分散化などを目的に、弛まぬ努力で品種改良を重ねていることを学ぶことができた。

単元名 地域の伝統的なお祭りの意義～山北のお峯入りを例に～

本単元に取り組む子供の実態

10月より、本クラスの社会科を担当している。前単元の防災の単元では、最後のまとめ「共助」のところで、地域が連帯する(いっしょに活動をする)意義についておぼろげながらその大切さを見出してきた。しかし、まだ子どもたちのなかで十分にその意義が見出せたかという点、そうは言えない状況である。また、本単元は、地域の伝統行事が守られている、引き継がれている理由を探り、そこに込められた想いや願いに気付くことを目的としているが、本学級の生徒は、事前のアンケートによると、あまり地域のお祭りに行ったことがない生徒もたくさんいた。(35人中9名は、地域のお祭りに行ったことがないと答えている)なので、実感として、お祭りの良さを体験していない子どもたちも多く、お神輿を紹介したときも「見たことはあるけどやったことはない」「お神輿ってどれくらい重いのか?」というような感想が相次いだ。

本単元設定の理由

本単元では、県内の伝統的なお祭りとして、「山北のお峯入り」を取り上げる。山北のお峯入りは、2021年に、県内2例目の「ユネスコ無形文化遺産(風流踊)」に認定された、南北朝時代から続いているとされる奇祭である。元々は山北町共和地区に伝わるお祭りであったが、ユネスコ無形文化遺産登録を機会に、「山北のお峯入り」と名前を変えて、町全体で取り組んでいく行事に変えていこうとしている。この教材を中心に据え、お祭りを保全していこうとする様々な人の姿に出会わせ、子どもたちが持つ価値観を揺さぶっていきたくと考えている。本単元では、お祭り保存会として、祭りの運営に携わるSUさんと、県外から移住をしてきて、お祭りの一つのパートである「棒踊り」を担ったKさん・SAさんに出会う。この3人の方の想いを軸にしなが、「地域の方が地域に伝わる伝統的なお祭りをどう引き継いでいるのか」「どんな想いをもちながらお祭りを運営しているのか」に迫っていきたく。

また、先ほど述べたように、4年3組の児童にとって、地域行事は近いようで「遠い」面がある。(私自身、附属横浜小学校出身であるが、地域のお祭りに積極的に参加をした経験は残念ながらなかった)このような状態の中で「山北のお峯入り」を教材化しても、どこか遠い地域の暮らしを考える授業で終わってしまうことが予想される。そこで、授業デザインとして以下の2点に心を配りながら進めていきたい。

一つ目は、自分の身近な地域のお祭りや行事をスタートとゴールに設定することである。自分の地域にどんなお祭りや行事があるのかについて、ICT 端末を用いて調べたり、身近な人に聞いたりする経験を積むことで、お祭りに対して「子どもたちなりの認識」を持ったうえで、共通の思考の土台となる「山北のお峯入り」について考えたい。また、単元のゴールとしては、再び地域のお祭り・行事に戻すことで、自分自身の関わりについて具体的に考えてもらえるようにしていきたい。

二つ目は、地域の違いについて考えを深め、自分の地域への考えをより深めることである。4年生は「神奈川県」を題材に扱った授業が展開されるが、神奈川県と言ってもその様子は地域によって大きく異なる。今回、共通の思考の土台として準備をしている神奈川県山北町では、地域の過疎化が深刻で、「限界集落をゆうに超えた」地域も存在する。当然であるが、人口をいかに維持し、地域の活動を支えていくのか、は大きな課題となっている。子供が、そんなインパクトのある地域にふれることで、地域の違いを知り、自分の地域を持つ素晴らしさや逆に課題となることを「再発見」してほしいと考えている。地域を「より広い視野」で見つめ、考えを深めることができるようになることは、小学校高学年の社会科の学習や、中学校の地理的分野の学習にもつながっていくと感じている。地域教材を活用し、これからの地域や「日本」のあるべき姿について想いを巡らせ、その課題と自分自身がどう関わればよいのかを考える足掛かりとしていきたい。

本単元で願う子供の姿

地域の伝統行事を引き継ぎ、守っていく人の想いをとらえ、自分自身とのつながりを感じている姿。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○地域には、昔から伝えられた祭りなどの伝統行事があり、地域の人々の願いが受け継がれていることを理解している。	○地域の伝統的な行事を引き継いでいこうとする人々の取組や想いに触れ、それを適切に表現することができる。 ○資料などをもとに、自分自身と地域のお祭りの関わりについて、考察を深めている。	○調べる過程の中で、「なぜ」という疑問から今までの学習を振り返ったり、状況を整理しながら分析するなどして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ○伝統行事と自分とのつながりを感じ、行事持つ意義に気づいている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○自分の地域のお祭りや伝統行事を見つめなおし、その意義を問い直す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そういえば、小さいころにこんなお祭りにいったね。 ・お祭りにはどんな意味が込められているのかな。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>自分の経験したお祭りを見つめ直すことで、お祭りの意義に着目し、疑問や問いを見出すことができています。(作成するスライド)</p>	<p>重点①</p> <p>スライドの作成案 (アンカー作品)</p>
2	<p>○お祭りの意義について、自分の仮説と疑問をもつ姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お祭りは、楽しみもいっぱいあるね。 ・みんなで楽しめるのは良いことだね。 ・でも、それをずっとやるのは大変だね。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>お祭りの意義に目を向けつつも、その実施に課題もあることを捉え、ズレを感じて追究しようとしている。(作成するスライド)</p>	<p>重点②</p> <p>意義と課題を記入する枠の提示(スライド)</p>
3 4	<p>○山北のお峯入りについて、大規模なお祭りをどうやって維持しているのか、追究する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山北のお峯入りは5年に1度の開催で、役者だけで80名も関わる、とても規模が大きいお祭りだね。 ・山北町の人口は減っているが、この規模のお祭りを維持していくのは、大変そうだね。 	<p>【知識・技能】</p> <p>山北のお峯入りについて、その概要や維持することの難しさについて考えることができている。(発言、スライドのまとめ)</p>	<p>重点②</p> <p>山北のお峯入りに関する各種資料(聞き取り調査より作成したもの)</p>
5	<p>○お祭りの維持・伝承に取り組んでいる保存会長の話から、思考を巡らせる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お祭りには地域をまとめる役割があるのだね。 ・でも、維持にはお金も人もたくさんかかるのだね。 ・同じ形で伝承しないといけないのかな。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>お祭りの意義は感じつつも、その維持・伝承は課題となっていることを知り、疑問や自分なりの考えをまとめている。(発言、振り返りの記述)</p>	<p>重点①②</p> <p>お祭り保存会 SU さんのインタビュー調査資料 移住者の K さん、SA さんのインタビュー資料</p>
6	<p>○お祭りの形を変えても良いのではないかと、意見から探究を深める姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お祭りは想いが大切で、それが地域の伝統や、神様との結びつきもあるから、簡単に形は変えられない。 ・でも、財政の負担が大きい中では、それを維持し続けることは現実的でない。 ・色んな課題もありながら、なぜお祭りはつながっているのだろうか。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>お祭りを実現していくために乗り越えなければいけない課題を捉えたうえで、本時の問いに向き合い、考察している。また、それを踏まえたうえで、「いろいろな困難を乗り越えながらも、お祭りがなぜつながっている理由」について疑問や意見を持つことができる。(発言・振り返りの記述)</p>	<p>重点②</p> <p>黒板で、今まで提示した資料の整理をする</p> <p>重点②</p> <p>お祭り保存会長 SU さんの追加のインタビュー資料</p>
7 8	<p>○「なぜお祭りはつながっているのか」という疑問を、知れた様々な情報を整理して解決していく姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題はありつつも、お祭りの「意義」を守っているからこそ、祭りは形を変えながら引き継がれているのだね。 ・地域に移住してきた人も、それに「参加」をすることにたくさんのメリットを感じているよ。 ・自分たちの地域のお祭りにも、それが行われた様々な理由や想いがありそうだね。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>今までにまとめたきたスライドなどをもとに、「お祭りがつながっている理由」について自分自身の考えを整理し、まとめている。(お峯入りについてのスライドのまとめ)</p> <p>【知識・技能】</p> <p>伝統行事には、地域のさまざまな人の想いが受け継がれていることを理解している。(お峯入りについてのスライドのまとめ)</p>	<p>重点①</p> <p>お祭り保存会長 SU さんのインタビュー動画資料</p> <p>重点①</p> <p>移住者の実感を示した K さん・SA さんのインタビュー資料</p> <p>重点②</p> <p>お祭りの変化をまとめた資料</p>
9	<p>○自分の地域のお祭りを再度見つめ直し、その想いを確認する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鎌倉まつり」は、山北のお峯入りと同じく「豊作祈願」を願う「さぎちょう」というお祭りが起源のようだ。 ・鎌倉でも、お神輿などの担ぎ手は問題となっていて、若い人を巻き込む取組がされている。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>山北のお峯入りで得た知見を活かして、自分自身の地域のお祭りを振り返り、そこに込められた想いや願いを考察していくことができる。(自分の地域のお祭りのスライドまとめ)</p>	<p>重点①</p> <p>山北のお峯入りについて個人で整理した資料</p>
10	<p>○お祭りの意義について、自分なりの意見を持つ姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にある伝統行事には、それがつながる「理由」があるのだ。 ・地域で大切にされている事を守ることには意義がある ・自分たちも地域で暮らす一人として、この問題は決して無関係とはいえない。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>地域の伝統文化を継承しようとしている人の想いをくみ取る中で、自分自身と地域とのつながりに気づいている。(単元のまとめスライド)</p>	<p>重点②</p> <p>今までに個人で整理してきたスライド資料</p>

本時で目指す子供の姿

「お祭りには、「地域の人々の想い」が詰まっており、それはとても大事なことなのだね。」
 「形を変えてよいところもあるけれど、そういう気持ちを引き継いでいくことが大切なのかもかもしれないね。」
 「しかし、地域にはいろいろな課題があるのだから、それに向き合うことも大切だ。」
 「なぜ山北のお峯入りは、つながっているのだろうか。」

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○前時までの学びを振り返る姿

- ・ お祭り保存会の SU さんは、「お峯入りは地域の誇りだ」と言っていたね。
- ・ でも、それを実現するには、人数の確保やその練習に大きな課題があったようだね。

○前時からの問いについて話し合う姿

毎年(もしくは定期的に)同じようにお祭りをするのは大切か? それとも、形を変えても良いのか?

- ・ お祭りは、神様へのお祈りなどの側面もあるから、そんなに簡単に形は変えられないのではないかな。
- ・ お祭りをする事でたくさんの方が来てくれるから、地域にとって良いこともあるのではないかな?
- ・ 地域にはいろんな課題があって、その課題に応じてお祭りが行われている。
- ・ ユネスコの遺産になっているから、簡単にはやめられないのでは?
- ・ でも、お祭りをする事で地域の課題は解決できるの?
- ・ おそらく、お祭りを実施すること自体が、地域の課題となっているんじゃないか!
- ・ お金もたくさんかかり、過疎が進行している山北町では大きな負担になっている。
- ・ お祭りの意義はきちんと残しつつ、できる形を考えていくことが必要なんじゃないかな。
- ・ 若い人たちが、その意味を理解していないと、引き継ぐこともできないのではないかな。
- ・ いろいろな問題や乗り越える課題はありつつも、なぜそこまでして、お祭りはつながっていつているのだろうか。

(次時につながる問い)

重点②

これまでに獲得してきた知識、配布してきた SU さん、K さん、SA さんへの取材記事、個々に調べてきたことをもとに考えさせていく。

■お祭りをどのような形で「つないで」いけばよいか、という視点から学習問題を再考することで、自分自身の考えをさらに深めていけるようにする。

重点②

追加の資料として、お祭り保存会・SU さんのインタビューを示し、考えを深める。

○本時の学習を振り返る姿

評価

【思考・判断・技能】

お祭りを実現していくために乗り越えなければいけない課題を捉えたうえで、本時の課題である「毎年同じようにお祭りをするのは大切か、それとも形を変えてよいのか」に向き合い、考察していくことができる。また、それを踏まえたうえで、「いろいろな困難を乗り越えながらも、お祭りがなぜつながっている理由」について疑問や意見を持つことができている。

(発言・振り返りの記述)

支援を要する子供に対する手立て

安易に調べ学習をさせて膨大な情報に出会わせるのではなく、これまでの学習で獲得してきた知識、使用してきた取材記事をもとに適切に資料を提示するとともに、丁寧にスライドなどにまとめさせる(考えを表出させる)時間や、他者と意見を交わしながら考えを深められる時間を確保し、自分の考えとりためさせ、意見を持てるようにしていく。

本時の子供の姿

本時は、前時に子どもから出てきた「毎年、同じようにお祭りをするのは大切か？それとも、形を変えても良いのか？」という疑問に向きあった。「お祭りの意義については、何となくは理解できた。しかし、今の自分たちの生活の中で、お祭りが大事であるという認識は持てないし、それに関わる価値も見えない。大規模なお祭りを維持していくことは、やはり大変である。」というような認識を、多くの子どもが抱いていた。お祭りに対して、それを守る切実な想いは感じていない。だからこそ、まずは子どもたちの認識をきちんと丁寧に拾い、「問い」を確認することを大事にした。その上で、お祭り保存会長の「形を変えてでも守っていこう」とする決意と、子どもたちの考えた「形が変わる理由」の差異に気付かせることを意識した。

実際に、子どもたちから出された意見を振り返ると、お祭り保存会長の語る「決意」と自分たちの「認識」のズレを感じている言葉が多く見られた。その上で、「地域にとっては大事なもの」「神様をお祀りするものだから、それを簡単にはなくせない」などの、お祭りの意義につながる意見が多く出てきた。本時の姿から、何となく掴んでいた「お祭りの意義」が多少具体的に見えてきたことは、一つの成果である。一方で、もう一つの焦点となっていた「私たちがお祭りに関わる価値」に関する意見はあまりみられなかった。むしろ、「移住者の方は、自分の経験則からして、絶対にやりたくはないはずだ」という意見が複数出てきており、その認識を問い直すところまでは行きつかなかった。

終盤に、「移住者の実感はどんなものであったかを確認しよう」と問い直し、その結果として「なぜそこまでして、伝統文化はつながっていくのか」という新たな問いが生まれた。「伝統の継承と私たちの関わり」を引き続き追究できる余地は残った。今後は、問いをもう一段「自分事」に引き寄せて考えることが、授業において求められることであると感ずる。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと想いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

重点②において、お祭り保存会のSUさんの「お祭りを受け継いでいく決意」に触れたことは、小学校4年生の子どもたちの認識との違いを感じさせる資料としては有効であった。認識のズレが起きている理由は何だろうか、という視点から、終盤の次にもつながっていく問いが生成できた。協議会で、中学校の先生から「この授業で獲得させたい知識・技能は何か」という質問が投げかけられた。小学校4年生の社会科の学習では、さまざまな社会的事象（本単元で言えば、「地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働き」を「私たちの生活」と関連させながら理解することが求められている。つまり、個別具体的な知識を押さえることよりも、社会と私たちの「つながり」を認識することに力点が置かれている。社会科の学習で習得する知識の構造を、小中7年間という長いスパンで教職員が描き出していくことが、小中のつながりをもった「学び」につながっていくはずである。さらに言えば、このような教科の学習で身に付けた資質・能力が、教科横断的な学びでどう生かされているのか、という視点を持つことが、教育課程を見直す上では必要なことになるのではない。



単元全体を振り返って

単元を終えた時点で、多くの子どもたちが「お祭りの持つ意義」について振り返りに記している。特に、「人と人をつなぐお祭りの役割」や「多様な世代が関われる良さ」「次の世代に繋ぐ大切さ」などを記入している生徒が多くおり、単元の学習を進める中で子どもたちの意見が「変容」したようすも見られた。そのような意味では、本単元の学習を通じて、子どもたちの認識は深まり、自分自身の生活と社会事象の関連も見出しつつある、とは言えるのではない。

しかし、自分自身の生活と社会事象の関連を見出すというのは、今の情報社会・消費社会を生きる子どもたちにとって決して簡単ではない、とも感じた。現代の生活習慣の中で、自らの「生活台」が見えにくくなっているのではない。小学校3・4年生の学習で、自分自身がいろいろな人・もの・事物と関連をもちながら生活をしている、ということに気付くことは、その後の社会科の学習においても生きてくる。だからこそ、「地域」を材とした単元が、小学校の中学年に設定されているのである。生活との関連の中から、社会科を学ぶ必要性を感じてもらえるように、まずは教師自身が、生活の中にある材としっかりと「出会う」ことを大切にして、教材研究・教材開発を進めていきたい。

地域調査の手法

単元名

「鎌倉市の災害対策に必要なことはなんだろうか～みんなが助かるために～」

単元に取り組む子供の実態

1学期の歴史的分野の学習では、資料読解や単元課題の解決に向けて ICT 機器を活用しながら、互いの考えを共有したり、議論を深めたりすることを通して協働的な学びを進めた。

地理的分野では、前単元で日本の地域的特色と地域区分を学び、日本の自然環境、資源・エネルギー、産業、人口、交通・通信の視点から、地域的特色を見出す学習を行った。その際、グラフや主題図を基に読み取る活動では、具体的な数値や根拠ではなく、イメージや考察で語ってしまう生徒が多く、指導を重ねる中で、具体的な数字に注目し、変化や比較をしながら特色を分析していった。また、防災についての取り組みについて、自助、共助、公助の視点から活動が取り組まれていることを学習した。

また、単元の学習を学びのプランを用いて見直し、振り返りを行う中で、自己調整をしながら、見方・考え方を深めることを積み重ねていった。しかし、振り返りが感想記入になってしまったり、学習事項のまとめにとどまってしまういたり、自分の学習方略についての振り返り、または学習課題についての考察までに至っていない生徒も一定数見受けられるため、継続して指導が必要な面がある。

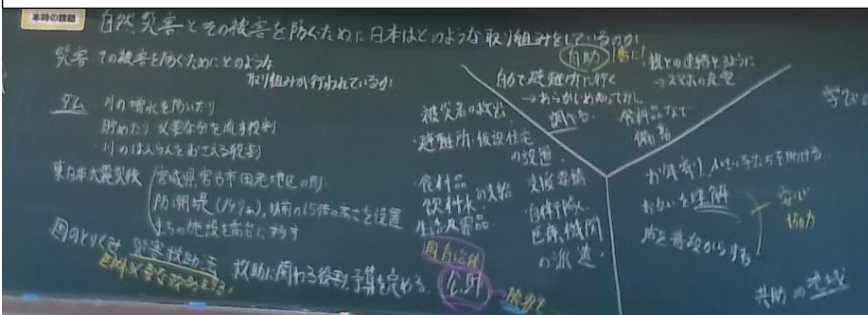
課題に対して予想、見直しを立てながら、学習の方略を探り、他者と協働して課題に向かうという学習プロセスは積み重ねている。本単元の導入では、各種のデジタル地図を実際に扱いながら基本的な操作方法を確認していき、地図の情報に親しむことを経験していった。

本単元設定の理由

地理的分野の学習において、社会的な見方・考え方を働かせながら、観察や野外調査の視点の基礎を理解し、地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地域調査の手法について学習を行うことで、地理的技能を身に付けさせたい。

また、災害発生の緊急時には自助・共助等の行動が必要とされることとなる。本単元では題材を災害対策・防災に設定することで、自分事としての問いを生じさせて、地域社会における課題を見出しながら、いざという時のために、学習課題の解決に向けた取り組みを行わせたい。本校では、総合的な学習の時間 LIFE において、実地調査や調査、資料の収集、整理、まとめのサイクルを1年次より定期的に行っていることも踏まえ、他教科や総合的な学習の時間 LIFE の資質・能力の育成にも影響することを期待している。

前単元では、防災について、自助・共助・公助の視点から学んだ。



各種地図を操作する生徒



本単元で願う子供の姿

- ・学校周辺の地域調査をするうえでテーマを設定し、観察や野外調査、文献調査を通して、仮説を立て、計画、調査、考察、まとめを自分自身で立案し、調整しながら主体的に取り組む姿。
- ・単元を貫く課題について、自身で収集した情報を基に、根拠をもって多面的・多角的に考察して、追究する姿。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 ○地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題図や調査、まとめとなるように調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと意思を生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○鎌倉市周辺のさまざまな地図（2 万 5000 分の1地形図、RESAS、google earth、国土地理院デジタル地図、ハザードマップ、今昔マップ on the web 等）を読み取り、鎌倉市周辺の地形や地図の特色を理解している姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップでは、津波と洪水で危険区域が違うんだね。 ・google map 以外にも、いろいろな便利な地図があるんだね。 ・GISを活用すると、地形図と景観を並べて比較できたり、断面図が作成できたりするんだね。 ・地図によって機能が違うから、目的に応じて使い分けることが情報を読み取るうえで大切だということが分かった。 	<p>※ 各時間、指導に生かす評価で見取る場面があるが、単元での本項目では、「記録に残す評価」のみ記載している。</p>	<p>「それぞれの地図を有効に活用するためにはどのようなことを知ればよいのだろうか」</p> <p>重点② 各種地図の読み取り方を学ぶ紙の地図、デジタル地図を複数準備し、比較できるようにする。</p>
<p>単元の課題 「 鎌倉市の災害対策に必要なことはなんだろうか ～みんなが助かるために～ 」</p>			
2	<p>○「自然環境」「人口」「産業・観光」「土地利用」「交通・通信」のいずれかの視点から、調査テーマを検討、設定し、見通しを立てる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境から考えると、鎌倉は海沿いだから津波や洪水に注意する必要がある。 ・外国人観光客が多い小町通りのあたりでは、どんな避難情報が伝えられるか。 <p>○単元の課題について予想し、調査の方法に見通しをもち、これからの学習の方略について計画する姿</p>		<p>「鎌倉市の災害対策について、どのような視点から考えていくとよいのだろうか。」</p> <p>重点① 文献資料や地形図、ハザードマップなどから課題を見出し、テーマを選択させる。</p>
3	<p>○資料や地図を用いながら、課題を追究する姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップ上で見ると、横須賀線の鎌倉駅から北鎌倉駅のあたりでは、線路が土砂崩れにあう危険があるね。 		<p>「災害時にはどのようなことに注意して、対策を行うことが必要なのだろうか。」</p> <p>重点① 地域での課題から自分事としての問いを生じさせて、学習課題の解決に向けた手立てを他者と協働して解決していく活動を設定する。</p>
4 5	<p>○実際に現地に赴き、確認、課題を発見する姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に確認すると、道幅が狭くて危険だ。 ・こんな場所にも防災情報が掲示されていた。 		<p>重点② 各グループで学習・調査する題材、手法を選択できるようにする。</p>

「今昔マップ on the web」により作成。
<https://ktgis.net/kjmapw/index.html>

6 7	<p>○調査したことを適切に地図や図表に表し、協働しながらまとめる姿</p> <p>○仮説や、見通しを振り返りながら、照らし合わせて、根拠を基に情報を整理し、結論を出す姿</p> <p>・自分たちで身を守ることも大事だけど、それでは限界があるから、市が公助として、対策してほしいことがあるね。</p>		<p>「テーマに沿った災害対策をするためにはどのような情報を整理したらよいのだろうか。」</p> <p>重点①・② 鎌倉市に関する各種主題図、地形図、GISなどを準備し、必要に応じて活用できるようにする。</p>
8 9	<p>○適切な表現方法を考え、実行する姿</p> <p>・ハザードマップの情報と実地調査の結果を照らし合わせて作成しよう。</p> <p>○他グループの発表から考えを深める姿</p> <p>・見る視点は違う班でも、同じような対策が必要と考えているんだ。</p> <p>・市や行政が設備を強化してもらうことも大事だし、住民が環境を点検することも大事だと思う。</p>	<p>【思考・判断・表現】 テーマに基づいて、鎌倉市の地域的特徴を適切にとらえ、その結果を多面的・多角的に表現している。(調査のまとめ・スライド)</p> <p>【知識・技能】 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などを適切に選択し、活用している。地域調査の手法について、手段や方法を適切に整理し、理解している。(調査報告用紙)</p>	<p>「鎌倉市の災害対策に必要なことはなんだろうか～それぞれの視点から提案をしよう～」</p> <p>重点① まとめ、表現の方法は、模造紙・スライド・canvaから各班で選択して作成させる。</p>
10	<p>○単元の学習を振り返り、自己評価する姿</p> <p>・地図の情報を読み取ったり、文献や実際に調査したりしたことで対策を考えることができた。</p> <p>○単元の学習課題について、自分なりに鎌倉市の課題を見出し、解決案を考える姿</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 鎌倉市の防災対策についての案や、よりよい地域社会の実現を主体的に追究しようとしている。(学びのプラン)</p>	<p>「鎌倉市の災害対策に必要なことはなんだろうか～みんなが助かるために～」</p> <p>重点② 学びのプランの振り返りを行う時間を確保する。 他者、他グループの調査内容について、Chrome book 端末を活用しながら、共有する。</p>

本単元の学びのプランの一部

2023年度2学年社会科

アワード 名前

学びのプラン(地域調査の手法)

1. 単元の目標 地理的分野 地域調査の手法

○地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。(知識・技能)

○鎌倉周辺の調査において、災害対策の対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を、多面的・多角的に考察し表現する。(思考・判断・表現)

○地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野に鎌倉の災害対策で見られる課題を主体的に追究しようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

2. 評価規準

① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。	鎌倉周辺の調査において、災害対策の対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を、多面的・多角的に考察し表現している。	地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野に鎌倉の災害対策で見られる課題を主体的に追究しようとしている。

3. 学習計画 【単元を貫く課題】

「鎌倉市の災害対策に必要なことは何だろうか～みんなが助かるために～」

時	【主な学習事項】(キーワード)	日付	1.	2.	3.
1	地形図、ハザードマップ、GIS、各種主題図の読み取り				
2	主題・グループ設定(人口・自然災害・産業・観光・土地利用・交通・通信)				
3	地図・文献等の調査・情報収集				
4	地域調査・情報収集				
5	地域調査・情報収集				
6	情報整理・分析・整理				
7	情報整理・分析・整理・まとめ				
8	発表活動				
9	発表活動・シェアリング・フィードバック				
10	まとめ、個人振り返り				

※①は知・技 ②は思・判・表 ③は主体的態度 ■は学習改善につなげる評価観点、■は評定に用いる評価観点

<p>学習前の「単元を貫く課題」についての予想・考察</p>	<p>教師欄</p>
<p>学習を通じて得た「単元を貫く課題」の解決につながる材料・考え方 (学習をしていく中で手掛かりになることはどんどん記入しておきましょう。)</p>	
<p>単元の学習を通して自分の思考が深まった点、成長した点</p>	
<p>今回の単元の学習を終えて「<u>自らの学習状況</u>」を自己評価しましょう とてもよい(A) ・ よい (B) 少しよくない(C) ・ よくない</p> <p>理由</p> <p>どのように学習をすればさらによくなるだろうか?</p>	

本時で目指す子供の姿

- 鎌倉市は海沿いでは、津波の危険だけではなく、土砂災害や洪水の被害を抑える取り組みが必要だと思う。それには、鎌倉市や県が公助として対策が必要だと思う。
- 観光客が多い小町通り付近では、外国人向けに避難を知らせる情報を伝えるための工夫が必要。
- 雪ノ下付近は古い建物が多く、坂道もあるから、家屋の倒壊や土砂崩れを対策しないとイケないと思う。各自の家や家の前の道を点検するなど住民も対策することが必要ではないか。

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○自分たちが設定した視点から、単元課題について見通しをもち、調査テーマを設定する姿

- ・自然環境の視点から考えると、洪水や土砂災害、津波対策が必要ではないだろうか。
- ・人口の視点から考えると、鎌倉駅や、大船駅周辺は通学通勤客が多く通行するから、対策が必要じゃないか。
- ・産業・観光の視点だと、外国人観光客に対して、情報の伝え方を考えないとイケないんじゃないか。

重点①

地域での課題から自分事としての問いを生じさせて、学習課題の解決に向けた手立てを他者と協働して解決していく活動を設定する。

本時の課題 「災害時にはどのようなことに注意して、対策を行うことが必要なのだろうか」

○グループで見通しをもち、地図や資料を用いて具体的な場所を設定して課題を見出す姿

- ・津波ハザードマップをみると、七里が浜から小町通、段葛付近まで浸水する危険があるよ。
- ・土砂災害ハザードマップを見ると、がけ崩れの特別警戒区域が各地にあるから怖い。

重点②

各グループで学習・調査する題材・手法を選択できるようにするために、選択・判断・議論する場を設ける。

○資料と視点を基に、災害対策について考えをめぐらす姿

- ・津波の避難には、高い建物に避難したいけど、多くの人数が避難できるだろうか？
- ・北鎌倉に抜ける横浜鎌倉線の道路が、土砂崩れで埋まってしまった場合、大船方面への交通や、緊急車両はどうやって確保したらいいだろうか？

用意・活用できる資料：

鎌倉市ハザードマップ(津波・土砂災害・洪水)・鎌倉防災情報マップ・鎌倉の統計(2022)・国土地理院デジタル地図・RESAS・今昔マップ on the web など

■鎌倉市周辺の防災ハンドブックや、ハザードマップ、地形図などを基に目的や用途に応じた適切に選択し、活用している。

- ・複数の資料を基に災害が発生しそうな地域を特定し、そこで発生する被害について、考察することを期待する。次時以降、実地調査に向けて、調査・確認したい点について整理したり、対策の案を議論したりすることにつなげたい。

○学びのプラン、学びの足あとに、振り返り、手立てを考えながら記入する姿。

評価(学習改善につなげる評価)

【知識・技能】

- ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などを適切に選択し、活用している。
- ・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法を理解している。

支援を要する子供に対する手立て

地図の読み取り方(地図記号・等高線、色別の区分の意味など)について、支援する。また、どのような目的にどのような資料を活用することが適切なのかを助言する。また、グループの中で役割分担をさせることで、活動を焦点化させる。

本時の子供の姿

本時は、「どのような視点から鎌倉市の災害対策について考えていくと良いだろうか」という課題を設定して取り組んだ。前時で活用したデジタル地図やハザードマップを土台として、災害対策の提案に向けて、自分たちの提案する「災害種・場所・対象」を焦点化するか、見通しを持ちながら仮説・調査テーマを設定を立てることを中心活動とした。

各グループでタイムキーパー、記録係(クロムブック、プリント)、資料収集・編集係などと役割分担をしながら取り組む手立てをとった。

災害対策を考える際、ハザードマップに目を通しながら、大きな被害が想定される地域を確認する姿や、市の統計資料に目を通しながら、人口密度や人口構成に注目したり、産業や観光に視点をあててそこから災害対策の検討を進めるグループなどが見られた。海沿いに面している鎌倉だからこそ、津波対策として防波堤を建設することが必要だということや、高齢者が安全に避難するためにはどうするか?など議論する姿が見られた。



研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

重点①について、地域調査の手法を身に付けさせるための主題設定として、切実感を持たせるために「災害対策」とした。また、学習課題の解決に向けた手立てを他者と協働して解決していく活動を設定することを中心活動と据える中で、各グループで仮説の設定、どの視点から考察するかや、役割分担を各グループで設定することとしたが、それぞれのグループで挙がった疑問や気づきを全体で共有することも必要だったかと思われる。

重点②については、協議で多くの意見や質問が出たところとなった。本時では、市の統計資料や各種ハザードマップ(洪水、津波、土砂災害)を各班に配布して、その中から、それぞれで必要と思われる資料を選択させていくことを狙いとした。それが、方法の個別最適として解決のすべの育成につながるだろうと考えたためだ。しかしながら、「配布した資料と生徒のほしいと思う情報にミスマッチがあったのでは」「生徒が必要、疑問が出たところで必要な視点を生徒と作っていてもいいのでは」という意見や感想を多くいただいた。生徒の関心や事前の認識をどれだけ見取っているか、重点①と関連して、主体的に子供の「やりたい」を引き出しながら、地理的スキルを高めるための手立てをどのような順序、タイミングで提供することが適切なのかを考えることが課題・改善点となったと考える。

単元全体を振り返って

本授業後に、2時間続きの時間を確保して、地域調査に出かけて行った。その時の生徒の姿は、街中の災害マップを確認したり、避難ビルはどこにあるのかを探したりする中で、「人々に認知されにくい場所にある」「小町通り周辺には、避難用の看板が全然見当たらない。」「外国人が多いのに言葉は伝わるのだろうか?」など、実際に見たことから地域の災害対策に関する課題が明確に浮かび上がった様子が見られた。中には、市役所を訪れ、職員へ聞き取りを行ったり、観光客へインタビューを行ったりするグループがあり、それぞれの仮説を検証するために工夫する姿が見られた。それらの調査と、文献などから、各班それぞれ「地震」や「津波」「川の氾濫」に対しての対策の提案を構成していった。

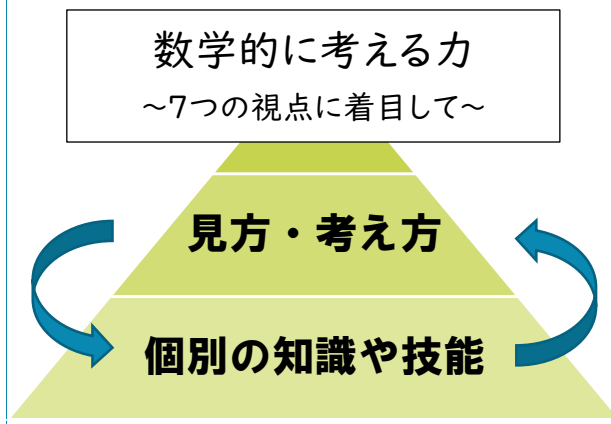
それらの提案を見てみると、各種地図と実際に地域調査で確認したことを踏まえ、多くの班で「災害マップや看板を充実させることが必要」という提案があった。観光客が多い鎌倉という土地柄で、外国人も多く訪れることから、他国言語やピクトグラムで表記して、どのような人でも注意喚起が伝わるようにすることが、現状の課題である。と、実際に現地に赴いて確認したからこそ、見出すことができた提案が出来上がっていた。

一方で課題として感じたことは、提案の内容の妥当性、根拠となるものの具体性に乏しい面があったこと。時数の関係や、統計調査などの情報をより深く検討することの大切さ、ネット上の情報の信ぴょう性について検証することなど、調査、分析、提案をする上で重要な見方・考え方の指導をすることが課題である。地理的分野の学習を充実させる上で、生徒の主体性を引き出しながら、学習課題の解決に向けた教材準備・研究を今後も積んでいきたいと考える。

教科部で大切にしていること

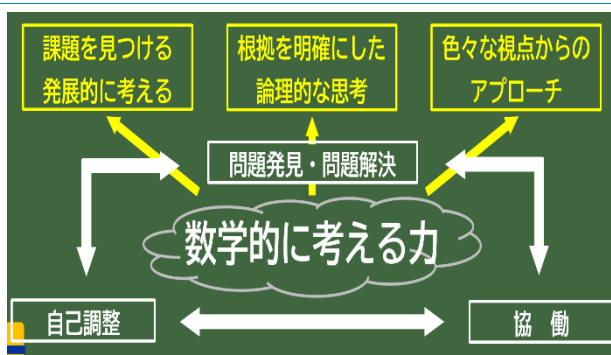
数学的に考える力 ～7つの視点に着目して～

変化の激しい時代を生き抜く子どもには、未来を予測し変化に対応する力が求められる。数の四則演算の知識・技能、数量や図形に関する感覚は豊かな日常生活を送る上で不可欠であり、日常にある事象を数理的に捉えたり、解決したりするための数学的な見方・考え方が大変重要となる。また、どのように解決すればよいかを考えたり、他者の考えを受け止めたりして、粘り強く問い続けていく過程も大切に積み重ねていきたい。単に問題を解決すればよいということではなく、「もし～だったらこうなる」「このきまりが使えるのだ」など、数学的な見方・考え方を育成できる問いや問題解決場面を設定していく。



願う子供の姿

- 自らが日常的な事象の中から問いを持つ姿、解決に向けて経験や既習事項と結び付けて根拠を明確にし、筋道を立てて考察する姿、試行錯誤しながら粘り強く問い続ける姿を願う。
- 数学的な根拠をもとに考えを伝え合ったり、仲間の考えを受け入れたりすることを通して、互いの考えを広げ深める姿を願う。
- 問題を解決した後も数学的な見方・考え方の視点で振り返ることによって自らを調整し、算数や数学のよさを次の学びや生活、社会へと生かそうとする姿を願う。



小中の取り組み

7つの視点（類推、演繹、帰納、多面的な見方、具体化・抽象化、モデル化、統合・発展）に着目した算数・数学の学習を通して、問い続ける児童・生徒の育成を図る。

小学校

成功をイメージして、目標をもち行動し続ける「粘り強く学ぶ姿」を育むためには、困難な場面でも自己を調整することで乗り越える積み重ねが必要である。そのため、「やってみたい」「はっきりさせたい」という問いをもち、問題の解決に向け能動的に動き出す主体的な姿を引き出すことが大切である。そこで、身の回りや数学の事象に出会うときに感じる漠然とした「あれ」「おかしいな」「なぜ」という違和感やずれを意識して、教材や発問を工夫した授業をデザインする。子供が他の場面や問題と繋がったり、新たな学びや生活に生かそうしたりした時に、その見方・考え方を価値付けることで、数学的な見方・考え方を自ら働かせられるように、指導に取り組んでいる。

中学校

解決すべき問題に直面したときに、「これまでに似た問題はなかったか」、「既習のどれが使えるか」という視点や解決時に「他の場面ではどうか」や「より良い方法はないか」という視点で振り返ることで、論理的・統合的に考える力が育まれると考える。また、生徒が自ら問いをもち、見方・考え方を働かせながら、予見・遂行・自己内省を繰り返し、問題解決に向けて取り組む「問い続ける姿」も大切にしたい。具体的には学びのプランを通してこの単元で意識したい視点を示し、見通しを持たせることで願う子どもの姿に近づくよう子どもの学びをデザインしている。また、自ら「条件を変えても成り立つか?」「他の場合ではどうか?」といった発展的な考えを価値付けることで、そういった思考を身につけ、実生活実社会に生かそうとするよう指導に取り組んでいる。

取り組みに対する振り返り

成 果

小中算数数学部で大切にしたい7つの視点(類推、演繹、帰納、多面的な見方、具体化・抽象化、モデル化、統合・発展)を子どもたちと生徒と共有し、授業実践を行った。今年度の研究を通して、次のような生徒の姿を見ることができた。

- 既習を根拠とした解決:既習の知識を活用して問題にアプローチし、解決を試みるなど、粘り強く取り組む姿
- 数学的な視点の共有:課題解決中に数学的なアプローチを共有しようとする姿
- 新たな考え方の試行:自分にない考えを知り、有効なアプローチを試す姿
- 課題解決の戦略と統合:有効だった数学的なアプローチを振り返り、他の問題でも応用する姿
- 新たな問いの探究:課題解決後も新たな問いを探究し、別の視点や条件を考え続ける姿
- 仲間との協力:仲間の考えを受け入れて、より良い解法を探究する姿
- 学習の応用:学んだ知識を他の領域や日常生活に応用しようとする姿

また、学習の流れを整理することで、子どもたちが自分のペースで学び、自分のペースで学ぶ時間を確保することで、粘り強く取り組む姿勢が向上していると考えられる。

このことから、今年度の校内研究の重点目標になっている『「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり』を出発点として、『解決のすべの育成に向けた授業デザイン』をある程度達成できていたと考えられる。学習の流れを表にして示すことで、自分で判断して先に進んだり、立ち戻ったりすることができていた。7つの視点を整理したことで、子どもがその見方・考え方を働かせているときに価値付けの指導がしやすくなった。自分のペースで学ぶ時間を保障することで、粘り強く取り組む姿が見られた。

算数・数学部が考える7つの視点について

「〇〇に着目してみたら」「図で考えたら」


「文字で置き換えると」「同じように考えると」

「数学としてみなしてみると」「何かきまりはないか」

「根拠を明らかにして」「関連付けてみよう」

「条件を変えてみたら」

子どもの姿



教師

次の7つの視点を意識した授業

①多面的な見方 ②具体化・抽象化 ③類推

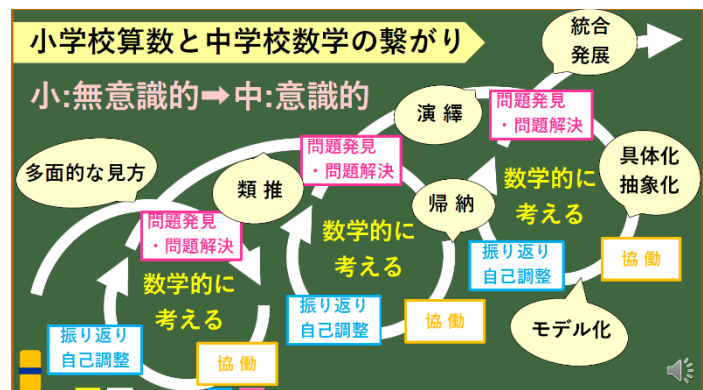
④モデル化 ⑤帰納 ⑥演繹 ⑦統合・発展

課 題

算数・数学で身に付けた見方・考え方を日常生活や社会の事象に繋ぐ手立てが十分ではなく、授業以外の場面で子どもたちが自ら問いを見出す機会は少なかった。また、教科担任側は7つの視点を重視しているが、子どもたちが7つの視点に対してどこまで価値を感じているか、子どもたちの7つの視点に対する価値観を児童・生徒とともに共有していく必要性を感じる。例えば小学校では7つの視点のどこまでを触れて、中学校でその力をどのように発展させていくのか、子どもたちにとって重要な視点は上記の7項目なのか、小中の繋がりを意識した取り組みを算数・数学部として実践していく必要がある。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

- ①小学校・中学校のそれぞれの発達段階において、身に付けさせたい(重視したい)数学的な見方・考え方を系統的に整理していく。(発達段階や単元に応じて7つの視点を割り振っていく、求める7つの視点の質等を段階的に変えていく)
- ②学習を進めていくと、理解度に差が生まれたり、探求したいと思うポイントが少しずつ異なったりしていく。そんな子どもたちの困り感を解消するために、個別最適な学びとして指導の個別化を図ることにより主体的な学びの実現を目指したが、考えを伝えあったり、他者の考え方を受け止めたりする協同的な学びの機会が少なくなってしまう。意図的な場面設定と、解きたくなる、考えたくなる問いの設定も継続すべき課題である。
- ③7つの視点に対する児童生徒の実態把握と非認知能力の見取りのためにアンケートを実施していく。
- ④日常と数学を繋ぐ工夫。日常の問題を数学的な見方・考え方を働かせて解決する手立てを研究していく。



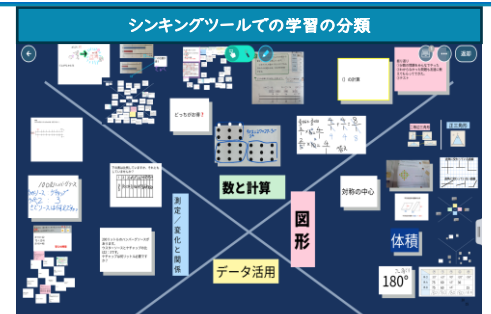
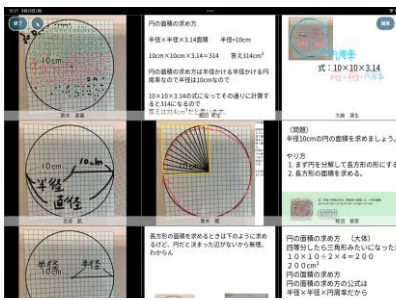
単元名 **角柱と円柱の体積** ICTを使った個別⇔協働の往還・3Dプリンターを使った見方・考え方

本単元に取り組む子供の実態

子供はこれまでに、直方体や立方体の体積の求め方を学習してきた。しかし、公式に当てはめて答えを出すことはできるが、なぜそのような公式になるのかまで理解している子供は多くない。このため、ただ単に公式を覚えて、それに当てはめるだけでなく、「なぜそのようなようになるのかを筋道を立てて説明する力」が必要だと思われる。そのために、子供がこれまでに学習してきた等積変形や倍積変形に加え、図形を分割して、既習の図形に帰着してより良い方法を探して体積の求め方を考えるという数学的な見方・考え方を価値付け、これまでの学習と統合してとらえられるようにしていくことが重要であると考えられる。

本単元設定の理由

本単元で図形の体積を求める際、本単元での指導の重点は、柱体を「底面の積み重なった立体」として見て、これに基づいて柱体の体積は「底面積×高さ」で一般化できることを理解することである。同時に、柱体の体積を求める際には、求積方法に関する多面的な見方を育てるため、以下のような考え方も大切にしたい。例えば三角形を、「長方形の半分」とみることに同様に、三角柱を、「四角柱の半分」とみることがができる。面積の学習で、いろいろな図形を分割、倍積などの方法で長方形に変形し、面積を求める考え方と同様に、角柱を変形して「直方体にする」という学習経験に帰依した考え方である。このように本単元は様々な考えで課題を解決することができる。その際にただ公式に当てはめるだけでなく、自分にあった解き方を見つけ、可視化して筋道を立てて説明することにより、本単元で論理的な思考力が身に付くと考えている。それを達成する手立てとして、毎回ワールドカフェスタイルを取り入れ、ICTを使い可視化した考えを共有し説明を行う場を取り入れていく。例えば、三角柱では、具体的な操作等を通して四角柱に変形し÷2をすることで体積が求められる。そして、四角柱に変形できることについては、ICTを使うことで操作的・感覚的な確かめに加えて、説明を言葉だけで表現するのではなく可視化した図形を使って根拠を持って行う事ができる。このように、ICTを使った共有により一つの求積方法に偏るのではなく、様々な考えを知ることができ自分にあった方法を数理的・論理的に説明できる姿を期待する。また3Dプリンターを使うことで、底面積から立体が積み上がっていく過程を可視化することを通して、底面積×高さで求められる体積の公式を視覚的に理解し、活用することができるようになると思われる。また5年生、6年生、中学校1年生と同じ題材を扱う中で、発達段階に応じた数学的な見方の違いに気付く事ができるようになってほしいと願っている。



本単元で願う子供の姿

- B 量と測定 角柱及び円柱の体積の求め方を考えることができるようになる姿
- 状況や目的に応じた求積方法で既習の図形を想起し、図形の体積の求め方を既習の図形に帰着して説明する姿
 - 既習事項を元に、図形の体積を求める公式の意味を理解し、それを用いて問題を解決している姿
 - 様々な図形の求積方法を通して論理的に考えることよき気付き姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○柱体の体積の求め方とその公式を理解し、公式を使って柱体の体積を求めたり、複合図形の体積を求めたりすることができる。	○図形を構成する要素に着目して、既習の立方体、直方体の体積の求め方を基に考えたり、面積の学習と関連付けたりしながら、簡潔かつ的確な表現で、体積の求め方を説明することができる。	○直方体の体積の学習を生かし、柱体の体積の学習に進んで取り組もうとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○既習事項である直方体や立方体の体積の求め方を活用し、角柱の体積は「底面積×高さ」で求められることを理解する姿。</p> <p>・今まで面積を求めることはできたけど、角柱の体積も求めることができるのかな。</p>	<p>【知識・技能】 (底面積)×(高さ)を適用して、立方体やその半分の三角柱の体積を求めることができる。 (発言、ノート、ロイロノート)</p>	<p>重点①(多面的な見方) 自分で導き出した数式や立体の形から、3Dプリンターを使うことで実物を作る際に必要な知識・考え方へと繋げるようにする。 AR 3Dプリンター GeoGebra 立体模型</p> 
2	<p>○三角柱の体積の求め方を、四角柱の体積の求め方を用いて説明する事ができる姿。</p> <p>・底面がどこかわかれば体積が出せるね。 ・三角形は四角形の半分だから三角柱も÷2してあげたら体積が出せそうだよ。</p>	<p>【知識・技能】 角柱は三角柱に分割できることから、角柱も(底面積)×(高さ)で求められることに気づき説明する事ができる。 (発言、ノート、ロイロノート)</p>	<p>重点②(演繹) 子供の考えをICTを使い可視化し共有する。 AR 3Dプリンター GeoGebra</p> 
3	<p>○円柱の体積の求め方を、三角柱や四角柱の体積の求め方を用いて説明する事ができる姿。</p> <p>・三角柱や四角柱と同じように底面がどこかわかれば体積が出せるね。</p>	<p>【思考・判断・表現】 直方体や三角柱の体積の求め方から類推し、円柱の体積の求め方を図や式や言葉を用いて考え説明することができる。 (発言、ノート、ロイロノート)</p>	<p>重点②(類推) 子供の考えをICTを使い可視化し共有する。 AR 3Dプリンター GeoGebra</p> 
4	<p>○柱体の体積は、底面の形に関わらず、「底面積×高さ」で求められることを適用し、いろいろな柱体の体積を求める事ができる姿。</p> <p>・凸凹の図形でも、どこを底面にするか考えて「底面積×高さ」で体積が出せそうだね。 ・4年生、5年生の時に学習した、図形を分けてあげる考え方を使うと体積が出せそうだよ。それに「底面積×高さ」の考え方をプラスしてあげると分かりやすいね。 ・ないところがあると見て、全体から引いてあげても体積が出せそうだね。</p>	<p>【思考・判断・表現】 図形の特徴に着目し、直方体を組み合わせた複合図形を角柱とみて、体積の求め方を考え説明することができる。 (発言、ノート、ロイロノート)</p>	<p>重点②(多面的な見方) 子供の考えをICTを使い可視化し多面的な見方を共有する。 3Dプリンター</p>  
5 6	<p>○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返る姿。(理想の街の模型を作ろう)</p> <p>・3Dプリンターを使って三角柱や四角形を組み合わせさせて家を作ってみたいな。 ・実際に最近は3Dプリンターで本物の家や家具を作っているみたいだから、大人になっても使えるね。 ・3Dプリンターを使うと「底面積×高さ」の意味がよくわかるね。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 単元の学習を振り返り、数学的な見方・考え方を価値付け、今後の学習に生かそうとしている。 (発言、ノート、ロイロノート)</p>	<p>重点①(統合・発展) 3DCADを理解することで社会に生きるスキルを学ぶ。 3Dプリンター</p>  

本時で目指す子供の姿

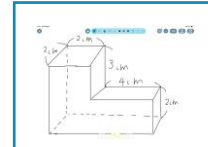
「底面積×高さ」を使えば形が複雑でも体積が求められることがわかったよ。
 形が複雑な角柱の体積も三角柱や四角柱と同じように、今まで習ったことを使って求められる事がわかったよ。

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

- 前時までの学びをもとに、解決の見通しをもとうとする姿
 - ・形の複雑な角柱の体積も三角柱や四角柱と同じように、今まで習ったことを使って求められるのかな。
- 複合図形の体積を求めるために既習の考えを生かし、試行錯誤する姿
 - ・「底面積×高さ」を使えば体積が求められそうだよ。
 - ・形を変えて違う四角柱にすると、体積が求められそうだよ。
 - ・線を引いて分けて二つの四角柱にすると、体積が求められそうだよ。

- 子供の振り返りから問題を把握し、課題をつかむと共に見通しを考える。
 - ・既習事項の三角柱、四角柱、円柱の体積の求め方を使い複合図形も求められるか考えられるようにする。
- 複合図形の体積の求め方を個人で考える。
 - ・既習事項をもとに、「形を変える」、「線を引いて分ける」など、自分なりの方法で答えを導き出せるようにする。



ワールドカフェスタイル

個別

- 友達との共有で、説明を通して出した答えの妥当性を考える姿
 - ・円柱や三角柱、四角柱と同じように「底面積×高さ」で求められるね。
 - ・違う四角柱の形にしたら求められるんだね。
 - ・線を引いて2つに分けても求められるんだね。

- 考え方をグループで共有し自分にとって良い方法を考える。
 - ・「複合図形の求め方は様々な方法がある」という友達の考えとのずれから、自分にとって良い求積方法はどれか確認してみようという思いを引き出す。

協働

- 自分にとって一番わかりやすい複合図形の体積の求め方を探す姿
 - ・Aさんと同じ考え方だったけど、私にとってはBさんの考え方の方がわかりやすかったよ。
 - ・私は、形を移動して違う四角柱にする方法がわかりやすかったよ。
 - ・私は、線を引いて2つの四角柱にする方法がわかりやすかったよ。
 - ・私は、Aさんの「底面積×高さ」を使った方法が正確に素早く答えが求められるから好きだな。

- 考え方を全体で共有し自分にとって良い方法を考える。
 - ・子供の考えを共有して、出した答えの妥当性を考えられるようにする。
 - ・「形を変える」、「直線を引いて分ける」などという友達の考えとのずれから、自分に合った方法を見つけられるようにする。

重点②子供の考えをICTを使い可視化し共有する。

個別⇄協働の往還

- 今日学んだことをもとに、複合図形の体積を求めることができる姿
 - ・形が変わっても今日学んだことで、複雑な角柱の体積は求められるね。
- ①わかったこと、わからなかったこと②友達と話して分かったこと③次にやって見たいことを振り返り、次の学びを考える姿
 - ・友達のを聞いて、自分はこの方法が良いと思ったよ。
 - ・次は、他の形の体積も求めてみたいな。

- 適用問題に取り組む。
 - ・自分に合った方法で、複合図形の体積を導き出せるようにする。
- 解決に至るまでのきっかけや過程を振り返る。
 - ・本時の学習を振り返り、次時に繋げる。

3D プリンターを使い実際に図形を作ることで「底面積×高さ」の良さを感じる

評価

【思考・判断・表現】

図形の特徴に着目し、直方体を組み合わせた複合図形を角柱とみて、どこが底面かを考えて、体積の求め方を考え説明することができる。(発言、ノート、ロイロノート)

支援を要する子供に対する手立て

- ・ICTを使い友達の考えを共有して、自分にとってわかりやすい考え方を選べるようにする。
- ・シンキングツールを使い様々な考え方を、可視化して分類することで、「底面積×高さ」の良さに気付けるようにする。

本時の子供の姿

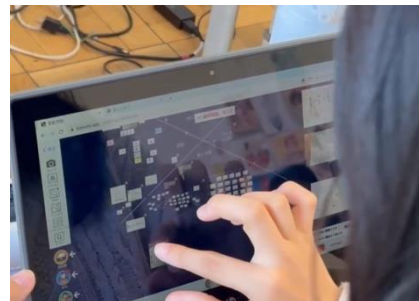
複合図形を求める際に、三角柱や四角柱で考えたところが底面かという問いから、より簡単に答えが求められる底面をそれぞれが根拠を持って考え表すことができた。またそれらを ICT を使って児童全ての考え方を共有し対話を通すことで、「こっちの方が早く答えを出せる」や「こっちの方が自分にとっては分かりやすい」など、新たな考え方に気付き、多面的な見方が深まり、児童それぞれにとって最適な方法に気づくことができていた。また自分の考えを形成する際に、シンキングツールを使い、既習事項に帰依しながら新たな問題を解く姿も見られた。



児童 A: 自分にとって解きやすい方法はどれかな?



児童 B: 私はこの考え方で解くと、早く正確にできると思いました。



シンキングツールを使って学習に帰依して考える様子

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

【重点①】

子供自身が作った問いをもとに授業が展開していく場面が見られた点や 3D プリンターを使うことで子供の思考を可視化できる点は子供の「やりたい!」に繋がるという意見をいただいた。

【重点②】

シンキングツールを使い、7つの視点(類推、演繹、帰納、多面的な見方、具体化・抽象化、モデル化、統合・発展)に着目してまとめている子供それぞれのアーカイブは、新しい問いに出会ったときに、数学的な見方・考え方に帰依して問題解決に取り組むことができるという意見をいただいた。子供の振り返りにもそのことが記載されていた。

単元全体を振り返って

算数では小中の9年間の繋がりを意識したカリキュラムを小中連携の中で考えた。具体的には、算数・数学を通して身につける資質能力に焦点を当て、発達段階における必要な資質能力の育成。またそれらと合わせて研究発表会では、3D プリンターを用いた算数・数学教育と STEAM 教育の統合における授業実践を行った。3D プリンターを用いることで、児童たちは数学的概念を直接手に触れることができる物理的なモデルを作成することが可能になった。これは、従来の図形領域の教育方法では難しかった底面積の抽象的な概念の具体化を実現し、児童の理解を深めることに寄与することができた。例えば、角柱や円柱の体積を計算する授業では、児童たちはまず、どのようにして体積が計算されるのかを学びます。従来の教育方法では、公式(底面積×高さ)を暗記し、紙の上で問題を解くことが中心だったが、3D プリンターを活用することで、児童は自分で設計した形状を実際に作り、底面積が積み上がっていく過程を可視化しその体積を測定することができた。このプロセスを通じて、児童は体積の計算公式がどのように実世界のオブジェクトに適用されるのかを理解し、数学の概念をより深く掌握することができた。さらに、3D プリンターを使用することで、STEAM 教育の ARTS の部分を重視し、児童たちは自分のアイデアを形にすることができ、創造性や問題解決能力を養うことができると思った。児童が自ら設計し、試行錯誤を重ねる過程は、学習への積極的な参加を促し、学びのプロセス自体をより楽しく、意味のあるものにしたと思う。実際に算数で学習したことをもとに、総合的な学習の時間でも自分のアイデアを具現化するために、多面的な見方を発揮させ 3D プリンターを使い、どこが底面かを考えて何度も試行錯誤しオブジェクトを作成する児童の姿を見ることができた。この技術を取り入れることにより、教育現場は児童が主体的に学び、探求する環境をより効果的に構築することができるように思った。

単元名 わり算 同じ数ずつ分けるときの計算を考えよう

本単元に取り組む児童の実態

3年生では、数と計算の領域について、子供たちは「かけ算」の単元で乘法についての学習を行ってきた。そこでは、乘法の交換法則や分配法則について学ぶことで、九九の適用範囲内の乘法の計算が確実にできるようになるとともに、被乗数が10を超える場合の乘法を工夫して積を求めることができるようになった。また、被乗数や乗数が0の場合の計算についても、単にその積が0となるという計算結果のみに着目するのではなく、その計算の意味についても考え、式が意味することを適用場面と関連付けて捉えることも学んできた。更に、乘法の式で $a \times b = \square$ という場合だけでなく $a \times \square = b$ や $\square \times a = b$ という式についても扱い、積をもとにして逆算的に九九を用いて被乗数や乗数が何であったのかを求めることができるようになった。

学習を進める際には、単に計算結果を求めるだけでなく、自分の頭の中でどのような処理を行っているのか、今まで感覚的に行ってきた計算をノートに数式や図を用いて説明をさせることで、思考を可視化する活動を行ってきた。初めは「何を書けばよいかわからない」といった児童も、友達のノートを見たり発表を聞いたりする中で、自分がわかりやすいと思えるような考え方をを見つけることができるようになってきている。また、今の学習をこれまでの学習と繋げて考えることで解くことができたり、説明ができたりすることにも気付けるようになってきた。

本単元設定の理由

これまでのかけ算の学習を通して、かけ算の式をもとにして、積から逆算して被乗数や乗数を求めることはできるようになっているが、その計算が日常のどのような場面で生かされるものであるのかについては、これまでの単元では触れられていない。あくまでもかけ算の技能の中の一部として、被乗数や乗数を導き出しているだけである。これまでに学んだ乘法の逆算を考えていくことが、「同じ数ずつわけるときの計算」という日常の場面において適用できるという除法につながることに気づき、その活用ができるようになっていくことが必要であると考えられる。

本単元では、子供たちが四則演算のうちの最後の1つである除法について学習する。これまでに学習してきた乘法の逆算をすることで「同じ数ずつわけるときの計算」という場面において除法が適用できることを学ぶとともに、その計算ができるようになることを目指している。学校生活の中でも、「グループ決めて同じ人数ずつになるように分ける」「残っている給食を、おかわりをしたい人数に合わせて同じ数ずつになるように分配する」などの思考を働かせる場面は多く存在する。その際、子供たちは無意識的に九九を適用しながら1つ分の大きさを求めていたり(等分除)、1つ分の大きさを定めてそれをいくつに分けることができるかを求めていたり(包含除)していると考えられる。もしくは、全体の数から1つ分の大きさの数を同数累減していきながら答えを求めている子供もいるだろう。こういった日常の思考とこれまでの学びを繋ぎながら、「同じ数ずつ分けるときの計算には除法が適用できる」という除法の意味について迫るとともに、同数累減などで答えを求めていくよりも、除法ができることにより素早く同じ数ずつ分けるときの計算ができるようになるという除法ができることの良さを感じさせたい。また、日常場面をもとに考えていくと、九九の適用で余りなく分けきることができることの方がまれである。本単元では子供たちは除法について初めて学習するが、なるべく日常場面に即した学びとなるように余りのある計算についても同時に学習を進めていく。

本単元で願う子供の姿

「同じ数ずつ分けるときの計算」場面において、除法を適用することによって1つ分の数やいくつに分けることができるかを素早く求めることができることの良さを理解している姿。

除法の計算が、既習の乘法の考え方をもとにして説明できることに気づき、数量関係や計算の仕方を説明しようとしている姿。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○除法が用いられる場合や除法と乘法などとの関係について知り、除法の意味について理解するとともに、除法計算をすることができる。	○数量の関係に着目し、等分除と包含除を除法として統合してとらえるとともに、具体物や図、式を用いて計算の仕方を考え表現している。	○除法の意味や計算方法について、式や図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1 本 時	<p>○自分たちの生活経験から、うまく分けるために必要な要素を導き出す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまく分けるためにはどうすればいいんだろう。 ・みんなが同じ数ずつにならないと、うまく分けられたとは言えない。 ・1ずつずつ配っていけば分けられるんじゃないの。 ・1人に1ずつずつ順番に分けていくより、何個かずつまとめて配った方が早そうだ。 ・うちの班は余っちゃうんだけど。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>具体的操作を通して数学的な見方・考え方を働かせ、うまく分けるために必要な事柄を考えることができている。 (発言、ノート、動画)</p>	<p>重点①</p> <p>自分たちの生活経験ですぐにうまく分けることができなかったことをもとにして「うまくわかるためには何がわかればいいのか」具体的な操作を通して実感させる。日常の中でのわかる場面をもとに、「同じ数ずつ分ける」ことについて追究していこうという意欲を持たせられるようにする。</p>
2	<p>○自分たちの分ける活動を、九九をもとに捉え、除法について理解する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九九で答えがあるときは、すぐに1人分がわかる。 ・九九を巻き戻すみたいなきにわり算を使えばいいんだね。 ・余っちゃうときは、どういう風に計算すればいいんだろう? 	<p>【知識・技能】</p> <p>同じ数ずつ分ける場面が、除法の式として表されることを理解している。 (発言、ノート)</p>	<p>重点②</p> <p>「全体の数」と「いくつぶん」がわかっているときに除法の式が適用できることに気づくことができるようにする。</p>
3	<p>○余りが出るときの除法の計算について理解する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余りがあっても、九九を使ってわり算すればいいんだね。 	<p>【知識・技能】</p> <p>余りのある場面の除法の計算方法について理解している。 (発言、ノート)</p>	
4	<p>○包含徐の適用場面について、その計算方法について九九をもとに考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この間のおかわりの場面との違いは何だろう。 ・今回は、1人分がもう決まっている。 ・それでも、このあいだみたいに九九を使うと答えが求められるみたいだ。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>包含徐の場面においても除法が成り立つことを理解している。 (発言、ノート)</p>	<p>重点①</p> <p>等分徐の場面と似た場面にするので「同じ数ずつ分ける」場面についてさらに追究できるようにする。</p> <p>重点②</p> <p>「全体の数」と「1つ分」がわかっているときにも除法の式が適用できることに気づくことができるようにする。</p>
5	<p>○包含徐で余りが出る計算について理解する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かたまりで分けるときにも、同じように九九を使いながら余りを見つければいいんだね。 	<p>【知識・技能】</p> <p>余りのある包含徐の計算方法について理解している。 (発言、ノート)</p>	
6	<p>○問題作りを通して、除法の適用場面を日常から見つけ出そうとする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなときにわり算を使っているかな。 ・かたまり分けをする時って、どんな感じになるんだっけ。 	<p>【態度】</p> <p>わり算の適用場面を日常生活と関連付けて考えようとしている。 (発言、ノート)</p>	<p>重点①</p> <p>学んだことが日常のどんな場面に生かされるのか、学んだ意義を感じることができるようにする。</p>
7 8	<p>○除法の計算が確実にできることを目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しく計算できていることを確かめるためにはどう見直せばいいんだろう。 ・わり算はかけ算の巻き戻しだったから、かけ算をして全体の数に戻せそうだ。 ・余りがあるときは、どうやって巻き戻していけばいいのかな。 	<p>【知識・技能】</p> <p>たしかめ算の意味を考え、正しく除法の計算ができるようになっていく。 (ノート・練習プリント)</p>	<p>重点②</p> <p>たしかめ算の学習や練習問題を通して、除法の確実な計算ができるようにする。</p>

本時で目指す子供の姿

同じ数ずつ分けたいときは、どうすればうまく分けられるのかな。
 全部の数と分けたい人数がわかっているならば、九九を使って1人分が素早く求められるよ。

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○日常の場面から、等しく分けるために必要な要素を見つけようという問いを持つ姿

- ・うまくわかるには、みんなが同じ個数になるように分けることが大切だと思う。
- ・個数がわからないと、分けられないんじゃないかな。

○どうすればうまく分けられるか、実際に分ける活動を通して考える姿

- ・実際に分けてみよう。
- ・1つずつ分けていけば同じ数ずつ分けられる。
- ・何個かまとめてわけたほうが早そうだ。
- ・どれくらいまでいっぺんに分けられるのかな。
- ・うちのグループは、きれいに分けきることができないけど、どうすればいいのかな。

○よりよい分け方について考察する中で、全体の数と分ける人数が分かれば九九を応用できることに気づく姿

- ・1つずつ分けても分けられるけれど、まとめて分けると早く配れるし、楽だと思う。
- ・自分たちの分け方を振り返ると、やっぱり全部でいくつあるかが最初にわかっていることが大事だと思う。
- ・全部の数がわかっているならば、九九を使っていっぺんに配れる数を簡単に見つけられるよ。
- ・うちのグループはぴったり九九の答えにならないんだけど、どうすればいいのかな。

■グループごとに「同じ数ずつ分ける」ために何を意識して取り組んだかを振り返ることができるよう、活動を動画にとったり箇条書きにしたりしてまとめさせる。

- ・実際に分ける活動を設定し、自分たちが分けているところが見えるようにすることで、あとで何を意識して分けているのかに気づけるようにする。

■自分たちの活動を振り返り、素早く同じ数ずつに分けるための要素に気づけるようにする。

- ・「全体の数」と「分ける人数」が明らかになると、九九で素早く一人分の数を求められることに気づけるようにする。
- ・いつでもきれいに分けきることができないわけではないが、「可能な限り最大の数で同じ数ずつ分ける」というわり算の本質に迫っていかうとする姿勢が持てるようにする。

重点①

自分たちの生活経験ですぐにうまく分けることができなかったことをもとにして「うまくわかるためには何がわかればいいのか」具体的な操作を通して実感させる。日常の中でのわかる場面をもとに、「同じ数ずつ分ける」ことについて追究していかうという意欲を持たせられるようにする。

評価

【思考・判断・表現】

具体的操作を通して数学的な見方・考え方を働かせ、うまく分けるために必要な事柄を考えることができている。
 (発言、ノート、動画)

支援を要する子供に対する手立て

1つずつや2つずつなど、少ない数での同数累減のやり方しか見いだせていない児童には、どれくらいまでいっぺんにまとめて配ることができるか、考えていくように声を掛ける。

本時の子供の姿

本時は「わり算」の単元の導入であった。材を子供たちにとって身近な「給食のおかわり」の場面に設定したことで、子供たちが「みんなに同じ数ずつ分ける」という共通の目的に向かって主体的に考えようとする姿が見られた。「公平に分けられるように、1人1個ずつ順番に分けていこう。」「何個かずつまとめて分けると早く配れるんじゃない？」など、グループ毎にそれぞれ工夫しながら、意図をもって考えることができていた。また、「みんなに平等に配るには、何に注目すればよいのか。」という、こちらが想定していたよりさらに日常に即した問いも、子供たちの発言の中に見られた。おかわりを公平に分けるためには、「重さ」「数」などいくつかの要素が考えられる。これまでに学習してきたいくつかの見方・考え方を発揮しながら、日常の事象を数学的に捉えて問題場面を解決しようとする姿をある程度作ることができたことで、子供たちが自ら学ぶ姿勢へと繋げることができたのではないだろうか。

また、実際の操作を通して場面を捉えて考えられるよう、半具体物を用意したことで、より子どもたちが前のめりに問題場面の解決方法を考えようとする姿が見られた。目の前の物を実際に操作するからこそ、1つずつ順番に分けていくという同数累減よりも、既習の乗法を活用しながらまとめて配っていくという除法の良さに迫ろうとする子供の姿が見られたと考えられる。

さらに、問題場面で全部の数をあえて示さないというように情報の与え方を工夫したことで、「まず全部の数を数えるのがいいんじゃないの。そうすればかけ算が使えるから。」というような、以前の学習と繋げながら除法を用いるための条件に迫るような見方・考え方を発する発言も引き出すことができた。問題場面で設定した全部の数も、割り切れるグループとあまりが出てしまうグループが出るように設定しておいたことで、「分けきれぬグループはこれでいいんだけど、分けられないグループはどうすればいいのかな。」という、単元のこの後の学びに繋がる問いを引き出すこともできた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

研究協議では、「材」の選定が重要であるという意見を頂いた。今回は給食のおかわりで、「数」に注目して分けることができるものを選んだことで、子供たちが「自分ごと」として捉えやすかった。算数の学習において「やりたい!」を引き出すためには、「その学びが自分たちの生活をどのようによくしていく可能性をもっているか。」が大切だと思って授業デザインをしたので、以前のおかわりの場面で子供たちがうまく分けられなかった経験のある「材」を選んだことで、「やりたい!」を引き出すことができる効果は見られたのではないかと。ただし、そのような日常に即した材の選定が難しい単元があることも協議の中では話題となった。確かに、日常の中に学習内容と関連した事象があるとしても、それが子供たちにとって真に解決したい問いとなりうるかどうかは、単元によると考えられる。「やりたい!」は、子供たちが本当に解決しなければならないと心から思えた時に生み出される情動であると思うので、「材」の選定以外にもそのような思いを引き出す手立てを今後も模索していかなければならないだろう。

半具体物については、それがあって「1つずつ分けてみよう。」「全体の数を数えてみたら?」などいくつかのやり方を実際にグループで試すことができていたという意見を頂いた。その結果、活動の中で「全部の数がわかっていると九九を用いて計算で求めることができるのではないかと。」という子供たちの思いを引き出すことができ、解決のすべの育成に繋げることができたと考えている。

今回の実践では、グループごとの子供たちの分け方を後に視覚的に共有できるように活動の様子をそれぞれ動画に残すようにさせたが、このことで撮影に気が向いてしまい算数の思考が深まらなくなってしまう様子が見られたという意見を頂いた。確かに、学びたい内容とは直接的には関係ない活動を入れ込んでしまうと、子供の「やりたい!」の方向性や思考の方向性がずれてしまうことは往々にしてあると思う。こちらの思いと子供の思いのずれが生じないように授業中に適宜修正するか、初めから余計な活動を入れないことの必要性を感じた。

単元全体を振り返って

今回わり算の授業をデザインするにあたって、単元を通して子供たちが「やりたい!」という思いをもって自ら学び続けられるような単元構想を作れないかどうかを模索した。単元導入で子供たちの「やりたい!」を引き出すことはある程度できたかもしれないが、その「やりたい!」が単元を貫くものであったかといえば、そうではなかったと感じた。算数はどうしても1時間ごとに身に付けたい事柄がある程度決まってしまうと、コンテンツが強い教科で単元を通したコンピテンシーベースの計画を構想していくことの難しさを感じた。「平等に分けたい。」という子供たちの願いを、筆算などの知識・技能の習得場面にどうつなげていけばよいか、これからも模索していきたい。

単元名 一次関数 ～鎌倉の二酸化炭素濃度は将来どうなるのか～

本単元に取り組む子供の実態

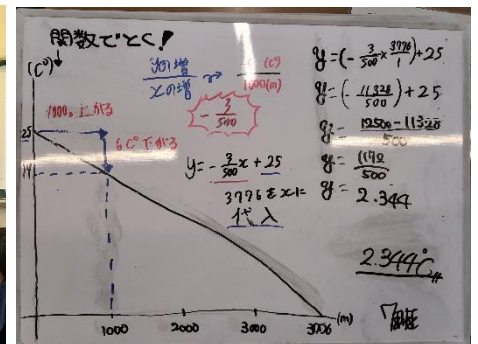
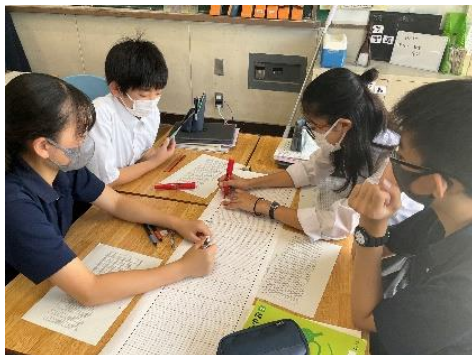
小学校では、ともなって変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察した。簡単な場合の比例の関係などを扱い、ともなって変わる二つの数量に対して規則性を見いだしたりグラフに表したりする活動をしてきた。第1学年では、具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べ、関数関係について理解できるようにし、比例、反比例を関数として捉え直した。また、表、式、グラフでの特徴を確認し、関数関係と見なすことで課題を解決することができることを学んだ。しかし、中学校1年生の段階で比例のグラフについて定着が甘く、ヒストグラムのようなグラフをかいてしまう子供が若干数見られた。また、一方が変化した際にもう一方が連続的に変化すると捉えるのではなく、その時点での関係として見てしまう様子が見られた。式からグラフをかくことができてもグラフから式を求めることができないなど、式とグラフの関連付けがまだ定着していない実態もある。

本単元設定の理由

第2学年においては、第1学年での比例・反比例の学習を振り返りながら式と表とグラフの関連付けを意識できるようにする。比例を一次関数の特別な場合であると捉え直し、比例と一次関数の違いや共通点を見ていく中で変化の割合やグラフの傾きなどを理解できるようにする。グラフでの傾きや切片が表ではどのように表されるのかを確認しながら、表と式とグラフの関連付けを定着させたい。

また、知識として定点公式などの公式を既知に知っている子供もいる。しかし、その公式の意味まで理解して使っている子供は少ない。どうしてその公式が成り立つのかを考えさせ、理解を深められるように促したい。

また、実生活・実社会において一次関数の関係にあるものは多く存在する。理科の実験等でも、多少の誤差はあっても一次関数と見なすことで、先を予測したり、性質を仮定したりすることもできる。そういった例を取り上げ、実生活・実社会で生きる力を身に付けさせたい。気温や携帯料金など身近な一次関数と見なすことができる題材を取り上げることで、子供の興味関心を引き出したい。また、「どうして潮は満ち引きするのか?」「なぜ標高が1m上昇する毎に6°C下がると言えるのか?」など、他の教科に繋がる知識を得たいと考える子供もいるだろう。そういった考えも大切に価値付けることで、今後様々な問題や課題に直面した際にこれまでの学習を繋げて解決しようとする姿勢を育てたいと考えている。



本単元で願う子供の姿

- 既習を生かして課題を解決しようとする姿。既習事項と関連付けて一次関数の性質を探ろうとする姿。
- 具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べ、一次関数とみなして課題を解決する姿。

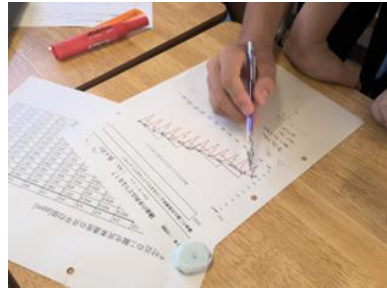
評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○一次関数について理解している。 ○事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ○二元一次方程式を、関数を表す式とみることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ○一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一次関数のよさを実感して粘り強く考え、一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○一次関数の意味を知り、比例を捉え直す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水槽に初めから水が入っていたら、$y=2x+0$という式になるね。 ・比例は$b=0$の場合の一次関数なんだね。 	<p>【知識・技能】</p> <p>一次関数が $y=ax+b$ という式で表される関係であることを理解することができる。 (発言、学習ノート)</p>	 <p>重点①、②</p>
2 3	<p>○一次関数の値の変化を考察し、変化の割合の特徴を調べる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比例と考えると、同じ割合で変化するはずだよ。 ・変化の割合ってaの値と関係しているんじゃない? 	<p>【知識・技能】</p> <p>変化の割合の意味を理解し、変化の割合とaの値の関係を理解することができる。 (学習ノート、学びのプラン)</p>	
4 5	<p>○グラフの特徴を調べ、表や式と関連付けて考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次関数も比例のように直線のグラフになるね。 ・比例のグラフからbの分ずれているとみることができるね。 ・変化の割合が一定だから直線なのかな? 反比例は変化の割合が一定じゃないってこと? 	<p>【知識・技能】</p> <p>一次関数のグラフを、傾きと切片を用いてかくことができる。 (学習ノート)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>変化の割合とグラフの特徴を考察し、比例、一次関数、反比例の関係について考える。 (学習ノート、学びのプラン)</p>	 <p>重点①② 比例と一次関数の違いや共通点に着目しながら、これまでの学習をつなげて考える。(統合・発展)</p>
6 7 8	<p>○一次関数の式を求める姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表で変化の割合を求められれば、aの値が分かるよね。 ・xが1増えたらyがいくつ増えるかが一番簡単に変化の割合を求められるんじゃない? 	<p>【知識・技能】</p> <p>グラフや与えられた条件から一次関数の式を求めることができる。 (プリント、小テスト)</p>	
9 10	<p>○連立方程式と一次関数のグラフを関係を知り、活用する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二元一次方程式をyについて解くと一次関数の基本式になるね。 ・連立方程式を使えば、問題は解けるけど、一次関数のグラフでも解けるね。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>既習事項と結びつけて課題を解決しようとする。 (学習ノート、学びのプラン)</p>	<p>重点②</p> <p>一次関数の式を二元一次方程式と見ることで、交点の座標などが連立方程式で求められること。 (多面的な見方)</p>
11 12	<p>○気温と標高の関係を一次関数と見なし、富士山頂の気温を予想する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフにするとほぼ直線だから、一次関数として見るができるんじゃない? 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>事象の中から一次関数を見だし、それを利用して問題を解決することができる。 (発言、プリント、学習ノート)</p>	<p>重点②</p> <p>具体的な場面において数量の関係を一次関数と見なして問題解決することや、表、式、グラフを相互に関連付けて考察することで、問題解決の過程を振り返り、関数を活用することのよさを実感できるようにする。(モデル化)</p>
13 14	<p>○面積の変化を調べ、一次関数を見だして問題を解決する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の面積が一番大きくなるのはいつだろう? 		
15 16	<p>○これまでの学習を生かして実生活・実社会に生かそうとする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気温と標高の時みたいに一次関数と見なすことができないかな? ・目標を達成するためには、どのくらいのペースで削減しないといけないのかな? 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>これまでの学習を生かして具体的な事象における課題を解決しようとする。</p>	<p>重点①</p> <p>自分ごととして考えられるように、現実の社会問題となっている題材を取り上げる。</p>

本時で目指す子供の姿

- 一次関数とみなして解決できないかな？
- 数学的な理由をきちんと示して説明できるようにしよう。

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

9月の最高気温が125年間で過去最高であったニュースをきっかけに二酸化炭素濃度がこのままだとどのくらい上昇してしまうのかを考える。

○ 未来を予測するために過去のデータを分析しようとする姿

・過去10年間のデータから、二酸化炭素濃度の変化を読み取れば、将来どうなるかが分かるよ。

右のグラフは、鎌倉市周辺の大気中の二酸化炭素濃度の経年変化を表しています。二酸化炭素濃度が650ppmになるのは何年後でしょうか？

○ 一次関数とみなして問題を解決しようとする姿

- ・一定の割合で上昇しているように見えるけど…
- ・ギザギザしているように見えるけど…
- ・ギザギザの上の部分をつなぐとほとんど一直線と見られるんじゃないかな？
- ・それぞれの月ごとじゃなくて、1年間の平均をとったらどうなるかな？
- ・ギザギザを太い直線と見なして解決できないかな？
- ・ある程度一定の割合で上昇しているように見えるね。

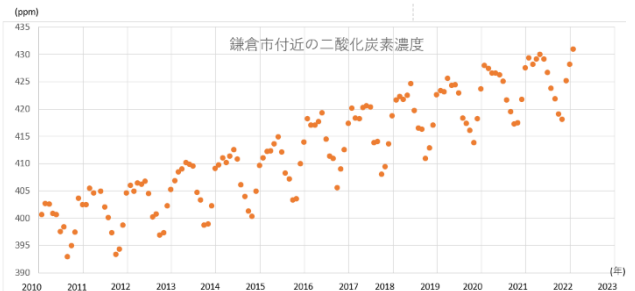
○ 問題解決の方法を数学的に説明する姿

- ・ギザギザの上部（一番濃度が高い月の点）をつなぐと、直線となり、一次関数と見なすことができるね。
- ・一次関数と見なすことができれば、式を求めて、その式に $y=650$ を代入すればその時の年が分かるね。
- ・知りたいのは何年後ですか？なので、横軸の目盛りを変えたほうが求めやすいな。
- ・その年の最大値と最小値のちょうど間をとれば、およその年平均としても良いんじゃないかな？

○ 他の人の意見を聞いて、自分の考えを補強したり調整したり発展させたりする姿

- ・考え方によってどの点を取るかわ変わってくるね。
- ・一次関数と見なすことで、先を読むことができるんだね。
- ・どうして月によって二酸化炭素濃度が変わるのかな？
- ・平均を考えた方がいいと思っていたけど、常に650ppmを超える年と考えるなら最小値を見るのが妥当だね。

■ 子供の見取りプラン



重点① 自分ごととして考えられるように、現実の社会問題となっている題材を取り上げる。

■ グラフや式を活用して具体的な事象における課題を解決しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

・近い点や最大値や最小値を直線で結んだり、変化の割合を求めて一定であると仮定したりして、一次関数と見なそうとすることを期待する。

■ 数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。【思考・判断・表現】

・ひと月でも650ppmを超えるのは何年後かを知りたいければ最大値に着目したらよい、常に超える時を知りたいければ最小値に着目したらよい、など自分なりの根拠を用いて、数学的に説明することを期待する。

・他者と考えを共有することで、自分の解答を振り返り、調整する姿も見取りたい。

重点② 具体的な場面において数量の関係を一次関数と見なして問題解決することや、表、式、グラフを相互に関連付けて考察することで、問題解決の過程を振り返り、関数を活用することのよさを実感できるようにする。

評価

【思考・判断・表現】

数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

これまでの学習を生かして具体的な事象における課題を解決しようとする。

支援を要する子供に対する手立て

グラフを見て一次関数だとみなしているが、具体的な式を出すことができていない子供には、どの座標をつなぐとみなせるのかを問い返す。また、表計算ソフトを使って自分たちでグラフを作成しても良いが、その作業が主にならないように声をかける。

本時の子供の姿

導入で、二酸化炭素濃度が上昇するとどうなってしまうかを画像で紹介したり、実際に気温が過去最高を記録したというニュースを見せることで、子供たちの中でこの問題が自分たちの生活に直結するものとして捉えて考えていた生徒が多かった。その分、誤差やはずれ値を認めずより正確に今後のことを知ろうと考えていたため、予測には誤差がつきものであることや正確ではないにしろ大体でも予測することが私たちの生活場面や社会で役立っていることを今後はもう少し取り上げたい。

データをプロットしたグラフはひと月毎なので、ギザギザしているが、全体として見ると徐々に右上がりになっていることがわかる。子供もそれに気づき、しかも1次関数のように直線的に上昇しているので、二酸化炭素濃度は一定の割合で増えているのではと予測した。これは、7つの視点のうち、モデル化にあたる考え方である。ギザギザしているグラフを1次関数とみなすことで問題の解決を計ろうとしていた。また、1次関数とみなすときにどの値に着目して考えれば良いかも子供たちの議論の中心となった。これは、問題をあえて「二酸化炭素濃度が650ppmになるのはいつでしょう?」という問い方にしたことが功を奏したと考えられる。これが「650ppmを越えるのはいつでしょう?」という問いにした場合、グラフのギザギザの上のほう(最大値)に着目する子供が多かっただろう。あえて曖昧な表現にしたことで、どの値をもとに考えるのが妥当なのかを考えさせることができた。ある子供はやはり「一度でも越えたらアウトだ」と言い最大値に着目し、ある子供は「常に650ppmを越えてしまうのはいつかを考えるべき」と言って最小値に着目した。また、やはり平均値に着目した子供もいれば、平均値だと極端に高かったり低かったりする値があった場合にひきずられてしまうので、中央値のほうがいいだろうと考える子供もいた。これは1年次に学習した代表値の学習が生きていることが分かる場面だと言っていいだろう。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

【重点①】

研究授業前から助言者の先生からも指摘されていた部分でもあるが、数学において子供の「やりたい」を引き出すにはただ身近な題材を使えば良いというわけではないということは確かである。子供にとって考える必然性がないと、結局は教員が与えた問題にしかならず、子供たちが自ら解決に向けて思考するような活動はみられないということを改めて感じた。その部分で、導入を工夫したことは良かったというご意見をいただいた。今後も、子供の「なんで?」「どうして?」「確かめたい!」という気持ちを引き出す課題の工夫をしていきたい。

【重点②】

今回の授業で課題を解決するすべは「1次関数とみなす」ことである。子供たちの周辺でも、意識はしていなくとも「みなす」ことで解決していることはたくさん存在する。この「みなす」ことを自然と行うような問題を設定し、その良さを実感できるような授業デザインを考えたい。ギザギザしたグラフを1次関数とみなすかどうかは少々不安ではあったが、研究協議でもお話しがあったように、どの生徒も一定の割合で増えていくと考えていた。そうしなければ解決しない問題であることも理由のひとつではあるが、これまでの学習や生活経験から一定であるとみなすことが自然な考えとして定着していたからとも考えられる。こういった経験や考えを価値付けていくことで、さらに発展的に考えたり別の場面で取り入れたりすることができるようになることを期待している。

単元全体を振り返って

算数数学部として大切にしたい7つの視点(類推、演繹、帰納、多面的な見方、具体化・抽象化、モデル化、統合・発展)をもとに改めてこの単元の大事な考え方を見直すことができた。同じように他の単元でも7つの視点をいければ、その単元で重要な考え方にフォーカスすることができる。また、子供とこの視点を共有することで、子供もこの単元ではどのような考え方が使えるのか、身に付けることができるのかを意識することができるのではないと思う。実際に、学びのプランを提示し、そこにこの単元で大切な視点は「類推」と「モデル化」であると伝えてみた。このことも、子供たちがすんなり1次関数とみなす考え方ができた一因かもしれない。今後は、単元ごとに大切な視点の妥当性を検証していく必要があると考えている。

本時で目指す子供の姿

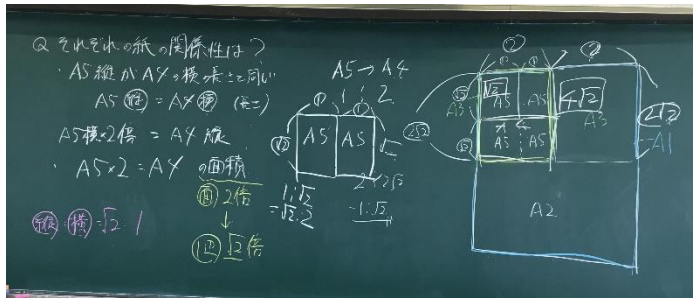
- 今まで何気なく使ってきた紙のサイズにも決まりがあるんですね。
- どんな値でも、文字式を使って表したり、説明することができるんですね。
- √って日常生活の一部でも使われることがあるんですね。

○学ぶ生徒の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

T:教室の中にある平方根を探そう

- 教科書・ノートで B5→B4 に拡大する姿
プリントで A4→A3 に拡大する姿
- コピー機で A4→A3に拡大する作業を想像をする姿
- ・どうやって拡大縮小を設定するんだろう
- ・シンプルに面積2倍にすればよいのでは？
- ・200%に設定すればよい
- ・聞いたことがある感じがする
- ・√2倍(141%)になる



問題 A4とA3にどんな関係性があるだろう。

- 前時までの学習を生かして、発展的に考察する姿
- ・実際に長さを測ってみよう
- ・A4を並べるとA3になるから、A3の面積はA4の2倍
- ・面積が2になる正方形の1辺の長さは√2だから、A4の1辺を√2倍するとA3の1辺の長さになる
- ・長辺(縦):短辺(横)=√2:1

- ①面積が2倍になるとき、1辺の長さは何倍になるだろう。
- ②長辺(縦):短辺(横)=√2:1といえるだろうか。

- ・紙を折って調べてみよう
- ・文字式と比率で説明できないかな
- ・面積2の正方形を利用すれば説明できるかもしれない

○条件を変えたらどうなるかを考える姿

- ・A4とA3でなく、B5とB4で考えたらどうだろう
- ・A4とB4で考えたら何倍で考えればよいだろう

- ①なぜ、2:1でなく√2:1に設定されているのだろう。
- ②A4→A3は141%で拡大コピーできます。A4→B4の122%はどうやって求めるのだろう。

- ・面積が1.5倍になる？
- ・平方根があることで、解ける問題が増えそう
- ・平方根があることで、拡大、縮小したときの長さが求められそう
- ・平方根があることで、三角形の辺の比が表せそう

■それぞれの紙のサイズから、平方根との関係性を粘り強く探そうとする姿を見取る

- ・長さを測定して、縦の長さから横の長さから縦横の比率を求めようとしている
- ・各プリントサイズを比較できる図を作成したり、文字式や図形を活用して規則性を見い出そうとしている

重点②

自分が予想したことを説明する活動を通して、解決の過程を振り返り発展的に考えるようにする。

■自分の考えや疑問点を周囲と共有する中で、対話を通してお互いが学びあう姿や思考の過程が記載されたノートやメモの数学的処理から論理的思考を見取る



評価

【思考・判断・表現】

数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する姿 (発言、学びの足跡)

支援を要する子供に対する手立て

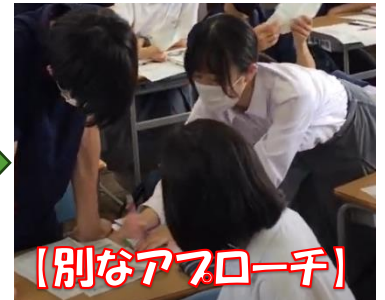
- ・以前学習した「正方形の1辺の長さを自然数で表せない(例:面積2の正方形の1辺の長さは1.41421356...) 場合、√を使って表現できる」こと、2乗した数と平方根の関係性に気づくことができるような助言をする。
- ・紙を実際に折ることにより、辺の長さや大小関係に注目できるよう声かけをしていく。

本時の子供の姿

「コピー用紙の秘密を探求しよう」というオープンな発問に対して、実際に紙を折ったり切ったり並べたりして関係性を見つけようしたり、文字で置き換えて規則性を見つけようとするなど、既習事項を活用しながら解読しようとする主体的な活動が、生徒間の対話を通して見受けられた。



【図や具体物を使った説明】



【別なアプローチ】

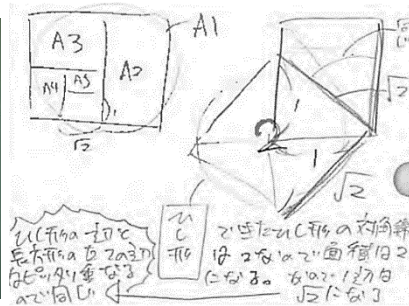
生徒 M:それぞれの紙を重ねてみると、A5の長辺の長ささとA4の短辺の長さが等しくなるね。図で描いてみると、長辺:短辺= $\sqrt{2}:1$ が出てくるよ。

生徒 I:紙の縦と横の長さの比は $\sqrt{2}:1$ になるはずだ…紙を折ると、短辺を1辺とすると、正方形の対角線と長辺がぴったり重なるはずだ。実際に折ってみると…

生徒 N:ひし形の面積公式から、正方形の対角線と1辺の関係が $\sqrt{2}:1$ になることを説明できそうじゃない?



工夫できそうな方法あるかな?



【協働】

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

【重点①】

題材のテーマや質によって、子供の食いつきや意欲が大きく変化する。「なぜ・どうして」の問いを子供自ら設定できるように、授業者がファシリテーターとして子供の意欲を引き立てられるような教材準備が大切であるという意見をいただいた。

【重点②】

単に問題を解決すればよいということではなく、7つの視点(類推、演繹、帰納、多面的な見方、具体化・抽象化、モデル化、統合・発展)に着目して「もし~だったらこうなる」「このきまりが使えるようだ」など、数学的な見方・考え方を育成できる問いや問題解決場面を意図的に設定していく必要があると感じた。

単元全体を振り返って

単元初期から単元末になるにつれて、平方根の意味と必要性の探究活動を通して『整数の比では表せないが、数(長さ)としての表現方法として $\sqrt{\quad}$ は必要だ』と感じる子供の姿が増えて、『1章「式と計算」と同様、2章「平方根」もただ計算できればよい』と考える生徒の姿が少なくなったことに一定の効果を感じた。子供がより主体的・対話的な深い学びを実践するためには、授業者から課題を与えるのではなく、子供自身で自ら問いを立てて探求する必要がある。子供同士の対話をつないでいくことによって思考の点と点が線でつながる気付きを増やせるように、今後も日々教材研究→授業改善を継続していきたい。

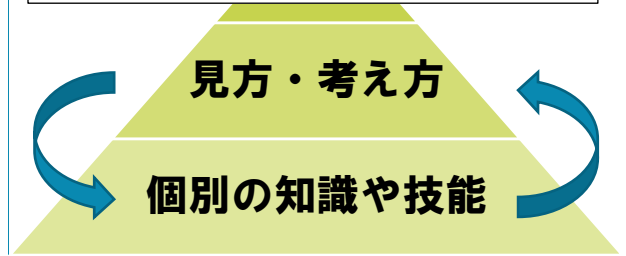
教科部で大切にしていること

科学的に探究し、根拠を基に考え、表現する力

理科における基本的な知識を用いることで、日常生活において安全に暮らすことができる（コンテンツベース）。その段階に留まらず、より広く深く思考を働かせることで、実生活に活用し、さらに豊かに生活できるような意識をもつ（コンピテンシーベース）。

生活の中で得た自然の事物現象に関する知識・実験観察の技能を基に、各段階に応じた見方・考え方を働かせて学習し、科学的に探究する力を身につけることで、実生活や実社会をよりよく生きることができるようになる。理科における科学的な探究の経験をもとに、既存の知識技能だけでは解決できない問題に対しても、より高次に思考を働かせ対処対応できるような力を身につけていく。

科学的に探究し、根拠を基に考え、表現する力



願う子供の姿

- ・自分たちで問題を見つけ、解決に向けた検証に見通しをもって取り組むことができる姿。
- ・何気ない事象に対しても、新たな視点で向き合える姿。
- ・問題が解決した後も新たな問題を見だし、さらにねばり強く探究し続ける姿。
- ・科学的な根拠をもとに現状を分析し、プロジェクトを進めたり、妥当性や説得力のあるプレゼンテーションで表現したりすることができる姿。
- ・自分の取り組みや検証について、客観的に見直しながら分析し、経験を次に生かすことができる姿。

小中の取り組み

- ・目に見えない自然事象について可視化し、思考したり説明したりしやすくするための表現方法として、イメージ図を用いる。
- ・見通しをもって学習を進め、内容だけでなく学び方をふくめて振り返る。

視点	小学校		中学校
	中学年	高学年	
科学的	理科の基本である検証の流れ（問題に対する根拠ある予想や仮説・適切な実験とその記録・分析と考察）に沿って問題解決していくことを繰り返す。 日常生活での経験や実験で得た結果を根拠に予想・考察する。	問題解決の方法を子どもたち自身が考え、条件を制御したり、その妥当性を検討したりすることができるように、学習の流れを文脈化し、学んだことをスライドに整理していく。 経験、既習の知識、実験で得たデータを根拠に吟味して予想・考察する。	課題に対して、生活経験や既習知識をもとに予想を立て、課題解決のための方法を、習得した知識・技能を生かして自ら選択し、活用していく。また、問題解決の過程を振り返り、その妥当性を検討し、次の課題解決の場面に生かせるようにする。
探究	学習の流れに沿って検証し、問題解決する経験を積み重ねる。 単元の最後に学び方についても振り返り、問題解決のすべも増やしていく。	問題解決の流れを見通し、自分たちで検証の方法を考えて取り組む。 学習の経緯を振り返り、検証方法の妥当性や、学び方の効果についても考え、次に生かせるようにする。	実験・観察の結果やデータを分析して、そこから分かることを、既習知識と結びつけながら考える。
表現	学んだ内容、思考や理解の変遷について、言葉での説明を補うために図・写真・映像を積極的に用いる。 言葉での表現を写真や絵、イメージ図で補い、自分の考えを伝える。	写真や絵、イメージ図、実験データを整理したグラフや表と、言葉での表現を結び付け、自分の考えをわかりやすく伝える。	目に見えない（抽象度の高い）事象についても、記号やモデル図などを用いて可視化することで、言語での説明を補いながら表現ができるようにする。

取り組みに対する振り返り

○成果と ●課題

小中の取り組み

自分たちの学び方(探求の過程)をふりかえる場面について

○ふりかえる視点を明確に提示し、必要なタイミングでふりかえった内容をお互いに見合い検討する経験をくりかえすことで、少しずつ客観的に学び方をとらえ表現することができるようになっていた。

●単元によっては学習の最後に全体をふりかえるだけでは難しい場合もある。学び方をメタ認知できるようなふりかえり方・タイミングについては改めて検討する必要がある。

視点	小学校		中学校
	中学年	高学年	
科学的	○検証を意識し、段階に応じて必要な検証方法や科学的な表現を確認したことで、子供たち自身で問題解決の流れを考え、根拠に基づき予想・考察ができるようになった。 ●中学年の実態に合わせ、仮説を基に検証していくための問題が設定できるようにするには経験と共に教師の働きかけが必要。	○デジタル端末を活用し調査・実験で得た内容を随時記録しておくことで、分析考察の根拠が明確になった。 ○流れを文脈化しスライドにまとめることによって、全体を見通しながら学習を進めることができた。	○ワークシート等の記述内容を教師が見取り、適宜、全体で共有することで、問題解決の過程を振り返らせ、その表現方法の妥当性を全体で検討し、次の課題解決の場面や現在の表現方法の改善に生かせるようにする。(例:結果の表、グラフの表し方や、考察での根拠と自分の考えの表し方など)
探究	○検証しての問題解決を積み重ねたことで子供たちの探究の意識が高まった。授業での学びを生かして自主学習での発展をクラスに還元して学びを深めることが増えた。 ●解決のすべの定着や使いこなしに個人差があり、困ったときに確認する方法を習慣づける必要がある。	○それまでに経験した解決の方法から選択し、問題解決を図ることができた。 ●単元の中で自分たちの学び方をふりかえるタイミングや視点については、発達段階や学習内容に応じて柔軟に設定する必要がある。	○仮説や予想を考えてから、観察、実験を行うことで、結果やデータのどこに注目すべきか理解した上で分析し、そこから分かることを考えられるようにした。 ●単元によっては、探究的に学習を進めることが難しいところもある。学習内容によって整理し、教科部として検討する必要がある。
表現	○図や写真、動画の長所・短所を確認し、補助的に使う方法を身につけ、目に見えないものをイメージする図の効果を学ぶことができた。 ●言葉での表現は全体共有で見直し、補足する習慣をつけたが、今後も継続する必要がある。	○言葉での伝達を基本としながら、伝わりづらい部分を写真や絵、イメージ図、実験データを整理したグラフや表などを用いて共有することができた。	○より抽象度の高い表現方法を使って、現象を汎用的に表現しようとしていた。 ●根拠としているものが知識なのか実験結果なのか、表現がイメージ図なのかモデル図なのか、適切に判断し助言できるようにしたい。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

○成果の継続

小学校から具体的な事象についての表現方法を学びはじめることで、中学校で抽象性の高いものにも取り組むことができた。イメージ図から粒子図への発展、グラフや表を根拠にするなど、解決のもととする表現方法が増えることによって子供自身が少しずつ選択することができるようになっていく。発達段階を意識しながら来年度も継続していく。

◎成果の発展

小中でつながりのある単元を見つけ、どのように学びを展開するかをさらに広げ深めていきたい。今年度は粒子領域(小学校4年「水の3態」と中学校1年「状態変化」)において小中連携して授業をデザインした。来年度も子供がこれまで学んだ内容とこれから学ぶ内容をつなげられるよう単元計画をデザインできると良い。

具体的には、地学領域(火成岩と堆積岩)／天体領域(月の満ち欠け)／植物／生物の誕生と成長 など

●課題の解決に向けて

日常生活における子供たちの「やりたい!確かめたい!」という探究心をもとに学習問題を立てるだけでは、学習のねらいにせまるのが難しい。ねらいは教材研究の中で教員が明確にもっておき、そのねらいにせまる中で子どもたちが学び方を身につけたり科学的な概念を理解したりできるような授業をデザインしていく。

単元名 水の変身

本単元に取り組む児童の実態

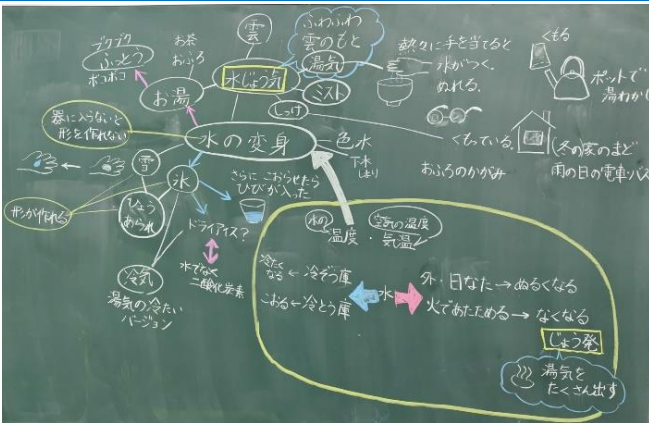
水は生活の中で身近なものであり、4年生の学習では1学期に理科で「空気と水の性質」、社会で「水道」の学習を行っている。雨上がりの地面や洗濯物が乾く様子や、料理やお風呂で上がる湯気、学校のひょうたん池に氷が張る様子、吐いた息が白くなることなどを日常の中で見ている。しかし、小さなころから見慣れているからか水の三態に関わる自然事象は子供たちにとって当たり前になってしまっていて、日常生活の中で疑問をもつ子は少ない。蒸発や水蒸気という言葉を使ってはいらぬものの学級での話し合いを集約したイメージマップや個人のイメージ図を見ると、科学知識として理解されているわけではなく、曖昧なイメージをもっていることがわかった。

理科の学習の中で問題を見だし、生活経験や既習事項を基に予想や仮説を立て、それを確かめるための実験を考えて行い、結果を整理して、問題に対する結論を考察するという理科の学習の流れには慣れてきて、自分たちで進めるようになってきている。前単元の「電気のはたらき」ではクラスの中で出てきた4つの予想に対して、子供たち同士で自分の経験や既習事項を基に議論する姿が見られた。子供たち自身も予想で議論が生まれたことに価値を感じ、学び方への意識が高まってきている。また、自分の考えたことや学びの経緯を写真やイメージ図と共にスライド上にノートとしてまとめることに今年度から取り組み始め、最初は手探りの中だったが、慣れてきて、表現の工夫や算数の学習を生かした整理の方法が見られるようになってきた。イメージ図については自分のイメージを具現化する効果は感じているものの、1学期「空気と水の性質」で描いたときには、閉じ込めた空気を押す前後で粒の数が増えたり、粒が書かれていない隙間があったりして、粒子としての概念形成は今後の課題である。

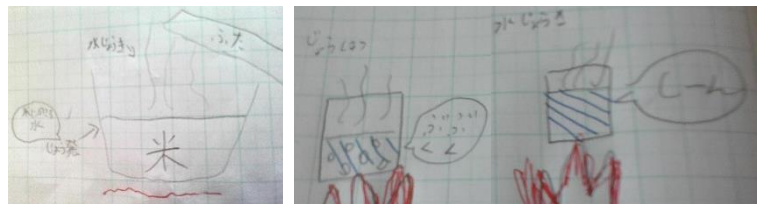
本単元設定の理由

小学校では物質・エネルギー領域の「空気と水の性質」で温度による水の三態変化と体積の変化や熱の伝わり方、生命・地球領域の「天気の様子」で水蒸気や蒸発と結露が学習事項になっている。しかし、これまで4年生の学習を見ていて、自然の中での水の蒸発や結露と、理科室で行う水の沸騰や氷結の実験が子供たちの中では別物として捉えられている様子や、実験の意味を理解しきれないまま蒸発や結露の実験をしている様子が気になっていた。そこで本単元では、温度による水の状態変化を中心に、2つの内容を結び付けて単元を構成した。水の状態変化について探究し、日常の生活の中で目にしている自然事象と実験を結び付けることで知識がつながり、生活に根付いた理科の学びが生まれるようにしたいと考え、子供たちの思考の流れに沿う形で学びのストーリーを考えた。

蒸発や結露の様子をイメージ図として予想し、実験・観察、考察していく中で、学習前に曖昧だった蒸発や水蒸気、結露に関する知識が具体的になり、理解が進むと思われる。その中で粒子の概念形成も進むように意識したい。



← 第1時にクラスで出た意見を整理したイメージマップ。子供自身から「水蒸気や蒸発についてよくわかっていないから調べる」という発言が出た。第2時には個人で水蒸気や蒸発のイメージを図に表し、その時点での考えを表現した。↓



本単元で願う子供の姿

- 自分たちで水の性質についての問題を見つけ、解決に向けた検証に見通しをもって取り組む姿
- 問題が解決した後も実験結果から新たな問題を見だし、粘り強く探究し続ける姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○水は水面や地面から蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれ、結露して再び水になって現れることがあることを理解している。 ○水は温度によって状態が変化して水蒸気や氷になり、氷になると体積が増えることを理解している。 ○器具や機器などを適切に扱いつつ調べ、実験の過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水の性質について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、水の温度を変化させたときの体積や状態の変化について、根拠のある予想、考察をして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水の性質に関する事物・現象から見出した問題を他者と関わりながら解決しようとしている。 ○水の性質について学んだことや、学び方を今後にも生かそうとしている。

本單元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	○「水の変身」に関する事象や言葉、生活経験のエピソードを出し合い、今の自分たちの知っていることを共有する姿 ・水を温めるとお湯になって湯気が出る。湯気は水蒸気で、雲の元だよ。窓が曇るときは水っばい。 ・水蒸気とか蒸発って、湯気がたくさん出るイメージなんだけど、詳しくはわからない。	【主体的に学習に取り組む態度】 水の温度が変わることと、状態の変化について、生活の中で見たことがある事象を思い出し、まだわからないことや知りたいことを明らかにして、解決したい問題を見いだす姿(発言、スライド)	重点① これから学習する「水の変身」に関わる事象や言葉をクラスで出し合い、身近な事象との繋がりを見つけられるようにすることで、解決したい問題や解決方法を自分たちで見いだせるようにする。 ・イメージマップ ・自由実験 ・家でもできる実験方法
2	○これまでの生活経験で感じている「蒸発」や「水蒸気」についての自分のイメージを明らかにし、問題を見いだす姿 ・乾いて水は消えるけど、なくなっちはなくて小さく軽くなって空に浮くんだと思う。それで雲になる。 ・「水を温めると、どう変化するのだろうか?」	【思考・判断・表現】 第3~7時 実験の結果を整理・分析して考察し、わかったこと、まだわからないことや新たな疑問を明らかにし、自分の考えを写真や図を使って表現する姿。(発言、スライド)	
3	○日なたに置いた水の実験を基に「蒸発」や「水蒸気」についての気付きを見つけ、まとめる姿		重点②
4	・見えないけど、水が出て行って量が減った。 ・水は見えなくなって上に上がっていたね。 ・火で温めるとどうなるんだろう?	【知識・技能】 第7時 水は水面や地面が温まると蒸発して目に見えなくなり、水蒸気という気体になることを理解する姿。(発言、スライド)	予想での見通し、実験方法の計画、結果の整理・分析、検証をもとにした考察を意識することで、自分自身で問題を解決するための方法や見方・考え方を働かせることができるようにする。 ・問題解決の流れ ・結果の分析 ・自分たちでの検証
5	○火で水を温めるとどうなるか、前時の学習を生かして考え、学びを深める姿		
6	・温度が高いから、もっと早く水がなくなると思う。温度が高くて蒸発の勢がいいからポコポコするのもかもしれない。水から泡が出てきた。	【主体的に学習に取り組む態度】 水蒸気について追究し、友達と方法を相談して問題を解決しようとする姿(発言、スライド)	
7	○自然の中での蒸発と、実験での蒸発で見られた事象を根拠に、水蒸気とは何か考える姿 ・実験では湯気が出たけど、あれが水蒸気? ・フラスコの底と上は水が見えたけど、真ん中は見えなかった。見えない水が水蒸気なんだ。 ・沸騰したときの泡は何だろう?	【思考・判断・表現】 学習したことや生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、それを検証した実験結果を基に考察したことを表現する姿。(発言、スライド)	重点①② 理科に限らず、学習で使った見方・考え方や表現方法、学び方などのよさを振り返る時間を設け、それをいつでも活用できるように学級全体で共有する。 ・4-1学びのたからばこ
8	○今までの学習を基に方法を考え、沸騰のときに 出る泡の正体を検証する姿		
9	・水の蒸発のときも消えるのは目に見えなかったけど、ラップに水分がついたよね。あれと似ている。 ・火で温めると水蒸気になった様子が泡として見えるんだね。水蒸気は空気みたいな姿なんだ。	【知識・技能】 第10~11時 水蒸気は空気中に含まれ、結露して再び水になり、現れることがあることを理解する姿。(発言、スライド)	
10	○今までの学習を基に方法を考え、蒸発して見えなくなった水蒸気の行方を検証する姿		
11	・水は水蒸気になるとどこへ行くの?雲になる? ・水蒸気が冷やされると水になるから身のまわりにあるかどうか冷やせばわかるはず。		
12	○水を冷やしたときの変化を細かく観察し、学びを深める姿		
13	・水を冷やすと氷になるのは知っていたけど、膨らんだように体積が大きくなるんだね。	【知識・技能】 第13時 水は冷やすと氷になり、体積が増えることを理解する姿(発言、スライド)	
14	○水の変身に関する事象や温度との関係を結び付けて学習をまとめ、学び方を振り返る姿 ・水、水蒸気、氷は温めたり、冷やしたりすると、姿を変えるんだね。	【主体的に学習に取り組む態度】 水の三態について学んだことと学び方を今後の学習や生活に生かそうとする姿(発言、スライド)	

本時で目指す子供の姿

自然の中での蒸発実験と、火で温めた蒸発実験の結果を整理・分析して考察し、わかったこと、まだわからないことや新たな疑問を明らかにし、お互いの考えを写真や図を使って伝え合う姿。

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

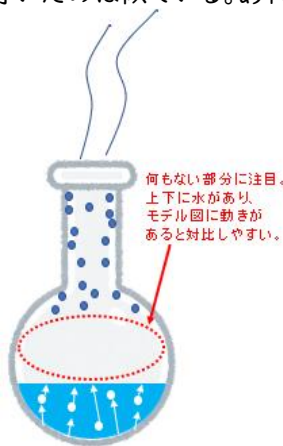
■子供の見取りプラン

○実験での蒸発で見られた結果を共有し、情報を整理・分析する姿

- ・火で水を温めたら小さな泡と湯気が出て、だんだん泡が大きくなり勢いよく出るようになって、温度が100度くらいまで上がった。
- ・最後には水の量が減った。
- ・フラスコの上の方と温度計に水滴が付いていたよ。

○自然の中での蒸発と、実験での蒸発で見られた事象を根拠に、水蒸気とは何か考える姿

- ・日なたの実験は見えないけど、水が消えたり、減ったりした。消えた水は上に行っただとラップをしたら、水滴が付いた。
- ・共通点は水が消えたり、量が減ったりしたことだね。
- ・日なたの実験でラップに水滴が付いたのと、火で温める実験で出た湯気を手に当てたときに水滴が付いたのは似ている。あれが水蒸気なんじゃないかな？
- ・あれは水と同じじゃない？
- ・モデル図をかいてみたら、考えがはっきりするかもしれない。
- ・ここは何も見えなかったけど、フラスコの底と上だけ水があって、真ん中だけ消えるわけではないから、見えないけど水があると言えるよ。
- ・泡が上に動いていたし、湯気も上に動いていたから、真ん中だけ何もないということはないと思う。水があるよ。
- ・火で温める実験のときに出ていた大きな泡は日なたの実験のときには出なかったよね。あの泡は何だろう？
- ・両方の実験で見られたから、泡は蒸発に関係していると言えるね。泡が上に上がって、水の外に出ると見えなくなって（それが水蒸気で、）その後湯気になるんじゃないかな？
- ・泡が何かわかれば水蒸気について、もっとはっきりとわかりそう。



重点②

予想での見通し、実験方法の計画、結果の整理・分析、検証をもとにした考察を意識することで、自分自身で問題を解決するための方法や見方・考え方を働かせることができるようにする。

■実験結果から情報を整理・分析して考察する

- ・火で水を温める実験の結果について経過時間を軸に振り返り、どのような事象が起こったか整理することから始め、温度変化との関係性に気付くことを期待している。
- ・日なたの実験と火で温める実験を比べることで、共通点と差異点を見つけることができ、共通点を基にすることで今日の段階で言い切ることができる事実は何か考えることができると思われる。
- ・現段階の実験結果からはわからないことや疑問を出すことも、わかったこと・言い切れることが明確にする一助となるので、価値があると考えている。

重点①②

理科に限らず、学習で使った見方・考え方や表現方法、学び方などのよさを振り返る時間を設け、それをいつでも活用できるように学級全体で共有する。

■自分の考えを写真や図を使って表現する

- ・これまでの学びを振り返り、自分の考えを伝えるために効果的な表現方法を考えられるとよいと思っている。例えば、「雨水の行方」のときの砂と土のように2つの結果を比較できる表現方法は適切である。
- ・水が移動するときのはじめと終わりしか目には見えないが、それらと中間の見えない部分をモデル図に描く中で、比較が生まれ、見えなくなった水の移動を粒や矢印としてモデル図に表し、途中経過の部分を表現することが今回の考察を深める手立てになると考えている。

評価

【思考・判断・表現】

2つの実験の結果を整理・分析して考察し、わかったこと、まだわからないことや新たな疑問を明らかにし、自分の考えを写真や図を使って表現する姿。(発言、スライド)

支援を要する子供に対する手立て

板書で整理した実験結果や4-1学びのたからばこを見るように促し、情報整理や考察の筋道立てをしやすくする。

本時の子供の姿

前回の実験の様子をタイムラプスで振り返り、前時に見えた現象について事実を基に意見を出し合う姿が見られた。計測した温度については事前にグラフ用紙に各グループの結果をシールで貼っておいたことで、細かな違いではなく傾向を見ることができていた。

見えた現象について述べる際、「こうなって、その後、こうなって…」と時系列を追いながら見えた変化を細かに述べる姿が見られた。しかし、フラスコ全体の様子の変化という見方をしている子が多かった。沸騰しているとき、フラスコ内の水中では水が水蒸気になって沸騰している姿、フラスコ上部では水蒸気が冷やされて水滴となってフラスコの管部に付着する姿、フラスコ外部では水蒸気が冷やされて湯気になる姿というように、1場面の中で複数の現象が同時に起こっているが、そういった見方や、水が泡になり、水滴や水蒸気になって見えなくなるという一連の状態変化の捉えが少なかった。

実験結果を基に何が言えるのかと考えた中で、前時の加熱実験とその前の蒸発実験という2つの現象を比べながら似ている点を述べる姿は見られたが、これまでに得た実験証拠だけでは水蒸気の正体は何なのか、納得して結論を出すことはできないと考える子が多く、沸騰で出てくる泡の正体を明らかにしたいという思いが高まった。

フラスコ内の様子をモデル図にしようと考えた中で、何も見えない部分について考えようとしている一方、まだ見えないものを視覚化するということが難しく、様子の表象で留まっていて見えない部分について考えたり、それを表現したりすることに課題があった。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

学び方の活用や共有については結果の抽出や、比較の考え方で日頃の学習の積み重ねが表れていた。今回は同時進行で複数の現象が見えるという複雑さがあり、その中で水の一連の変化に目を向けるという、子供たちが経験してきたことと異なる新しい見方が必要だった。子供たちが適切な見方を働かせることができるように、板書で視点をわかりやすくしたり、どのような見方をすればよいか問いかけたりする教師の働きかけが必要だった。解決のすべを育成していくためには、その場面で子供たちにとってコンピテンシーベースでの新しい課題は何なのか見通しをもち、授業デザインをしていく必要がある。

子供たち自身が探究していくことができるように日常生活と結びつけながら学習し、自分たちでよく考えていたが、何を明らかにするのかわかりやすくするためには発問、問いかけやそこから生まれる仮説とその検証という学習の流れが大切だということを改めて感じた。

単元全体を振り返って

これまで、子供たちが生活の中で何気なく使っている水蒸気や蒸発という言葉と実際の現象に対する子供たちの理解のずれや、子供たちが自分自身で納得して言葉と現象を結び付けていないから学習後も理解がずれているという問題点を感じていたので、本単元では自然蒸発と沸騰を同じ単元内で学ぶ構成にし、教師が水蒸気や蒸発を定義づけるのではなく、子供たちが納得いくまで水蒸気や蒸発という目に見えない現象を検証し、議論する流れにした。

自然蒸発をしたときにわかったようでわかっていなかったことが沸騰の学習をする中でより深く理解されたり、わかったつもりになっていたことが沸騰の学習をしたことで実はよくわかっていなかったと気付いたり、2つを関連付けたことでの成果が見られた。また、温度の異なる現象だったため、熱に関する量的・関係的な見方が働き、暑くないときも蒸発は起きているということに気付きやすくなった。

子供たちが納得するまで議論し、検証実験をしたことで、すぐに知識に到達できないときもあったが、探究して辿り着くことのおもしろさや、探究するための学び方、自分で探究して得たものへの満足感など、子供たちにとって価値のある学びがあった。子供たちが限られた時間の中で価値ある学びができるように、発問や学習の整理、その時々に応じた見方・考え方の提示など、授業デザインの中で意識していきたい。

単元名 身のまわりの物質 ～水溶液と状態変化～

本単元に取り組む児童の実態

今回の身のまわりの物質についての学習は、実際に自身で実験を行い、結果に基づいて考察していくような、科学的な探究の過程をより意識して進めていく単元である。本単元の前には、物質の性質を調べ、その特徴から金属・非金属、有機物・無機物、密度等についての理解を深めていった。

1年生の最初は、生命についての学習を行い、観察に基づいた事実から共通性や多様性を見だし、生物を分類していくことで理解を深めていった。

そのため、実験結果を比較しながら整理し、その物質が何なのか、自分の考えを表現しようとしているようだ。一方で、探究の過程にある「結果」と「考察」の表現方法については不十分で、実験のワークシートやレポートにおいて、実験の結果なのか、自分の考えなのか、自分で区別して表現できていない。

本単元設定の理由

本単元の前半では、水溶液の学習を行い、溶解に関する実験を行い、結果をもとに溶質や溶媒、質量パーセント濃度や溶解度、再結晶について理解を深めていく。その際、見えるものが見えなくなっていく溶質について、粒子モデルで説明し、温度と溶解度の関係から徐々に溶媒についても粒子モデルを適応させ、その動きや運動も考慮に入れながら自分の考えを深めていく。

後半では、状態変化の学習を行う上で、前半の粒子モデルを応用することを想定している。溶媒に関する粒子モデルを活用することで、物質の状態が変化する様子や沸点・融点において温度が一定になる理由についても子供自身が見出し、理解を深めていくと考えている。また、「結果」と「考察」の区別については、実験の結果の理由付けに粒子モデルを用いることで、実験の結果なのか、自分の考えなのかを区別して表現しやすくと考える。

本単元で願う子供の姿

- 科学的な根拠をもとに現状を分析し、妥当性や説得力のある表現をすることができる姿
- 何気ない(目に見えない)事象に対しても、新たな視点(粒子モデル)で向き合える姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水溶液と状態変化に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、溶解や再結晶、溶解度曲線、状態変化、融点と沸点、蒸留についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	水溶液と状態変化について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、それらを粒子の運動の様子で捉えながら、再結晶と溶解度、状態変化による質量や体積の変化、沸点や融点についての規則性や関係性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。	水溶液と状態変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1 ~ 7 水 溶 液	<p>①砂糖が水に溶ける様子を粒子モデルで考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 溶けるときにモヤモヤが見えるね とけたものは、見えないけど、どこにあるのかな <p>②溶けている物質の量を、質量パーセント濃度を使って表現する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 果汁何%とってなんだろう <p>③最高に濃い食塩水をつくるために、溶け残りを取り除く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 海水の濃度って?濃さの限界ってあるのかな? 	<p>【知識・技能】 溶質、溶媒、溶液の違いを理解し、水溶液の濃さの表し方である質量パーセント濃度を理解している。(観察・テスト)</p> <p>【思考・判断・表現】 物質の水への溶解を粒子のモデルを用いて微視的に捉え、粒子のモデルで均一になる様子について表現している。(ワークシート)</p>	<p>重点① 身近なものや最近のニュースを導入で取り入れる。例えば、水溶液の学習の最初には、海水と淡水の違いや、処理水の問題などを扱ったり、冷凍用の飲料ペットボトルが売っている理由や、紙鍋が燃えない理由などを状態変化に関する規則性や関係性を見いだせるようにする。</p> <p>重点① 観察した事象を粒子モデルで説明する活動を続ける中で、修正や加筆があれば付箋を活用し、自分の考えを気軽に表現できるようにする。</p>
	<p>④飽和食塩水を放置すると結晶が見られる理由を考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 水が蒸発したからかな? 温度を下げて同じ事ができるのかな? <p>⑤温度変化によって再結晶できる理由を、溶解度曲線と関連付けて説明する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> どうして温度が高いときの方が溶ける量が多い? <p>⑥水温度計を作成して、しくみを説明する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 温度計って熱くなると液面が高くなるね 水の粒のは温度によって変わるのかな <p>⑦牛乳の脂肪球の観察を通して、脂肪球を動かしている水の存在を、粒子モデルで説明する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 溶けているときと溶けきれないで再結晶しているときの違いを粒子モデルで表すにはどうしたら良いかな 	<p>【知識・技能】 物質によって、再結晶させるにはどのような方法が適切か、溶解度と関連付けて理解している。また、溶解度曲線からどのくらい再結晶するのか理解している。(ワークシート・テスト)</p> <p>【思考・判断・表現】 温度による水の体積変化を粒子のモデルを用いて微視的に捉え、粒子の運動の様子について表現している。(ワークシート)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 水について、これまでの学習を踏まえながら、適切に粒子のモデルを用いて微視的に事物・現象を捉えようとしている。(観察・ワークシート)</p>	
	<p>⑧⑨ロウやエタノールが状態変化する様子を観察し、体積・質量が変化するか調べる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ロウが液体から固体になると体積が小さくなるけど、質量は変化しないよ 粒子モデルで考えてみるとどう表現できるかな <p>⑩水やエタノールが沸騰しているときの温度に注目し、調べる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 沸騰しているときの泡は何か 温度は変わるかな <p>⑪沸騰の様子を粒子モデルで説明する姿【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> 液体から気体が変わるときには、粒の運動はもっともっと激しくなるね 	<p>【知識・技能】 ロウやエタノールの状態変化による質量と体積の変化について調べる実験を行い、物質そのものは変化せず状態が変化することや、物質の体積は変化するが質量は変化しないことを理解している。(ワークシート・テスト)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 状態が変化しているときは温度が一定であることを、これまでの学習を踏まえ、適切に粒子のモデルで微視的に事物・現象を捉えようとしている。(観察・ワークシート)</p>	
<p>⑫物質には固有の融点、沸点があり、温度が一定になることを理解する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙鍋はどうして燃えないのかな 物質によって沸点、融点の違いはあるのかな <p>⑬混合物を加熱によって蒸留できる理由を説明する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 混合物は何度で沸騰するのかな? 混合物だと沸点が一定にならないんだね 蒸留するとエタノールだけを取り出すことができるから蒸留酒はアルコールが高いんだね 	<p>【知識・技能】 物質は融点や沸点を境に状態が変化することや、融点や沸点は物質によって決まっていることを理解している。(ワークシート・テスト)</p> <p>【思考・判断・表現】 混合物を加熱する実験を行い、沸点の違いを利用して、混合物から物質を分離できることを見いだして表現している。(観察・ワークシート)</p>		
<p>⑭試験管の中で雪が降る現象について、粒子モデルで説明する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 溶けているときと溶けきれないで再結晶しているときの違いを粒子モデルで表すにはどうしたら良いかな 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 再結晶について、これまでの学習を踏まえながら、適切に粒子のモデルを用いて微視的に事物・現象を捉えようとしている。(観察・ワークシート)</p>		
8 ~ 11 ~ 14 状 態 変 化			

本時で目指す子供の姿

液体から気体に変化する水について、目に見えないところに注目して、加熱中（沸騰中）の様子を粒子モデルで表現する姿【本時】 ※粒子の運動の様子の違いによって説明している。

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○ 沸騰の様子を思い出し、泡の正体について考える姿

- ・前回の実験を振り返り、エタノールは加熱し続けても78℃付近で沸騰し、温度が一定となることを確認する。
「78℃に近いところから温度が上がらなくなったね。沸騰すると温度が一定になるから、沸点は78℃だね。」
「どうして沸騰すると温度が一定になるのかな。」
- ・沸騰の泡の正体は、エタノールであることを確認する。
「水のときは泡の正体って水蒸気だっけ？ エタノールの泡は何だろう？」
「沸騰を続けていたらエタノールがなくなったから、泡はエタノールじゃないかな。」

○ 加熱中（沸騰中）の様子を粒子のモデルで表現する姿

- ・加熱中、沸騰中の様子について、エタノールの変化を粒子モデルで表現する。
「泡の中には何があるのかな？ 気体のエタノールだとしたら液体との違いはあるのかな？」

①個人で考える（10分）

- ・ワークシートに記入する。
- ・これまでの自身のワークシートをもとに粒子モデルを考える
「水温度計のときは・・・、脂肪球のときは・・・状態変化のときは・・・、こんな粒子のモデルで表現すると説明しやすかったね」

②グループで考える（20分）

- ・個人の考えを共有してから A3 の紙にまとめる
「粒の大きさが変化するとしたら・・・」
「粒と粒のすきまが変化するとしたら・・・」
「粒の運動の様子が変化するとしたら・・・」

③発表する（5分）

- ・黒板に貼ってもらい、何班かに発表してもらう
- ・より汎用性のある、妥当な粒子モデルを考える
「粒の運動の様子が変化すると考えると説明が上手くできそうだね。他の事象も説明できるよ」

④他の人の考えをもとに、自分の考えをワークシートに記入する（10分）

- ・加熱による熱が液体から気体が変わるのに使われたのかな

※前回の実験結果（エタノールの温度変化）をグラフで確認する。

※沸騰すると温度が変わらないのは、なぜか、まずは沸騰中の様子を粒子モデルで考えてみよう。

重点①

沸騰という身近な現象でも、これまで継続的に表現してきた粒子モデルで説明する活動を行うことで、自分の考えの有効性を検証したくなる。

※表現しにくいところ、困っているところを最初に見つけ、その内容がグループで解決できない場合は、全体でも共有する。

重点②

沸騰の様子を図示したワークシートを活用し、これまで考えてきた粒子モデルを振り返りながら、より妥当な表現を考えていく。

※加熱によって加えられる熱エネルギーは、粒子の運動をより活発にさせるために使われるが、沸騰中は、内部の粒子の結びつきを切るために熱エネルギーを使い、気体に変化していくので、温度の上昇は起きない

【主体的に学習に取り組む態度】

液体から気体に変化する水について、粒子の運動の様子と関連付けながら、これまでの学習を踏まえ、適切に粒子のモデルで微視的に事物・現象を捉えようとしている。（観察・ワークシート）

評価

【主体的に学習に取り組む態度】

液体から気体に変化する水について、粒子の運動の様子と関連付けながら、これまでの学習を踏まえ、適切に粒子のモデルで微視的に事物・現象を捉えようとしている。（観察・ワークシート）

支援を要する子供に対する手立て

粒子のモデルで、運動の様子に注目できない場合は、水溶液の学習で行ったことを想起させ、熱を加えることで体積が変化し、そのとき粒子がどのように様子が変わっていたかを確認させる。

本時の子供の姿

○達成できた姿

・目に見える沸騰の泡だけでなく、その中にどのようにエタノールの粒が存在しているのか、粒子モデルで表現しようとしていた。
 ⇒しかしこの姿が見られるまではスムーズではなく、目に見える泡と見えない部分を表現する粒子モデルとが混在していたので、何に注目して考えるのか、授業中に全体で内容を押さえ、確認した。

●達成できなかった姿

・粒子の運動の様子と関連付けながらという点で、粒が膨張している粒子モデルも多く存在していた。
 ⇒これまで学習してきた状態変化のモデル図に立ち返って考えるようにしていたが、実際の現象が小さい泡が大きい泡になる沸騰の様子だったので、その場面のみに適応した粒子によるイメージ図になってしまった。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

【協議会で出た意見】○成果 ●課題

重点①について

- 教える、覚えさせるのではなく、現象から子どもたちにミクロな視点でどのようなことが起きているのかを考えさせている。
- モデルを3段階でやるからこそ、粒子の速さは変わるのではないかと考えを生徒の中に生み出せていた。
- 小学校と中学校で目で見えないものを捉える考え方の変化をみることができた。
- 見えるもの(泡)と見えないもの(粒子モデル)を一緒にすると、子ども達が混乱するのではないか。
- 最終的に何ができるようになれば良いのかははっきり分かると生徒も取り組みやすいのではないか。

重点②について

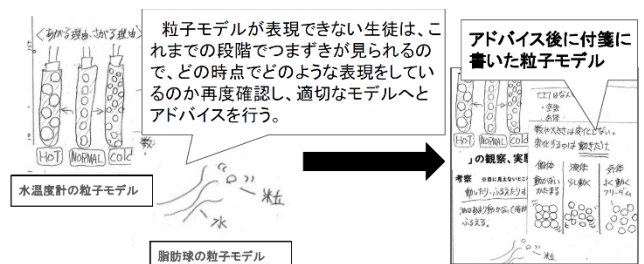
- これまでの学習内容を振り返っての粒子のイメージを表現できていてよかった。
- 個人の考えから班で話し合うことで、より良いモデルに変わっていった。
- 水温度計の体積増加と関連付けて、考えた生徒が「膨張」と「運動」が混ざって蒸発の観点がぬけてしまった。
- モデル図のルール確認、方向性を示すと、沸騰時の粒子のモデルづくりがより表現がしやすくなったのでは。
- モデルが手段ではなく、目的になってしまっていたのではないか。
- 粒子の「運動」によるものだという結論にもっていく根拠は?生徒「粒が大きくなってはじけるから減る」「拡大→破裂説」の方がそれっぽい説明になりかねない。教えるしかない?納得して結論までどう導けるのか。

【考えたこと】

今回の単元学習の中で、粒子モデルが様々な現象を説明できる汎用的なモデルとして、どのように生徒の中に精緻化されていくのか、想定していたつもりであった。しかし思った以上に、目に見える現象に影響を受け、これまでの粒子表現のつながりよりも場当たりの表現になっており、モデルの構築が困難であることが分かった。粒子モデルで現象を表現することの必然性、有用性を、もっと生徒に感じさせる必要があったと考える。

単元全体を振り返って

同一のワークシートを活用して「粒子モデル」で継続的に表現させ、学習を進めていく中で、表現方法の改善があれば、付箋で書き足しをさせた(右図)。生徒の粒子モデルの状況を適宜見取ることができたので、教師の想定と生徒の理解度・イメージのズレを感じたときに、助言をしたり、補足の実験を行ったり、授業の順番を入れ替えたりすることができた。指導と評価の一体化の視点としても、このような手立ては続けていきたい。

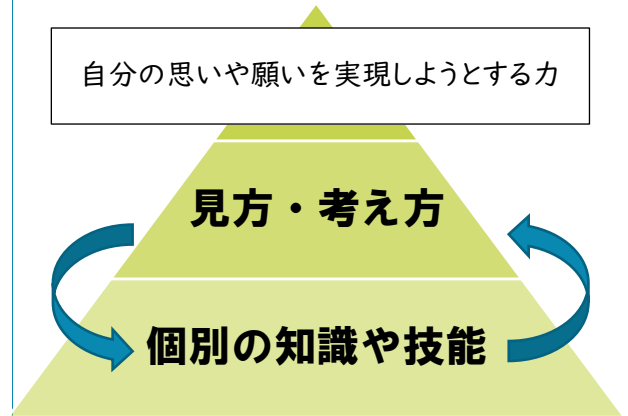


教科部で大切にしていること

自分の思いや願いを実現しようとする力

生活科は、幼児教育と小学校教育のスムーズなつながりをもたせる教科として誕生した。低学年においては、教師の説明を中心にした学習ではなく、児童が主体的に具体的な体験活動をもとにした学習を進めていく必要がある。これらを踏まえ、「自分の思いや願いを実現しようとする力」を教科で大切にしていることとして設定した。

教科を通して育成する力を育むために、自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる学習活動を自ら進んで行うことができるということを大切にしていく。多くの「ひと・もの・こと」と出会い、様々な経験ができるようにする。具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにする。そのため、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現できるようにする。また、自分にとって思いや願いを実現できるような必要な情報（図鑑・インタビュー）を集められる活動場面を設定する。



願う子供の姿

- 自分と身近な人々、社会及び自然と関わる活動や体験を通して思いや願いをもつ姿。
- 活動を振り返ることで得られた手応えや自信により自らの学びを次の学びへつなげようとする姿。
- 相手意識や目的意識をもち、自分自身にとって価値があることを振り返りや伝え合いなどの様々な方法を用いて、活動の楽しさや伝え合うことよさを実感できる姿。
- 体験活動と表現活動が豊かに行き来することで、よりよい生活に向けて思いや願いを実現させながら気付きの質が高まる姿。

小学校の取り組み

子供が没頭できる環境づくり

小学校

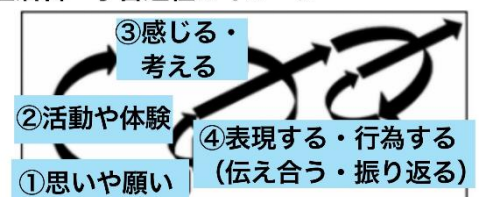
○主体的な子供を育てる

子供の興味・関心があることを大切に、学びを展開していく。その学びの中で、生活科では情意面の成長のために子供の「やってみたい!」を実現できる単元構成をする。思い通りに行くことがなくとも、自分の感情や行動をコントロールできる力や「自分はできる」という自己有能感を持てるよう、教師の声掛けや子供同士のケアの関係を大切にする。

○体験活動と表現活動の充実

振り返り表現する活動として、言葉や絵、劇化などにより表現する活動が位置付けられる。活動や体験したことを言葉などによって振り返ることで、無自覚だった気付きが自分の中で明確になったり、それぞれの気付きを共有し関連付けたりすることに結びつく。右図「生活科 学習過程のイメージ」より、教師が4つの学習過程を理解して、繰り返し取り組むことができる体験活動を子供たちと決めていくようにする。

生活科 学習過程のイメージ



取り組みに対する振り返り

成 果

【子供と材を選ぶ】

単元づくりのため、子供たちの日常生活の中から興味・関心のある材を教師が見極め、子供たちと選んで、関わる材を決めた。子供たちは自分で決めた材で楽しみ、休み時間にも遊ぶように繰り返し活動する姿が見られた。

色水づくりの活動では、土や草花といった自然のものを使った見立て遊びから活動が始まった子が、繰り返し材と関わることで、より綺麗な色水をつくりたいという思いをもって活動する姿が見られた。

【没頭できる環境づくり】

活動の前に子供たちのやりたいことを尋ね、必要な時間を子供たちと決めることで、子供たちが見通しを持って活動に臨むことができた。個人の追求の時間が保障され、遊びと学びが一体となっている状況が子供にとって没頭できている場面であった。

【子供の姿に合わせた単元構成】

子供の姿に合わせて、単元を変化させていくことで、子供たちが主体的に活動する姿が見られた。虫に興味を持った子供たちと飼育の単元に取り組んだ際には、想定よりも虫を捕まえることに時間がかかったが、自分で捕まえる経験を通して子供たちは虫の住む場所や食べ物について学んでいた。また、虫と仲良くなることをテーマに単元を進めていく中で、飼わないことが虫と仲良くなると選択した子供の姿から、飼育することを選択できるよう事前の単元構成を変更した。子供たちは、目の前の虫とのよりよいかかわり方を思考し、元居た場所に逃がしたり、飼育環境を整えたりと自己決定する姿が見られた。

課 題

【教師の言葉かけや関わり】

子供たちの主体的な活動を支援するために、教師の言葉かけをできるだけ少なくしていたが、子供自身が自分の成長を自覚化するために、もう少し教師の出場を増やす必要があると感じた。教師が子供同士、子供と材とのつながりをつくる中で、できるようになったことを自覚して使っていく経験へとつなげていきたい。また、子供たちの振り返りへのアクションを増やすことを意識したい。

【振り返りについて】

子供自身が自分の成長を自覚化するために、振り返りの時間を確保する必要性を強く感じた。

【年間カリキュラムについて】

今年度は教科の内容項目を単元ごとに分けて扱ったが、教師が単元を意識することで子供たちの活動が途中で分断されてしまうこともあった。活動のつながりが途切れないように年間計画を立てて、子供の活動に合わせて計画を修正していきたい。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

【つながりを意識する】

今年度、生活科部で大切にしてきた「自分の思いや願いを実現しようとする力」については、子供同士や子供と材がつながりがあることでより力が発揮されている場面が見られるようになった。はじめは隣に座った子供同士や目の前にある材とつながり、小さな自分の思いや願いが実現されることで子供たちのつながりが広がっていった。

来年度は、子供たちが学習場所を学校の外に求めるような仕掛けづくりをしていきたい。また、教師の都合で子供たちの活動が途切れないようにしたい。そして、子供たちが過去の自分を振り返り成長を自覚化できるよう、周囲からの価値づけを有効的に取り入れていきたい。

単元名 **かま小しぜんマスター～いきものをつながろう～**

本単元に取り組む児童の実態

これまで「かま小しぜんマスター」を合言葉にして教室の目の前の身近な自然に触れ、子供たちは様々な気付きを共有し、季節の移り変わりを感じ楽しんでいる。「虫と仲良くなりたい!」という思いを持ち、休み時間に虫を探しに出掛ける姿がある。だが、つかまえることに夢中になり、小さな虫かごいっぱい虫たちが窮屈そうにしていることに気が付けない姿があった。すぐに別のものをつかまえられる虫は、子供からすれば尊い生きものに思いにくいことも考えられる。虫に対しての興味があっても、虫にとって居心地の良い扱い方について気付くための経験が必要であると感じている。子供たちは遊びと学びの中間期にいる。虫との関わりについて、自身の振り返りや友達の気付きなどをもとに見通しを立て、十分に虫に親しむことができる機会を保障していくことが大切であると考えます。

本単元設定の理由

小さな生きものの目線から、見慣れた低グラや中庭を見て、新たな気付きをしてほしいという思いから、本単元を設定した。子供たちの虫に対する知識や経験には差がある。子供たちは、「虫をつかまえてみたい」「長生きしてほしい」という思いを持っているが、思いを叶える方法を知らないでいる。思いをもって活動を始め、分からないことや困ったことにつまづいたときに、他者に聞いたり、本やインターネットから情報を得て、共有したりできる環境づくりを大切にしていきたい。

虫たちの行動は、生きていくために営まれていることであり、虫との関わりを続けた経験や、友達の気付きなどをもとに「あそこに行けば、バッタやキリギリスが見つかる」「ダンゴムシは〇〇が好きだから虫のおうちに準備してあげたい」などというしっかりとした根拠に基づいた予想や思いをもつことができる姿を期待している。子供たちが考える「虫との仲良し度」をどのように高めていくかを、一人一人の時間の中で活動できる環境を大切に、実際に虫に触れて観察や飼育をしていく中で支援したい。



本単元で願う子供の姿

- ・虫との対話や他者との対話を通して、思いやりをもって相手と関わる姿
- ・活動の中で生じる様々なトラブルを、調べたり、聞いたりするなどして自分たちで解決しようとする姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○虫の特徴、育つ場所、変化に気付いている。 ○虫も自分たちと同じように命があり虫に合った世話の仕方があることに気付いている。	○虫を探したり飼ったりして、感じたことや観察したことなどを聴き合っている。 ○虫の様子と関わりを照らし合わせて関わり方を見直しながら、関わっている。	○低グラや中庭で虫を探し、つかまえた虫の飼い方を調べ大切にしようとしている。 ○虫を飼ってみたい虫と仲良くなりたいなどの思いをもって、虫に関わろうとしている。

本单元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1 . 2	<p>○虫を見つけない、虫をつかまえないという思いを持つ姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かくれんぼしているバッタを見つけたよ! ・動きが速くてつかまえられないな、わなをつくってみようかな ・友達が草の中のバッタを見つけて手でつかまえていたよ!どうしたら自分でもできるかな 	<p>【知識・技能】</p> <p>○虫の特徴、育つ場所、変化に気付いている。</p> <p>(ビデオ、振り返り)</p>	<p>重点①</p> <p>絵本「おしたちのさくせん」を読み聞かせし、子供たちが虫たちの目線から、見慣れた低グラや中庭を見つめ直すことができるような声掛けをする。</p>
3 . 4	<p>○虫に合ったつかまえ方や扱い方があることに気付く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫たちに気付かれないようにそっと近づいてみよう! ・バッタのあしを持つとおとなしくなって観察できたよ! ・とんでいる虫を小さな虫かごに入れると、とばなくなったよ。どうしてかな。 ・教室にトンボが入ってきたとき、窓の近くでバタバタしていたね。外に出たいのかな。 ・とんでいる虫は広いところが好きなのかもしれないね。 	<p>【知識・技能】</p> <p>自分が調べたことからつかまえた虫に合った扱い方があることに気付いている。</p> <p>(ビデオ、振り返り)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>低グラや中庭で虫を探し、つかまえた虫の飼い方を調べ大切にしようとしている。</p> <p>(観察、振り返り)</p>	<p>重点②</p> <p>前時の活動のビデオを通じて自分の動きや友達の動きを客観的に見ることで、新たな気付きや活動の見通しを持つことができるようにする。</p> <p>重点①</p> <p>友達に話を聞く、本やインターネットで調べる機会や新たに知ったことを友達と共有できるようにする。</p>
5 . 6 . 7 . 8	<p>○虫に合わせた餌やすみかを考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室がきれいだと私は過ごしやすけれど、虫はどんな場所が安心できるのかな? ・暑いから喉が渇かないように水を入れてあげたいな。 ・草を入れたら虫が隠れられて安心できるかもしれないな。 ・カマキリに魚肉ソーセージをあげたら食べてくれたよ!嬉しいな! ・ダンゴムシはいろんなものを食べるみたいだよ!すごいね! 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>虫を探したり飼ったりして、感じたことや観察したことなどを聴き合っている。</p> <p>(観察、振り返り)</p>	<p>重点①</p> <p>虫との継続的な関わりが持てるように虫かごを一人一つ用意し、教室に観察コーナーを設定する。</p> <p>重点②</p> <p>虫との仲良し度を記録する活動を通して、虫の視点に近付けるようにすることで、世話をしたり虫について詳しくなったりすることへの喜びを感じられるようにする。</p>
9 . 10	<p>○さらに虫と仲良くなるために、どんな関わりができるかを考え、活動する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫のお世話っておもしろい! ・虫とずっといっしょにいると虫が慣れてくれたよ! ・本当は虫は外で暮らしたいのかな? ・虫かごが狭いと虫が動き回れないね。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>虫の様子と関わりを照らし合わせて関わり方を見直しながら、関わっている。</p> <p>(観察、振り返り)</p>	<p>重点①</p> <p>自分の虫かごを見つめ直すきっかけとなるよう、虫を飼う・飼わないの立場からよりよい関わりを聴き合えるようにする。</p> <p>重点②</p> <p>前時までの振り返りシートをもとに、自分の成長を感じられるようにする。</p>
11 . 12	<p>○虫について関わりを振り返り、今後の関わりを見通しをもつ姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今度は学校の外でも虫を探してみたいな。 ・冬になったら虫たちはどこで過ごすのかな?調べてみよう! 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○虫を飼ってみたい虫と仲良くなりたいたいなどの思いをもって、虫に関わろうとしている。</p> <p>(観察、振り返り)</p>	

本時で目指す子供の姿

- 毎日のお世話を続けると、虫に詳しくなって、虫が安心できるんだね！
- 飼っていない人にも、虫を大切にしたいという思いがあるんだね！

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○虫を飼うことについて自分の考えを示し、理由を聞き合う姿(ペア)

- ・お世話が楽しいから飼ってるよ。
- ・つかまえたときに弱っていたから逃がしたよ。虫を飼うことについて自分の考えを示し、理由を聞き合う姿(ペア)

○虫を飼うことについて自分の考えを示し、理由を聞き合う姿(全体)

- ・虫が長生きできるように関わりたいな。
- ・ずっといっしょにいると虫のことがわかってくるよ！仲良くなれた！
- ・本当はつかまりたくないのかな。もう一度自分の虫と関わりたいな。

○虫の気持ちを想像し、よりよく関わろうとする姿(低グラ・中庭・教室)

- ・いっぱいごはんを食べてくれて嬉しいな。長生きしてね。
- ・外で会ったときは、元気よくジャンプしてたから、この虫かごじゃ狭すぎるね。
- ・楽しく遊んでいる姿を見たいから、虫かごの中に遊べる場所をつくりたいな。

○活動を振り返る姿

- ・毎日お世話をしてるから、仲良し度は10を超えていると思う！
- ・今日飼っている虫とお別れをしたけど、これからも元気でいてほしいな。
- ・虫かごの中に遊び場をつくったら、前よりも元気になったよ！

重点①

自分の虫かごを見つめ直すきっかけとなるよう、虫を飼う・飼わないの立場からよりよい関わりを聞き合えるようにする。

■飼っている虫の現状から、どうしていくかについて、話すう姿(全体)時間を設定し子供の考えを板書して整理する。

■名前のマグネットを使って、子供の立場が分かるようにする。

重点②

子供の発言をきっかけにして、それぞれの場所で虫の気持ちに寄り添う時間を設ける。(活動、ワークシート)

■子供が目の中の虫の気持ちを想像し、記入できるようにする。(ワークシート)

評価

【思考・判断・表現】

虫の様子と関わりを照らし合わせて関わり方を見直しながら、関わっている。(観察、振り返り)

支援を要する子供に対する手立て

虫に対しての自分の関わりの変化を感じる事が難しい子供に対して、教師の見取りから変化を価値付けたり、友達の変化を全体共有の場で伝えたりする。

本時の子供の姿

これまでに自分の仲良くなりたい虫の住む場所や食べ物、特徴について体験的に理解を深めてきた。子供たちは生き物の命を預かるという意識を持って世話をしている。一方で、狭い虫かごの中に虫を閉じ込めておくことで、虫が弱っていく姿を目の当たりにし、飼わないことが虫と仲良くいることができるという考えを持ち始めた子供の姿がある。本時では、子供が虫を飼うことについて自分の考えをネームプレートを使って示し、目の前の虫と「もっと虫と仲良くなりたい!」という思いを虫の立場になって考え、よりよいかかわり方を選択する姿が見られた。虫を飼うか飼わないかの理由を聴き合う活動に比べて、実際に虫を目の前にしたときの活動の方が、子供たちから様々なつぶやきが生まれていた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

個と集団の意識

本時では、考えの全体共有で学びが深まらなかったことから、虫に対する子供一人一人の思いは多様であり、実に真っ直ぐであることを学んだ。低学年の発達段階では、他者の考えを聴くよりも体験を通して自分の考えが変容していく子供の姿が見られた。子供たちは新たな気づきや、感動、困り事など、話したいと思ったときに自然に他者とつながる。本時の聴き合いの時間が子供たちにとって「話したい」「聴きたい」となるためには、1時間の活動の中に虫と関わる時間を十分に設けた方がよかったと感じた。

題材について

本時の中で、虫の死に触れて自分の考えを表現する子供の姿があったが、虫に対する知識や経験に差があるため、虫を飼うことを通して、35人全員が命について考えることは難しいと判断し、子供の発言を上手く全体に共有することができなかった。一人一つの虫かごを持ち、継続的なかわりが充実した体験となると、命について考える道徳的な授業の展開となったかもしれない。虫かごを目の前にして今の虫の思いを想像する活動では、「外に出たい」「いつもごはんをくれてありがとう」など虫との距離が近付き、自分の虫かごを見つめ直すきっかけとなった。

新たな授業デザイン

本時では、今後虫を飼うか飼わないかという二項対立の授業デザインとしたが、本校が目指す共生と自己実現の視点から、「1年2組の虫かごをつくろう!」という授業デザインとしたら、子供たちはそれぞれの立場で必然性を持って語りはじめたかもしれない。

単元全体を振り返って

単元の初め、ほとんどの子供が虫を捕まえることだけが虫と仲良くなる方法と捉えていたため、想定よりも虫を捕まえる活動が長くなった。自分の捕まえた虫を探し、自分の虫かごに入れるまでに子供たちは虫の住処や食べ物、扱い方について遊ぶように学んでいった。虫を見つけれない、上手く捕まえられないなどの困り事があると、自然と他者との関わりが生まれていく姿が見られた。そして繰り返し関わることで虫の小さな変化に気が付いたり、世話をすることの喜びを感じていたりする姿が見られるようになった。一方で、虫に触ることに抵抗がある子供や虫への関心が持続しない子供の姿も見られたため、一人一つの虫かごを持つという決まりをつくらずに、子供たちそれぞれの方法で虫と仲良くなるための活動を設定した。ちょうは虫かごに入れると弱ってしまうという経験から、虫を飼わない方が仲良くなれるという考え、おいかけっこをして虫との仲を深める姿が見られた。一見、飼育をすることへの責任を持っていないようにも思えるが、飼わないことを選択した子供にも学びがあり、子供なりに虫との適度な距離感に気付いたのだと分かった。今後も子供の思いや願いを大切に授業を展開していく中で、教師の適切な出場を見極めていきたい。

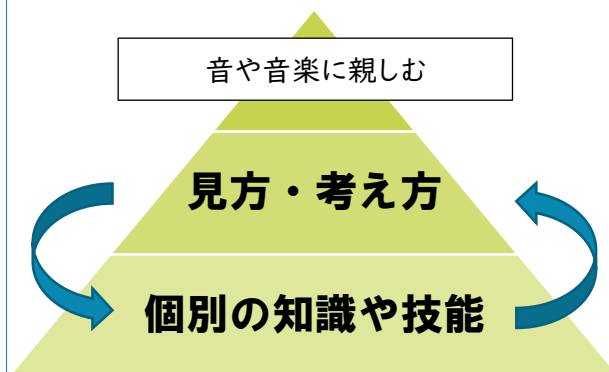
教科部で大切にしていること

音や音楽に親しむ

子供たちが将来より豊かな生活を育むためには、音や音楽を場面に応じて使ったり聞いたりするだけでなく、音や音楽に触れることで感性を働かせる必要がある。それを養う場の一つとして教科としての「音楽」があると、音楽科では考えている。故に子供たち自身が音や音楽に親しむ環境を整えることを、本校音楽科で大切にしている。

子供たちは教科の内外で多様な音や音楽に触れ、時に表現している。音楽科は教科の中で、子供たちがそれぞれの音や音楽の魅力や構造を再発見できるような機会を設けていきたい。

子供たちが豊かな生活を送るために音楽を選択肢に入れたり、様々な物事に対して豊かに感性を働かせられたりするよう、教科部として環境構成を行っていききたい。



願う子供の姿

音楽科では子供たちが音や音楽に親しみ活動を行っていった際に願う子供の姿として、以下の4つの姿を考えている。

- 身近な音や音楽、また楽器等に興味を持つ姿
- 感性を働かせ、思いや意図を持って表現しようとする姿
- 音や音楽を思いや意図を持って表現することでの達成感・成就感を得る姿
- 音や音楽を、日常を彩ったり感情を表現したりする選択肢の1つとして用いることができる姿

これらの姿を発達段階に応じた形で実現することで、子供たちにとってより親しみのある音や音楽が生まれる。その音や音楽が彼らのより豊かな生活の一部になっていくはずである。

小中の取り組み

子供たちの「やってみたい」を大切にした授業作り

学校	中学校
<p>小学校では身近な音や音楽を材に、魅力や構造に気づく学習活動をデザインしている。</p> <p>例えば低学年では、生活のなかで見つけた音や音楽を聴いたり録音したりする活動を行っている。高学年では学級の曲作りでは、流行曲、BGMをよく参考にして歌詞やメロディを作っている。それぞれの活動に共通しているのは、何気なく聞き流している日常の音や音楽が認知的な音楽になることだ。そうすることで音の魅力、音楽の持つ意味や構造に子供たちが迫るきっかけになるはずだ。</p> <p>「しとしと雨の音を表現するので、小さく木琴をたたく」「楽しさを歌詞に込めた。歌う際は大きくしよう」などの思考が、音や音楽が身近になるためには必要である。</p>	<p>中学校では、生徒の「やってみたい」という材を選択して取り組めるような学習活動をデザインしている。</p> <p>例えばアルトリコーダーの課題では、生徒から曲のアンケートを取って課題として扱ったり、小学校の鑑賞で聴いた曲を課題にしたりして、生徒が興味を持って楽曲に取り組めるようにした。また、学習方法も生徒が取り組みたい（音符だけが書いている楽譜、階名が書いてある楽譜、運指表を指している動画、運指表がみられる動画）などを用いて、自分で何をつかうとよいか考えて取り組めるようにした。</p> <p>小学校で培った思考を生かして、様々な思いや楽曲の意図を読み取ることを大切にしながらも、「こんな風に歌いたい。そのために、こんなことをやったらどうだろうか」など、体を使って表現できるように即席のミュージカルを考え、自己のイメージを聞き手に伝えられようとしている。</p>

取り組みに対する振り返り

成 果

【身近な材を扱う】

身近な音や音楽を材としたことで、音楽だけの学習にとどまらず、生活とのつながりを得ながら取り組むことができた。例えば小学校では身近な素材や効果音を中心にしたり、中学校では生徒のアンケートを基にして選んだ流行曲を材に用いたりした。

【音に集中する環境作り】

音や音楽へ子供たち一人ひとりが集中するために、広い場所や場所を隔てた環境づくりを行った。その結果、音や音楽の魅力に迫るきっかけになったり、練習や音作りの際に行う人数を選べたりしていた。また、練習場所やツールを子供たちが自己選択できる状態を作ることによって、一人ひとりの「やりたい」を引き出す結果となった。



【“やってみよう”を大切にすることで見えた子供の姿】

やってみようを大切にすることで、音楽への興味関心が増し、新しい歌や音楽記号に対して自発的に学ぶ子供の姿が見られるようになった。また、経験値の差に関わらずに子供たち同士が音楽を通じた関わりをもつようになっていった。

子供たちの中には既習を生かした歌唱方法を試すなど、新たな取り組みに挑戦している姿も見られた。

課 題

【常時活動との隔たり】

一つひとつの授業で習得のすべを見出したとしても、常時活動に取り入れるなどして反復を行わなければ、別の題材に移った際、学びの結びつきが弱く、生かしきれない子供の姿が見られた。

【身近なものや音楽的な学びとのズレ】

子供たちの身近に迫るあまり、楽曲の構造や楽器の特性という音楽そのものの魅力に触れる、という点において検討が必要である。子供たちの身近なものから引き出すことと並行して多様な音や音楽に触れられるような授業設定が必要だと考えている。

【みんなで音楽に“親しむ”ということ】

一人ひとりの音楽活動への時間は丁寧に行った反面、複数人で合唱をしたり音楽を聴いたりすることでの楽しさや面白さの追求の必要性をより感じる結果となった。互いの音を合わせる面白さを味わったり、その感覚を友達と共感したりすることで、より音楽へ親しむことができると考えている。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

【一人の時間確保】

どの学習においても子供たちが一人ひとりのペースで練習に取り組んだり、楽曲の作成をしたりする時間は大変意味のある活動だったといえた。故に、次年度以降も練習や、音楽づくりの場面において、また鑑賞等においても一人ひとりがそれぞれのペースで学習に取り組める環境づくりは継続して行う必要がある。

【みんなで行う大切さ】

しかし、子供たちが習得した個別の知識や技能を生かす場は限られていた。個別に活動するだけではなく、仲間と音や音楽を合わせることで得られる経験や感覚を大切にしていく必要がある。現に、小学5年生の合唱の学習で「夢の世界を」を二声のハーモニーで歌えた瞬間に「楽しい」の声が漏れていた。音楽部として来年度、この声をいかに生み出すかだろう。

【本校音楽科における“共生”の考え方】

今年度は、一人ひとりが可能な限り自分の時間、自分のペースで学習に取り組めるように環境づくりを行った。つまり、“互いの時間を尊重する共生”である。

来年度にはその環境は維持しつつも、全体やグループで仲間と一緒に音楽に触れる経験が多くできるような時間設定をし、“みんなで音楽を作る共生”を目指した授業展開をしていくべきだと考えている。

題材名 動画を彩る音や音楽を作ろう

本題材に取り組む子供の実態

子供たちの日常にはありとあらゆる場面で音楽や音が効果的に使われている。しかし、子供たちの多くは、それに対して能動的に聞こうとすることはなく、当たり前のように聞き流している。一方でその存在自体を全く知らないというわけでもない。BGM や効果音はその代表例で、「何か聞こえますか」と問うと、走る音がある、後ろに音楽が流れている、と回答する子供がほとんどである。(これは BGM や効果音の本質的な目的に合っているのが当然である。)

本題材はその効果音や BGM などの音や音楽に着目する題材である。この普段は意識をしていない音や音楽がいったいどのような役割を担い、聞く人にとってどういった効果をもたらしているのか、ほとんどの子供たちはこの題材を通して、初めて考えることになるだろう。

本題材設定の理由

本題材設定の大きな理由は、音や音楽のもたらす効果を楽しみながら考えることである。

先に子供の実態で述べた通り、子供たちは日常の中で効果音や BGM といったものに必ず触れている。しかし、その特性から子供たちはそれらを意識して聞くことは少ない。本題材ではその普段非認知の音楽にスポットを当てることで、それらが持つ力や意味を子供たちが考えるきっかけにしたい。また自分の力で効果音や BGM を作成することで、課題とする動画を見る人にどう伝わるかを楽しみながら試行錯誤できると考えている。

なお、本題材では大きく分けて2次で構成する。第1次(1~3時)では効果音について、第2次(4~6時)では BGM について扱う。分野を分けることで焦点が絞られ、より深い学びになると考えている。

使用する材、機材等について

【使用動画】 インターネット上の商用フリー動画を使用。

NHK クリエイティブ・ライブラリー(<https://www.nhk.or.jp/archives/creative/>)

⇒「草食恐竜トリケラトプスを追いかけるティラノサウルスの子ども」

pixabay (<https://pixabay.com/ja/videos/>)

⇒「hiking」(動画タイトル不明、ファイル名)

videoAC (<https://video-ac.com/>)

⇒「トランプをする人の手元(等倍)」

【録音】 マイク等を一室に準備。レコーディング部屋として活用。また、個別に使える USB マイクも用意。

【作曲】 カトカートン(教育芸術社)を必要に応じて使用。使用したい子供は自由に使える環境になっている。

【媒体】 Chromebook。それに準じて Google Drive 等でのファイル共有。

【動画資料】 ・プレステのスタジオで働く、ゲーム効果音職人の仕事(<https://youtu.be/ZKM8CyrOP4g>)

・マリオカート8DX プレイ動画(教師作成)

本題材で願う子供の姿

効果音や BGM に着目し、それが持つ力や意味を理解する姿

表現方法を工夫し、自分たちの思いが受け手に伝わるよう試行錯誤しながら音や音楽を作り出す姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○いろいろな音の響きやそれらを組み合わせた際に生み出されるよさや面白さといった特徴を理解している。</p> <p>○発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、場面に合うように音を選択したり音楽の仕組みを用いて音楽を作ったりして表現している。</p>	<p>○音や音楽を構成する際、音色や旋律などを聞き取り、聞き手に伝わるためにはどうすればいいのか、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想もっている。</p>	<p>○効果音やBGMを作る際、どのような音がいいのか、どうすれば伝わるものになるかを試行錯誤しながら取り組んでいる。</p>

本題材における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
第1次	1 ○動画にはどのような効果音があるとよいか考える姿 (恐竜のCG動画を課題として利用) ・鳴き声は絶対あったほうがいいね ・足音は草の感じを出せるといいね ・3匹いるから、3人でやったほうがよさそうだ。 ・風や葉の音があるとより森の感じが出るかも。	【思考・判断・表現】 音や音楽を構成する際、音色や旋律などを聞き取り、聞き手に伝わるためにはどうすればいいのか、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想をもっている。 (発言、振り返り用紙)	重点① 材を身近なものに絞ること、動画教材を用いて実際の現場の様子を知る機会を得られるようにする。
	2 ○動画に合う効果音を試行錯誤しながら作り、動画に合わせて録音する姿 ・足音は自分たちで地面を踏みしめる音を録音して使おう。	【知識・技能】 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、場面に合うように音を選択したり音楽の仕組みを用いて音楽を作ったりして表現している。 (発言、振り返り用紙、作品)	重点② 試行錯誤できる環境と時間の確保を行う。また、多様なパターンでの収録環境を整えること、友達の作品を自由に閲覧できるようにすることで、自分たちの思いや意図を具現化できるようにする。
	3 ・鳴き声は叫び声を使おう。		
	4 ・ドアがきしむ音も鳴き声みたいに聞こえるね。 ・風の音を出すために、紙をこすってみよう。 ・友達の作品も聞いて参考にしてみよう。 ・今度はもうちょっと音の大きさを変えてみよう。		
第2次	5 ○BGMが動画においてどのような効果を発揮しているのかについて、理解する姿 (トランプ遊びの動画を例として利用) ・BGMによって動画の内容が違って見えるね。 ・音符がたくさんあると楽しそうに聞こえるね。 ・低い音が多いと緊張感が出ているね。	【知識・技能】 いろいろな音の響きやそれらを組み合わせる際に生み出されるよさや面白さといった特徴を理解している。 (発言、振り返り用紙)	重点① ・BGMに着目させるため、様々なパターンを用意し、遊び感覚で聞けるようにする。また、BGMで印象が大きく変わる動画素材を用いる。
	6 ○動画に合う音楽はどのようなものか考える姿 (ハイキングの動画を課題として利用) ・行くぞっていうわくわくした感じを出したいから、明るい音を使ってみよう。 ・一人で寂しそうだから、少ない音数で静かにならすのはどうだろう。	【思考・判断・表現】 音や音楽を構成する際、音色や旋律などを聞き取り、聞き手に伝わるためにはどうすればいいのか、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想もっている。(発言、振り返り用紙)	重点①② ・楽譜に頼らずカトカトーン ^{注1} などを利用し直感的に音を並べたり、友達同士で一緒に行ったりできるようにする。 ・カトカトーンのサンプル ^{注2} を用意しておく。
	7 ○動画に合うBGMを考え、試行錯誤しながら作る姿。 ・カトカトーンで鳴らしてみよう。 ・明るい雰囲気を出すためには、音はたくさんあったほうがいいのかな。 ・音をいくつか重ねるときれいな時もあるな。うまく使えないかな。 8 ・ドラムの音を入れると、力強い感じになった。 ・友達の作品も見てみたいな。 ・どうやったか教えて。 ・打楽器だけで何とかできないかな。 ・あえて無音の部分を作ったら怖い感じが出そうだね。 ・別のパターンも作ってみようかな。	【主体的に学習に取り組む態度】 BGMを作る際、どのような音がいいのか、どうすれば伝わるものになるかを試行錯誤しながら取り組んでいる。 (発言、振り返り用紙、作品)	

注1…(株)教育芸術社によるブラウザ版DTMソフト。

注2…第5時でトランプ遊びのBGMとして作成したもののデータ。
おしゃべり、ほのぼの、重たい、悲しい、の4種類を用意。

本時で目指す子供の姿

動画に合う BGM を考え、試行錯誤しながら作る姿
 ○勇気がわく動画にしたいから、大きい音の出る楽器を使おう。
 ○鳴らしてみたら音が合わない感じがするね。音の高さを変えてみよう。

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

○BGM の効果を再確認する姿

- ・BGM 次第で、動画が明るくなったり暗くなったりしたね。
- ・明るい BGM は、音がたくさんあったり、音が重なったときに明るく聞こえるようになっていたりしたね。
- ・ピアノの音だけだと、寂しい感じが出ていたね。
- ・打楽器がたくさんあると、緊張感があったり、怖い感じも出ていたりしたよ。

○どのような動画にしたいのかを確認する姿

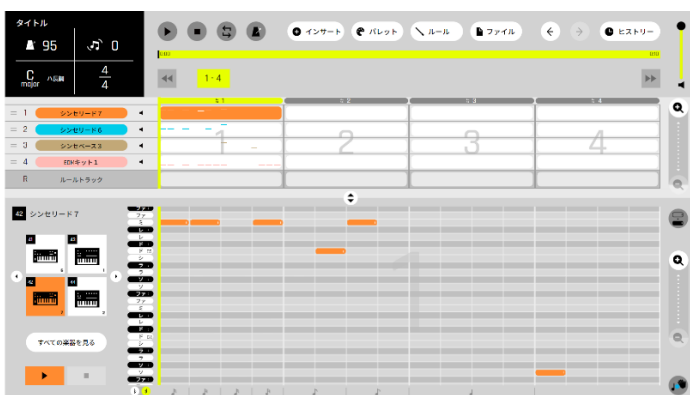
- ・一人で旅立っていく、寂しい感じにしたいな。
- ・今から頑張るぞ、っていう力強い感じを出したいな。
- ・明るい未来に向かって歩く、わくわくした感じにしたい。

○様々な媒体を使い、目指す動画の BGM 作りを行う姿

- ・カトカトーンを使って作ってみよう。
- ・何人かで打楽器を使って鳴らしながら考えてみよう。
- ・とりあえず適当に打ち込んでみようかな。
- ・ちょっと曲っぽくなったから聞いてみよう。
- ・思った雰囲気が出ないな。
- ・楽器を変えてやってみよう。
- ・同時鳴らす音の数を試してみたら雰囲気も変わるかな。
- ・どうやったら和音がきれいになるのかな。
- ・サンプルのファイルをいじって作ってみようかな。
- ・動画と合わせて流してみよう。
- ・一旦録音をして考えてみよう。
- ・友達に見てもらって、感想をもらおうかな。

■子供の見取りプラン

※カトカトーンの画面



■BGM を作る際、各々の使いやすい媒体で作曲をし、どうすれば自分の思う BGM になり、聞き手にそれが伝わるのかを試行錯誤する。

- ・抽象的なイメージを具体的な音楽へ落とす際、前時まで扱った「どう聞こえるか、それはなぜか」といった、音楽を構成する要素について気付けるようにしたい。
- ・子供の自由な発想が楽器の演奏や記譜、読譜といった技能面で阻害されないよう、カトカトーンを使ったり、楽器をいつでもならせる状態を作ったりする。
- ・手が止まる、もしくは思考がまとまらない子供に対しては、まずは適当に音を並べてみることで、自分の目当てとする動画のイメージに立ち返ること、友達と話をしてみることに重きを置き、あくまで子供の中から生み出されるものを大切にしたい。

重点①②

- ・楽譜に頼らずカトカトーンなどを利用し直感的に音を並べたり、友達同士で一緒に行ったりできるようにする。
- ・自由な発想ができるよう、楽器は常にならせる状態にしておく。

評価

【主体的に学習に取り組む態度】

BGMを作る際、どのような音がいいのか、どうすれば伝わるものになるかを試行錯誤しながら取り組んでいる。
 (発言、振り返り用紙、作品)

支援を要する子供に対する手立て

- ・サンプルを用意し、それを使用できる環境を作る。
- ・手が止まる、思いはあってもどうすればいいのかわからない、といった子供が支援の対象として考えられる。サンプルデータをいじって作曲することも立派な作曲とすることで、心理的なハードルを下げる。
- ・サンプルデータは第5時にトランプ遊びの BGM として用意したものである。「おしゃれ」「ほのぼの」「重たい」「悲しい」の4つを用意しているので、自分の思いに近いものを選べるようにする。

本時の子供の姿

授業時間の多くを試行錯誤する時間に割り当てた結果、多様な形での創作する姿が見られた。一人で黙々と取り組む子供、友達と聞き合う子供、数人で協力する子供もいた。創作環境として様々な楽器を鳴らせるようにもしたが、ほとんどの子供がカトカトーンを利用して取り組むことを選んでいった。即興的に音を並べたりおもしろいと感じた音を鳴らして遊んだりしながら、徐々に音楽を作る姿が印象的だった。二人で聴き合いながら作っていた子供は、「この音と重ねたら綺麗に響くのはどれかな。」と、和音を生み出そうとしていた。またあるグループでは動画を流しながら音を出し、「全然思った感じと違うね。」と笑い合う姿が見られた。

当初想定していたよりも手が止まる子供は少なく、前時に聞いた音楽のイメージや、そのデータを元に創作を進めることができていた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

【創作環境について】

今回はカトカトーンや楽器といった「音素材」と音楽室周辺を自由に使用することができるという「場」の2つの観点で創作環境を整えた。その工夫が子供の「やりたい!」を絶え間なく引き出し、また音楽作りという課題を解決するすべとなっていると考えている。授業や学校によってできることは違うが、可能な限り静かな、自分の音と向き合える場の設定は子供の創作意欲や思考を深めるにあたって重要であると改めて認識した。

【グループにするか否か】

研究協議の中で、グループの人数を指定すべきではないか、との指摘があった。今回、一人で創作に取り組む子供よりも近くの友達と話したり聞き合ったりしながら取り組む子供が多く見られた。複数人で1つの作品を仕上げる子供もいた。確かに条件としては揃っていないので上限はあってもよかったと考えられる。しかし、こちらから人数を指定したり、逆に一人で行くことを強要したりすることは子供達の創作の可能性を狭める結果になるだろう。今回どの子供もこちらがデザインした「動画に合う BGM を試行錯誤しながら作る」ことができていたからだ。音楽作りは即興的に音を並べることさえできれば、また、出てきた音や音楽に対して（今回でいえば）自分のイメージする動画の BGM になり得ているかを考えることが重要である。授業で目指す子供の姿によっては創作する人数の指定は必要だが、今回は必要なく、上限の設定のみあればよかったと考えている。

【カトカトーンをはじめとするツール】

協議会の多くを占めたのはカトカトーンの使用についてだった。私としては子供達がスライドを作る感覚で気軽に扱えるツールとしての立ち位置を狙った。子供達のシンキングツールの音楽版として、本題材に取り組む子供たちにマッチしていたと考える。

題材全体を振り返って

本題材では「BGM や効果音の意義」に着目し授業を展開した。何気なく聞いている音楽や音へ意識を向けることは達成しているように思える。一方で自ら創作する際は子供たちの技能の差を感じざるを得なかった。今回はそれを埋めるためにテンプレートを用意したり、複数人で行うという支援体制を取ったりしたが、それでも「音楽が苦手」という子供からすると負担感はあったように感じた。本時で目指す姿に迫るためには、音楽を構成する要素についての知識を子供たちが習得し、活用できることが必要だと感じた。音楽教室のように楽典的な知識をすらすら言えるようにするわけではなく、音符が上昇すれば音程は上がる、隣同士の音を同時に鳴らすと濁って聞こえる、という感覚的な面が、子供達の創作にとってより大きな推進力になると改めて感じた。

一方で、無音の動画を題材に学習を進めたことは現代を生きる子供達にとっては自然なコンテンツであり、有効だったと考えている。また、カトカトーンによって、音を言語化せずに会話することが可能になったと考えている。

題材名 2年2組「音色」ちょうさいい～どんな音がするかな？～

本題材に取り組む児童の実態

4月の授業開きでは、身の回りの音を探す活動を行った。教室の中から教室の外に範囲を広げ、最後には鶴岡八幡宮にも音を探しに行った。ほとんどの子どもたちが自然発生の音というより自ら音を発生させ、音色の違いを楽しんでいた。例えば、水道から少しずつ出る水の「チョポチョポ」という音、傘を勢いよく開閉する「バサバサ」という音、砂利道を歩く際の「ジャリジャリ」という音。一人ひとりのお気に入りを見つけられたのか、友だちに紹介する姿も見られた。この活動は、そのあとの学校生活や家庭生活のなかでも続いていた。お弁当の日では、タケノコ掘りに出かけたが、竹を叩いたときの「ポンポン」という柔らかい音に良さを感じる児童がいたり、お母さんが揚げ物を料理しているときの「パチパチ」という音を紹介したりする児童もいた。これらの児童の様子から、身の回りの様々な音を見つける活動は、本学級の子どもの「やってみよう」という思いを掻き立てる活動だと考えた。しかし、「やってみよう」→「楽しい」という表面的な活動になってしまったことに課題も感じている。この課題はほかの領域の学習でも感じた。6月に「演奏するときに大切にしていることはなにか」とアンケートをとって見たところ「姿勢を正しくする」「大きな声を出す」「指使いを間違いない」など、技術面の内容を答える子がほとんど、5人は「分からない」と答えていた。音楽科の強みは、音楽を通して感受と知覚を往還しながら感性や知性を養えることだと思う。この感受と知覚の往還がなされず、乖離していることへの課題を感じている。感受したことから自分の思いをもち、表現できる「音や音楽に親しむ子」を育成したい。

本単元設定の理由

本単元は、「身の回りの物を使って手作り楽器を作り、鎌小ライブでお客さんに紹介したり、演奏する姿を見てもらったりする」ことをゴールとしている。「音探しの学習を生かすことができる」「このクラスは手を動かすことが好きな子が多いからぴったり」という子どもたちの声から設定された。身の回りにある物を使って楽器を工夫して作るという内容は生活科、お客さんに紹介する内容は国語科と合科していて、教科横断的な単元となっている。また、1月のお弁当の日では「民音音楽博物館」に行き、鎌小ライブで実施するワークショップの参考にしたいと子どもたちは考えた。楽器を作り、紹介したり演奏したりするためには、まず身の回りの物からどのような音が出るのか調べる必要があり、その音から受けたイメージで「こういう楽器を作っていこう」という思いが生まれると考える。この音調べの部分は「A表現-音楽づくり」の内容で、身の回りの様々な音の高さや音色などの特徴に気づくことをねらっている。また、「お客さんにオリジナル楽器を紹介する」という目的意識が明確化されているので、ただ本やインターネットにある作り方通りに作って完成ではなく、一人ひとりが「音にこだわる」姿にも期待したい。

本題材で願う子供の姿

- ・身の回りの様々な音の特徴に気付く姿
- ・自分の思いをもって音と関わりをもつ姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知・技】身の回りの様々な音の特徴に気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な音楽づくりの技能を身に付けている。	【思】どの音を使ってどのように楽器にしていけるか、自分の思いをもって工夫しながら作っている。(生活科×音楽科)	【態】身の回りの物の音を調べる活動を楽しみながら主体的・協働的に音に関わろうとしている。

本題材における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○交響曲『木星』と身の回りの物を使った『木星』を比較し、音色が変わると受けるイメージも変わること気付く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラの方は壮大な感じだけど、身の回りの楽器を使うと可愛らしい感じがする ・ガラスを鉄琴みたいにしていて面白い ・どんな身の回りの物でも楽器になるんだ ・自分でも試してみたい 	<p>【知】使用している楽器(物)を比較することを通して、身の回りの様々な音の特徴に気付いている。(－観察)</p>	<p>重点①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作楽器グループ Kajii さんの演奏動画を教材として使用し、オーケストラバージョンの曲の感じと身の回りの物バージョンの曲の感じとを比較する
2	<p>○クラスで決めた身の回りの物を自由に鳴らすことで、様々な音の特徴に気付く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じペットボトルでも形や大きさが違うと音色も変わるね ・水を入れると音の高さが変わるね ・鳴らし方を変えると音色も変わるね ・ほかの物も音調べしたいな 	<p>【態】身の回りの物の音を調べる活動を楽しみながら主体的・協働的に音に関わろうとしている。(－観察)</p> <p>【知】身の回りの様々な音の特徴に気付いている。(－観察・ジャムボード)</p>	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが制限なく身の回りの物を鳴らすことができる環境を整える <p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンキングツールを使って音の特徴を整理する
3	<p>○自分で決めた身の回りの物を自由に鳴らすことで、様々な音の特徴に気付く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家にあった物からこんな音が出るなんて知らなかったな ・この音を使って楽器をつくりたいな 	<p>【態】身の回りの物の音を調べる活動を楽しみながら主体的・協働的に音に関わろうとしている。(－観察)</p> <p>【知】身の回りの様々な音の特徴に気付いている。(－観察・ジャムボード)</p>	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が気になった身の回りの物を自由に鳴らせる環境を整える <p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンキングツールを使って音の特徴を整理する
生活科×音楽科	<p>○自分の思いをもって工夫しながら楽器を作る姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルの中に水を入れたら音の高さが変わったから、それを使って楽器ができないかな ・竹の長さを変えたらもっと音が変わらないかな ・可愛い音が出る楽器を作りたいから、食器を使おうかな 	<p>【知・技】身の回りの様々な音の特徴に気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な音楽づくりの技能を身に付けている。(－観察・スライド)</p> <p>【思】どの音を使ってどのように楽器にしていくか、自分の思いをもって工夫しながらつくっている。(生活科×音楽科)(－観察・スライド)</p>	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音を調べながら楽器が作れるように、様々な材料を自由にとれる環境を整える <p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の楽器を参考にできるように、奏法の違う楽器を置いておく

本時で目指す子供の姿

- ・身の回りの様々な音の特徴に気付く姿「物によって音の高さや音色が全然違うね」
- ・自分たちで音を調べる活動を楽しみながら主体的・協働的に音に関わる姿「この音が好きだな」「どんな音がした？」

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○帯活動の音楽遊びを通して、心も体もほぐす姿

○本時にやりたいことを確認する姿

- ・今日はいろいろな物から音を調べたいな
- ・自分の楽器に何を使うのか考えたいな
- ・ペットボトルの音が面白そうだからペットボトルを触ってみたいな

○身の回りの物から様々な音を調べる姿

○身の回りの様々な音の特徴に気付く姿

- ・竹は普段触れないから触ってみたい
- ・物によって音色が全然違うね
- ・私は可愛らしい音が好きだからペットボトルのポコポコした音が好きだな
- ・鳴らし方を変えると音も変わるね
- ・どんな音があった？

○今日の目標を達成できたかふりかえる姿

- ・自分の作る楽器に使いそうな物を選べた
- ・自分の家から持ってきたい

重点①

- ・一人ひとりが制限なく身の回りの物を鳴らすことができる環境を整える

重点②

- ・シンキングツールを使って音の特徴を整理する

■身の回りの物から様々な音を調べるときに、音楽的要素と関わらせながら特徴に気付く姿を見取る

- ・ただ「面白い」「好きだ」だけでなく、音の高さだったり音色だったり、音楽的要素に根拠をもって感じたことを明確化できることを期待する
- ・様々な物の共通点や相違点に気付くことができることを期待する

評価

【知】身の回りの様々な音の特徴に気付いている（-観察・ジャムボード）

【態】身の回りの物の音を調べる活動を楽しみながら主体的・協働的に音に関わろうとしている。（-観察）

支援を要する子供に対する手立て

- 一人で調べるのか、友だちと一緒に調べるのか、学習形態を選べるようにする
- シンキングツールを活用することで、音の特徴を視覚的に整理できるようにする



本時の子供の姿

本時の子供の姿として大きく3つの姿を見ることができた。1つ目は、「楽しみながら音遊びをする姿」だ。授業が始まる前から準備された物に触れる子が多く、活動が始まってからも無我夢中に音を鳴らす姿が見られた。様々な種類の缶を並べ、ドラムのように叩く子、ペットボトルにビー玉を入れ振る子、など自由に音を鳴らすことのできる環境の中で子供たちは遊び感覚で楽しんでいた。2つ目は、「比較しながら音色の違いを味わう姿」だ。比較対象は、扱った素材の違いだったり、同じペットボトルでも中身の違いだったり様々で、「こっちの方が高い音がするよ。」「こっちの方は響く感じがするよ。」など、比較して分かったことを友達や先生に一生懸命に伝える姿も見られた。3つ目は、「理科的に音の違いを捉える姿」だ。同じ竹でも太さや長さが違うと音色も違うことに気付き、さらにどうして音の違いがあるのかを考え、「細い方がたくさん振動するから高いんじゃない。」など自分のもっている知識と結び付けて考える子もいた。これらの姿は一人ひとりに焦点を当てた場合だが、クラス全体として言えるのは、今回の活動に没頭する姿、そして身の回りの物だけでなく友達とも対話する姿が見られたということだ。これらのことから、本時で目指す子供の姿として挙げていた「身の回りの様々な音の特徴に気付く姿」や「自分たちで音を調べる活動を楽しみながら主体的・協働的に音に関わる姿」が達成できたと考える。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

本授業に対する協議の話題の中心になったのは、「感受」と「知覚」の往還がどのように成されるのかということだ。小学校学習指導要領(平成29年告示)解説-音楽の[共通事項]に出てくる「感じ取ること」が「感受」、「聴き取ること」が「知覚」と意味づけされている。本学級の課題は、例えば歌唱活動で、楽しいとは感じるが、その楽しさはリズムや音色などの音楽的要素が関わるからということに気付かず、「感受」と「知覚」の往還が成されずに完結してしまうことだと感じた。それでは、本単元で「感受」と「知覚」が往還している姿とはどのような姿なのか。協議のなかでも質問があったが、「こういう楽器を作りたいからこういう材料を使おう。」「こういう音を出したいからこういう叩き方をしよう。」など、自分の思いをもって楽器を作り、演奏する姿だと改めて確認できた。この姿に向かうために「音調べ」をする必要があると考え、本時を設定した。一人ひとりが手にとって実際に音を鳴らすことのできる環境づくりは、子供たちの「やりたい!」を引き出すものとして有効だと感じた。今回の調べる対象物も子供たちから「調べてみたい。」と声があがったもので、このことも「やりたい!」という気持ちを高めていた。しかし、プレイルームという狭い空間だと音量の制限があるので、「音」に注目する活動にするならば、思い切って外に出るなど、改善の余地があると感じた。音の特徴に気付く手立てとして、今回シンキングツールを活用した。紙媒体のものも用意し、自由に選んで活用するようにしたが、自分の見つけた特徴を可視化し、それをもとに友達と共有する姿が見られたので1つの手段として有効だと感じた。しかし、シンキングツールを活用する子は一部で、多くは口頭で音の特徴を伝えていた。シンキングツールは整理できたり可視化できたりとメリットもあるが、それ以上の気付きは実物を聴かせながら伝える方が自然な流れだと感じた。ほとんどの子が「ねえ、聴いて!」「こんな音がするよ!」と実物を聴かせてくれたのだが、本時で目指す子供の姿にもあるように、どうしてその音を聴かせたいのか、その思いに音の特徴があると考えたので、「どんな音がするの?」と問い返すことで言語化できるようにした。知覚したことを言語化することで、もう一歩深まりが生まれると感じた。しかし、まだ音楽的な語彙も少ないため、今回の活動だけでなく、毎時間の積み重ねが必要だと感じた。

単元全体を振り返って

本単元は、音楽科だけに留まらず、校外学習、生活科、国語科とも合科していて、より学んだことを活用する場面が多く、子供たちの主体性や協働性を感じることができた。楽しい音がする楽器を作り、鎌小ライブで紹介し、お客さんを感動させたいという明確な目的があるからこそ、自分の楽器に対するこだわりも強かったと考えられる。ある子は、自分から考えを伝えることが苦手な子が、本単元では自分の作る楽器に自信をもち、自ら友達に紹介し、課題に向き合えないことが多い子が、本単元では夢中になって様々な音の出る仕組みを考え、表現したりしていた。「感受」と「知覚」の往還を課題に本単元を設定したが、子供たちがのびのびと楽しみながら身の回りの物に触る姿を見て、まずは実際に手にとって思いっきり体験して、自分の中で感じる必要があると、それから発達とともに語彙も増えていき言語化することができると感じた。この体験を大切にすることは、他の領域にも通じると考える。

題材名 合唱をミュージカルで表現してみよう

本題材に取り組む子供の実態

音楽を楽しみたい・演奏したいと意欲のある生徒が多い。音楽記号の意味を曲中の意味から意識して演奏表現を考えている生徒は増えている。そのため、少しずつ「〇〇という記号から□□のような雰囲気があるから、△△のように歌いたい」など、楽譜から様々な情報を読み取り記入し、考えを述べる事ができている。しかし、それを実際の演奏表現で表現できている生徒は限られている。

本題材設定の理由

自身が思い描いている表現を、‘ミュージカル’で行うことで、何を表現したいか具体的に考えて取り組むことができる。また、動きを伴うことで、より伝えたいことが前面に出てくるので、子供は具体的にどのように表したいか分かり、歌唱表現に結びつけることができる。

※ ここで言う‘ミュージカル’とは、一般的に呼ばれているミュージカルではなく、合唱を歌いながら手振り身振りをして身体表現すること。(誰に伝えたい、歌詞の中身はどんな気持ちに、どこに飛ばしたい、などを考え、体を解放させて歌う練習方法)

The image shows two pages of a handwritten musical score for the song 'YELL'. The score is written on a four-staff system (treble and bass clefs for piano and vocal lines). It includes lyrics in Japanese and is heavily annotated with handwritten notes, circles, and arrows. The annotations include performance directions like 'dolce', 'mf', 'p', 'f', 'poco riten.', 'HMK!', and 'HMK!'. There are also notes about dynamics and phrasing, such as '息を吐く' (breathe out) and '胸を張る' (expand chest). The lyrics are: '1 ゆう やま げの こはたの のはの かわの んみゆ きまほ', '2 やーまご ので たねの はの わにと んみゆ きまほ', '3 じゆう でねえの はの わにと んみゆ きまほ', '4 ゆう や けの やの あかと んみゆ きまほ'. The second page continues the score with similar annotations and lyrics: 'おわれ 異 なる にの て', 'おれ 異 なる にの て', 'おれ 異 なる にの て', 'おれ 異 なる にの て'. The score is titled 'YELL' and 'YELL'.

1年時の生徒の楽譜への書き込み【「赤とんぼ」の歌唱でどのように歌うとよいか、考えを記入している】

本題材で願う子供の姿

- ・「YELL」の楽譜に書かれていることを読み取り、表現しようとする姿
- ・「YELL」を合唱する際に‘ミュージカル’を用いて、思いや意図を表す姿

評価規準

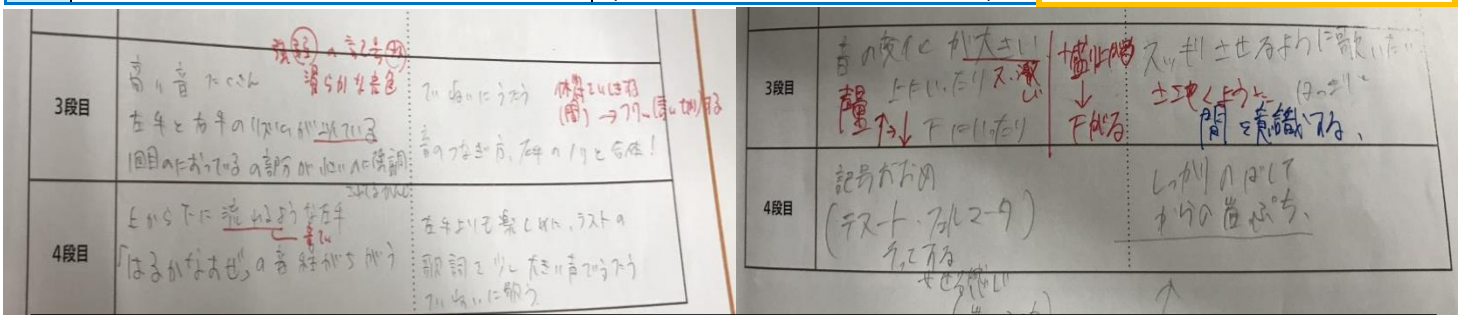
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○「YELL」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。</p> <p>創意工夫を活かした表現で「YELL」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p>	<p>○「YELL」強弱、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「YELL」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図を持っている。</p>	<p>○「YELL」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

本題材における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○曲を聴いて、どのように歌いたい考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの雰囲気にあっている。だから、暗くなりすぎないように歌いたい ・前に先輩が歌ったらしいから、その映像が観たい 		<p>重点① 先輩の演奏、合唱団の歌っている姿をイメージし、理想の表現に結びつける。 先輩の歌っている姿を観たり、音楽室に掲示してある、合唱団の先輩の写真を観たりして理想を描き、自分たちがどのような姿になりたいか考えて合唱するような環境作り。(他校の演奏だけでなく、先輩の映像を観ることで、身近に理想とする音楽があることを実感させるため)</p> <p>重点② ミュージカルを用いた合唱。 楽譜から様々な情報を読み取り、自分で考えた身体表現で表し、合唱の表現と結びつける授業デザイン。また、表現が苦手な子供や、思いを演奏に結びつけるのが苦手な子供は、ミュージカルの動作の細部に注目させて、小さな変化を表現に結びつけるようにする。</p>
2	<p>○音色や強弱の違いに注目して、パート練習する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単と思っていたけど難しい ・高い音が多くて大変 	<p>【知識】 曲想と音楽の構造や音色と強弱の内容との関わりを理解している。 (授業中の取り組み)</p>	
3	<p>○歌詞を読み込み、どのように歌うとよいか考え、パートの中で表現を工夫する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記号がいくつか書かれている。 ・でも、この曲って今年のNコンの課題曲みたいに、沢山の記号は書かれてないよね ・書かれている記号を意識して歌うようにしたい 	<p>【思考・判断・表現】 強弱、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図を持っている。 (発言、楽譜の記述)</p>	
4	<p>○より合唱表現をよくするためにどうしたら良いのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いはあるけど表現に結びつかないな ・考えた表現で歌っているつもりだけど、なんかしっくりとこないな ・後半の表現を考えると、前回の部分も少し変えないといけないな 	<p>【技能】 創意工夫を活かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 (授業中の取り組み)</p>	
5	<p>○合唱の表現を深める姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回やった部分をクラスで共有しないと合唱にならないよね ・ミュージカルだけじゃく、朗読をして歌詞の意味を踏まえて音楽に結びつけよう ・伴奏の動きにも注目すると、より深い合唱曲になるんじゃないかな 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 (授業中の取り組み・楽譜の記述)</p>	



2年時1学期の子供の書き込み【「夏の思い出」の歌唱でどのように歌うとよいか、仲間の意見から共有している様子】

本時で目指す子供の姿

合唱表現をよりよくするために、思いや意図をもって合唱をしている姿

○ 合唱する中で、場面に合わせた音色を考え歌っている姿

○ 学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

○ 発声で声を合わせる、ボリュームをだそうとする姿

- ・ みんなで「丹田」を意識して歌うとよいんじゃない
- ・ 声を飛ばす方向を考えて、歌うともっと声が響いて歌えるんじゃないかな

○ 楽譜を見直して、自分たちが出来ていない部分を確認する姿

- ・ 少しずつ、曲になってきたね
- ・ まだ、音が取れていない部分があるから急がないと合唱祭に間に合わない
- ・ 音が取れてない場所がまだあるね
- ・ 一通りのパートの音はとり終わったけど、まだ表現がつけられていないね
- ・ 後半は音がまだ自信が無いな

○ 気になる部分の合唱表現をよくするためにどうしたら良いだろうか考えている姿

- ・ 盛り上がるけど、歌詞的に優しい音色で歌いたい。
- ・ 強くて大きくすればいいのかな？
- ・ 合唱団はどんな感じでやっている

○ ミュージカルで演奏しながら、合唱と動きを結びつけ、表現を工夫して歌っている姿

- ・ 動いているの見えるの恥ずかしい
- ・ だれかとペア組むと、歌詞に合うかも
- ・ 場面設定の場所はどこなんだろう
- ・ ここの部分は記号があまり無いから、基本同じ強さでいいんだよね
- ・ 記号はないから特に強調とかはしなくていいのかな

○ 他の部分も演奏しながら表現を工夫して歌っている姿

- ・ 動作つけると歌詞がイメージしやすくなって、表現が具体的に表せるようになってきた
- ・ 似ている部分でも、動きが違ってくる

■ 子供の見取りプラン

どんな思いを持って「YELL」を歌いたいか。

YELL
 (1番)
 歌いはじめはまた自分の未来、今の存在についてとまどっているように。
 サビにはその悲しさがあるように。
 2番は少しずつ意志がかたまってきた感じで「永遠などない」と～約束したんだ」は自分の未来への決心、力強く入れて。
 サビは未来への確信の力強さを、まだ残る不安な弱さ表現したい
 全体的にいすいけんとんて歌わずに、やさしく花をなでるような歌声で

YELLとどのように歌いたいか。
 強弱をしっかりとつけて、歌詞にあった雰囲気をつくる。
 最初は 柔らかく、暖かく、
 最後は 鋭く、冷たく、を意識したり。
 パートのリロが早いから、音程、テンポ、表情など、いつも以上に付けてたり。

重点②

- ・ 自分で考えた表現や演奏を体で表現し、それを合唱と結びつけて演奏するために、必要な言葉の発音、体の使い方などに焦点があてられるように、ミュージカルで細部の変化に気づけるようにする。
- ・ どのように歌いたいか、思いや意図を楽譜に記入するが、次の授業の中で加筆ができるようにする。また、仲間の考えから表現を広げられるようにする。



評価

【思考・判断・表現】

楽譜の記入から、歌詞と記号を結びつけて、楽曲にふさわしい表現を考えている。

(発言、楽譜の記述)

支援を要する子供に対する手立て

ミュージカルの動作から合唱表現と結びつける際に、細部の変化に注目し、そこから表現に結びつけるようにする。その際に、場所や物を限定的にし、焦点を絞られるようにする。また、活動の際に巡視をしながら子供の発言から例を用いて、思いをもたせる。

本時の子供の姿

本時の子どもの姿として感じたことが2つある。1つ目は子どもたちの楽曲に対する向き合い方。2つ目は合唱への追究の仕方。の変化を感じた。1つ目は曲をどのように歌いたい、どのクラスも真摯に考えている姿が見られた。本時に望む前の時間に「どのようにこの曲を歌いたいですか?」という問いに対し、具体的に細かく表現方法を記入している子どもが見られた。また、本時では、少しのグループ協議を設けたら、自分たちで解決の策を考えている場面が複数のグループで見られ、楽曲に対して様々視点で思いや意図を持っていることがわかった。2つ目は、合唱への追究が1年生の時よりも音楽的に広がり様々な視点で工夫しようとしているように感じた。例えば、表現を考える際に、それまではイメージから歌い方を工夫するだけだったが、「詩から読み取り、Aの部分は前より濃くなり、音楽も旋律の動きから少し盛り上がるので、音に重さをつけるためにしっかりと体を使えるように丹田を意識して歌いたい」など、具体的な内容で答えられる人が増えてきた。その中で、今回の授業は、ミュージカルのように身体表現により、変化を見ることが出来、音楽の中に表現の違いが少し現れていた。しかし、生徒が授業中に取り上げた部分に関しては、2小節ごとに表現が変化し、パートが入れ替わる部分の合唱になる部分であった。そのため、変化をパートごとに行き来・パートへ引き継ぎ・ハーモニーの変化など生徒の求めている「やりたい」を引き出し、それが表現として結びつくには難しいように感じた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

協議会を終えて感じたのは、日々の取り組みの継続にある高まりを改めて実感した。本校中学校の合唱の取り組みを知っている方にとっては当たり前のような活動も、知らない先生方にとってはその活動に驚いてもらった。その中で、さらに授業で活用していきたいことを考えた。

重点①について

生徒が自らこのように歌いたい引き出していた部分が多々あった。今回は合唱のため、全体で共有をする場面を多く設定したが、思いを生かす場面としてパートごとに取り組むことで、より深い試行錯誤に繋がるのではないかと感じた。授業を観てもらった先生方からも、パートでの協議がパートリーダーだけで完結するのでは無く、多くの人の意見をくみとっていたので、パートの活動など小グループ活動で身体表現(即席ミュージカル)を行えば、全体の表現に繋げることができるのでは無いかと感じた。また、合唱団の生徒が中心になり、表現をしている場面が見られたが、中心となる生徒から学級の生徒に広めることができればより、多くの考えをくみ取った表現に結びつけられたのでないかと思う。

重点②について

授業での目指す方向が「学びのプラン」「学びの足跡」「本日の目標」などで明確で、生徒と共通理解が図れていたという言葉がいただけた。しかし、今回の身体表現(即席ミュージカル)を用いた際に目指したい音楽の諸要素【音色】に絞ったが、それに向かうことができているのか疑問に感じる部分があった。そのため、本時の目標の提示の仕方や音楽の諸要素をより、検討や明確にする必要を感じた。そのことにより、生徒の「やりたい」から、そのすべに結びつけられる必要だった。それに向け、生徒からくみ取れる展開なども検討や狙いを授業前に共有をしたり、常時活動も少し変化して行ったり、日頃の活動から授業の目標に結びつけるすべを意識してできるように感じた。

題材全体を振り返って

今回は表現を工夫するために即席ミュージカルとして表現をしたため、歌い手は表現として合唱に結びつけようとする生徒や、指揮者が即席ミュージカルを活用して歌い手に表現を伝えている生徒も見られた。しかし、中学2年生にとってそれが相応しい方法だったのかは考える必要があるように感じた。

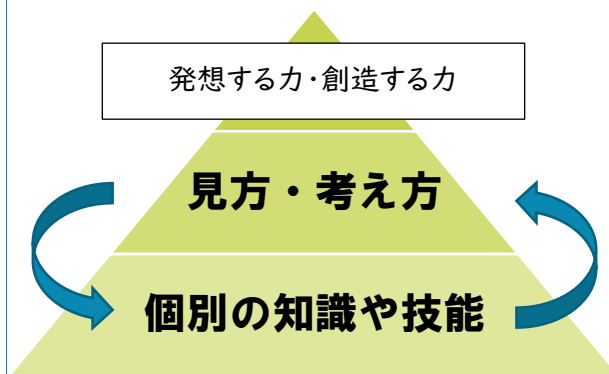
今後は日頃の活動に取り入れて、そのアレンジであればより効果が発揮されるものであるようにも強く感じた。今回は授業でそこに向かうことを目的にしたため、その日に中心が来ていた。しかし、合唱に集中してしまい、身体活動に結び付けることができない生徒も見受けられた。そのため、授業の中でもっと歌い込みをしてから取り組んだり、今後は日頃の常時活動とセットで行い、生徒がよりその活動が身についたら即席ミュージカルで表現に結びつけたり、生徒が自ら学習の調整をして取り組めるようにしていきたい。

教科部で大切にしていること

発想する力・創造する力の育成

図画工作・美術科は、五感を使って材に親しみ、作品をつくりたり鑑賞したりする活動を通して、生活を豊かにするための感性を磨いていく教科であると考えている。そのために、材や作品と積極的に触れ合い、その形や色に豊かに関わり、つくりだす喜びを味わえるような機会を多く設けたい。

今年度の図画工作・美術科では、新しい考え方に気付いたり、思い付いたりする「発想する力」、今までにない新たなものを「創造する力」を育成することで子どもの生活を美しく豊かなものにできると考えている。



願う子供の姿

- 「失敗したらどうしよう」という恐怖心を、「いろいろなものをつくりたい」という好奇心へと変貌させられる姿
 - ・何度もチャレンジする姿
 - ・失敗を自己の経験として生かす姿
- 今までにない新しいものを思い付き、つくり出す姿
 - ・他者の考えや文化を受け入れる姿
 - ・自己の経験や今あるものを生かす姿
 - ・何かと何かを組み合わせ、新たなものをつくり出す姿
- 日常生活において、何気ない身の回りのものに興味関心をもち、豊かな心で生活を楽しむ姿
 - ・身の回りにある色や形のおもしろさに気付く姿
 - ・自然が作り出す色や形のすばらしさに感動する姿
 - ・美術作品や工芸作品の鑑賞を通してその作品のよさや美しさを守っていこうとする姿

小中の取り組み

- ・材や自分とじっくり向き合う時間の確保
- ・自分の経験や考えを友達と共有できる場の設定

小学校

- 題材の導入を中心に試行錯誤の時間や環境を十分に設け、自分から「やってみよう」と思えるようにする。
- 自分・他者・材との対話を意識した活動を積極的に取り入れ、各題材で子供たちが思いつきそうな材やその題材に合った材（それまでに使用した経験のある道具や材料も含む）を使用できるようにする。
- 作品を展示する際は、その作品がどんな場所に似合うか考え展示する。この活動を通じて何気ない日常の中にある感動やおもしろさに気付けるようにする。

中学校

- 固定の概念にとらわれず、自由にのびのびと発想し創造できるよう、題材や発問を工夫する。一つの作品に粘り強く取り組み、少しずつ完成していく様を楽しむ。
- 常に自ら考え、ものごとを生み出す力を育成するために、美術の専門的な知識や技能を習得しながら、思考を深められるようにする。作品や他者との対話を繰り返し行う中で、自己理解や他者理解を深め、視野を広げていく。
- 他教科との繋がりや生活の中にある美術について意識しながら、作品作りを行う。また、日頃から美術的な視点で物事を捉えられるようにする。

取り組みに対する振り返り

成 果

- 各題材を扱う導入として、新しい材を自ら試す時間を確保した。
 - ・子供自身が教師から与えられた課題に取り組むのではなく、「もっとこうしたい」という願いをもち活動に取り組めた。
 - ・小学生は、失敗を失敗と捉えずに作品の一部として見て夢中で活動に取り組む姿が見られた。
 - ・中学生は、失敗を受け入れつつ、新たな表現方法を模索する姿が見られた。
- 「これでいい?」という正解を求める発言が減り、「これをやってもいい?」という好奇心から生まれる発言が増えた。
- 自分の経験や考えを共有できる場を設定したことで、経験や感動の共有が生まれた。その結果、お互いの表現の幅が広がったり、作品とじっくり向き合う時間が増えたりした。



課 題

- 題材によっては、子供が材と向き合う時間を十分に確保できなかつたり、材の特徴や魅力を教員が十分に気づけなかつたりした際は、出来上がる作品が単調になってしまった。また、新たな表現も生まれにくかった。
- こだわりすぎて完成しない。また、つくり変えすぎて完成しないという状況があった。小中共に作品の完成がゴールではないが、子供たちの活動後の満足度は高くなかったのではないかな。
- 各題材の学びを教師からの声掛けによって他教科へのつながりを意識させる場面を積極的に設定できなかつた。
- 子供が自ら情報を得られるような環境整備が足りなかつた。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

○環境

- ・用具を自由に選択し使用できる環境にする。
- ・子供たちの興味関心を引き出すために、美術館の企画展ポスターを掲示したりパンフレットを置いたりする。また、題材毎に展示内容を更新したい。
- ・絵具・クレパス等を色ごとにまとめて配置するスペースと、セットで配置するスペースをつくり、発想を促す。
- ・造形遊びがいつでもできるスペースづくり。

○題材とのかかわり

- ・設定時間数や用意する題材の見直しを行う。
- ・題材を貫く問いを立てたり、その問いについて考えさせたりすることで、つくる過程が大切であることを伝える。
- ・材との出会いの方法の検討。配置、分量、形態などを工夫する。

○共有

- ・ICT、板書、話し合いなど造形的視点を共有する方法やそのタイミングの検討。

○活動時間の確保、工夫

- ・学習指導要領をもとに年間指導計画を見直し、活動時間を十分に確保できるようにする。

○他教科とのつながり

- ・年度初めに、他教科の教員と繋がりが持てそうな教科内容について確認しておく。1つの題材で1,2教科で始めてみる。

○その他

- ・造形活動への ICT 導入。2次元でしかできない表現の可能性を見付けてみたい。

題材名 オモシリエット～影っておもしろい！～

本題材に取り組む子供の実態

一学期の「発見!まぼろしの花」で絵の具を用いて自分の花を描く活動を行った。子供たちは色の組み合わせや形の感じを考えて、生き生きと活動に取り組むことができた。工作「ギコギコモンスター」では、のこぎりをどう使えばスムーズに木材を切ることができるか考え、用具の使い方を身に付けることができた。モンスターをつくる際は、似た形を組み合わせたり、自立するようにバランスをとったりしながらつくることができた。つくったあとは、「どこに展示すればよいか。」という話し合いを行い、それぞれの作品が生きる展示の仕方を考えていった。

子供たちは今までの経験や使用したことのある道具を積極的に取り入れる姿が見られる。さらに、友達が使っていた道具を使ってみたり、同じ道具でも題材に合わせた新たな使い方を思い付いたりすることができる。作品づくりの際には、友達の作品を見てアドバイスし合ったり、認め合ったりする様子も見られる。

基本的に図画工作の時間を楽しみ、意欲的に取り組むことができるが、まだまだ自分の中で「これでいいや。」と完結してしまうことも多い。または、新しいことを思い付いたものの、どんどんそれを取り入れすぎた結果、作品づくりが終了しないということもある。題材の中で、どこかで見通しをもち、「これがいいんだ!」と作り出す喜びを今まで以上に味わってほしいと考えている。

本題材設定の理由

本題材は、身の回りにあるものに光を当て、映し出された影の形や色の組み合わせを楽しむ。グループ・個人の活動を自由に選択するが、決して個人の中で完結させることなく対話の場面を多く取り入れながら活動を行っていく。お互いの発想を自分の中に取り込み、また新たなものを思い付いてほしい。様々なものの影を映し出す活動を行いながら、「どんな影ができるかな。」「どんな形になるかな。」と好奇心をもって取り組むのではないかと考えている。影を扱う題材なので、普段見慣れているものの新たな見方や組み合わせ方を思い付けるとともに、何度も試行錯誤しながら作り、作りかえ、つくる活動が期待できる。その試行錯誤を通じて、子供たちから「これがいい!」「もっと他の組み合わせは?」といった発言が出るのではないかと思い、本題材を設定した。展示についても、自分たちがつくったものをどのような方法で見てもらうか考え、子供たちに達成感を味わってほしいと考えている。



本題材で願う子供の姿

身の回りにあるものの影の形や色の面白さを見つけ、それらの形や色の組み合わせを思い付き、試行錯誤をする姿。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○自分の感覚や行為を通して、光源と物との位置で変化する影の大きさや形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じがわかっている。</p> <p>○手や体全体を十分に働かせ、材料や用具を適切に扱い、前学年までの経験を生かし、身の回りにあるものの影を映す活動を工夫してついている。</p>	<p>○映した影の大きさや形の感じ、色の感じ、それらを組み合わせた感じから自分のイメージをもち、豊かに影の形や色の組み合わせなどを思い付き、どのように活動するか考えている。</p> <p>○映した影の大きさや形の感じ、色の感じ、それらを組み合わせた感じから自分のイメージをもち、友達の活動を見て造形的なよさや面白さについて、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>○つくり出す喜びを味わいながら、進んで身の回りにあるものの影を映して表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

本題材における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○身の回りにあるものに光を当て、映し出される影の形や色の面白さに気付く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館には影を映したら、おもしろい形のものがたくさんあったよ。 ・筆箱の中のものも使えるね。 ・カラーセロファンを使ったら、色のついた影ができるね。 ・同じものでも、プロジェクターとの距離が違うと、映り方が違うね。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 つくり出す喜びを味わいながら、進んで身の回りにあるものの影を映して表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 ※題材を通じて見取る。</p> <p>【知識・技能】 自分の感覚や行為を通して、光源と物との位置で変化する影の大きさや形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じがわかっている。 (活動の様子)</p>	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内にある、身近なものの影を自由に映し出せるような場を設ける。 ・映し出した影をPCで撮影し、友達と共有できるようにする。 ・光源の台数を制限し、友達の活動に意識が向くようにする。
2 3	<p>○身の回りにあるものの影を生かして映し出す活動をする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めてきたものを組み合わせると、前回よりもおもしろい形になるね。 ・プロジェクターとの距離を変えると大きさも変わるね。 ・適当に並べただけでもおもしろい形ができた。 ・透明なものでも影ができるんだね。 	<p>【思考・判断・表現】 映した影の大きさや形の感じ、色の感じ、それらを組み合わせた感じから自分のイメージをもち、豊かに影の形や色の組み合わせなどを思い付き、どのように活動するか考えている。 (活動の様子)</p>	
4	<p>○他グループの工夫を見て、自分たちの活動に生かす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが見つけられなかったおもしろい影が結構あるんだね。 ・こんな光の当て方もあるんだね。 ・前回のものにどう合わせていこうかな。 ・今までつくったものも生かしたいね。 	<p>【思考・判断・表現】 映した影の大きさや形の感じ、色の感じ、それらを組み合わせた感じから自分のイメージをもち、友達の活動を見て造形的なよさや面白さについて、自分の見方や感じ方を広げている。 (活動の様子)</p>	
5	<p>○美術館開館に向けてそれぞれの活動の成果が生きる配置や展示方法を考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順路を決めて、どこで影を見せるか考えよう。 ・同じような形のものを隣同士にした方がいいのかな。 ・光を当てたらパッと影が出てくるようにしたいな。 	<p>【知識・技能】 手や体全体を十分に働かせ、材料や用具を適切に扱い、前学年までの経験を生かし、身の回りにあるものの影を映す活動を工夫してつくっている。 (活動の様子)</p>	<p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試行錯誤の時間を多くとり、対話を積極的に取り入れられるようにする。 ・PCを使用してつくった影の記録を残し、比較できるようにする。
6	<p>○影の美術館でお客さんに活動の成果を見てもらい、次への学びに生かそうとする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんに感想を書いてもらいたいな。 ・もっと大きなものをうつしたらどうなるかな。 ・他のものでもやってみたいな。 	<p>【思考・判断・表現】 映した影の大きさや形の感じ、色の感じ、それらを組み合わせた感じから自分のイメージをもち、友達の活動を見て造形的なよさや面白さについて、自分の見方や感じ方を広げている。 (活動の様子)</p>	

本時で目指す子供の姿

- 影どうしを組み合わせると、今まで見たことのない形ができるんだね。
- これ、○○に見えるね。
- どんなものを映そうかな。

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

○自分たちが用意した材に色々な角度から光を当て、映し出された影を楽しむ姿

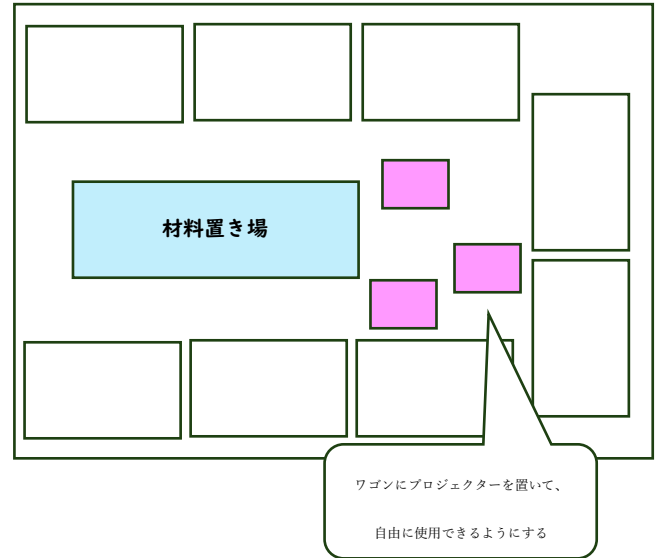
- ・体育館のものをいっぱい持ってきたけど、組み合わせたらどんな影ができるかな。
- ・友達とやってみただけど、一人でもやってみたいな。
- ・光の当て方を変えると、形が全く違うものになるね。
- ・他のものも試してみたいな。

○影がつくる形の感じや色の感じを組み合わせ、新たな形を思い付き、影を映し出す姿

- ・これとこれを合わせたら、○○みたいに見えるよ。
- ・隣のグループとつなげてみようよ。
- ・個人でもやってみたいな。
- ・光の種類を変えて映してみよう。
- ・プロジェクターとの距離を変えると、影の大きさが変わるね。
- ・PCで写真をとっておこう。

■子供の見取りプラン

図工室のレイアウト



壁や窓に布やラシャ紙、画用紙を貼り、スクリーンの代わりとする。棚や天井等、他の影が映る場所を利用してよいこととする。

■学校内にあるものや自分の持ち物に光を当てて、どんな影ができるか試し、その影の形を生かした組み合わせを試行錯誤しているか見取る。

- ・つくりたいものをねらってつくるといよりは、偶然できた形との出会いを楽しみながら活動に取り組んでほしいと考えている。
- ・同じものでも組み合わせ方によって、さまざまな形・色の影ができるということから、自分の活動の成果に対する愛着を持たせたい。

重点①

学校内にある、身近なものの影を自由に映し出せるような場を設ける。

評価

【思考・判断・表現】

映した影の大きさや形の感じ、色の感じ、それらを組み合わせた感じから自分のイメージをもち、豊かに影の形や色の組み合わせなどを思い付き、どのように活動するか考えている。

(活動の様子)

支援を要する子供に対する手立て

意図を持たずに、材を並べたり重ねたりして、さまざまな角度から光を当てるようにする。そこでできた影を見て、「何に見えるか?」と聞き、「どこを見てそう思うか。」と考えさせ影の形に注目できるようにする。

本時の子供の姿

前時に集めてきたもの同士を組み合わせ、影を映してみたいという思いをもって、導入から子供たちは材に積極的に触れ、いくつも組み合わせ、影づくりを楽しむ姿が見られた。友達とついたり、個人でついたり、思い思いの活動をする中で、徐々に組み合わせる形が複雑になったり、光を当てる角度を調整したりしていた。新たな発見があると、「見て見て!」と友達同士で見合う場面もあった。材を手に取りやすいように教室中央に並べたことで、試行錯誤を繰り返し楽しんでいるようだった。

45分という短い時間だったため、組み合わせる材の数が増えたり、影を映し出す場所の選択肢が広がったりしそうなタイミングで授業終了となってしまった。その分、「次回もやってみたい!」という思いをもつことができた子供たちが多かった。



研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

今回、影を映し出す材を子供たちが自ら見つけ、持ち寄ったことで、より子供たちのつくりたい思いが高まったというお話をいただいた。割れやすいもの等の安全面の配慮と、思い切った活動とのバランスが難しいが、今回の方法は効果的であったのではないかと考えた。

影づくりを行うため、教室の中を暗くし、中央の机に材を並べてライトを当てたことで、非日常の空間が生まれ、普段目にしていないものの影を楽しむ環境ができていた。机の上ではできない発想が多く生まれた背景としては、自由な空間の中で、自然と周りを見ながら発想を広げることができたからなのではないかという考えもいただいた。子供たちそれぞれが自分の発想を大切に、影を通じて非言語のやり取りをすることができていたということも分かった。

光を通す、透明なもの、影をつくることができるという意外な発見や、同じものでも組み合わせ方や光の当て方、光源の種類・色によって全く違う影になる楽しさを存分に味わう時間を保証したことで、子供が「もっとやりたい!」「こうしてみたい!」という思いをもつことができたようである。教師が必要最低限のポイントを押さえ、子供に委ねることの大切さについて考えさせられた。

題材全体を振り返って

今回、題材の中心となるものが影ということで、子供たちはいつも以上に積極的に活動していたように感じた。回を重ねるごとに影の形が複雑になっていき、その形の組み合わせた感じを楽しんでいる姿が見られた。影を映し出す場所も壁やスクリーンにとどまらず、天井やロッカーの中、床や机の上など多岐にわたった。これは、絵や立体と違って手軽につくりかえることができるからであると感じた。子供たちは、決まった形がなく毎回新しい表情を見せる影に夢中になり、どんどん新しい影を映し出していきにつれ、「こんな楽しい活動を他の人たちにも味わってほしい!」という思いをもち、「オモシルエット展覧会(オモ展)」を思いついて実施することができた。日常にあるものから非日常を生み出す楽しさ、「つくり、つくりかえ、つくる」活動を通じて新しい形の組み合わせを思いつく楽しさを存分に味わえる造形遊びのよさを教師側も実感できる題材となった。題材によっては、時数をもっと短くしたり、材の提示の仕方を変えたりとさらに充実した活動ができる工夫を考えていきたいと思う



題材名 つくろうぜ!!夢の遊具

本題材に取り組む児童の実態

本学級の児童は、未体験なものに出会うと前のめりで学習に取り組む姿が印象的である。絵本「ウォーリーを探せ」を造形的視点で鑑賞した際には、今まで気が付かなかった絵のよさを発見していた。「普段何気なく見ていた絵がこんなにも奥深いなんて」と、驚いた様子であった。

作品づくりにおいては、「失敗したのもう1度やり直したい」との発言よりも、「なんかこんなかんじになったけど、これもまたいいか」との発言が多くなってきている。自分が間違えたと感じていたものに対する見方が変化しているのではないかと。また、「たまたま 生まれた かたちたち」ではマーブリングに白色があることを発見した。白のインクを垂らしていないが、白が表現しているのは水であると理解すると、その後の活動で意識して模様を操作している様子が見られた。

制作途中にはお互いの鑑賞を通して、自分の作品へとよいアイデアを取り入れ自分の作品をつくり上げていく場面が見られる。一方で、全く同じような作品になっていく場面も見られる。自分の個性感性も大切にしつつ、作品づくりに取り組む姿勢が課題である。

本題材設定の理由

本題材では、切り糸やかきべらなどを用いて粘土を切ったりかき出したりする造形遊びから学びが始まる。用具から生まれる粘土の形は、直線や曲線、穴や小さい凹みなど様々である。この「手ではつくることのできない形が生まれる」楽しさを十分に感じさせたい。その際に気に入った形は残し、やり直したい形はやり直せる粘土の特性が生きてくる。

立体の形を試行錯誤しながら自分の創造した形へと変化させる。または、偶然できた形から発想しつくりあげる。平面の作品では培えない創造する力・発想する力を育てる題材であると考えている。



思い通りの色とならなかったが、納得する作品となった。
(絵の具×筆=いいかんじ)

鑑賞を通じて、よいアイデアを取り入れようとしている。
(〇〇な世界を表現しよう)



全員で1枚の作品づくりに挑んだ。
(体験入学の子どもの思い出の絵)

本題材で願う子供の姿

用具を使い、偶然または狙って生まれた形から発想した経験や過去の経験を基に、夢の遊具を創造する姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感覚や行為を通して、形などの感じが分かっている。 ○材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○形などの感じを基に、自分のイメージをもちながら感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ○形などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や制作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○つくりだす喜びを味わい進んで表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

本題材における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○油粘土を様々な用具にて変形させ、その生まれた形を楽しみくっつける姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り糸だとまっすぐな形が生まれるね。 ・かきべらではかき出すことができるよ。 ・これを使うとどうなるんだろう。 ・これとこれをくっつけると…? <p>・もう少しこうしたらこうなるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度丸い形に戻しちゃおう! ・これ…使ったらどんな形が生まれるかな。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 つくりだす喜びを味わい進んで表現する学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>※題材を通じて見取る</p> <p>【知識・技能】 自分の感覚や行為を通して、形などの感じが分かっている。 (行動観察)</p>	<p>重点①用具の準備 使用できる用具をできるだけ用意する。(その場で求められた用具もすぐに出せるように準備しておく)</p> <p>重点②造形遊びによる経験知 創造の枠を広げるためにたくさん用具を使った感覚を味わう。</p>
2 3 4	<p>○土粘土を創造した夢の遊具へと変形させる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この間の切り糸でできた形を組み合わせようかな。 ・かき出してトンネルにしようかな。 ・こんな形にするには何を使ったらよいか <p>な。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あ、その形いいね。何使ったの? ・これはね、この用具を使って、こうやって動かしたらできる形だよ。 ・仕上げにくっつけるのに細かい形はどうやったらできたっけな…。 	<p>【知識・技能】 材料や用具を適切に扱うとともに、全学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 (行動観察)</p> <p>【思考・判断・表現】 形などの感じを基に、自分のイメージをもちながら感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 (行動観察)</p>	<p>重点②制作途中の鑑賞タイム 他者の作品の鑑賞を通して、自身の作品づくりに生かす。</p>
5	<p>○友達の作品をみて、どんな遊びができるか想像する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この遊具、すごく楽しそう! ・こんな遊具があったらなー。 ・どうやって遊ぶの!? ・現実じゃありえない形しているね。 ・これじゃ現実だと遊べないよ。けど、おもしろいね。 	<p>【思考・判断・表現】 形などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や制作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 (共有ツールへの書き込み)</p>	<p>重点①またつくりたいという意欲 他者の作品鑑賞を通して、「こんな作品つくってみたい!」という意欲を掻き立てる。</p>

本時で目指す子供の姿

- この用具を使ったらこんな形になったんだ。手だと生み出せない形ができるのがおもしろいね。
- この用具を使って、(何回も何回もやり直しながら)自分のお気に入りの形を見つけたよ。
- 家にあるあの用具を使ってみたいな。どんな形ができるか楽しみだな。

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○油粘土との出会いから、これからの活動に想像を膨らませる姿

- ・幼稚園で粘土板の型を写し取って遊んだよ。
- ・懐かしいな、粘土。
- ・どんなものつくるんだろう。

○手に取った様々な用具から生み出された形を見て、楽しんで形同士をくっつけたりする姿

- ・切り糸…使ったことないな。
- ・この用具使ったらどんな形になるんだろう。
- ・手で作る形と用具を使ってできる形は違うね。
- ・こんな形できたー!
- ・こうやったらこんな形になったよ。
- ・その形、いいな。どうやったの?
- ・この形とこの形をくっつけたらおもしろいのができたよ。



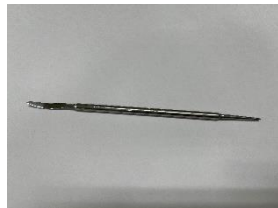
かきべら



のし棒



切り糸



細工棒

○本時を振り返って、より発想を膨らませる姿

- ・用具を使って、たくさんの技ができたね。
- ・あれをつくるにはこの用具を使ったらできるのかな。
- ・次の時間はどんなことをするのだろう。
- ・今日できたのはどうするの?次までとっておきたいな。

■自由発言の中から、自らの経験値を語る児童を見取る。

- ・活動の時間を確保するために、ポイントのみ押さえる。
- ・教師による実演や教科書の作品例の鑑賞を通して、予想したものを全体に広げていく。
(この形はどうやって生み出したのだろう。)
(いろんな形をくっつけたのかな。)
(手で生み出すことができるのかな。) など

重点①用具の準備

使用できる用具をできるだけ用意する。(その場で求められた用具もすぐに出せるように準備しておく)

用具案(安全に使用できるよう声掛けをする)

- ・かきべら ・のし棒 ・切り糸 ・細工棒
- ・釣り糸 ・竹串 ・麻紐 ・くし ・ストロー ・毛糸

【知識・技能】

自分の感覚や行為を通して、形などの感じが分かっている。
(行動観察)

■用具を使った様子を見取り、次時につなげる。

- ・用具を使用している様子を撮影し、その様子を用具ごとに分類し自由にアクセスできるようにする。

重点②造形遊びによる経験知

創造の枠を広げるためにたくさん用具を使った感覚を味わう。

■次時への発想の膨らみを見取る。

- ・次時に対する子供の「やりたい」を叶えるために、発言などを拾い上げる。
(授業後も継続して見取っていく)

評価

【知識・技能】

自分の感覚や行為を通して、形などの感じが分かっている。(行動観察)

支援を要する子供に対する手立て

- 「まずはやってみる」という意識を共有し、切る・かき出す動作を真似させる。
- 目の前で基本となる用具の使い方について実演する。

本時の子供の姿

図工室に入ると、机に置かれた油粘土ののびに「懐かしい」や「幼稚園でやったなー」という自らの経験を思い出していた。今までの経験と聞いてみると、粘土板の型を写し取って遊んだり、丸くしたり、細長くしたりした経験が多かった。用具を使った経験をもつ子供は少なかった。さらには初めて触る子供もいた。独特ののびに少し嫌気がさしているようだった。

教師が本時で扱う用具について実演を交えながら説明すると、子供たちは前のめりでそれを聞く。「使いたい」、「早く触らせて」などと、好奇心をむき出しにしていた。いざ活動に移ると、様々な用具を手に取り、思い思いに油粘土の姿を変化させていく。初めは手を使って形を変えていた子供も、次第に周りの友達が用具を使っている様子を見て、「やってみたい」と思ったのか、恐る恐る用具を手に取り活動していた。

気温も下がり、しばらく使われていなかった油粘土は、子供にとって少し硬そうであった。練ることも忘れ、切り糸で切る。かきべらでかき出す。のし棒で伸ばす。細工棒で細かい模様をつけていく。粘土カッターで細く切る。その他の用具も使いながら、油粘土の形を変える活動に没頭している様子であった。少しずつ作品のような形に変化してきたところで、終わりの時間となった。「もっとやらせて」と教師に頼み込みながらも、使った油粘土と用具を片付けていた。次時の活動に期待しながら、「あれを使って何をやるのかな」と想像を膨らます様子が見られた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

【教師が説明していない使い方が生まれる環境づくり】

材となった油粘土は、立体で表現できたり、つくりかえられたりするよさがあった。「切ったら終わり」や「変えたら元に戻せない」といったトライアンドエラーが不可能な材とは違い、何度もやり直せる安心感から、積極的に活動に取り組めたのではないかと。本題材の学習に向けて、用具を選定し、新たに購入した。職人が使うような「本物」に使用する用具を近づけた結果、用具によって形が創造した通りに変化する油粘土があった。その感動が子供の「やりたい!」につながったのではないかと。また、用具の使用方法は安全な使用方法として教師が模範を示したが、それ以外の使用方法を子供は見出していた。油粘土と用具と触れた子供が新たに創造できた結果だと考える。

【造形遊びによる経験知】

本題材は、作品を「つくり出す」目的ではなく、用具を使用して油粘土で「遊ぶ」という目的でスタートした。この遊んだ経験が、新たな作品を創造したり、つくり方を発想したりする造形活動の基盤となり、「夢の遊具」づくりへの解決のすべとなり得たのではないかと。教師から与えられた用具の使用方法や定められた活動範囲では、子供の発想する力・創造する力は育成できない。このような活動があつてこそ、子供の自己実現が達成できるのではと、改めて考えさせられた。

題材全体を振り返って

実際に夢の遊具をつくり出す活動では、主にかきべらとのし棒を使用している子供の様子が目立った。立体から油粘土をくり抜いてトンネルを生み出したり、のし棒の円形を活用してすべり台を生み出したりしていた。また、細工棒では小さい凹凸をつくり、上り下りできる遊び場を生み出している子もいて、経験を作品づくりに繋げていた。

作品づくりの中で、油粘土が重たく高さを出せば出すほど倒れやすくなるという困り感が生まれた。その解決のすべとして既習の経験から竹串を使用し、骨組みとした。その竹串が善か悪か、作品をつくりかえる子供が増えた。立体から形を変える過程で、用具のよさを生かして遊具を生み出していたのに対し、竹串を基盤としてそこにくっつける作品づくりへと変化した。完成した作品には、用具から生み出された形はほぼ残っていなかった。そして、「自分を遊ばせたい」という子供の思いから、既習「『小さな自分』のお気に入り」での経験を生かし、完成した遊具の中に自分を当て込みデジタル上で遊ぶ姿を表現し、本題材のまとめとした。

「教師の思い」と「子供の姿」と「最終的に形として残ったもの」の三者が同じ方向を向くのはあり得るのか。あるとすればそれは教師のエゴなのか。それとも子供の教師への忖度なのか。なんてことを考えさせられた。子供が本題材で得た経験知は、本題材では発揮しきれていないように感じるが、この後の人生のどこかで役立ててほしいと願う。

題材名 **自分のマークをつくろう～デザイン入門～**

本題材に取り組む子供の実態

本学級の生徒は、新しい材料や題材と出会うと嬉々として取り組む姿が印象的である。一学期は、「中庭の色を集めよう」という題材で基本的な色彩についての知識を学び、自分達が想像している以上に色数があることを発見した。「お気に入りを描こう」で静物画の制作を行い、形や光、影などから、工夫して表現する活動を行った。二学期は『思考する』に重点を置いていきたい。着彩の際、洗った後の筆の水分を拭わずに次の絵の具につけてしまい、「絵の具が濃くならない。」と悩むなど道具の扱いに慣れていない反面、ICT の操作には長けており、夏休みに美しい景色やものを撮影し写真を提出した。「技法祭」で、様々な技法を使って自由に表現する中で、多少は絵の具の扱いに慣れたのではないかと感じる。「カマスタグラム」の鑑賞ではクラス全員の作品に触れ、身近なものの中にも美があることや、美しいと思う感覚が人によって多様にあることを実感したようだ。「デザインの扉」という鑑賞の授業で、絵画や彫刻などの表現とデザインや工芸の違いについて学習した。

物事に対し、深く考えたり調べたりして研究熱心なところがある反面、評価を意識したり正解を求めたりするところもある。また、大半の生徒が意欲的に授業に参加しているが、苦手意識をもっている生徒も一定数いる。自分の考え・感情・対象・材などと真摯に向き合いながらのびのびと制作し表現できるようにし、誰もが安心して美術の学習に取り組めるようにしたい。理想の形に近づけるだけでなく、制作途中での変化や進化を楽しみつつ、柔軟に取り入れる姿勢も大切であることを一年次から意識付けしていきたい。

本題材設定の理由

本題材は、自分のオリジナルのマークを作り缶バッジにするという活動を通して、伝達のデザインについて学ぶものである。一番身近な存在である『自分』を客観的に捉え、その特徴や性格を他の人に伝えるにはどうすればよいかを考える。本校の生徒達は学校指定のリュックを使用しており、持ち主の区別をつけるためにキーホルダーを一つつけても良いことにはなっている。しかし、キーホルダーは既製品が多く、リュックの取り間違いがよく見られる。オリジナルのマークの缶バッジをつければ、誰のリュックか分かりやすくなる。さらに自分のマークの缶バッジをつけることで、ものに愛着が生まれ、自分の生活が楽しく豊かになると考えている。生徒達は、デザインについて初めて本格的に学ぶことになるため、自分事として取り組むことができる題材設定を大切にしたい。

缶バッジは完成したときの仕上がりがとても美しく、達成感が得られる題材である。制作過程では、比較的扱いやすいマーカーペン・色鉛筆・PC 等を使うことで、美術が苦手な生徒も安心して取り組めるのではないかと考えている。



本題材で願う子供の姿

- 目的や条件を基に制作する活動を通して、他者の存在を意識し共生しようとする姿
- 身の回りのものに目を向け、美術が身近な存在であり、生活を楽しく豊かにするものだと認識する姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○形や色彩、構成や配置などが見る人に与える効果や造形的な特徴を基に、印象に残るマークを全体のイメージで捉えることを理解している。 ○マーカーペン・色鉛筆・PC などの材料や用具を工夫して生かし、制作の順序を考え、見直しをもって表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マークに込める意味や伝えたい内容などをもとに主題を生み出し、わかりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。 ○マークの伝達の効果と美しさの調和などを感じ取り、デザインに込められた表現の意図や工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく印象に残るマークをつくる表現の学習活動に取り組もうとしている。 ○美術の創造活動の喜びを味わい、楽しくマークに込められた表現の意図や工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

本題材における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○様々な企業や商品のシンボルマークやロゴマークについて調べ、意味が込められていることやわかりやすく伝えていることを感じとる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも見ているマークには、こんな意味があったんだね。 ・時代によって、マークが作りかえられているよ。 	<p>【思考・判断・表現】 実際に社会で使われているマークの伝達の効果と調和のとれた美しさなどを感じ取り、デザインに込められた表現の意図や工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 (活動の様子)</p>	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マークのクイズを通して、マーク自体に興味を持つようにする ・自分のマークの缶バッジをつくらせてリュックにつけるといった具体的な目的を掲げ、自分事として課題に取り組めるようにしている。
2	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私がお寿司が好きだけど好きなものを描いても伝わらないかな。 ・性格とか?行動とか? ・名前の頭文字を入れよう。 ・他の人からみたら、自分はどんなイメージなのだろう。 	<p>【知識・技能】 形や色彩、構成や配置などが見る人に与える効果や造形的な特徴を基に、印象に残るマークを全体のイメージで捉えることを理解している。 (ワークシート・活動の様子)</p>	<p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字と絵を組み合わせることで、個人が特定しやすいことを伝える。 ・アイデアスケッチを PC でも可とすることで、自分がやりやすい描き方を選択できるようにする。
3	<p>○前回のアイデアスケッチから、わかりやすさと美しさなどの調和について考えながら要素を絞って図案化する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー部だからボールを描きたいけど、他にもいるしなあ。 ・推しのマークや色を使ってもいいかな。 ・やさしい性格だって伝えたいからパステルカラーにしようかな。 ・これだと伝わるけど、なんかつまらないな。 	<p>【思考・判断・表現】 マークに込める意味や伝えたい内容などを基に主題を生み出し、わかりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。 (アイデアスケッチ、活動の様子)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく伝達の効果などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。 (アイデアスケッチ、振り返り、活動の様子)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介シートを用意してまずは言葉で自分のことを分析できるようにする。 ・方眼紙を用意して図案化しやすくする。
4 5 6	<p>○アイデアスケッチをもとに、材料や用具の特性を理解しながら、見直しをもって制作する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これはペンで描いた方がはっきりして見やすいと思う。 ・真っ直ぐに線を引きたいから定規を使おう。 ・縁取りをした方がいいか、しないか、迷うなあ。 ・色の組み合わせは補色を使ってみよう。 	<p>【知識・技能】 形や色彩、構成や配置などが見る人に与える効果や造形的な特徴を基に、印象に残るマークを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>マーカーペン・色鉛筆・PC などの材料や用具の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表している。 (作品、振り返り、活動の様子)</p> <p>【思考・判断・表現】 マークに込める意味や伝えたい内容などを基に主題を生み出し、</p>	<p>重点①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩がもつイメージや、形や文字を変形する方法を提示し、図案化する時のヒントが得られるようにする。 ・制作時、それぞれが描きやすい材料(マーカーペン・色鉛筆・PC など)を試し、一番良いものを選ぶようにする。

		<p>わかりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。 (作品)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく伝達の効果などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。 (作品、振り返り、活動の様子)</p>	
7	<p>○缶バッジを実際に使用した後鑑賞会を行い、作品の制作意図を発表し、お互いによさや美しさについて伝え合う姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この缶バッジ、すぐに〇〇さんのだったよ。 ・テーマが同じマークがあるけど、表現の仕方が全然違うなあ。 ・36人もいるのに、似ているのもあるけどみんな違うね。 	<p>【知識・技能】 形や色彩、構成や配置などが見る人に与える効果や造形的な特徴を基に、印象に残るマークを全体のイメージで捉えることを理解している。 (発言の内容、ワークシート)</p> <p>【思考・判断・表現】 マークの伝達の効果と調和のとれた美しさなどを感じ取り、デザインに込められた表現の意図や工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 (発言の内容、ワークシート)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しくマークに込められた表現の意図や工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	



本時で目指す子供の姿

- 自分のイメージを伝えるには、相手からどう見えるかを意識することが大切だということが分かりました。
- マークを考える時には、形を図案化して分かりやすくする必要はあるんだな。
- 形や色には意味があるのだということを知りました。

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○前回のアイデアスケッチを見て、自分のイメージを振り返る姿

- ・これって私だってわかるかな？
- ・自分の性格や印象が、大きな要素にもなるんだな。

○形や色彩がもつイメージや、形や文字の変化の方法などを見て、図案化するときのヒントを得る姿

- ・赤が好きだけど、強すぎるかな。
- ・文字の一部を少し伸ばすだけでも印象が変わるんだね。
- ・自分の性格や動きを、形や色で表す事が出来るんだな。

○前回のアイデアスケッチから、わかりやすさと美しさとの調和について考えながら要素を絞る姿

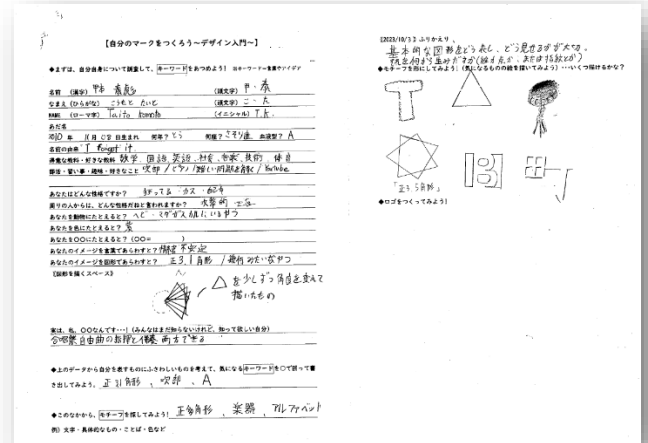
- ・サッカー部だからボールを描きたいけど、他にも何人かいるので、ボールだけだと同じになってしまうなあ。
- ・推しのマークや色を使ってもいいのかな。
- ・一つだと分かりづらいから、二つの要素を組み合わせよう。

○友達からアドバイスをもらってアイデアを見直す姿

- ・もっと全体的に丸くした方が、〇〇さんのイメージに合っているよ。
- ・カッコいい感じにしたいなら、ここの直線を太くしたらいいんじゃないかな。

○要素を図案化し配色を考える姿

- ・分かりやすく描くってどうすればいいんだろう。
- ・図案化するんだったら、方眼紙で描きたいな。
- ・分かりやすくはなったけど、なんかつまらないな。
- ・違う色で塗ってみたらどうだろう。
- ・遠くから見たら、何が描いてあるかわからないな。なんでだろう。
- ・輪郭線を足してみようかな。
- ・やさしい性格を表すにはパステルカラーがいいかもしれない。



■友達に「自分のマーク」だとわかってもらうにはどんな形や色彩を使ったらいいか、工夫して考えているか見取る。

・友達からのアドバイスを参考にしながら、形や色彩にこだわってデザインをする姿を期待している。

重点①②

- ・方眼紙を用意して図案化しやすくする。
- ・アイデアスケッチを PC でも可とすることで、自分がやりやすい描き方を選択できるようにする。
- ・形や色彩がもつイメージや、形や文字を変化させる方法を具体的に紹介し、図案化する時のヒントが得られるようにする。

評価

【思考・判断・表現】

マークに込める意味や伝えたい内容などを基に主題を生み出し、わかりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。

(アイデアスケッチ、活動の様子)

【主体的に学習に取り組む態度】

美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく伝達の効果などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。

(アイデアスケッチ、振り返り、活動の様子)

支援を要する子供に対する手立て

各々の自己紹介シートを見せてもらい、それに関連するイラストや画像を PC で紹介し、想像しやすくする。文字の一部を変化させるだけでも十分に印象が変わることを伝え、簡単に描き始められるようにする。

本時の子供の姿

生徒達はオリジナルの缶バッジをつくるという点においては概ね興味を持って取り組んでおり、自分のリュックにつけて誰のものか分かりやすくするという目的も理解しながら制作していた。ただ、自分のマークをデザインすること自体に多少混乱が見られた。『マークとは絵ではなく図である。そのため形や色を単純化する必要がある。』という根本の部分、一つの題材で一度に理解するのは難しそうだった。「図にするってどういうこと?」「単純化って?」「絵じゃだめなの?」という質問が飛び交った。多方面から思考せねばならず、結果的には授業中「先生、これでいいですか?」と確認しに来る生徒が増えてしまった。第三者から見た自分を想像することも難しかったようで、どうしても自分が好きなものをモチーフに選んでしまう傾向が見られた。形や色彩を自由に設定しすぎたため、何から手をつけてよいか分からなくなってしまっている生徒もいたが、それぞれがなんとか形にしようと試行錯誤していた。途中、生徒間で作品を見合ったりアドバイスをし合ったりして協力する姿勢が見られた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

協議会では、まずこの題材が中学1年生にとって適切だったか否かという点で話し合いが行われた。「デザイン入門という割には題材が難しすぎたのではなかったか?」「自分自身をマークで表すって大人でも難しい…。」など意見を頂いた。

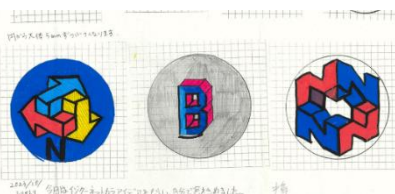
重点①②「方眼紙を用意して図案化しやすくする。」「アイデアスケッチを PC でも可とすることで、自分がやりやすい描き方を選択できるようにする。」という2点においては、効果が見られた。方眼紙を使うことでより図案化する感覚を持つことが出来ていたし、絵を描くのが苦手な生徒にとって PC の描画アプリはとても快適だったようだ。あまりにも簡単に描いたり消したりできるため、記録に残らずその生徒のアイデアの軌跡が読み取りづらくなってしまいう弊害もあった。方眼紙は必要な生徒だけに渡そうと思っていたが、結果的に全員方眼紙に下絵を描いていた。

重点①②「形や色彩がもつイメージや形や文字を変化させる方法を具体的に紹介し、図案化するときのヒントが得られるようにする。」については、内容を見直す必要があると感じた。授業の前半でいくつかスライドや教科書を用いて説明したが、一度に伝える情報としては多すぎて恐らく生徒の頭の中にはあまり残らなかったのではないだろうか。授業の後半で実際に制作している生徒の作品を書画カメラで映しながら、どうすればもっと作品がよくなるだろうかと皆で意見を出し合った時の方が、**図案化するときのヒントを得られている**ように感じた。その時には、「もっと要素を減らした方がいい。」や「大きく見やすく!」などの意見が生徒達から自然と出てきた。協議会后、**A デザインの中に文字を必ず一文字入れること、B 使っている色は 3 色まで(白黒含む)**という条件を追加し、他の条件も含めて毎時間黒板に提示し確認するようにした。

単元全体を振り返って

途中条件を追加したことで、生徒達は思考しやすくなったようだった。特に色数を制限したご陰で、一気にデザインが単純化した。中にはどうしても 4 色使いたいという生徒も現れたが、今回は入あくまでも絞ることが大切なのでよしとした。文字に関しては、アイデアが何も思いつかない生徒にとっては発想するきっかけになったようでよかったが、レタリングを授業で扱っていなかったため文字の形に対する意識が弱く、どうしても付け足したようなデザインも多く出てきてしまった。デジタルが普及したためレタリングを授業で扱う必要性を疑っていたが、デザインとは何かを考えるツールとしてはとても効果的なものかもしれない。

結果的には、それぞれ個性があふれた缶バッジが出来上がった。鑑賞は書画カメラを使いながらコンセプトと共に作品を紹介したが、自分の考えを人前で発表する良い機会になったと思う。一週間限定でリュックにつけてもらったが、その後も引き続きリュックにつけたり、筆箱や美術バッグにつけたりと、それぞれが作品に愛着をもっているようだった。

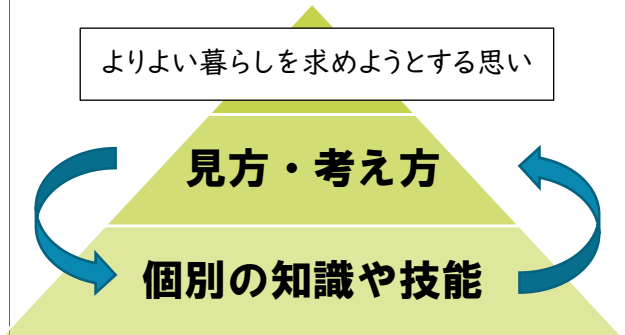


教科部で大切にしていること

よりよい暮らしを求めようとする思いを育てる

小学校 家庭科、中学校 技術・家庭科ではともに、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することが求められている。これにはまず、子供の「やってみようとする思い」を引き出すことが大切になると考えた。

身近な生活から自分事として課題を捉え、実践的・体験的な活動に評価・改善を繰り返しながら取り組む。そうして小学校で培った「学んだことを生かしたい」という思いを、中学校で「家庭や社会に役立てたい」という気持ちに繋げていく。これにより、子供の「よりよい暮らしを求めようとする思い」を育てていきたい。



願う子供の姿

○ 課題解決に向けて、よりよい暮らしを求めようと繰り返し取り組む姿

生活の中から、問題点を見いだす。その問題点の解決に向けて実践的・体験的な活動に取り組む。その活動を評価・改善していくことで、現状の生活をよりよくしよう、さらに豊かにしていこうという思いが育まれると考える。問題解決に向けて改善しようとする活動を繰り返すことで、よりよくしようとする姿へとつなげたい。そして、授業後も発展的に生活を豊かにしようとする気持ちをもてるようにしたいと考える。

○ よりよい暮らしに必要なすべを身に付けようとする姿

生活をよりよく豊かにするためのすべとは、知識や技能の習得に限らず、他者と協力して生活をよりよくしていくことも考えている。学びを進めていく上で、子供達には、知識や技能を身に付けたい、発揮したいと自ら進んで問題解決に向けて知識・技能を習得する必要性を実感することが欠かせないと考える。また、一人では解決できない場面に直面したときには、友達に相談したり考えを聞いたりすることで、友達と共に学ぶ良さや解決していくことの面白さを感じられることを願っている。

小中の取り組み

○ 身近な生活から自発的に問題点を見いだす学習過程

○ 授業の中で、身に付けたすべを使う必要性を感じる題材の工夫

小学校

身近な生活の中から問題を見だし、課題を自分事としてとらえ「やってみたい」と思える題材であるかを吟味する。また、学習の初めには、題材を通して自分の目指す姿を考える。そして、学習後には、学んだことを生かしたいと思える課題を設定する。そのような学びを積み重ねていくことで学習から離れた後も「やってみよう」という思いが生まれるように意識したい。難しそうだけど「やってみよう」という、自ら学びに向かう気持ちをもって友達と共に協力しながら課題解決ができるようにする。また、学習内容や、どのような力がついたのか、自らの成長を実感できるように学びの積み重ねを確かめられる振り返りを実践し、中学校への学びのつながりを見出すきっかけ作りとしたい。

中学校

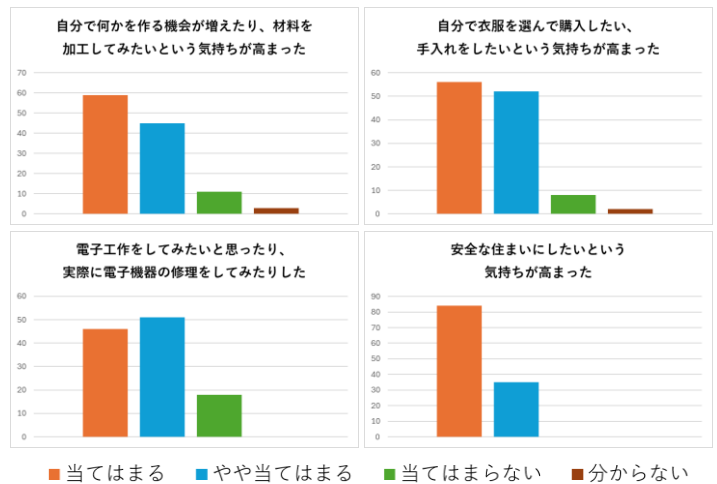
生徒自身が授業や家庭でも「挑戦してみよう」「やってみよう」と思えるように、生活の中から見つけた課題に対して自分なりの目標を立てられる題材、できた喜びや達成感を味わえる体験活動を充実させる。そうした体験的な活動を軸にして、授業では「生活をよりよくするための課題を設定」→「実践」→「取り組みを見直す」→「次の発想」へと促せるように、学習過程を重視する。そして、社会で生きる力となるよう他者との協働的な学びを取り入れ、多様な考えに触れながら課題解決に取り組めるようにする。また、授業で学んだことがらを振り返り、改めて生徒自身の生活の中で発揮できる、「やってみよう」という思いを大切にしていきたい。

取り組みに対する振り返り

成 果

分野・内容の学習後に学習によって、自ら生活を工夫する態度の伸長が図れたかどうかを調べるために、簡単な生徒アンケート(N=118)を行った。右はその結果の一部である。内容にもよるが、教科部で大切にしたこと「よりよい暮らしを求めようとする思いを育てる」はある程度達成できたように思われる。その一因としては実際の生活場面がイメージできるような環境を設定することで、授業でより具体的な対話ができるように促すことができたのではないかと考えている。

また、「思いを生かす環境づくり」を意識し、知りたい、触りたい、やってみたい、と思える実物を多く用意できたことが、子供たちの意欲につながったのではないだろうか。



課 題

上述のアンケートでは、主体性の高まりを感じる概ね良好な結果を得ることができたが、分野・内容によってその程度にはばらつきが大きい。これは、家庭科、技術・家庭科の学習内容が多岐にわたることに根本的な原因があると考えられる。つまり、別内容の学習に際しての結果がその子供が本来持っている特性や興味の方向性による影響を強く受けてしまったのではないかと。いわゆる「好き嫌い」が反映されてしまった結果であると考えられる。

このことは、我々の取り組みが、多岐にわたる学習内容の隔たりを超えて、生徒の主体性を伸長することに課題が残っていたことを意味していると考えられる。つまり、もともとの「嫌い」を覆すことのできるほどの働きかけができなかったということである。子供の本来の気質は無視できるものではないとはいえ、この点は改善をしていく必要がある。

また、授業後アンケートの自由記述には、「自分にあう衣服の形や色などを知ってみたいかったです。手入れの方法によっては汚れが落ちることもあり、その方法を身につけたいと思いました。」「海外のお家などの家はどのような工夫が凝らされているのがもっと調べ考えてみたいと思いました。」「もっと学びたいと思ったことは、のこぎりで木材を切断するというものです。理由は、まっすぐに切るためには、姿勢を意識し、のこぎりと同じ向きになるようにしなければいけないので、難しく、もっと学びたいと思ったからです。」といった、学習の成果の見直しと、改善への意欲、次の発想を感じさせられるものがあった一方で、「安全に過ごすためにどうすればいいかをもう少し考えたかった」「タグにあるマークがなかなか覚えられないことくらい。」といったように取り組みの質的・量的不足への言及にとどまるものも少なくなかった。子供たちが、「知り、考える→実践する→取組を見直す→次への発想」というPDCAサイクルの意識をもって学習に臨むためには、教員側が題材の見直しを持つことが重要だと改めて感じた。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

昨年度は、小中が共通して取り組む研究テーマとして、「やってみよう!を育てよう」を据えた。本年度もその方向性を継続し、教科部では「よりよい暮らしを求めようとする思いを育てる」を大切に研究を行った。主体的に取り組む態度を育成するという側面では、この方向性は一定の成果を出していると感じている。これは家庭科、技術・家庭科の根幹にある最も大切な部分であると考えているため、基本的にはこの方向性を継続して研究を続けていきたいと思う。

「実習を増やしたい。」という生徒の声は大きい。楽しく実習に取り組んでもらいたいというのもまた、教科の本質に迫る部分であると考えられるため、こういった声は大切にしていきたい。しかしながら、本教科における実習というのは、課題解決の場面であり、そこに至るには、問題発見、課題設定、解決策の検討といったプロセスを経る。それには、生活や社会で利用されている技術の仕組みと関係する科学的な原理・法則の基礎的な理解、生活の自立に必要な基礎的な理解を図る必要がある。これらの場面の学習に対しても、子供たちが主体的に取り組むことができるように継続して工夫していきたい。

題材名 光る「何か」を作ろう ～ちょうどいい明りを考える～

本題材に取り組む生徒の実態

生徒たちはこれまで、1年次の材料と加工の学習で、技術の評価と選択に取り組み、2年次1学期に生物育成の技術で技術の管理・運用に取り組むことで、技術の見方・考え方を培ってきた。材料と加工の学習の時点では、材料や加工法を「なんとなく」や「好み」で選ぶ姿が多くみられたが、学習を進めるにつれて材料の特性に合わせて工具を選んだり、使用場面を想定して仕上げの加工を決定したり、生物育成の技術の学習では、選択した技術を栽培している作物の生育状況に合わせて適切に利用しようとする姿が見られるようになった。

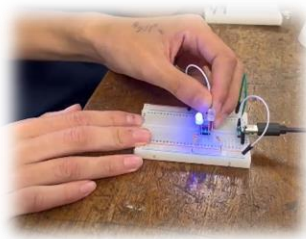
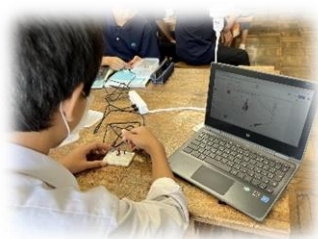
それに続く段階として、本題材ではエネルギー変換の技術の学習を通じて技術の改良による問題発見・課題解決に取り組む。製作する製品はLEDを用いた照明器具である。電子部品の特性を評価し、目的に合わせて選択することを基本とし、いくつかのスイッチや制御回路を組み合わせることで自分の目的に合致した製品を設計・製作できることを目指す。ただ、本校のカリキュラムでは理科で電気の学習に本格的に取り組むのは2年次3学期からである。そのため、電気エネルギーの利用についての基礎的・科学的な知識は身につけていない。

本題材設定の理由

エネルギー変換の技術の題材は大きく、電気回路の設計を伴う電気的なもの、ギアやカムを利用する機構的なもの、内燃機関や燃料電池などを利用する化学的なものの3つが考えられる。本題材は電気的なものに属するが、ほかの2つと比較すると、仕組みが小規模でコストが安くトライ&エラーしやすいこと、自由設計による改良がおこないやすいことなどのメリットがある一方で、電気は直接観察できないため直感的な理解がしにくいことや、電気回路の設計には各種の計算をはじめとした専門知識が必要になること、製品の製作にははんだづけなど時間がかかる上に修正が難しい工程が含まれることなどのデメリットがある。

そこで、本題材では製作する製品を「LEDを用いた照明器具」に限定することで必要になる基礎知識を限定し、回路設計は主にそのLEDをどのように制御するかという部分に焦点を当てる。設計の難易度としては物理的なスイッチを使ったものから、バイポーラトランジスタやMOS-FETをつかったものへと、幅を持たせたうえで、製作・修正のハードルを下げ、個別的な学習への取り組みを行いやすくするためにブレッドボードを利用する。これらの工夫により、習得が必要な知識・技能の難易度・専門性を抑えることができ、生徒は回路の工夫・改良に注力できることが期待される。

なお本題材は、『光る「何か」を作ろう』という製作のうち、第2段階目である「電流の流れを制御する部分」について取り扱うものである。本題材の前段階に、電気の基礎や安全な製作についての知識をもとにブレッドボードに親しむ段階があり、本題材の後に「負荷」と「電源」の構想を立てて実際の製品を完成させる工程がある。これらの過程で学んだことや気づいたこと、妥協したことなどを、次年度に扱うD情報の技術でプログラムによる計測・制御の技術に触れることでさらなる課題設定・解決活動に繋げていきたい。



本題材で願う子供の姿

自らの生活をよりよくするための照明器具の設計・製作を実現するため、習得した知識や技能を粘り強く使い、回路の修正・改良に取り組むことで、回路設計・回路製作を楽しむ姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能・エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについての理解ができています。	○生活や社会の中からエネルギー変換の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力を発揮している。	○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実にエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を涵養している。

本題材における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ生徒の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
<p>前題材『光る「何か」を作ろう ～ブレッドボードで LED を光らせよう!～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つの LED を点灯させる回路を作り、電気エネルギーを介したエネルギー変換の基礎に出会う ・microUSB からブレッドボードに給電するための変換基盤をはんだづけで製作し、点検する活動を通して、回路製作の技術を身に着けるとともに、電源の種類と電気エネルギーの安全な利用について考える 			
1	<p>○ポチッとボタンを押して LED を光らせることを楽しむ姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このボタン押していいのかな? ・どこがつながっているんだろう? ・いっぺんに光らせられる組み合わせはどれだろう? 	<p>【知識・技能】</p> <p>LED や抵抗器といった基礎的な電子部品と、プッシュスイッチ、タクトスイッチなどスイッチ類についての知識を持ち、ブレッドボード上に回路を安全かつ適切に作るができる。</p>	<p>重点①</p> <p>手で操作できるスイッチから電気回路設計の学習を始めることで、目に見えない電気の流れを感じることができるようになる。また、LED や抵抗器は必要なものを必要なだけ使える環境を整える。</p>
2	<p>○カチッとスイッチを動かして切り替える回路を考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源スイッチとして使うときは、回路のどこにスイッチを入れるといいんだろう。 ・スイッチを2つ使うと、階段のスイッチみたいなものを再現できるぞ。 ・スイッチを並列につないだり、直列につなぐと、ちょっと複雑な制御ができるね。 ・スイッチにもいろいろな種類がある。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>作った回路が想定通りの動作を示すまで、原因の追求と改善に取り組むことができる。</p>	<p>重点②</p> <p>簡単な回路設計から始め、それを拡張していく形で目的の回路の理解を目指す。これにより、スモールステップで複雑な回路の理解ができるようになることをねらう。</p>
3	<p>○明るさに反応する回路に出会い驚く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光センサに手をかざすと光る LED と、消える LED があるよ。 ・この黒い部品はなんだろう? 足が三本あって覚えにくいな…。 ・反応する明るさの調節はできるのかな? 	<p>【知識・技能】</p> <p>フォトトランジスタ、バイポーラトランジスタ、MOS-FET、電解コンデンサなどの電子部品について、基礎的な使い方と動作原理を理解し、回路図通りにブレッドボード上に回路を安全かつ適切に作るができる。</p>	<p>重点①</p> <p>ブレッドボード型ユニバーサル基盤で作ったりファレンスボードと、スライド資料を用意し、実物を手に取りながら回路の動作を考えられるようにする。</p>
4	<p>○MOS-FET の仕組みと使い方に迫り理解をしようとする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイッチを押すと消える LED があるよ。繋がったら消えるっていうのは不思議だな。 ・コンデンサは電気を貯めるのか。溜まった電気を使って LED が光るのかな? ・コンデンサと MOS-FET を組み合わせると、一定時間で消える LED が作れる。ボタンを押すと消える回路とどう関係があるのかな? 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>それぞれの電子部品の動作についての基礎的な理解に基づき、これらを組み合わせることで回路全体がどう動くかの推測を行うことができる。</p>	<p>重点②</p> <p>新しく学習した部品や回路について自分が理解したことを、ブレッドボード上に回路を試作することで検証するプロセスを経て、電子回路を発想する考え方が身に着けられるようにする。</p>

時	○学ぶ生徒の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
5	<p>○様々なスイッチと整流用ダイオードを組み合わせた回路の工夫を考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モーメンタリのスイッチはどんな時に使うと便利なのかな？ ・整流用ダイオードがあれば、電気が逆流するのを防ぐことができるのか。 ・中点付きスイッチを使えば、電源スイッチと機能選択スイッチを1つにできるかもしれない。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>自分が身の回りで役立てるために製作する「光る「何か」」に対して、必要な機能を検討し、回路を実体配線図、回路図やブレッドボード上で表すことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>検討した「電流の流れを制御する部分」の仕組みを使って、次に検討する「負荷」や「電源」と合わせ、製作全体の見通しを立てることができる。</p>	<p>重点①</p> <p>これまでに使ってきた、ブレッドボード型ユニバーサル基盤で作ったりファレンスボードとスライド資料には自由にアクセスできるようにし、必要な機能を実現する回路について考える活動に集中できる環境を作る。</p>
6	<p>○電流の流れを制御する仕組みの工夫に自分なりの新しい考えを導く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作りたい明りに必要な機能ってどんなかな？ ・スイッチやトランジスタを組み合わせた回路を考えてみよう。 ・回路を考えてみたけど、ちゃんと動くかブレッドボードで確かめよう。 ・もっと長く明りがつくようにするにはどうしたらいいかな？ 		<p>重点②</p> <p>図や資料を基に回路を検討し、検討した回路をブレッドボードで実証、動作確認をするというプロセスを経ることで、自分の作りたいものに必要な機能は何かを考え続けられるようにする。</p>
<p>次題材 『光る「何か」を作ろう ～LEDの光り方を考えて、製品を完成させよう～』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品の使用目的や使用場面に応じて、「負荷」と「電源」を検討する ・「負荷」はLEDの色・数・明るさのほか、LEDドライブICを活用して「点滅」「ランダム点灯」といった光らせ方についても検討する ・「電源」は回路の安全性を確認した上で乾電池の利用ができるかどうかを検討する <p>・使用目的や使用場面に応じて決定した「電流の制御をおこなう部分」「負荷」「電源」をブレッドボードで製作、適切な容器に格納し、価値のある製品に仕上げる</p> <p>・製作品を評価し、部品のコストを計算する活動を通して、技術の見方・考え方を働かせ、生活や社会におけるエネルギー変換の技術の適切な利用と、改善・修正について考える</p>			
<p>次内容 D(3) 計測・制御のプログラミング との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活場面での問題を解決する活動から、社会における課題に着目する視点を養う ・光センサ回路やタイマー回路の学習から感じた「電流の流れを制御する仕組み」の不自由さを、コンピュータとプログラム、様々なセンサを利用したデジタル制御で解決できることに気づく ・micro:bitを用いた問題解決の場面で、ブレッドボードを活用した外部回路を製作することで解決できる問題の幅が広がることに気づく ・情報技術の基礎には、電気を利用したエネルギー変換の技術があり、人類の技術が日進月歩で進化してきたことを感じ、技術を工夫していくことの大切さに気づく 			

本時で目指す子供の姿

- 「ぴったりの照明器具」のためには、どんな制御方法を使えばよいか考える姿
 - ・ 常夜灯にするなら、暗くなると自動で光ると便利だな。
 - ・ 寝るときに使うつもりだから、時間がたつと勝手に消えるといいな。
 - ・ スイッチの使い方を工夫してみようかな。

○学ぶ生徒の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○「光る何かを作ろう」の最終目標を意識してどんな使い方をしたいか考える姿

- ・ 寝るときに真っ暗だと怖いから、ベッドライトを作ろう。
- ・ 廊下が暗いと不便だから、常夜灯として使いたいな。
- ・ 勉強をするときのために明るく冷たい強い光と、リラックスするときのために温かみのある優しい光で切り替えられるようにしたいな。

■課題解決のプロセスをなぞる考え方ができているか

自分の製品の使い方を考える



その使い方のための機能を考える



その機能のための部品・回路を考える



考えた回路の動作を検証する

○ その使い方をするためには、どのような条件で機器を制御すればよいか考える姿

- ・ 寝た後は明りはいらさないから、勝手に消えるといいな。
- ・ 廊下が暗くなると自動で光るようになるといいな。
- ・ 光る LED を切り替えられるようにしないとだめだな。

■考えたことや分かったことを、生活場面で活用することや次の設計に繋げているか

- ・ 課題を発見することが苦手な生徒には、学習した回路で解決できそうな課題といえどどのようなものがあるかを考えるというアプローチを試すように促す

○ 条件通りの動作に必要な部品や回路を考える姿

- ・ MOS-FET とコンデンサを使ったタイマー回路を作って一定時間で消えるようにしよう。
- ・ フォトトランジスタを使った光センサ回路を組み込めば、暗くなったら自動点灯できるような気がする。
- ・ 電源スイッチのほかに、光らせる LED を選ぶ選択スイッチをつければいいと思う。

重点①

ブレッドボード型ユニバーサル基盤で作ったリファレンスボードと、スライド資料を用意して、自分が必要な機能を実現する回路について深く理解するための資料にアクセスしやすくする。

○ 考えた回路をブレッドボードで試作し、動作を確かめ、検証や調整に試行錯誤する姿

- ・ 点灯する時間が短いから、抵抗器を大きくしてみよう。
- ・ 明かりがつく明るさの調整はどうしたらいいのかな？
- ・ 中点 OFF 付きスイッチなら電源スイッチはいらさないな。

重点②

図や資料を基に回路を検討し、検討した回路をブレッドボードで実証、動作確認をするというプロセスを経ることで、自分の作りたいものに必要な機能は何かを考え続けられるようにする。

○ 考えた回路を記録し、次の目標を考える姿

- ・ 「電流を制御する部分」は決めたから、今度はどんな光り方をさせるか考えたいな。
- ・ 常夜灯だから、電源は電池じゃない方がいいかなあ。

評価

【思考・判断・表現】

- ・ 自分が作りたいと思った「光る「何か」」についてその回路のうち「電流を制御する部分」を、自分の作るものの目的に応じて検討し、リファレンスの回路を自分なりの新しい考え方を発揮して改良できているか。 (ワークシート)

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 「電流を制御する部分」の設計に、自分の考えを検証し、改善するプロセスをへて臨むことができたか。(ワークシート)
- ・ 「光る「何か」」の残りの部分の設計に継続して取り組むことができているか(今後の活動での見取り)

支援を要する子供に対する手立て

- ・ 「電流を制御する部分」の設計は、難易度順では、「電源スイッチのみ」「電源スイッチと機能選択スイッチを組み合わせる」「光センサを使ったスイッチング回路」「コンデンサを使ったタイマー回路」「その他の部品を使う回路」と段階がある。比較的易しいレベルの中から、目的に合った設計ができる余地がないか働きかける。
- ・ リファレンス回路をブレッドボード型ユニバーサル基盤を使って示すことで、マネなら簡単にできるという環境を作る。
- ・ Chromebook にスライドや PDF などの資料を用意することで、必要な資料にアクセスしやすい環境を作る。
- ・ 回路図や実体配線図が難しい場合は、試作した回路の写真を撮ることで記録するように促す。

本時の子供の姿

本時は、「ぴったりの照明器具」を設計するための制御方法を考える姿を目指して計画した。この活動に、生徒が主体的に取り組むためには、照明器具を作ること自分事として捉えることや、そもそも「創りたい!」という気持ちを高めること、分かるようになる楽しさを感じさせることなどが必要と考え、前時までの題材内でそのための働きかけを工夫していた。

本提案においての本時はその上で、自分なりの設計を行うためのツールを多く提供することで、生徒たちが自身の到達度や思考の特性に合わせた方法で自由に発想し、構想を具体化できるようにしたいと考えた。



本時の生徒たちは思惑通り、様々な手段を使って設計を具体化しようとしていた。これまでの授業でも示し続けていたリファレンスボード(左写真)を使って動作を確認しながら、自分の設計に生かせる部分を探していく様子を見せていたり、Chromebook に用意したスライドを利用して部品同士の接続を確認しながら設計したりしていた。

さらにこれらのツールを使いつつも、不足したり、合わない部分については普段の授業に使っている大学ノートに構想をまとめる姿(上写真)なども見られた。自分に合わせたものを創ること、自分に合わせた考え方が選べるのがうまくかみ合い、活発な学習活動が見られた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

協議で話題に上ったテーマの一つは、題材観に関わる部分で、「エネルギー変換の技術」の製作を自由設計で行うための工夫についてのものであった。力学的な機構によるエネルギー変換の技術の利用と異なり、電気エネルギーを利用する製品を製作することは難しく、どの程度の自由度を担保するのか、安全性をどう確保するか、難易度を下げるためにはどうするか、といったところがやはり難しく、まだまだ研究が必要なところだと感じた。

ブレッドボードで照明器具を作る活動については、「照明器具」という部分はLEDの特性から広く支持を集めたが、あくまでも試作用という側面が強いブレッドボードで完成品まで作ることは、賛否が分かれた。

トライ&エラーで進めていける教具であることは、解決のすべの育成に一定の効果がある。自由な製作に取り掛かるためにはある程度の慣れが必要な側面は、「やりたい!」を引き出すことの難しさにつながっている。豊富な選択肢を用意し、自分が使いたい部品や作りたい回路を自由に選択できる環境が作りやすい点は他に代えがたい。

本題材の延長に、社会の発展と技術の学習があるべきだということを念頭に置いて、これからも研究を継続したい。

題材全体を振り返って

本題材はこの後、「電気エネルギーを使う部分を考える」活動に入った。本時までに考えていた「電流を制御する部分」と併せて、製品の最終的な構想を行い、自らの生活をよりよくするための製品として完成させることを目指した。照明器具は、日常生活にすでにありふれたものであり、多種多様なものが安価に手に入る時代でもある。そのなかでわざわざ「ぴったりの照明器具」を作ることの本質的な意義にどれだけ生徒たちを近づけさせることができたのかと心細く思っていた。

ただ、最終的な完成レポートでは、明確なコンセプトを持って製品の設計を行った様子であるとか、その完成のために思考錯誤を重ねた様子を多く伺い知ることができた。

理科で電気分野の学習が未習であるにもかかわらず、(細かい図法は別として)回路図をかき、回路設計ができるようになった生徒の姿を感じる事ができた。2年次に扱う題材として、技術を生徒たちなりの新たな発想に基づいて改良する場面を設定できた、といったところは一定の成果があったと改めて感じる。今後も題材観、環境づくり、支援の手立てといったあらゆる側面から、資質・能力の育成のための改善を続けたい。

照明器具の完成写真

制作過程

制作内容

制作の目的

制作の経緯

制作の感想

回路図

部品名	数量	単位	備考
電源	1	個	
マイコン	1	個	
LED	10	個	
抵抗	10	個	
ジャンパー線	10	本	

制作の感想

制作の課題

制作の成果

制作の反省

制作の展望

題材名 **幸せな衣服の選び方 ～サステイナブル・ファッション～**

本題材に取り組む子供の実態

ガイダンスでは、よりよい生活に向けて授業で大切にしたい見方・考え方について話し合った。生活をよりよくするためには、地域や家族と「協力・協働」することや、「健康・快適・安全」に生活すること、日本の伝統文化の良さに気づき「生活文化の継承・創造」をしていくこと、「持続可能な社会の構築」のために自分にできることは何かを考えていく視点が大切であるということ共有した。学習活動で考えたよりよい生活にするためのすべとなるキーワードは「学びの記録」に書き溜めて、課題に取り組む際に見返せるようにしている。

1学期は住生活について学習した。現在の日本の住居は和洋折衷が多く、和式の良さや洋式の良さを取り入れるなど、よりよい暮らしをするために工夫した住まいが多く存在していることをおさえた。また家庭内での事故を防ぐためには、高齢者や幼児の身体的な特徴を踏まえ、誰もが安全に安心して生活できる住まいの工夫が必要であることを学んでいる。このように自分だけが良い生活を送るのではなく、他者にとっても良い生活になるような共生の視点も日ごろから意識して授業を行ってきた。

本題材設定の理由

小学校家庭科では、「衣服は季節や活動に応じて暑さや寒さを調節したり、けがや汚れを防いだり、運動や作業をしやすくする」ということを学習してきている。中学校ではその内容に加え、衣服には敬意やお祝いなどの気持ちを表現するために社会的慣習に合わせてたり、個性を表現したりするなど、社会生活を円滑に送るために大切な働きがあることを理解する。また、現在はファストファッションが流行し、多くの衣服が安価で生産されている一方で、大量廃棄が問題となっている。フランスでは2022年1月から売れ残った新品のアパレル製品を廃棄することを禁ずる「衣服廃棄禁止令」が施行されたというニュースもある。持続可能な社会の構築をしていく上で、衣服の選択と購入から手放すまでを見通し、計画的な衣服の活用ができるようになることは、重要な力である。

本題材ではコーディネートを考える活動の後、ファッションと環境の現状を伝えることで、内容C「消費生活・環境」との関連をはかる。多くの衣服をコーディネートして自分を表現することから、生産者や商品にとっても幸せな衣服選択ができるようにしたい。そして、持続可能な生活をしていくためには、どのような衣服を選択すると良いかなど、環境への配慮まで考えられることを期待している。



本題材で願う子供の姿

- 衣服の選択と購入から手放すまでを見通すなど、環境や資源にも配慮した衣服の選択ができるようになる姿
- 衣服の選び方を捉え直し、よりよい衣生活を求める姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 ○衣服の計画的な活用の必要性について理解している。	○衣服の選択について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

本題材における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1 2	<p>○衣服の役割について考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも制服を着用しているけれど、私服になると印象が変わる人が多いな。 ・なぜ制服を着用するのか? 衣服には体を清潔に保つだけでなく、TPO に合わせた着用が求められることがある。 ・日本人が昔から着てきた和服には文様があって、その文様にはいろいろな意味が込められていて素敵だな。 	<p>【知識・技能】 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。(定期試験)</p> <p>【思考・判断・表現】 衣服の選択について問題を見いだしている。(学びの記録)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>重点① 私服を着用し、互いに衣服選択の視点を伝え合う場をつくる。</p> <p>重点② 授業で得られた知識や考えたことは「学びの記録」に残すように伝え、よりよい衣生活を追求する際に活用できるようにする。</p>
3	<p>○衣服の選択に必要な知識を考え出す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネートするときは、TPO、サイズ、着心地、手入れのしやすさなどを考えよう。 ・衣服の表示には多くの情報がつまっているよ。 ・組成表示に載っている繊維にはどんな特徴があるのだろう。 ・手入れの仕方を確認するときは取り扱い表示を見よう。 	<p>衣服の選択についての課題に主体的に取り組もうとしている。 (学びの記録)</p> 	<p>重点② 衣服の選択に必要な知識を協働的に学べるようにグループでスライドにまとめて共有する。</p> 
4 5	<p>○必要な情報を収集し、コーディネートを検討する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着心地が良く動きやすい服がいいな。 ・明るい印象を与える服は何色かな? 柄がない方が自分に似合うかな? ・保温性の高い繊維はどんな繊維かな? 冬に適した繊維を使った服にしよう。 ・取り扱い表示を見て、手入れがしやすい衣服を選ぼう。 	<p>【思考・判断・表現】 衣服の選択について課題を設定し、解決策を構想している。(ワークシート)</p> 	<p>重点② 友達と評価し合いながらコーディネートができるようにグループで対話をする時間を設定する。</p> 
6	<p>○衣服と環境の現状を知り、衣服の選択について捉え直す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服が大量に廃棄されていて驚いた。 ・衣服を手放す時のことを考えると、計画的に買うことや、廃棄の仕方については考えなければならないな。 ・衣服を購入する際は、環境への配慮についても忘れてはいけないな。本当に必要なかを考えて着回しができるものを選ぶとよいかもしれない。 	<p>【知識・技能】 衣服の計画的な活用の必要性について理解している。(定期試験)</p> <p>【思考・判断・表現】 衣服の選択について実践を評価・改善している。(ワークシート)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 衣服の選択について実践を評価・改善しようとしている。(学びの記録)</p>	<p>重点① 着られなくなった(着ていない)衣服を提示して、実物に触れながら考えられるようにする。</p> <p>重点② 授業で得られた知識や考えたことは「学びの記録」に残すように伝え、よりよい衣生活を追求する際に活用できるようにする。</p>
7	<p>○衣服選択についての考えをまとめる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服が環境に与えている影響は大きいから、衣服を選ぶ時は、自分のことだけではなく、環境のことも考えて選んでいこう。自分も環境も衣服も、みんなが幸せになれる衣服の選択ができるとうれしいかもしれない。 ・着用するときは、正しい手入れの仕方を確認して実践し、衣服を長持ちさせよう。 ・次は衣服を長持ちさせるための手入れの仕方を詳しく学びたいな。 	<p>【思考・判断・表現】 衣服の選択について考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(学びの記録)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 衣服の選択について考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付け、実践しようとしている。(学びの記録)</p>	

本時で目指す子供の姿

- ファッションと環境の現状を知り、自分にとっても生産者や環境にとっても幸せな衣服の選択ができるように、よく考えて衣服を選択・購入していこうとする姿。
 - ・衣服を選ぶ時は、自分に似合うかどうかや着心地が良いかだけでなく、大量購入が環境に与える影響も考えながら慎重に選ぼう。衣服を長く使えるように正しい手入れの仕方を学びたいな。

○ 学ぶ子供の姿 ・具体的な発言や反応

○ 環境省「ファッションと環境の現状」を確認し、サステナブル・ファッションを目指して、自分にできそうなことは何か、題材の目標を見通す姿

- ・衣服が大量に廃棄されていて驚いた。
- ・衣服を手放す時のことを考えると、衣服を買うときや廃棄の仕方については工夫しなければならないな。
- ・自分の家にも着られなくなった服があるかもしれない。

○ 着られなくなった(着ていない)衣服を見ながら、着られなくなった理由を対話する姿

- ・サイズが小さくなってしまったのかもしれない。
- ・破けてしまって補修をするのが面倒くさくて、着なくなったのかもしれない。

○ 衣服の入手から手放すまでの一連の流れを再確認する姿

- ・衣服は購入して着用するだけではなかったな。
- ・購入する時や着用する時、手放す時、それぞれの時に工夫できることがありそうだな。

○ 衣服の入手から手放すまでの一連の流れを再確認し、一連の流れのなかで自分にできることを考え直す姿

- ・衣服を購入する際は、環境への配慮についても忘れてはいけないな。
- ・本当に必要なのかを考えて着回しができるものを選ぶとよいかもしれない。
- ・サイズが小さくなってしまったら、他人にゆずることができそう。衣服ではない物に作り変えることもできそう。
- ・店舗に服のリサイクル回収箱があるからそういったところに出すという方法もあるな。
- ・体の成長を考えて、少しゆとりのあるサイズの衣服を選ぶと良いかもしれない。
- ・長く使うことを考えて購入しても、手入れの仕方を誤ると、着られなくなることもあるから、手入れの仕方も大事なのだな。「取り扱い表示」を見て正しい方法で手入れができるようになりたいな。

■ 子供の見取りプラン



重点①

着られなくなった(着ていない)衣服を提示して、実際に触れながら考えられるようにする。

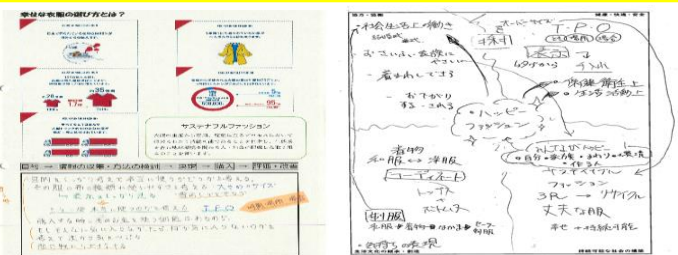


■ 衣服が与える環境問題を考慮し、衣服の選択について再検討しているか。

・自分にとっても生産者や環境にとっても幸せな衣服の選択ができる姿を期待している。

重点②

授業で得られた知識や考えたことは「学びの記録」に残すように伝え、よりよい衣生活を追求する際に活用できるようにする。



評価

【知識・技能】

衣服の計画的な活用の必要性について理解している。(定期試験)

【思考・判断・表現】

衣服の選択について実践を評価・改善している。(ワークシート)

【主体的に学習に取り組む態度】

衣服の選択について実践を評価・改善しようとしている。(学びの記録)

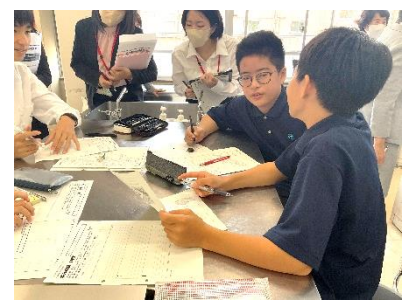
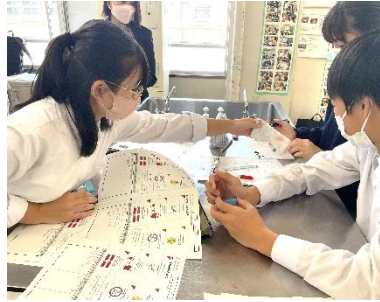
支援を要する子供に対する手立て

コーディネートのワークシートと環境省の資料を比較しながら衣服の選択に足りない視点がもてるように促す。環境省の動画からサステナブル・ファッションに向けて企業が取り組んでいることを振り返り、消費者である私たちにできることを考えられるように働きかける。

本時の子供の姿

本時は、よりよい衣服の選択について考えた。前時の衣服のコーディネート学習を振り返った後、資料を提示して環境への配慮も視野に入れながら衣服を選択する姿を目指して授業を展開した。

技術・家庭科(家庭分野)で大切にしたい見方・考え方の一つである「持続可能な社会の構築」は、普段の生活のなかで捉える事が難しい。そのため、本時では環境省の「ファッションと環境の現状」データを共有しながら衣服の選択について考えた。生徒たちは、衣服の生産と廃棄が環境へ負荷を与えていることに驚き、衣服は自分に似合うかどうかだ



けではなく、本当に必要なのか、手放すときは廃棄以外の方法はないかなど、環境や人、物への配慮をする必要性を感じている様子が見られた。その後は破れて着られなくなった衣服を用意し、実際の場面をイメージしながら衣服選択に必要な視点を考え直す活動を行った。対話を重ねながら、「買う時」、「着る時」、「手放す時」の三場面について考えを共有した。生徒からは「体の成長を考えて長く着られる衣服を選びたい」「長く使用できるように正しい手入れをしたい」といった意見があった。



研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

【重点①】着られなくなった(着ていない)衣服を提示して、実物に触れながら考えられるようにする。

→実物があることで具体的な生活場面が想像できた。

【重点②】授業で得られた知識や考えたことは「学びの記録」に残すように伝え、よりよい衣生活を追求する際に活用できるようにする。→学習を振り返る際に活用している姿が見られた。

研究協議では、衣服の選択場面を限定したことについて意見があった。本時では衣服を「買う時」「着るとき」「手放す時」の三場面について考えていたが、衣服の一生を考えて衣服を「生産」「入手」という部分にも注目させ、衣服は購入するだけではなく、作ったり、他人から譲り受けたりする方法もあるということも伝え、授業でそういった方法を推奨していく必要があるのではないかという意見をいただいた。

本題材の私服を着用し、日ごろの衣服選択の視点を伝え合う活動はいくつかの学校で行っていた。制服を着用する中学校では、私服を着用することで人に与える印象が変わり、衣服の役割について考える事ができるといったメリットもあるが、私服で自分を表現することが苦手な生徒もいる。そういったことも踏まえて生徒全員のプライバシーに配慮した活動も今後考えていく必要があると感じた。

題材全体を振り返って

本時では、衣服を「買う時」、「着る時」、「手放す時」の3点について考えたが、衣服の生涯を考えて「生産」→「入手」→「着用」→「手入れ」→「処分」と場面を限定せずに考えさせても良かった。

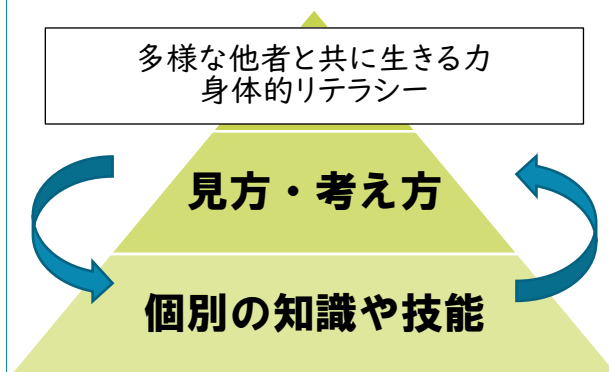
多くの生徒が衣服選択において、自分のことだけではなく環境への配慮をするという考えを記していたが、「本当にできるのか」ということを問う時間も設定できたと思う。

題材の学習後に生徒にアンケートをとったところ、「コーディネート共有し合う時間がもっとほしかった。」「洋服の系統・種類についてもっと詳しく学びたかった」など、コーディネートについての関心が高かった。ただ実習をするのではなく、知識を得て活用することで実習が楽しい!もっと知りたい!と思える授業展開を模索していきたい。

教科部で大切にしていること

多様な他者と共に生きる力&身体的リテラシー

ウェルビーイングの考え方が重視される世の中にあって、体育科では豊かなスポーツライフの実現に向けて、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力の育成が求められている。本校では、多様な運動経験を持つ子どもたちが、その違いを包摂して、楽しみながら自らのよさを発揮し、十分に運動の特性に親しめる体育学習を目指している。そのために、課題解決に向けて協働的に学び、共に楽しい時間を創っていくを通して、多様な他者と共に生きる力と身体的リテラシーを高めていく。



願う子供の姿

- 多様な他者と共に協働的に課題解決をしながら、楽しい時間を創ろうとする姿
- 自他を振り返り、次の見通しをもって、自らの思考や行動を調整しようとする姿
- 生涯にわたって運動やスポーツに親しもうとするメンタリティとそれを可能にする健やかな身体を目指す姿

小中の取り組み

- 魅力的な材の選定と場づくり
- テーマや問いの精選・再構築
- AARの学習プロセス・ICTの活用
- ギリギリを生み出すアダプテーション
- 安心・安全な場づくり
- 学級の雰囲気とよりよい人間関係づくり

小学校

子どもが思わずやってみたくくなるような魅力的な材の選定と場づくりを重点に置き、子どもが時間も経つのを忘れて、何度も何度も運動や運動遊びに取り組み、夢中になる姿を引き出していく。そうした、「運動への没頭」が、子どもが運動の特性に十分に親しみ、身体感覚を養っていくためには必要である。そこで、子どもたちがいつでも自由に関わることができる場を校内に常設し、定期的にアップデートする試みに取り組んでいる。また、多様な運動経験を有する子どもたちが運動に没頭するためには、第一に安全・安心な環境が不可欠となる。用具や行い方の工夫をはじめ、思ったことや考えたことを自由に言い合える雰囲気や「聴き合い」の関係性を築いていくことも重要である。多様な他者と関わりながら、子どもたち自ら場や行い方を工夫し、協働的に学び、共に楽しい体育の時間を創っていくとする営みを経て、結果的に一人ひとりの身体的リテラシーが高まっていくような授業をデザインしていく。

中学校

生涯にわたり心身の健康の保持増進を図るために、身体的リテラシーを育成する。中学校では、運動の特性や魅力に触れながら、自然と技能を身につけられる授業や思考を働かせ、自己実現に向けた協働的な学びの場を追究する。そのために、自己の問題を捉え、解決のためのすべを学び、実現に向け没頭できる場を設定していく。また、没頭できるための適切な「問い」を示し、生徒たちの思考を働かせる場面をデザインする。

中学校では、さらに、動画や写真を撮り合い、相互評価をすることで、1つの「問い(課題)」に対し、仲間と協働して解決する力を高めていく。そして、小中9年間のゴールとして、「自ら考え、活動したことをパフォーマンスとしてフィードバックし、生かしていく」ことや、自分たちに必要なアダプテーションを考えていくことで「楽しさの創造」を目指していく。

取り組みに対する振り返り

成 果

魅力的な材の選定や安心・安全な場づくりを進めてきたことや、授業者によって意図的に仕掛けられた環境が子供たちに働きかけることによって、子供の思いや動きを誘発し、様々な運動経験を有する多様な子供たちが次々と運動に没頭していく姿が見られた。授業を通して、子供たちが時間の経つのも忘れて繰り返し運動に取り組むことによって、領域や単元の運動の特性に十分に親しんだり、その魅力に触れたり味わったりする場面を数多く創り出すことができた。そして、材の選定や場づくりだけに留まらず、利他的な人間性や双方向の聴き合いの関係性を重視し、全ての活動の前提となる学級の雰囲気やよりよい人間関係を構築することで、子供たちが安心して運動に取り組む姿に結びつけることができた。そのことにより、体育部で大切にしたい、「多様な他者と共に生きる力」が育まれていく場面を創り出すことができてきたのではないかと感じている。また、適切なテーマや問いを精選・再構築することで、子供たちが夢中になりながら、問いや課題について思考し、AARの学習プロセスを回していくことにつながってきている。単元を通してテーマに立ち返ったり、その都度子供たちに問い返してきたりしたことによって、子供たちが自身や自チームの課題に向き合い、場や行い方・ルールを工夫しだし、協働的に学びながら共に楽しい体育の時間を創る営みに向かっていった。運動への没頭や多様な他者との協働的な学習によって、結果的に子供たちの身体的リテラシーを高めることができたのではないかと考える。

課 題

「勝つ・負ける」「できる・できない」の間のギリギリを楽しむためのアダプテーションを学習過程に取り入れてきたが、一部の子供の姿を観察していると、子供自身がアダプテーションを何のために行っていくものなのか、そうすることのよさはどのようなところにあるのかを実感し、自ら意味を見出すまでに至っていなかったり、体育の学習への姿勢や理念について、子供と授業者との思いの共有が不十分だったりして、やや形式的なものになってしまっていたのではないかと感じる場面があった。多様な運動経験を有する全ての子供が、その運動ならではの楽しさを味わえるようにするための状況や環境を生み出すことがアダプテーションの意図するところであるが、子供の中でアダプテーションをすることが目的化してしまっていたのではないかという懸念が生じるようになった。

また、ICTの活用場面が限定的になってしまい、子供が自らの課題解決のために主体的に活用できるような支援を十分に行うことができなかった。小学校では、学習の様子を授業者が撮影したものを提示することについては、日頃から取り組むことができていたが、子供たち自身が撮影したり、互いに撮影した動画を視聴したりして、自己の気付きを促したり、子供同士のコミュニケーションを促したりする場面を生み出す機会を充足するという点で課題が残った。中学校では、子供たち一人ひとりが学習の様子を撮影したり、ふり返りをジャムボードに記録して共有したり、学習のまとめをスライドで作成したりすることができたが、蓄積した情報を子供たち自身が取捨選択し活用することは難しかった。

見通し(Anticipation)・実行(Action)・ふり返し(Reflection)のAARの学習プロセスを子供が自ら回していくために、授業者自身のAARの学習プロセスについて一層意識的に取り組みながら教育活動を行っていくことが必要だと感じている。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

体育部が考える最も大きな成果は、様々な運動経験を有する多様な子供たちが運動に没頭し、運動の特性に触れる機会を多く創り出すことができたことである。夢中になって運動に取り組める環境をデザインし、子供一人ひとりの目の輝き、生き生きとした表情、ダイナミックな動きなどを引き出すことは、授業者の願いであり喜びである。技能を身につけさせることを第一義的な目的とせず、子供が運動に没頭することで、自然に・結果的に子供の身体的リテラシーが高まっていくことを実感できた。また、運動への没頭を念頭に置いて授業をデザインし、単元を貫くテーマを設定したり、その運動の特性を子供たちと共有したりすることを大切にしてきた。この点を継続しながら、一層子供の学びの文脈を重視し、子供たちの学びが必要感や必然性のある学びになっていくことで、子供の思考を促し、AARの学習プロセスがよりよく回っていくように支援していきたい。

そして、先の課題でも触れたように、子供たちがアダプテーションを手段として、「いつでも、どこでも、だれとでも」運動の楽しさを味わうことができるように、みんなで楽しい体育の時間を創り出すことができるように、自らの営みやかわりに意味を見出したり、学級やグループで価値付けしたりできるように、改めて子供たちとじっくりと向き合っていきたい。利他的な人間性や聴き合いの関係性を重視し、子供一人ひとりの成長を願い、よりよい人間関係づくりに努め、「多様な他者と共に生きる力」と「身体的リテラシー」が高まっていく教育実践に取り組んでいきたい。

単元名 踊らにや song!song!2-3フェス!

本単元に取り組む子供の実態

マットを使った運動遊びでは、様々な場で転がったり逆さまになったりすることに没頭する姿が見られた。単元後半では、教師の提示した場をさらに楽しくなるように、子供達が場の工夫を行った。どのような工夫をするのか話し合う場面では、「マットを重ねて高くしようよ」「でもそれだと怖い子もいるんじゃない」「じゃあ低い方も選べるようにしよう」というように、それぞれの思いを聴き合って折り合いをつけながら、誰もが楽しめる場の工夫を目指す姿が見られた。鬼遊びでは、攻めと守り(鬼)のチームに分かれて、タグを取られる・取れられないの間、すき間を突破する・突破させないの間を楽しんでいた。単元前半は一人で突破する、タグを取ることを楽しむ子が多かったが、「仲間と一緒に行ったら突破できた」「自分がおとりになったら仲間が突破できた」「鬼が一人に集まると他の人に突破された」といった気づきを全体で共有することで、だんだんと仲間と共に楽しむ姿が増えていった。

本単元設定の理由

学習の様々な場面で、子供達が答えを1つ見つけて満足したり、間違いやみんなと違うことを恐れて消極的になったりする姿が見られる。子供達は社会に出てから、答えが1つではない、答えが無い課題に向き合うことになる。その際には、仲間との協働や試行錯誤を繰り返す粘り強さ、他者との違いを恐れない・受け入れる価値観などが求められる。本単元ではこれまでの体育の学習とは異なり、できる・できないや勝つ・負けるではなく、自分の動きに自信をもって踊ったり、独創的な動きを生み出したりすることを楽しんでほしい。そのために、まずはリズムに乗って思いつくまに体を動かしてみることや、うまく踊れない時は仲間の動きを真似してよいことを単元のはじめに共有する。子供達が安心して踊れる雰囲気の中で、子供達のノリノリになって踊る姿を引き出していきたい。

用具や場から動きが誘発される、アフォーダンスの考え方は体育の授業デザインにおいて重要な要素である。リズム遊びでは、子供達が自然とリズムに乗って体が動き出すような音楽が大切になる。単元のはじめはどの子も踊りやすいように、リズムがはっきりしていて適度な速さの曲で踊り、リズムに乗って体を動かす楽しさを全員が感じられるようにしていく。単元中盤では、子供達の動きを広げていくために、「ズンズン」「くるくる」などのオノマトペを提示し、言葉からイメージする動きを取り入れながら踊るようにしていく。単元後半では、テンポの速い・遅い曲や曲調の変わる曲など、様々なタイプの音楽を、それまでに行ってきた動きを生かしてノリノリになって踊れる姿を目指したい。単元の最後には、音楽フェスのようにクラス全体が自分なりのノリノリな姿で踊る空間を、子供達が創り出せるようにしていきたい。



本単元で願う子供の姿

- リズムに乗って即興的に踊ることを楽しむ姿(機能的特性を味わう姿)
- 仲間と調子を合わせて一緒に踊ることを楽しんだり、仲間の動きを認めたり取り入れたりする姿【多様な他者と共に生きる力】
- リズムに乗って弾む動きを中心に、ねじる・回る・移動するなどの動きを繰り返して即興的に踊る姿【身体的リテラシー】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○リズム遊びの行い方を知り、軽快なリズムの音楽に乗って弾んで踊ったり、友達と調子を合わせたりして即興的に踊っている。	○軽快なリズムに乗って踊る簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達と聴き合っている。	○リズム遊びに進んで取り組み、誰でも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○リズム遊びの行い方を知り、リズムに乗って踊ることを楽しむ姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽がかかると自然と体が動くね ・どんな動きをすればいいのかな ・迷った時は友達の動きをまねして踊ってもいいんだね 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>リズム遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとしている。(観察、振り返り)</p>	<p>重点①</p> <p>まずはリズムに乗って思いつくままに体を動かしてみることや、うまく踊れない時は仲間の動きを真似してよいことを単元のはじめに共有し、子供達が安心して踊れる雰囲気を作る。</p>
2 3 4	<p>○踊り方のバリエーションを増やしたり、仲間と一緒に踊る楽しさに気づいたりする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を大きく振るとノリノリな感じになるね ・友達と列になって踊ると楽しいね ・膝をまげて弾むと「ズンズン」になるね ・「くるくる」は、腕を回す動きと自分が回る動きの両方があるね ・腕をねじって「ぐにゃ」の動きをしてみたよ ・止まって「ビシッ」とポーズをとるとかっこよくなるね ・〇〇さんの踊り方がかっこいいからまねしたいな 	<p>【知識・技能】</p> <p>軽快なリズムの音楽に乗って弾んで踊ったり、友達と調子を合わせたりして 即興的に踊っている。(観察、振り返り)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>軽快なリズムに乗って踊る簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。(観察、振り返り)</p>	<p>重点①</p> <p>子供達が自然とリズムに乗って体が動き出すように、リズムがはっきりしていて適度な速さの曲をかける。</p> <p>重点②</p> <p>「ズンズン」「くるくる」などのオノマトペを提示し、子供達が言葉からイメージする動きを取り入れて踊るようにする。</p>
5 6	<p>○リズムに乗って、自分(達)なりのノリで踊る姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に列になって「くるくる」回ってみよう ・曲の途中で「ビシッ」とかっこいいポーズを決めたいな ・友達と動きを合わせて「ぐにゃ」をやってみよう ・〇〇さん達の踊りがかっこいいね ・ノリノリで踊るのが楽しいね 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>軽快なリズムに乗って踊る簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。(観察、振り返り)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>リズム遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとしている。(観察、振り返り)</p>	<p>重点②</p> <p>自分や友達のノリノリの姿を聴き合う時間を設けることで、自らの動きを振り返ったり新たな気づきが生まれたりするようにする。</p>

本時で目指す子供の姿

- ・友達と手をつないで「くるくる」回ってノリノリになれたよ。
- ・〇〇さんが「ビシッ」とポーズを決めていてかっこよかったな。次は自分でもやってみよう。

○学ぶ子供の姿 ・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ姿

- ・止まって「ビシッ」とポーズをとるとかっこよくなるね
- ・腕を「くるくる」回しながらリズムに乗って踊れたよ
- ・〇〇さんの踊り方がかっこいいからまねしたいな
- ・初めての曲でもノリノリで踊りたいな

【オノマトペで引き出したい動き】

- ズンズン…弾む動き
- ぐにゃ…ねじる動き
- くるくる…回る動き、腕を回す動き
- ビシッ…ポーズをとる動き、キレのある動き

○リズムに乗って、自分(達)なりのノリノリで踊る姿

- ・友達と一緒に列になって「くるくる」回ってみよう
- ・リズムを感じて「ズンズン」弾もう
- ・曲の途中で「ビシッ」とかっこいいポーズを決めたいな
- ・手や足を大きく動かして踊ってみよう

■これまでの学習を生かして、リズムに乗ってノリノリで踊る姿を見取る

- ・全身を使って踊る姿
- ・オノマトペをヒントにして、様々な動きで踊る姿
- ・友達と動きを合わせて踊る姿

○自分や友達のノリノリな姿を聴き合う姿

- ・腕や体を「くるくる」回してノリノリになれたよ
- ・みんなで「ビシッ」とポーズを決めたら、1人で踊るよりも楽しかったよ
- ・〇〇さんがとてもノリノリだったから、一緒に踊ってみたいな

重点②

自分や友達のノリノリの姿を聴き合う時間を設けることで、自らの動きを振り返ったり新たな気づきが生まれたりするようにする。

○聴き合ったことをもとに、さらなるノリノリで踊る姿

- ・腕を「くるくる」回しながら、みんなで「くるくる」回ってみよう
- ・友達と動きを合わせて「ぐにゃ」をやってみよう

評価

【思考・判断・表現】

軽快なリズムに乗って踊る簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達と聴き合っている。(観察、振り返り)

支援を要する子供に対する手立て

前時までの子供達は、どの子もリズムに乗って踊ることはできているが、動きのバリエーションが少なかったり、体全体を使うことができなかつたりする子もいる。そういった子供達には、「くるくるしてみよう」「ズンズンも入れてみよう」といったオノマトペを使った言葉かけをし、動きを引き出すようにしていく。

本時の子供の姿

本單元では、クラス全体が自分なりのノリノリな姿で踊る空間を、子供達が創り出すことを目指して授業をデザインした。本時では、「じぶん(たち)のノリノリで楽しもう!」というテーマに向かって、子供達は前時までに行ってきた踊り方を使ったり新たな踊り方を生み出したりしながら、リズムに乗って体を動かすことに没頭していた。また、ペアや集団で踊る子供達が多い中、一人で踊ることに没頭する子もあり、子供達が自由に踊ることを楽しむ姿が見られた。



研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

【動きを引き出すオノマトペ】

本時の子供達は、それぞれが考えるノリノリな姿を目指して、様々な踊り方をしていました。子供達の動きを引き出す手立てとして、オノマトペの活用が大きかったと考えた。単元のはじめは手拍子やスキップをしながら踊る子がほとんどだったが、「ズンズン」「ぐにゃ」「ぐるぐる」「ビシッ」といったオノマトペを提示し、言葉からイメージする動きを取り入れながら踊るようにしていったことで、子供達の踊り方が広がっていった。

【音楽によるアフォーダンス】

自然とリズムに乗って体が動き出すような音楽をかけることで、子供達は踊ることに没頭することができた。リズムがはっきりしていて適度な速さの曲をベースにしつつ、「ズンズン」という動きを引き出すためにビートを感じられる曲を、「ビシッ」という動きを引き出すためにアクセントがはっきりした曲を選んだことで、子供達の動きが広がっていった。音楽が魅力的な材となって、子供達の動きを引き出すことにつながった。



単元全体を振り返って

単元のはじめに、リズムに乗って思いつくままに体を動かすこと、うまく踊れない時は仲間の動きを真似してよいことを全員で共有したことで、子供達が安心して踊れる雰囲気生まれた。恥ずかしさや不安な気持ちを取り除き、心を解放することが、リズム遊びではとても重要な要素であると改めて感じた。自由に踊ることができるという土台のもと、「ノリノリになって踊る」というテーマに向かって、子供達それぞれが考える多様な踊り方で楽しんでいたことは、違いを認め合う・生かすという共生へつながるものだった。

単元名 **ゆらゆらせんたい はこぶんジャー**

本単元に取り組む子供の実態

生活科の「雨の日を楽しもう」の学習では、「おじさんのかさ」という絵本に親しんだ。主人公のおじさんが、雨の日には本当に「ポンポロン」「ピッチャンチャン」という音がするのかを確かめるために傘を広げ、どんどん雨の日の魅力に惹き込まれていくお話に、どこか期待感を抱きながらじっと耳を傾けていた。そして、「本当にこんな音する?」「しないよ。たぶん。」といったつぶやきが聞こえ、実際に外に出て確かめてみるかどうかを尋ねると、勢いよく雨の中に飛び出していった。「おじさん」と同じように傘を広げて音を確かめ始めるが、次第に水溜まりをじゃぶじゃぶ歩いたり、傘を閉じて雨に濡れたりする子供が増え、水ならではの感触を身体いっぱい楽しむ姿が見られた。「濡れるからやめなさい」「風邪をひくからやめなさい」と言われることが多いであろう子供にとって、「雨の日にはしかできないことをしよう」という授業者のかかわりは、子供心を刺激するものだったと考えている。また、だんだんと夏に近づき、暑さを体感し始めた子供たちと、「夏を楽しもう」を話題にしたときには、「プール」「水鉄砲」「水風船」といったワードが挙がり、水に関する遊びを楽しみにしている様子が伝わってきた。夏という季節にぴったりの遊びを思い浮かべたり、思いっきり楽しみたいと期待を膨らませたりしている子供の姿が見られた。

体育の学習においては、鬼遊びやリレー遊びに親しむ中で、みんなが楽しめるように新しいルールを提案したり、一人ひとりの気付きをもとにして、よりよい考えをつくることを大切にしようとしたりする姿勢が少しずつ育ってきている。ただ、自分自身の身体の動きについて考えたり向き合ったりする活動が十分ではなかったことから、テーマに合った身のこなしについて、自身のふり返りや友達の気付きなどをもとに見通しを立てながら、十分に運動に親しむことができる機会を保障していくことが大切であると考えている。

本単元設定の理由

自分自身の身体の動きについて考えたり向き合ったりして、テーマに合った身のこなしについて、自身のふり返りや友達の気付きなどをもとに見通しを立てながら、十分に運動に親しんでいくためには、子供が思わずやってみたくなるような材の選定と場の設定が必要である。1年生の子供にとって、夏だからこそ思いっきり楽しむことができる水遊びの魅力は、他に代えがたいものと考えている。

そこで、本単元ではリレー遊びの要素を含んだ、水を使った「多様な動きをつくる運動遊び(A イ)」を行っていく。単元名には、『ゆらゆらせんたい はこぶんジャー』という1年生の子供に馴染みのあるキャッチーなフレーズを用い、容器の中の水がゆらゆらしないように身体のバランスをとる動きと、その水を持ち運んで別の容器に入れるという遊び方がイメージできるようにしている。具体的には、ピンポン玉を入れた容器を、運び入れた水で満たして、中のピンポン玉が落ちるまでの速さを競う活動を通して、持ち運ぶ容器の中の水が「こぼれる・こぼれない」のドキドキを味わい、単純な走力のみによって決まらない「勝ち・負け」のギリギリを楽しむことができるようにする。そして、水がこぼれないようにできるだけ素早く移動するためには、自分の身体をどのようにするとよいかについて考え、身体の動きを調整しようとする姿を引き出したい。

また、複数の容器を用意して、様々な持ち方・運び方を試すことができるようにし、自分に合った行い方を考えたり、楽しい行い方を見つけたりできるようにする。そして、「こうするともっと楽しそう」「もっとこうしてみたい」というアイディアに耳を傾け、場をつくり・つくりかえていく営みを通して、誰もが楽しめる体育の時間を創っていくことを大切にしたい。

本単元には、「プレイ論」における遊びの4つの要素のうち、アゴン(ピンポン玉を落とすという競争)、アレア(水が「こぼれる・こぼれない」偶然性)、イリンクス(水の感覚)という3つの要素を埋め込んでいる。子供が夢中になって活動し、運動遊びに没頭しながら、くり返し取り組んだ結果として、バランスをとったり移動したりする動きが高まることを期待したい。

本単元で願う子供の姿

- 持ち運ぶ容器の中の水が「こぼれる・こぼれない」のドキドキを楽しむ姿(機能的特性を味わう姿。)
- 遊び方や場の工夫のアイディアを聴き合い、ともに楽しい体育の時間を創ろうとする姿【多様な他者と共に生きる力】
- 水がこぼれないようにできるだけ素早く移動するために、自分の身体の動きを調整しようとする姿【身体リテラシー】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○運動遊びの行い方を知り、水がこぼれないように運動遊びに親しむことを通して、バランスをとる動きや移動する動きを身に付けている。	○容器の種類を変えたり、様々な持ち方・運び方を試したりして、自分に合った行い方を考えたり、楽しかった行い方を伝えたりしている。	○準備や片づけを一緒に行い、順番やきまりを守って、安全に気を付けながら、進んで運動遊びに取り組んでいる。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①, ②
1	<p>○遊び方や行い方を知り、単元の学習を通して「動きと向き合う」という見通しをもつ姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆらゆらしないようにするってことは、水がこぼれないように走るってこと? ・箱(の上でバランスをとるの)が難しそう! ・よそ見をしないで早歩きをしてみよう! ・焦らないで落ち着いてやってみよう。 ・そっと走ってみる! 	<p>【知識・技能】</p> <p>運動遊びの行い方を知り、自分自身の身体の動きと向き合っていくことがわかる。 (観察・ふり返り)</p>	<p>重点①</p> <p>ポリ容器にたっぷり水を用意することで、「なんだか面白そう」「早くやりたい」など、水とかわる運動遊びへの期待感を高める。(アフォーダンス)</p> <p>また、自分の番になるまでの間、自由に水に触ることができるようになることで、水の感触を楽しむ機会を保障し、手を冷やすことによる熱中症対策の効果を得ることで、暑さによって集中力が低下したり、子供の夢中・没頭が妨げられたりしないようにする。</p>
2	<p>○持ち運ぶ容器の中の水が「こぼれる・こぼれない」のドキドキを楽しむ姿(全)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を見ながら走ろう! ・水を見て動こう。水を入れ終わったら全力で走る! <p>△大きな容れ物だと早く勝負がつきすぎてつまらなかった。 △ジグザグのコースをつくってみたけど、転びそうでちょっとこわかった。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>水の準備や容器等の片づけを一緒に行い、チーム内での順番や遊び方や行い方のきまりを守って、安全に気を付けながら、進んで運動遊びに取り組んでいる。 (観察)</p>	<p>重点①</p> <p>遊び方や行い方、場の工夫について、「もっと大きな容器がほしい」「ジャンプをするところがあったら楽しそう」といった子供のアイデアを取り入れていくことで、場をつくり・つくりかえていく面白さを感じることができるようになるとともに、そのことによって新たに引き出される動きへの期待感を高め、場にかかわる必然性をさらに生み出していく。</p>
3	<p>○遊び方や場の工夫のアイデアを聴き合い、ともに楽しい体育の時間を創ろうとする姿【多様な他者と共に生きる力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バケツもお鍋と同じで早く勝負がついちやうし、重たくてすばやく動けないからなしにするのはどう? ・跨ぐところは、あった方が楽しいね。 ・水を入れすぎないようにするのもいいかもしれないね。 	<p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>容器の種類を変えたり、様々な持ち方・運び方を試したりして、自分に合った行い方を考えたり、楽しかった行い方を伝えたりしている。 (観察・ビデオ・ふり返り)</p>	
4	<p>○水がこぼれないようにできるだけ素早く移動するために、自分の身体の動きを調整しようとする姿【身体リテラシー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を閉じているときよりも、手を広げているときの方がバランスがとりやすいから、水を持つ手も、少し身体から離れた方がいいかもしれない。 ・走る速さが変わると水がゆらゆらしちゃうから、できるだけ同じ速さで走ってみよう! 	<p>【知識・技能】</p> <p>運動遊びの行い方がわかり、水がこぼれないように運動遊びに親しむことを通して、バランスをとる動きや移動する動きを身に付けている。 (観察・ビデオ)</p>	<p>重点②</p> <p>授業の冒頭に前時の様子を収めたビデオを見ることで、活動中には気付きにくい友達の動き(自分の動き)に目が向くようにし、よい動きを自分の動きに取り入れたり、「つぎはこうしてみようかな」といった動きのイメージを高めたりできるようにする。</p>



本時で目指す子供の姿

- 1つの容れ物を両手で持つより、2つの容れ物を別々に持った方がバランスがとりやすいのかもしれない。
- 容れ物を持つとき、身体の前じゃなくて、体の横の方で持つ方が自分には合っている気がする。
- 容れ物を高く持つよりも、低く持つ方がこぼれにくい気がする。

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○前時のビデオを見て、友達のよい動きや自分の動きに目を向け、本時の運動遊びのイメージを膨らませる姿

- ・なんかすごっ!
- ・あ、自分もやってみよう!
- ・あの動き、なんかいいね!
- ・そういうやり方もあるんだね!
- ・走るとき、下を向くのと前を向くのどっちが水がこぼれにくいのかな?
- ・やっぱり水がいっぱい入っているとすばやく動けないね。

○持ち運ぶ容器の中の水が「こぼれる・こぼれない」のドキドキを楽しむ姿

前時からのアップデート

- ・お鍋は使わないで、いっぱい遊べるようにする。
- ・箱はジグザクではなく、まっすぐにして安全に遊ぶ。
- ・くぐるところは、倒れると気になるから、なくす。
- ・跨ぐところをつくる。

○遊び方や場の工夫のアイデアを聴き合い、ともに楽しい体育の時間を創ろうとする姿【多様な他者と共に生きる力】

- ・容れ物を抱きしめて走ったら、いっぱいこぼして濡れちゃったから、あんまりバランスがとれないのかも。
- ・こぼれないように容器を大事に持っているんだけど、あんまりうまくいかないんだよね。
- ・「少しくらいこぼれてもいいや」って思っているときの方があんまりこぼれない。
- ・バケツもお鍋と同じで早く勝負がついちゃうし、重たくてすばやく動けないからなしにしてよかったね。
- ・跨ぐところは、やっぱりあった方が楽しかったね。

○自分の動きをどうするともっとよいか、次の時間に試したいことや確かめたいことを考え、動きをイメージする姿

- ・1つの容れ物を両手で持つより、2つの容れ物を別々に持った方がバランスがとりやすいのかもしれない。
- ・容れ物を持つとき、身体の前じゃなくて、体の横の方で持つ方が自分には合っている気がする。
- ・容れ物を高く持つよりも、低く持つ方がこぼれにくい気がする。

重点②

授業の冒頭に前時の様子を収めたビデオを見ることで、活動中には気付きにくい友達の動き(自分の動き)に目が向くようにし、よい動きを自分の動きに取り入れたり、「つぎはこうしてみようかな」といった動きのイメージを高めたりできるようにする。

重点①

前時の子供の気付きやふり返しなどをもとに、「〇〇したらもっと面白いかも!」「次は〇〇したい!」という思いを生かして、場をアップデートしておくことによって、より子供がかかわりたくなる必然性を生み出す。

■運動遊びに親しむことを通して、遊び方や行い方、場の工夫などについて、感じたことや考えたことを聴き合う時間を、子どもの必要感に応じて設ける。

→動きに関する話題は活動中に。

グループの中で話を促すことも視野に入れておく。

→場づくりのアイデアについては活動後に。

■自分に合った行い方や「ゆらゆらしないようにすばやく動く」という単元を貫くテーマについても、ふり返りができるようにする。

評価

【思考力・判断力・表現力】

容器の種類を変えたり、様々な持ち方・運び方を試したりして、自分に合った行い方を考えたり、楽しかった行い方を伝えたりしている。(観察・ビデオ・ふり返し)

支援を要する子供に対する手立て

どのような動きが自分にあっているのか、「こぼれたとき」と「(あまり)こぼれなかったとき」では、どのような違いがあったのかを考えさせたり、その時の容器とその持ち方を実際に比べてみたりすることによって、動きに関する気付きと言語化を促す。

本時の子供の姿

厳しい暑さにも関わらず、「早くやりたい!」という期待感で目を輝かせ、元気いっぱい活動に向かっていく子供たちの姿が見られた。子供たちは、運動遊びを通して、容器を持つ手の位置を選んだり、足の運びや走る速さを調整したり、「ゆらゆらしてこぼれないように、でも、できるだけ速く」を求めて、自分に合った行い方を考えたり、見つけたりしながら、夢中になって取り組んでいた。子供の動きや表情からは、持ち運ぶ容器の中の水が「こぼれる・こぼれない」の、正にギリギリを楽しんでいる様子がよく伝わってきた。また、前時の子供のふり返りをもとに、箱の置き方を真っ直ぐにするなど場をアップデートし、運動遊びへの不安や場に対する恐さを取り除いたことで、安心して生き生きと活動に臨むことができていた。

いち早く水を溜めてピンポン玉を落とすためには、一度にたくさんの水を運んだ方がよいが、ある子は授業者が用意した容器とは別に、ペットボトルの底を切り取った容れ物を本時に持ち込んでいた。他の子や他のチームと条件がそろっている状況での競争、その中で自分自身の身体の動きと向き合ってほしいという授業者の想定とは異なるものの、その子が自分事として課題を捉え、その解決のために思考し、運動遊びを通して試行錯誤しようとする姿が見られたことを嬉しく思う。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

参観者からは、「気温が高くなり、子供たちが暑さを感じるほど、「水に触りたい」という思いが高まるため、「水を運ぶ」というテーマや場の設定が自然と子供たちを運動遊びへと誘い、夢中になって何度も試したり、取り組んだりする姿を引き出していた。」「自分の順番を待つ間に、次の工夫を模索するゆとりがあったので、友達を見て動きを真似する子、容れ物を選び直して水の量を加減する子、2つの容れ物を同時に運び始める子、どうにか3つの容れ物を使えないか考え出す子など、子供たちが思考している様子がよく伝わってきた。」など、重点①②とのかかわりについて肯定的な意見が多く挙げられた。やはり、魅力的な材の選定と場づくりによるアフォードランスが、そのような動きや姿を誘発し、子供が思わずやってみたくなる、考えたくなるような運動遊びにつながってくる。「水」や「水を運ぶ」ことを介して、子供同士の自然なかかわりが生まれ、子供が子供に働きかけている場面をたくさん見ることができた。

一方、ピンポン玉を落とすという競争、勝ち負けのある授業デザインにしたことで、「持ち運ぶ容れ物の数やスタートの位置など、自分たちでルールを設定していけるとよいのではないか」など、公正・公平の観点で行い方やルールが十分ではないと感じた参観者も見受けられた。授業者としては、そうした曖昧性に子供が気付いたり、「こぼれる・こぼれない」のギリギリが味わえなくなったりすることで、子供自身が行い方やルールについて課題をもち、解決の方法を模索したり、自分なりの考えを提案したりすることを大切にしたいと考えた。

今後も、安心・安全で、体育科における機能的特性に子供たちが十分に親しむことができるような材の選定と場づくりに取り組み、ギリギリを生み出すアダプテーションを埋め込むことで、運動遊びに没頭する子供の姿を引き出し、子供にとっての必要感や必然性を重視し、学びの文脈に沿った授業実践を心掛け、利他的な人間性やよりよい人間関係を育てていきたい。

単元全体を振り返って

本単元は、「持ち運ぶ容器の中の水が「こぼれる・こぼれない」のドキドキを楽しむ姿」「遊び方や場の工夫のアイデアを聴き合い、ともに楽しい体育の時間を創ろうとする姿」「水がこぼれないようにできるだけ素早く移動するために、自分の身体の動きを調整しようとする姿」という3つの姿を描いた。1つ目については、そうした子供の姿が単元を通して随所に見ることができたと思う。2つ目については、安心・安全の観点から、子供の思いや発想に十分に寄り添うことが難しかったこと、3つ目については、水に濡れても安全に活用できる器械・器具・用具が限られ、子供の動きを誘発するという点でやや心残りがあることから、課題も感じている。ただ、本実践は水の感触を楽しむ機会を保障するとともに、活動をすることで熱中症対策の効果を得ることができるといふ点で、夏場の屋外での体育の活動を考える際の参考となり得る可能性があると感じている。実践で得た課題をもとに、今後の発展性を検討したい。ともあれ、本単元を通して、「こぼれないのも楽しいし、こぼれても楽しい」と言わんばかりの子供たちのすてきな笑顔をたくさん見ることができ、大変有意義な実践であった。

単元名 仲間とともに空間を使った攻撃の工夫（バスケットボール）

本単元に取り組む子供の実態

「いつでも、どこでも、誰とでも」運動を楽しもうとする気持ちを持ちながら、各単元で運動の取り組み方を工夫することができている。1学期ではハンドボールを取り扱い、他者の動きや考えなどの違いに気付き、自他の動きを向上させることができていた。特に利己的な視点でプレイしている子供が他者を意識したプレイをしている様子も見られた。それは保健体育の授業をはじめ、教育活動全体で多様な他者と共に協働的に課題解決をしようとする姿勢を目指してきた成果であると考えられる。一方で、仲間とともに一生懸命に運動に取り組む姿勢はあるが、学習を振り返り、次の見通しをもって、自分自身の動きに向き合い、調整することに課題も見られる。そのため、子供が根拠に基づきながら問いを探究し、身体的リテラシーや共生の考えを身につける必要があると感じる。

本単元設定の理由

球技ゴール型のバスケットボールを取り扱い、多様な他者と共に協働的に課題解決をしながら、楽しい体育の時間を創り上げる。本単元では「どのように動き直すか？」を大テーマにしなが、空間に走り込むなどのゴール前での攻防を目指し、楽しい体育の時間を創り出したい。特にバスケットボールの特性でもある「突破する」を目指した競い合いを通して、必要な技術や戦術の理解を高めると同時に、異なる経験値や身体的リテラシーを持つチームメイトとの探究方法を模索しながら、楽しい体育の時間を創り上げてほしいと考える。そのために、子供たちが自他の課題を見出して、根拠に基づいて解決ができるように、意志決定やスキル発揮を学ぶ場を設定する。

特に子供がトライ&エラーをしながら学びを深められるよう、ゲーム時間や各チームの探究時間を確保し、バスケットボールの特性を十分に味わえるようにする。従って、子供が受け身の姿勢で取り組むのではなく、自らの経験から課題を設定し、それを自分や仲間と探究していく方法を模索する。その結果、子供が夢中になって一人ひとりの動き方や考えなどの違いに気付き、利他的な視点で運動を楽しめることを期待する。



自他の動きや考えを整理する



どのように「突破」するか？



実践について振り返り、見通しを立てる

本単元で願う子供の姿

- ・「動き直し」をヒントにしなが、他者と共に協働的に課題解決をして楽しい時間を創っている姿
- ・動いている時でも、自他を振り返り、次の見通しをもって、自らの思考や行動を調整している姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○球技の各型において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ○パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ○ボールを持っている相手をマークすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ○体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ○練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○大テーマ「動き直す」をヒントにしなが ら見通しを立てている姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールはどんなことが楽し い? ・守備のすきを狙うのが面白い! ・ゴールに向かっていくときが楽しい。 ・そのためには何が必要? ・攻守が入れ替わるときが難しい! 	<p>【知識・技能】</p> <p>球技の各型において用いられる 技術には名称があり、それらを身 に付けるためのポイントがあるこ とについて、学習した具体例を挙 げている。(学習プリント)</p>	<p>重点① 子供たちがプレイをする中で見 つけた課題を根拠に基づきながら 解決できるように、練習方法の選 択、ルールや人数等を工夫して、 意志決定やスキル発揮を学べる 場を設定する。</p> <p>重点② 生徒の振り返り内容や見通しを 立てている様子を共有すること で、自他の視点で見通しを立て た上で活動できるようにする。活 動する際に、自分では気付きにく い考えを他者から学び、自分の 動きに取り入れられるようにする。</p> <p>重点② 仲間からの気付きや根拠を基に しながら課題設定とそのため の解決方法の見通しを立てる。</p>
2 . 3	<p>○一人ひとりの動きや考え方、挑戦の仕 方に応じながら、攻防を楽しんでいる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このときはどうやって動き直すか? ・こうやって動くのも良いと思う。 ・上手く攻めるために、この練習をしよう! ・どういう練習が必要かな? ・練習したけど上手く活かせなかった。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>練習の補助をしたり仲間に助言し たりして、仲間の学習を援助しよう としている。(観察・学びのプラン)</p>	
4 . 5	<p>○仲間と楽しむための方法や考えを見つ けている姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくバスケットボールに関われるよう にするためには、何を取り入れる? ・やり方を変えても上手いかなかった。 なんで? ・こういう動き直しがあると、自分もチ ームも動きやすいかもしれない。 ・このやり方だと動きにくいかも。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>体力や技能の程度、性別等の違 いを踏まえて、仲間とともに楽しむ ための練習やゲームを行う方法 を見付け、仲間に伝えている。 (学習プリント)</p>	
6 . 7 . 8	<p>○チームでの気付きを活かしながら、共に 楽しい時間を創り上げようとする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しくプレイできる方法やア イディアはなんだろう。 ・ボールをもらうとき走り込みながら、動 けるとどうかな? ・突破するためにどうやって動き直す? ・自分たちのよさを活かすために、どこ から突破する? ・真ん中を突破するにはどうする? ・あのチームの動き方が似ている! ・その切り込みで突破するっていう発想 はなかった。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>提示された動きのポイントやつま ずきの事例を参考に、仲間の課 題や出来映えを伝えている。 (学習プリント、スライド)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>作戦などについての話合いに参 加しようとしている。 (観察・学びのプラン)</p>	
9 . 10	<p>○空間を使った攻撃をチームで楽しんで いる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あのとき、サイドから走り込む動きをし てくれて、すごくパスが出しやすかつ た!ナイスプレイ! ・みんなで協力して動けると楽しいな! ・動き直して、突破するってこういうこと か? ・次は真ん中から突破してみたい! 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得点しやすい空間にいる味方に パスを出すことができる。 ・パスを受けるために、ゴール前 の空いている場所に動くことが できる。 ・ボールを持っている相手をマー クすることができる。 (観察) 	

本時で目指す子供の姿

- ・チームで設定した課題に対して根拠に基づきながら思考している姿
- ・動いている時でも、自他を振り返り、次の見通しをもって、自らの考えや動きを工夫している姿

○学ぶ子供の姿 ・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○前時までを振り返り、見通しを立てている姿

- ・切り込むという目標を立てたから、パスをした後の動きを大切にしていこう。
- ・あのチームはパスで動き直しをして、ゲームを創り上げているのか。
- ・自分(チーム)もこれに挑戦してみたいけど、そのためには何が必要だろうか？
- ・どうしたら、ゲームを楽しくできるかな？

重点②

生徒の振り返り内容や見通しを立てている様子を共有することで、自他の視点で見通しを立てた上で活動できるようにする。活動する際に、自分では気付きにくい考えを他者から学び、自分の動きに取り入れられるようにする。(見通しー実践)

○仲間からのアドバイスを聞き合い、共に楽しい体育の時間を創ろうとする姿

【ゲーム中やゲーム後の振り返り】

- ・なんであの動きをしたの？なるほどね！でも、もっと逆の動きをするとよいと思う。
- ・目標がスペースに走り込むなら、そこで動いていてもディフェンスはしやすかった。
- ・ドリブルで引き付けた後パスは通りやすかったね。
- ・パスをもらう時に一気に広がると、自然とパスをもらえるようになった。
- ・シュートを打ちやすくするために、みんながメリハリをつけて動いて欲しい。
- ・ボールに触れている人が同じになっていると思う。
- ・ボールの動きが一定だよ。

■探究活動の際に、これまでの活動内容を参考にしながらアドバイスを聞き合い、自他の視点で思考している姿を見取る。

- ・「どこから」「どこを」「どのように」などの設定した課題について突破するための動き直しを見付けている。
- ・自他を振り返り、次の見通し(プレイ)を見付け、他者に伝えている。

【チーム練習】

- ・目標達成のために、ボールを持っていない人がもっとサイドの方に動き直しをしてパスを受けたりしようよ。
- ・パスからの走り込む動きが必要だと思う。
- ・この場面をもう一回チームで整理しない？
- ・真ん中から突破できたらもっと楽しそうじゃない？
- ・ただパスを繋いでいる練習になっているから、一人ひとりの役割を決めよう。

重点②

仲間からの気付きや根拠を基にしながら課題設定とそのため解決方法の見通しを立てる。

○チームの動きをどうするとよりよくなるのか、次の時間に実践することを思考している姿

- ・相手チームのあのときの動きが自分には必要だと思う。
- ・自分は上手く動いていたつもりだが、アドバイスをもらってもう少し走り込む動きが必要だと思った。
- ・次は、もっとチームのことを考えたプレイを意識してやってみて、一緒に楽しめるようにしたい。

評価

【思考・判断・表現】

提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。(学習プリント)

支援を要する子供に対する手立て

球技ゴール型では、ゲーム中に動きが止まってしまう、ボールの近くに集まりすぎてしまう、そもそもどこに動けばよいかわかっていない等、多岐にわたる支援が必要である。どの状況においても、子供が“どのように”だけに注目して活動をするのではなく、「なぜ」「いつ」「どこで」「何を」「どのように」の視点をゲーム中でも整理できるように、動き方や考えを調整できるようにする。そのために可視化や言語化をして、問いに対しての動き方や考えを引き出せるようにする。

本時の子供の姿

本単元では「どのように動き直すか？」を大テーマにしながら、空間に走り込むなどのゴール前での攻防を目指し、多様な他者と共に協働的に課題解決をして、楽しい体育の時間を創り上げることができていたと考える。

球技「ゴール型」の機能的特性でもある「突破する」を目指した競い合いを通して、必要な技術や戦術の理解を高めると同時に、異なる経験値や身体的リテラシーを持つチームメイトとの探究方法を模索する姿を見ることができた。特に、子供が「こういう動き直しがあると、自分もチームも動きやすいかもしれない。」「自分たちを活かすために、どこから突破する？」など、動いている時でも、自他を振り返り、次の見直しをもって、自らの思考や行動を調整している姿が見られたのは、成果だと考える。



研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

子供が「やりたい!」と感じる大前提に「共生」が空気のような存在があり、全員が各種目の特性をできる/できないを味わうための実践を大事にしていきたい。その中で、重点2「解決のすべの育成」を図るために、子供が自らの力で見直し一実行一振り返りを踏まえた AAR サイクルを試みた。その際に、段階的に技能を身に付けさせる授業展開ではなく、あえてエラーさせることも想定しながら、子供自身が学びの発見をできる手立てをする計画だった。

しかし、教師の出番が定まっていなかったことから、一生懸命に動いているが、そもそも動き直す方法をわかっていない子供もいた。運動を苦手とする子供が「もっとこうしたい!」などに気付き、言い出すことができれば良いが、まずは教師も子供の行動を価値づけることが評価の一部になり、学びの方向を調整させることにつながると感じた。つまり、自分では気づきにくい考えや成果、課題などに、どのようにアプローチをするかが、このAARサイクルの質につながると考える。今後は、単元全体のテーマから想定される子供の考えや行動を察知し、それにかかわる問いかけを意識していきたい。

そして、子供全員が各種目の特性を味わえるようにすることが、体育の授業の意義であるため、球技の攻防で「できる/できない」の間にある面白さを追究するための手法として、今後はアダプテーションルールなどの工夫も図っていきたい。みんなが楽しめるルールをつくるプロセスには、これからの時代をよりよく生きるための思考力、判断力にもつながるため、多くの種目を通じて子供とアダプテーションの理念を共有しながら楽しい体育の時間を創っていきたい。



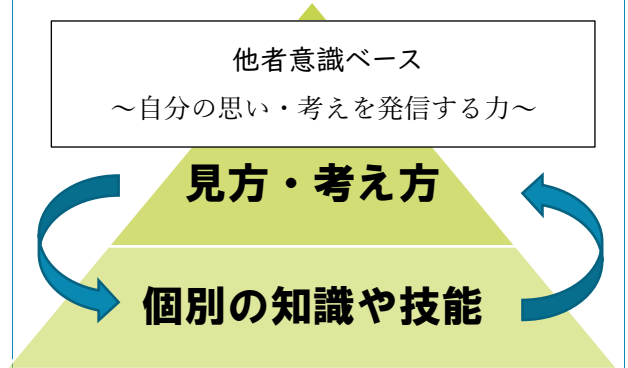
単元全体を振り返って

AAR 学習プロセスを取り入れながら、異なる経験値や身体的リテラシーを持つチームメイトとの探究方法を模索することは「共生」や「自己実現」の視点で効果的な手法だったと感じる。しかし、単元前半は体格差や球技の経験値の違いなどに上手い出来ない子供やチームが多い印象があった。特に、「自分だけ」のプレイをしている様子があったり、得点を決めることだけを考えていたりすることもあった。そのような状況から、「今まで、ただひたすら取り組むことも良かったけれど、チームで話し合って明確な目標を持って取り組むことで何を意識したらいいのかがわかりやすくなった」「目標を考えたりすることで、その日の反省点とかを考えて次の時間でその目標に向けて取り組むことができたから、いつもよりも深く考えて動いたりすることができたと思う」などの新たな考えに気付いたときの楽しさを感じている様子も見え、アイデアをチーム作戦に活かして「どこを」「どのように」の視点で課題解決をする時間が深まることにもつながった。一方で、最後まで自分たちで見直し一実行一振り返りのサイクルを回すときに、何に向かってトライ&エラーしているかが定かになっていない子供やチームもいた。それぞれの課題に対して解決しようとする力を高めるために、自他に着目した方法の選択や問いの設定は、今後も支援的視点をもって授業づくりに活かしていきたい。

教科部で大切にしていること

他者意識ベース ～自分の思い・考えを発信する力～

昨今、グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように限られた業種や職種だけではなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。附属鎌倉小・中学校外国語科としては、教科書の決まった表現をただ教えたり、ただ使わせたりするのではなく、実際にどの場面でその表現が使えるのかを生徒と共に考える。また、その活動を通して、目的・場面・状況に応じた自分の思いや考えを適切に発信する英語力を育むことを目的とする。他者に配慮しながら、自分が伝えたいことなどを、英語を用いて分かりやすく伝えようとする子供の姿を目指す。



願う子供の姿

◎グローバル化する社会を生き抜くためのコミュニケーション能力を身につける姿を願う。

以下の姿を、9年間の外国語活動・外国語学習を通して深めながら、子供たちの英語力を育む。

- ①母国語ではない言語を使って行うコミュニケーションに慣れ親しむ姿
- ②自分のことを伝えるために、他者意識を持ちながらコミュニケーションを図ろうとする姿
- ③トライ&エラーを繰り返し、目的・場面・状況に応じた表現力を身につけるために粘り強く取り組む姿
- ④外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、発信する姿
- ⑤課題に対してお互いの考えなどを共有し、その解決に向けて理解を深める姿

小中の取り組み

小学校

- 児童にとって身近な人物や事柄を話題にし、進んで伝え合う活動を設定している。英語を「聞く」ことからはじめ、段階的に自分の思いや考えなどを伝え合う活動を行っている。
- 教師と児童、児童同士のやり取りを通じて、教師や友達のパフォーマンスを真似たり、取り入れたりすることによる学び合いを大切にしている。Small Talk やアクティビティを行うときにも既習表現を取り入れ、児童の「気づき」が生まれる場面づくりを意識している。この「気づき」というのは、自分と他者の考え方の違い、同じような内容を伝える場合でも扱う表現の違い、伝える目的や対象による表現の違いなど、コミュニケーションを通じて様々な違いにふれるとともに、それぞれの違いを受け入れる姿の育成を図っている。
- 分からない表現でも推測しながら聞こうとする姿や、間違えても何とか伝えたり聞いたりする粘り強い姿を価値づけている。毎回授業の振り返りを行うことで、次の学習への見通しを持てるようにしている。

中学校

- 自分の生活に身近な話題や日常でのやり取りなどを言語活動のテーマに設定し、目的・場面・状況に応じた多様な言語活動を行っている。コミュニケーションは他者がいなければ成り立たないことから「一人ひとりの違いを理解し合意形成することの大切さや難しさ(=共生)」を意識させるとともに、簡単な語句や表現を用いて自分の思いや考えを英語で伝える力(=自己実現)の育成を図っている。
- 活動内容によっては、即興性を取り入れたりペアやグループで意見交換をする中で得られた「気づき」を共有することで表現の幅が広がったり正確性が高まったりして、伝えたいことを自己調整して再構築させた、ワンステップ上のコミュニケーション活動につなげようとしている。
- 子供たちが、間違えてもいいから英語を主体的に使おうとする姿を大切にしている。そのやる気を引き出すサイクルとして、知識のインプットから様々な表現活動を通じたアウトプットにつなげ、さらに子供たち自身が各単元の「学びのプラン」や各活動の振り返りを通して自らの達成度や改善点などに気づき、次の単元の学びに活かそうとしている。

取り組みに対する振り返り

成 果

- ・児童生徒に他者意識(コミュニケーション相手の想定)を持たせることができ、目的・場面・状況に合うように英語を使おうとする姿勢を育てることができた。(指導者・児童生徒が同じ目的を持ち、言語活動に取り組めた。)
また、他者とのコミュニケーションを通して、自分の発信した内容が相手に伝わらないことで、英語表現を変えなければならないという気づきにつながったり、相手の発信を参考に自分の伝え方を変えたりなど、話し手・聞き手の立場で「他者意識」を持つことで、児童生徒自身の気づきや自己調整につながっていた。
- ・児童生徒が「話したい・聞いてほしい」と思えるような課題設定を行い、主体的にコミュニケーションに取り組む環境づくりができた。
→「英語でなんと伝えれば良いか」「こう伝えたいのだけれど、うまく表現ができない。どうすれば良いだろう。」等、昨年度よりも児童生徒からの質問が増えたように感じた。(自分事として捉えている児童生徒が多いように感じた。)

課 題

- ・児童生徒が英語を使い、話す時間の確保が必要(45分・50分の授業内で)
→コミュニケーションをすることにおける基礎づくりは大前提として必要。日本語で考え、英語にする等の方法を取ることも、状況に応じて必要となるのではないか。(この表現は何のために必要なのか。教員側からではなく児童生徒自身が必要だと思う表現を選べる環境づくりや必要だと思わせる必然性の共有が必要。)
- ・児童生徒への動機づけ・必然性を持たせることの難しさ(特に、ALTが配置されていない小学校において)
→場面設定、目的意識を持たせるためにはトライ&エラーを行いたい、トライをする相手がそもそも英語を使ってコミュニケーションをする必然性を持たせられていない現状がある。
交流相手を見つけることや人的確保をすることの難しさ。
- ・児童生徒の発達段階に応じた、他者意識の設定や目標などの具体的な設定をしていく必要がある。
→小学校6年間・中学校3年間で考えるのではなく、小中9年間のスパンで考える。
(例)・今後に向けて段階的にCAN-DOリストを作成する
- ・共通の帯活動に取り組む 等

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

昨年度の反省を踏まえ、今年度は「他者意識」を軸に研究を進めた。その中で、「他者意識」を持たせることの重要性に気づくことができた。小学校では聞き手、中学校では聞き手だけではなく読み手(コミュニケーションをする相手)の存在を大切に、「自分の思い・考え」を伝えるだけでなく、他者に対して、「どのように伝えるとわかりやすいのか」を意識させて取り組みを続けた。また、指導者・児童生徒が同じ目的を持って活動に取り組めるように、共通認識を図りながら取り組むようにした。その結果、小中共通の成果としては目的・場面・状況に合うように、他者に分かりやすい英語を使おうとする姿勢を育てることができた。

話すこと(内容等)を深めるためには、ただ言語材料を伝え、児童生徒に活動をさせる(学びのない活動)のではなく、より自然と児童生徒が主体的に英語表現を、目的・場面・状況に合わせて使い分けるようにしていきたい。そのためには、どのような事柄でも児童生徒が自分事として捉えて、「相手に伝えたい」という想いを芽生えさせ、育てていくことが大切だと考える。

相手にわかりやすく伝えるためには、「話す力」、中学校ではそれに加えて「書く力」が重要となる。来年度は、第二言語習得の知見をもとに、英語科一同で、よりインプット活動(帯活動の充実化)を大切にして、アウトプット活動の充実に繋げたい。45分・50分の授業が、児童生徒の英語力の向上に結びつくように、インプットを大切にした授業の深化、改善へと繋げていきたい。そして、鎌倉小中学校の児童生徒が、9年間で学びを深めグローバル化が急速に進展していく世界の中で生き抜く力を育むために、来年度も段階的に研究を改善していきたい。

単元名 What do you have on Fridays?

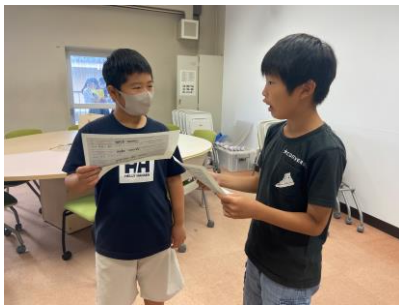
本単元に取り組む児童の実態

高学年の外国語科では、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」という5つの領域において、実際のコミュニケーションを通して育成した資質・能力を活用する学習の充実を図ることが求められている。これまで5年生における外国語科の学習では、子供たちに身近な人物や事柄をテーマに設定し、進んでコミュニケーションができる活動に取り組んできた。中学年の外国語活動では、伝え合う力の素地を「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」及び「話すこと[発表]」の3つの領域を通して養ってきた。これらの経験から、聞く活動や簡単なやり取り、自分に関する内容の発表などには意欲的に取り組む様子が見られた。この様子から、単に教科書の内容を教えるのではなく、教科書の題材を生かして子供たちの生活とリンクさせながら授業を展開することが意欲につながることを実感した。今後も適切な題材を設定して外国語を通してコミュニケーションを図ろうとする姿を育てていきたい。

本単元設定の理由

本単元では、子供たちに身近な曜日や教科についての表現について学び、時間割をたずね合う活動が取り上げられている。時間割は学校生活の中で子供たちが毎日触れるものであり、それに合わせて活動することが当たり前になっている。しかし、児童の実態をふまえると単に与えられた時間割を伝え合う活動では意欲付けやその維持が難しいと感じた。そこで本単元では、本校の研究構想の軸となる総合的な学習の時間と他教科の学びの関連に着目して単元を設定することにした。総合的な学習の時間で設定したテーマや目標を達成するために必要な時間割を考える。そして、実際にその時間割で1日活動することにした。今回授業を行うクラスは「映画づくり」をテーマに設定している。そのために必要な準備や練習を考えて時間割を設定する。映画づくりは台本の作成や音響、小道具の作成など、様々な教科での学びの要素を含んでいる。そこで、1つ1つの活動を明確にするために、時間割を全て「総合的な学習の時間」とするのではなく、自分たちの行う活動にどの教科の学びの要素が含まれているのか関連性を考えて計画を立てさせたい。

子供たちはこれまでに want を用いた表現に触れている。時間割を伝え合うだけでなく、こういった既習表現を活用しながら時間割を設定した理由を伝え合うことを意識させたい。また、総合の学習の深まりに合わせて何度かこの活動を行うことで、表現の定着をめざしたい。このクラスでは映画の上映だけでなく、取り組みの過程を「伝える」ことも目標としている。外国語を通して相手の理解を確かめながら話したり、話し手が言ったことを受け止めながら聞いたりするなど相手意識のある伝え方・聞き方の良さに気付く経験は、他教科での学びにも生かすことのできる力だと考えてこの単元を設定する。



本単元で願う子供の姿

- ・既習表現を使い、自分で考えた時間割とその理由を話すことができる。
- ・伝える相手に合わせて、自分の考えや気持ちなどを聞き手に分かりやすく話すことができる。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○教科や時間割について、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解する ○話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標を達成するために自分で考えた時間割や設定の理由について、その場で話したり、相手に質問したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標を達成するために自分で考えた時間割や設定の理由について、その場で話したり、相手に質問したりしようとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○教科を表す表現にふれる姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What ~ do you like?という表現は色々な時に使える。 ・subjectって何だろう? ・うちのクラスの時間割だ! ・これ以外の教科はなんて言うのだろう? 		<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What ~ do you like?という表現を活用し、視点を「教科」に移す。 ・実際のクラスの時間割を扱い、様々な教科の言い方にふれる。
2	<p>○教科を表す表現に親しみ、友達や教師と簡単なやり取りをする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームが面白い、もう一回やりたい。 ・What do you have on ~ ?という新しい表現を使って質問できた。 	<p>【知識・技能】</p> <p>教科や時間割について、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解する。 (行動、ワークシート)</p>	<p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの形式でゲームを行い、楽しみながら教科の言い方に慣れ親しむ。
3	<p>○夢を叶えるための時間割を考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢ってなんだろう? ・自分と同じ時間割の人はいるかな? ・みんなの考えた時間割が気になる。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>目標を達成するために自分で考えた時間割や設定の理由について、その場で話したり、相手に質問したりしている。 (行動、ワークシート)</p>	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢を叶えるための時間割というテーマを設定して、時間割を「自分で作る」という意識をもたせる。
4	<p>○考えた時間割を伝え合う姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢は同じだけど、時間割は全然違う。 ・なんでこの時間割を考えたのか理由も知りたかった。 ・理由が分かると聞いていて面白い。 ・自分が考えた時間割で過ごしてみたい。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>目標を達成するために自分で考えた時間割や設定の理由について、その場で話したり、相手に質問したりしている。 (行動、ワークシート)</p>	<p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間割を伝え合う中で、自分と友達の考えの違いに気付かせる。
5 6	<p>○総合的な学習の時間「映画づくり」のために必要な時間割をグループで考えて伝え合う姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に実現できるのが嬉しい。 ・必要な活動を考えよう。 ・やりたいことがどの教科の学びとつながっているのか考えて時間割をつくろう。 ・自分も相手も分かる単語や文で伝えることが大切だ。 ・なぜこの時間割にするのか理由も知りたい。 	<p>【知識・技能】</p> <p>話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。 (行動、ワークシート)</p>	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画づくりのためにグループで時間割を考える。 <p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返りを生かして伝え方を工夫する。 ・時間割を伝え合う中で、自分と友達の考えの違いに気付かせる。分かりやすい話し方について考え、共有する。
7 8	<p>○総合的な学習の時間「映画づくり」のために必要な時間割を個人で考えて伝え合う姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回より分かりやすく伝えたい。 ・文を読むというより、みんなに話しかける感じで説明するといいな。 ・別の場面でもコミュニケーションをする時に意識したらお互いに楽しくできそう。 ・他の人にも伝えたいな。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>目標を達成するために自分で考えた時間割や設定の理由について、その場で話したり、相手に質問したりしている。 (行動、ワークシート)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>目標を達成するために自分で考えた時間割や設定の理由について、その場で話したり、相手に質問したりしようとしている。 (行動、ワークシート)</p>	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画づくりのために個人で時間割を考える。 <p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返りを生かして伝え方を工夫する。 ・分かりやすい話し方について共有するとともに、実践する。

本時で目指す子供の姿

- 自分も相手も分かる単語や文で伝えた方が分かりやすい。
- 理由が入っているとなぜその時間割にしたのかよく分かる。
- 伝え方の工夫をすると聞いている人も楽しめそうだ。

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

- **前時までの学習を振り返る姿**
 - ・映画づくりのために、1日の時間割を考えて面白かった。
 - ・もっとやりたかった。
 - ・「What do you have on ~?」「I have ~.」という表現を使った。
- **個人で「映画づくり」のための計画を立てる姿(個人)**
 - ・この活動をやりたい。
 - ・これはあの教科の学びとつながっている。
 - ・理由も伝えてみようかな。
- **考えた計画を伝え合う姿**
 - ・同じ教科を選んでいても、人によって取り組んでいる内容や理由が違う。
 - ・他の人のことが分かって面白い。
 - ・理由もわかると納得できる。
- **伝え合いの時に意識することを理解して、伝え方を工夫する姿**
 - ・アイコンタクトもできるといいな。
 - ・相手が聞きやすいように話そう。
 - ・他の人の良いところをもっと見つけたいな。
 - ・理由も説明してみようかな。
- **取り組んでみて感じたことや相手からの反応を共有する姿**
 - ・聞きやすい速さ、声の大きさを意識することが大切だ。
 - ・理由も英語で話せてうれしい。
 - ・相手の目を見て途中で反応を確かめるといい。
 - ・みんなが知っている表現を使うと、言いたいことがしっかり伝わる。自分も安心して話せる。
- **共有したことをもとに、自分で立てた時間割を伝える姿**
 - ・やり取りができると楽しい。
 - ・聞いている人から何か反応があると嬉しい。
- **活動を振り返り、次の学習に向けて目標をもつ姿**
 - ・次はあいづちをしてみよう。
 - ・理由ももう少し詳しく伝えてみたい。

■分かりやすい伝え方にするための工夫について理解して、伝え方を工夫しようとしているか見取る

- 重点①
映画づくりというテーマを設定して、目標を達成するための時間割を考える。
- 重点②
時間割を伝え合う中で、自分と友達の考えの違いに気付かせる。分かりやすい話し方について考え共有するとともに、実践する。

評価

【思考・判断・表現】

目標を達成するために自分で考えた時間割や設定の理由について、その場で話したり、相手に質問したりしている。
(行動、ワークシート)

支援を要する子供に対する手立て

- ・本時までには自分も聞く人も分かりやすい伝え方をめざすという目標意識を育てる
- ・前時までのワークシートを手元に用意して、これまでの学習内容を確認できるようにする
- ・必要であれば友達と相談するよう声をかける

本時の子供の姿

本時では総合的な学習の時間に取り組んでいる映画づくりのために「1日の授業計画を自分で立てるなら」という課題設定のもと時間割を考えた。単元の中でこのような活動をするのは今回2回目だった。そのため、子供たちは課題の内容をすばやくとらえて、その場で自分の目的にあった時間割を設定していた。設定した理由について伝える場面では ICT 機器を使用せず、既習表現を活用して文を作成することにした。これまでの学習の中で子供たちは、ICT の翻訳機能に頼りすぎると「理解できない文が出てくる」ということを十分理解しており、「この表現で伝えたいことが伝わっているのかその場で判断できないのに、そのまま友達に伝えるのはよくないと思う」という意見が聞かれた。そこで本時では ICT に頼るのではなく、自分の中に蓄積された知識を使用して文を作成して友達と伝え合うことを1つの目標に設定した。「あれ、同じ内容だけど選んだ教科が違うね。」「ええ!この2つの作業だったら絶対こっちの方が先だと思うよ。私は逆にしたもん。」などというように、外国語でのやりとりを通して互いに感想を伝え合う姿を見ることができた。このような姿から分かる表現を用いることで相手に内容を確実に伝えることができることを実感して、自信をもって伝える姿を見ることができた。また、参観者の方々に積極的に声をかけて自分が考えた時間割を伝える子供の姿も見られた。実際にコミュニケーションをすることで達成感を味わったり、相手からの返答で新しい表現にふれたりする子供の姿も見受けられた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと意思を生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

今回の授業では3組の子供たちが意欲的に取り組んでいる「映画づくり」をテーマに取り上げて時間割を設定した。子供たちが使用する語彙として単元の中で扱う教科名に偏りが出ているのではないかという意見もあった。しかし、映画づくりの中で取り組む作業には様々な教科で学習した力を生かせることを子供たちが十分理解していたので、本時でそういった状況は見受けられなかった。また、同じような取り組みでも何の教科で学んだ力を必要とするかという認識は個人で異なり、友達と交流する際の気づきや楽しさにつながった。

これまでの学習で自信をつけた子どもたちの中には、参観に来てくださった先生方に積極的に話しかけに行く様子が見受けられた。その際「I have ~.」と1時間目から6時間目まで一気に教科名を伝えて、そのあとに「I want to ~.」というセンテンスを使い理由を伝えようとする姿が見受けられた。より自然な会話をめざすのであれば「I have ~. I want to ~.」というように1つの教科について、取り組む内容と理由を続けて話すようにした方が聞く側としては分かりやすく、自然なやり取りではないかという指摘があった。実際にコミュニケーションをしたことで、聞く立場の人からリアルで貴重な意見を頂くことができた。コミュニケーションにおける「他者意識」という点について、今後より深く考えていくきっかけになると考える。頂いた意見を子どもたちと共有して「他者意識」について考えていきたい。

子どもたちの様子から本時の学習内容は、子どもたちにとって簡単な内容だったのではないかという指摘も頂戴した。本時では事前に考えた時間割の発表ではなく、その場で考えた時間割の即興的なやりとりに重点を置いた。これまでの学習がしっかり自分のものとなり、既習表現を用いたやりとりにどの子どもも意欲的に参加する姿が見受けられたと解釈することができる。学級の中には、課題についてさらにレベルアップした内容に挑戦してみたいと考える子どもと、学んだことの習熟を大切にしたいと考える子ども、どちらも共存している。どの子どもも達成感を味わい、自分の学びを深めることができるような課題について、研究を続けていきたい。

単元全体を振り返って

今回の学習では3組の子どもたちが1番関心をもっている「映画づくり」を軸に授業づくりに取り組んだ。単に理想の授業をプランニングして伝え合って終わるのではなく、後日実際にそのプランで1日活動できたことが子どもたちのやる気や自分の考えを伝えたいという意欲につながった。映画に英語でキャプションをつけたいという子どもや英語での映画撮影など、学習を深めていけば今後の広がりや深まりを期待できる題材であるという意見を頂いた。

「もっと伝えたい」「こういう表現を使ってみよう」と考える子どもの実態と指導すべき内容のギャップ、習熟度の違いなど、言語を学ぶ教科ならではの難しさがあることをあらためて実感した。しかし「難しさ」ととらえて諦めてしまうのではなく、「やりがい」と考えて授業づくりについて研究を深めていきたい。

単元名 Lesson4 The World's Manga and Anime

本単元に取り組む子供の実態

今年度の教科研究テーマである「他者意識ベース」を毎回の授業の根底に置くことで、単なるスピーキング／リスニング活動に留まらず、その目的・場面・状況・相手に応じて「どうすれば一方的な喋りにならず、自分が言いたいことを伝えられるか／相手に理解してもらえるか」を考えながら日々の言語活動を行っている。

ペアワークやグループワーク等を通して子供同士でポジティブな感想を述べ合ったりアドバイスを与え合ったりしたもの（＝共生）や日々の授業の振り返り等を自らの言語活動と照らし合わせ、「こうすればより良くなるのではないか」という自分なりの考えを加えたり、「この活動では〇〇をしてみたい」というような目標を設定し、その達成（＝自己実現）に向けて各言語活動に前向きに取り組む様子が見られる。

本単元設定の理由

本単元の学習を通して、1, 2年生の既習表現や3年生で学習した現在完了進行形、受動態、後置修飾のそれぞれの文法表現に加え、主格の関係代名詞を用いて、自分の思いや考えを他者へと発信する力の育成を目指す。

本単元では、主格の関係代名詞の文法表現の知識を身に付け、その知識や表現を用いて自分がおすすめる日本のサブカルチャーについて、自分が伝えたいことを他者により分かりやすく理解してもらうような言語活動を設定することにより、生徒の「他者意識ベース」の表現力の育成を図っていきたい。

これまでに実践してきた個人スピーチやグループプレゼンテーション等の各言語活動を通して、自分がつけてきた力や課題とする点が明確になってきた。そこで今回は、同世代の興味を惹き付けやすい題材（＝漫画やアニメ等の日本のサブカルチャー）と、諸外国（特に英語圏）における日本のサブカルチャーの浸透度合い等を鑑み、自分が選択した題材を基に紹介プレゼンを作成し発表させたい。また、「世界から見た日本のサブカルチャーの立ち位置の考察」をテーマの一つに据えて調べ学習やグループワーク等を行うことを本単元設定のねらいの一つとすることで、自国の文化について多面的・多角的に考えさせながら自分の思いや考えを英語で表現する力を伸ばしていきたい。



＜グループワークで意見交流をしている様子＞



＜グループ内で発表活動を行っている様子＞

本単元で願う子供の姿

「小中連携の活動の一環として、小学校高学年の児童を対象に『海外から見た日本のサブカルチャー』というテーマで英語でプレゼンテーションをすることになった。ゲストとして、本校のALTや、国外より体験入学に来ている、海外経験のある小中学生にも観覧してもらう。」という場面設定で、自分がおすすめる日本のサブカルチャーについて、自分が伝えたいことを聞き手（他者）により分かりやすく理解してもらうために、「他者意識」をもってアドバイスをし合うことで得られた多くの気づきや学びを参考に、多面的・多角的に考えながら自分の思いや考えを英語で表現する力を伸ばす姿。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>【技能】実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。</p>

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○本単元の題材に触れ、今後の学習について見通しや興味をもつ姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この漫画、日本を代表するものだね。 ・このアイドル、あまり知られていないけれど、もっと世界に広まってほしい。 ・この漫画、日本と外国ではタイトルが違うんだ。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>日本のサブカルチャーについての情報を共有したり様々な意見を確認したりしながら、海外との関わり方に興味や関心を持つようとしている。</p> <p>《発言、振り返りシート》</p>	<p>重点① 自分が伝えたい内容を、「他者意識」を踏まえてより分かりやすい形に言語化しようとするために、グループ活動の形式で気兼ねなく、かつ円滑に意見交換ができる環境を整える。</p> <p>重点② グループでの下書き添削活動や発表練習とアドバイス交換、Jamboardによる意見共有を経て、自分の発表原稿やスライド作成に足りない表現を補えるようにする。</p>
2 3 4 5	<p>○教科書を用いて教科書本文の内容や新出文法表現等を理解し習得する姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の内容は日本の漫画やアニメに関するものかな。 ・(主格の)関係代名詞の表現は、本文のこの部分に出てきているね。 ・教科書に載っているこの表現は、自分の発表に使えそうだ。 	<p>【知識・技能】</p> <p>本文の内容を参考に、英語の知識や文法表現を理解し自分の発表につなげている。</p> <p>《発言、Learning Note (学びのプラン)、振り返りシート》</p>	
6 7 8 9	<p>○発表原稿の下書きや Google スライドの資料を考え作成する姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このアニメとこのアニメ、どちらの方が海外で有名なかな。 ・この表現は、もっとシンプルに表せられないかな。 ・視覚的にもわかりやすくするには、スライドのレイアウトをどのようにしようか。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>より良い発表原稿になるように、グループ内でアドバイスを与え合いながら多くの気づきや学びを得て、自分の発表原稿やスライド資料を推敲している。</p> <p>《発言、Learning Note (学びのプラン)、振り返りシート》</p>	
10	<p>○アドバイスを踏まえて下書き原稿を修正し、より良いプレゼン発表原稿にしようとコミュニケーションを図る姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでこの表現を使うと、より理解してもらいやすくなると思うよ。 ・この漫画を紹介する時に合う表現は、○と□のどっちかな？ ・このタイミングで聞いている人たちに質問してみてもいいんじゃない？ 	<p>【知識・技能】</p> <p>主格の関係代名詞を用いた英文を、プレゼン原稿の中で正確に使用している。《Learning Note (学びのプラン)》</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>添削の内容や発表練習後のアドバイス、Jamboard で共有したクラスメイトの考えを踏まえて自分の思いや考えを整理し、聞き手(他者)にとってより分かりやすい内容にまとめている。</p> <p>《発言、Learning Note (学びのプラン)、Jamboard、振り返りシート》</p>	
11 12 13	<p>○「他者意識」をもって、自分の思いや考えをより分かりやすく伝えている姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この漫画は、海外ではこんなに人気があるんだ。 ・(主格の)関係代名詞の表現は、こういう風に使うといいのか。 ・海外から見た日本の文化って、こんな感じなのかな。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>自分がおすすめる日本のサブカルチャーについて、自分の思いや考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、聞き手(他者)にとってより分かりやすい内容を話している。</p> <p>《発言、Learning Note (学びのプラン)、振り返りシート》</p>	

本時で目指す子供の姿

発表用の原稿の下書きをお互いに添削したり発表練習とアドバイスをし合うグループワークを通して、子供同士で気づきや学びを与え合い、聞き手(他者)にとってより分かりやすい表現力を養っている姿。

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○Small Talk Practice

⇒英会話の反復練習を通して、相手に伝わりやすい話の展開や内容を意識してコミュニケーションを図る練習をする姿。

- ・話す内容がより具体的になってきたね。
- ・だんだんと視線が合ってきたよ。

○Group Work① ~Peer Feedback~

⇒前時までの活動を踏まえ、お互いに下書き原稿を添削することを通してプレゼン作成に適した表現を学び合い、より良い発表原稿を考える姿。

- ・1人の原稿につき2分の添削時間を設定する。
- ・書くことに集中させるため、オーラルコミュニケーションは控えさせる。

○Group Work② ~Oral Communication~

⇒下書き原稿の添削活動でチェックしたことを基に3人グループで発表練習とアドバイスの与え合いを行ったり、Jamboardによる意見の入力を行いその共有を図ったりすることにより、多面的・多角的に考えながら聞き手(他者)にとってより分かりやすい表現を考える姿。

- ・○の文の後に理由を付け加えると説得力が増すと思うよ。
- ・△と▲の順番を入れ替えると、よりわかりやすくなるんじゃない?
- ・◇の表現は習っていないから、習ったことのある表現に替えてみよう。

○代表生徒による発表練習→教員からのフィードバック、本時の授業の振り返り

⇒本時で気づいたことや学んだこと、わかったことなどを簡潔にまとめ、次の授業につなげようとする姿。

- ・前回の授業から、内容を膨らませて下書きを進めることができた!
- ・友達の発表練習では、視線が上がっていて、言いたいことが表情からも伝わってきたぞ。

■グループワークでお互いに下書き原稿を添削し合ったり発表練習を聞いてアドバイスを与え合う活動を通して、多面的・多角的に考え、自らの発表原稿を推敲する姿を見取る。

- ・ただ下を向いて自分の作業に没頭するのではなく、書き途中でも良いので下書き原稿を見せ合ったり発表練習を通して足りない部分を見出したりしながら積極的にコミュニケーションを図ることで、結果的に自分の表現の幅が広がると考える。
- ・他人のアドバイスを否定せず、「こういう考え方もあるんだ」と新しい気づきにつながることを期待する。

重点②

グループでの下書き添削活動や発表練習とアドバイス交換、Jamboardによる意見共有を経て、自分の発表原稿やスライド作成に足りない表現を補えるようにする。

評価

【知識・技能】

主格の関係代名詞を用いた英文を、プレゼン原稿の中で正確に使用している。《Learning Note(学びのプラン)》

【思考・判断・表現】

添削の内容や発表練習後のアドバイス、Jamboardで共有したクラスメイトの考えを踏まえて自分の思いや考えを整理し、聞き手(他者)にとってより分かりやすい内容にまとめている。

《発言、Learning Note(学びのプラン)、Jamboard、振り返りシート》

支援を要する子供に対する手立て

まずは紹介したい題材とそれを選定する理由をしっかりと考えさせる。また、自分が言いたいことをうまく言語化できていない場合には、ヒントを与えて考えさせたり同じグループの中で相談したりするように声かけをする。

本時の子供の姿

本時の授業の中で、Reading, Writing, Speaking (Conversation), Listening という4技能4領域の多岐にわたる言語活動をもとに様々な視点から気づきを得て、子どもたち自身のペースで「伝えたい」をベースにした自分の中の最適解(=自己実現)を求めようとしていたり、“The famous spring song is ‘Sakura’ which is sung by Ikimonogakari.”(生徒の原文ママ)のように本単元の文法事項である「主格の関係代名詞」を活用してみたりと、Try & Errorを試みる子どもたちの姿が多く見られた。

子供たちは、実際の授業で下書き原稿の読み合いや発表練習をグループごとに行うことで積極的に発言し合う様子が見られ、お互いの意見をポジティブに捉えながら推敲することにつながっていた。また、下書き原稿を準備できていない生徒もいたが、自分なりに疑問点や着眼点を考えて前向きに意見交流に参加し、間違いを指摘されて修正しながら自分が伝えたい言い方と照らし合わせようとしていた。反面、実際のコミュニケーション活動が日本語主体で行われていたため、英会話のやり取りだけではなく、簡単な英語でディスカッションする力も身に付けさせる必要があると感じた。



研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

協議会の複数の議題の中で、今回の場面設定では「小学生」という聞き手に対して活用する文法事項の難易度が高いのではないか、というご指摘をいただいた。外国語科の目標として「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成」(学習指導要領より抜粋)と設定されているが、これではいくら発表者が「伝えたい」と思っても聞き手の理解につながらなくてはこの目標を達成することはできない、という本末転倒な事態に陥ってしまう。また、単元の新出文法に触れたときにエラーの指摘で終わってしまい、「この表現を使ってみよう!」につながれなかった。これらのことから、指導技術はもちろんのこと、「単元の最終的なゴールを明確に」した授業計画を立て、目的・場面・状況・題材と絡めたり適切なタイミングで中間指導を入れたりしながら、「どうして英語でやるのか」や「この場合はどうすればよいのか」のように、行っている一つひとつの言語活動に意味を持たせることが必要であると考えた。

単元全体を振り返って

本単元では、「即興型」ではなく「準備型」のプレゼンテーション活動をメインの言語活動に設定した単元計画を立てた。素のスピーキングスキルを図るための活動として考えると改善の余地が大いにあるが、本校の研究主題にもある「自己実現」と「共生」を教科指導の研究と絡めることを考えたときに、限られた時間の中で自分が伝えたいことを様々な角度からの気づきや学びをもとに聞き手を意識しながら何度も原稿を推敲し、英語の正確性をより高めて発表することで、「自分の思いや考えを他者に伝えることの難しさ、それをわかってもらえたときの達成感を実感すること」を重要視し、実社会での(I to I から B to B や B to C などへの)より高度なプレゼンテーションに生かしていきたいという子供たちの「ワンステップ上の自己実現に向けての新たな Try & Error への挑戦」につなげることができたのではないかと考えた。

また、本時の授業を経て単元の終末に行ったプレゼンテーションを、本校 ALT の Mr. Stebbins に聞いていただいた。ネイティブスピーカーを前にしてプレゼンテーションを行ったことで、英語を使う必然性がより明確になり、目的・場面・状況・相手をきちんと設定することで、子どもたちの「伝えたい」により具体的な意味をもたせられたことを実感した。

改めて単元全体を振り返ったときに、「言語活動を設定する際には目的・場面・状況・相手をはっきりさせることで、英語を使用する必然性が明確になることに加え、そのコミュニケーション活動には即興性や正確性が求められる。教員はそれらをバランスよく、かつ適切に指導する必要がある。」と考えたので、表現の習得・理解(インプット)→言語の使用・調整(アウトプット)の流れの中で、この考えを踏まえつつ聞き手に理解してもらいやすい伝え方を常に意識した活動を設定していきたい。

単元名 再考で最高の Introduction (Lesson 6 Tea from China)

本単元に取り組む子供の実態

1年次には生徒の身近な題材や興味関心に基づいた材を積極的に扱っており、自分の思いを英語で伝えられるように生徒の知りたい、使ってみたいという場面で教科書進度や言語学習順にとらわれずに、英語表現を指導してきている。自分の思いや考えを発信してみたいという気持ちがあり、英語でコミュニケーションをすることに積極的な姿がある。

2年次にもその気持ちをより一層豊かなものにし、「他者意識」を持ちながら自分の思いや考えを自分の言葉で語り合えるようにしたいと考えた。そこで、これまでの学習の中で自分の意見を論理的に伝えるために①“OREO ライティング”を、自分の意見や考えを理由とともに伝えるために②“トリオ・ディスカッション”と③“Three minutes Writing”の学習に取り組んできた。①の成果として、期末試験等で意見を書かせる問題などでこちらの指示がなくとも OREO の構成を意識して書いている生徒がとて多く、またその構成が書きやすいと感じている生徒が多くいる。また、②と③の成果として、自分の意見を根拠とともに伝えたり、相手の意見を聞き、自分の考えを深めたりすることの大切さや相互に伝え合い、考えを深めるために必要な英文を少しずつ獲得している様子が見られる。また、文法指導においては「認知言語学」の視点を持ち、実際の生活場面や文法による意味合いの変化なども共有し、より自分の思いを正確な表現で伝えられるように工夫している。

しかし、1年次や2年次の最初と比較して、生徒が文法的・音声的な「正確性」を大切にすぎたり、簡単に正確な英文を知ることができたりすることから、クロームブックを用いて翻訳サイトを安易に利用してしまっている課題がある。クロームブックを安易に利用している結果、リフレーミング(言い換え)の力が身につかなかったり、調べて満足してしまったりと英語の力を身につけることに悪影響が出てきているように感じる。

生徒の学習における課題解決のために、次の2点について留意しながら指導することが有効だと考える。①クロームブック利用を控えさせ、既存の知識でリフレーミングができないかを考えさせたり、周りで相談したりすることを積極的に推奨していく。(知らないことを表現させないという方針ではない。必要に応じて未習の言語事項についても表現できるように支援、指導をしていく。)②Correction Code を用いて、誤用を指摘し、生徒がそのコードを基に正しい表現や文法表現にできるように再考しながら英文を完成させる経験をさせていく。

本単元設定の理由

教科書では中国茶や中国土産を題材にし、お茶の起源や種類、特徴が扱う中で学習が進められるようになっているが、生徒の実生活場面や既有知識を足掛かりに構成することは難しいと考えた。そこで、自分自身や自分の好きな人や人物を紹介することを単元の学習課題として設定した。自分自身を紹介する活動は1年の4~5月頃に、2年生では自分の好きな漫画やアニメを紹介するスピーチ活動を行ってきている。その当時よりも使える文法事項も単語量も増えているので生徒自身の手で表現できる幅が広がっており、生徒自身が成長を感じることができると期待と、紹介する題材を生徒自身が選択することができるので、自分自身の語りたい内容を語ろうとするのではないかと考えている。

加えて、教科書では現在完了形(継続用法)が新しい言語材料として扱われている。現在完了形の特徴は「過去に起こったことがらが現在極めて強いつながりをもつこと」で、これまでに習ったことがない時間帯の出来事や状態を表現できるようになる。本単元を設定するにあたり Pre-Writing として「自己紹介」を書かせていく中で、Learning Noteに「私は3年間サッカーをやり続けている。」や「私はアメリカの伝統料理を食べたことがない。」といった現在完了形で表す内容ができなかったことが書かれていたり、そのような内容を表現したかったができなかったので、I was started to play soccer when I was an elementary school student.と表現したりした生徒もいた。現在完了形を学ぶことで表現したいことが表現できるようになるとも考え、この題材を学習課題とした。

本単元で願う子供の姿

- <自己実現> これまでの学習を生かし、「自分の言葉」で好きなことや人、自分自身を語る姿 【教科デザイン ②,③】
=英語で自分の伝えたい思いが伝わるように他者意識を持ちながら発信できる姿
- <共生> 自分と他者の原稿や語りを比較し、それぞれの良さを考え、今後の語りにつなげる姿 【教科デザイン ③,⑤】
=違いを認め、異なるよさや意図を考え、相互によりよいコミュニケーションにつなげようとする姿
- <その他> これまでの自分と比較し、自分の伝えたいことを自分の言葉で表現し、成長と喜びを感じる姿

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>【技能】日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちを伝え合ったり、理解しあったりする技能を身に付けている。</p>	<p>自分の好きな人やことについて、伝える内容を整理し、自分の思いや考え、事実、気持ちを伝えるために、語彙や段落構成に工夫をしている。</p>	<p>自分の好きな人やことについて、伝える内容を整理し、自分の思いや考え、事実、気持ちを伝えるために、語彙や段落構成に工夫をしようとしている。</p>

*ここにおける「語り」は使用している単語や熟語表現、文法表現のこを中心とした要素の使い方を示している。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○これまでの知識を用いて、今できる最高の自己紹介を書く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の時にステビンズ先生の授業で話をしたときにはどんなことを伝えたっけ? ・せっかくだから2年生で習った文法をつかって伝えてみよう。 ・あれ?なんだか今までよりも伝えたいことが英語で伝えられるようになってきているかも。 	<p>【知識・技能】 既習事項を用いて、伝えたい内容を表現する姿 ＜Pre-Writing シート＞</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ホストファミリーの立場から必要な情報を考えたり、自分の伝えたいことを伝えるためにどのような単語、文法が使えるか考えたり、使ってみたりしようとする姿 ＜学びのプラン、振り返り＞</p>	<p>重点① “書きたい”と思える場面設定 →留学に行くことになったあなたは、ホストファミリーを決めるために必要な書類として、自己紹介(自己PR)を書くように頼まれた。あなたが有意義な日々を過ごすために必要な情報や、ホストファミリーが知りたいと思う内容を考えながら自己紹介をする設定</p>
2	<p>○Correction Code を用いて、自己の英文の正確性を高め、よりよい紹介を作る姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Correction Code があると、自分の間違いを自分で考えて直さないといけなから大変だなあ。 ・どうしてここは間違っているんだろう。あっ!そういうことか!! <p>○ホストファミリーになりきった班員に自己紹介をしあって、推敲しあう姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝わりにくい表現があったかもしれないなあ。 ・あの人の表現はとても分かりやすかった。なんでだろう。 	<p>【知識・技能】 Correction Code を基に自分の英文の誤りに注目して、正しい表現を考える姿 ＜Pre-Writing シート＞</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ホストファミリーの立場から必要な情報を考えたり、自分の伝えたいことを伝えるためにどのような単語、文法が使えるか考えたり、使ってみたりしようとする姿 ＜学びのプラン、振り返り＞</p>	<p>重点② “正しい英文を書きたい”を実現する手立て →Correction Code を共有することで教員が正しい英文を提供するのでなく、正しい英文にするための気づきを与える。</p>
3 4 5 6	<p>○オリジナルテキストブック(オリテキ)を用いて、進出文法等の理解し、活用に向かう姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで表現できなかったことが表現できるようになって楽しんだ。 ・過去分詞を覚えなくちゃいけないのは大変だ…。でも、学習課題には使いたいと思うんだよなあ。 ・オリテキの文はこんな風に変えたら、自分の言いたいことがより伝わるかもしれないぞ。 	<p>【知識・技能】 新出語句や新出文法を理解し、場面に応じて、適切かつ正確に用いる姿 ＜オリテキ、試験＞</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 新出文法等を学習課題で利用し、自分の言いたいことを適切に表現するために Learning Note に蓄積する姿 ＜学びのプラン、Learning Note＞</p>	<p>重点② これまでに学習した文法事項の時制を確認し、Pre-Writing で書きたかったことがここで書けるようになることを示す。</p> <p>重点① “現在完了形”が持つ特徴(魅力)を生活場面で示し、“使ってみたい”と思えるような出会い →過去の出来事が現在につながっている特徴を他の文法(時制)を比較する活動の中で、理解を深められるようにする。</p>
7	<p>○学習課題に取り組むために、自らの課題を設定する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何について紹介しようかな。 ・どんな風に伝えれば、みんなによりよく伝わるだろう。 ・ほかの人はどんな人(こと)を紹介するだろう。どんな理由で選んでいるだろう。 	<p>【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の好きな人やことについて、伝える内容を整理し、自分の思いや考え、事実、気持ちを伝えるために、語彙や段落構成に工夫をしている。(しようとしている。) ＜学びのプラン、Learning Note＞</p>	<p>重点① 自己選択をする幅がある学習課題の設定 →紹介する題材を「自分」「自分の好きな人」「自分の好きなもの」などを選択する幅を与え、“伝えたい”ものを“伝えてみよう”につなげていく。</p>

<p>8 9</p>	<p>○自分の言葉で好きなことを英語で発信するために試行錯誤する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Pre-Writing で伝えられなかったことが伝えられるようになっていく! ・この順番で説明して伝わるかなあ。 ・この表現とこの表現だったらどちらの方が自分の気持ちを伝えられているだろうか。 ・翻訳サイトが使えたら楽なのになあ。 ・英作文は難しいけれど、何か使える表現はないだろうか。探してみよう。 	<p>【知識・技能】 自分の好きな人やことについて、伝える内容を整理し、自分の思いや考え、事実、気持ちを伝えるために、語彙や段落構成に工夫をしている。 <学習課題・試験></p> <p>【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の好きな人やことについて、伝える内容を整理し、自分の思いや考え、事実、気持ちを伝えるために、語彙や段落構成に工夫をしている。(しようとしている。) <学びのプラン、Learning Note></p>	<p>重点② ピア・フィードバック →お互いに下書きを添削しあったり、その内容について質問しあったりする機会を設け、表現や内容を工夫するための学び合いの機会を設ける。</p>
<p>10 11</p>	<p>○再考を重ね自分の言葉でつづった思いを語り、学びの成果を発揮する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命考えて作った紹介文はみんなに伝わるかな? ・自分が好きなものの紹介を聞いて、好きになってくれる人がいるかな? ・あの人の好きなものの紹介すごわかりやすかったなあ。わからない単語もイラストを添えてくれていたからだ。 	<p>【知識・技能】 自分の好きな人やことについて、伝える内容を整理し、自分の思いや考え、事実、気持ちを伝えるために、語彙や段落構成に工夫をしている。 <学習課題・試験></p> <p>【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の好きな人やことについて、伝える内容を整理し、自分の思いや考え、事実、気持ちを伝えるために、語彙や段落構成に工夫をしている。(しようとしている。) <学びのプラン、Learning Note></p>	

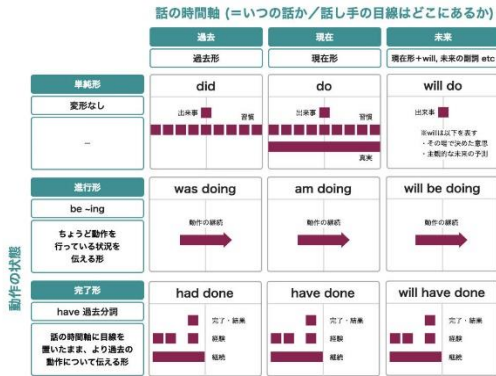
本時で目指す子供の姿

これまで表現してきた時制範囲を確認し、現在完了形との差を知り、自分の学習課題に生かそうとする姿

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

○これまで学習した時制範囲を確認する姿

- ・一年生の時にはこんな文を勉強したなあ。
- ・えっ?そもそも時制ってなんだっけ?
- ・現在進行形ってやったけれど、どんなやつだったっけ?



<https://perapera-learning.com/tense> より(2024年1月8日)

*完了形を学習していないので、過去と現在のつながりに視点を置いた表現を学んでいない。

○現在完了形の時制範囲とその特徴を知る姿

→新出文法を使って、どのようなことが表現したいか考える姿

■子供の見取りプラン

■これまでの学習を振り返り、既習事項では表せない時制があることを知る。

重点②

これまでに学習した文法事項の時制を確認し、Pre-Writing で書きたかったことがここで書けるようになることを示す。

重点①

“現在完了形”が持つ特徴(魅力)を生活場面で示し、“使ってみたい”と思えるような出会いをさせる。
→過去の出来事が現在につながっている特徴を他の文法(時制)を比較する活動の中で、理解を深められるようにする。

■過去と現在につながりを持っている表現であることに気づかせる。

評価

これまで表現してきた時制範囲を確認し、現在完了形との差を知り、自分の学習課題に生かそうとしている。

【知識・技能】

現在完了形の構文や特徴を理解し、適切かつ正確に使うことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】(作品・学習活動の様子ふりかえり)

新出文法等を学習課題で利用し、自分の言いたいことを適切に表現するために Learning Note に蓄積する姿

支援を要する子供に対する手立て

○学習課題で使ってみたい表現や、その生徒の身近な内容で表現できることを探し、英文を一緒に作る。その際に、文法上の構造(have/has+過去分詞)を確認する。

○明示的な説明を増やしたり、例文を多く示したりしながら、スモールステップ(構文は今日覚えよう、現在完了形の時制範囲を覚えよう、現在完了形の特徴を覚えよう)で課題や目標を設定する。

本時の子供の姿

本時のゴールは「過去の出来事が現在に影響する表現」(=現在完了形)を適切な場面で使えるようになるための導入の授業であった。日本語では表現しない時制範囲を表す表現であるために、なかなか子供たちが状況や場面を把握することが難しい様子が見られた。

一方で、この文法事項の理解を深めようとする子供の行動として日常から取り組んでいる相談活動を自発的に取り組む姿が現れ、I have breathed when I born.は適文なのか、こんな場面ではどうだろうと具体例を挙げながら、考える姿があった。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』のP.78には「知識及び技能は、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考、判断、表現することを繰り返すことを通じて獲得される。」とあるが、本授業では、具体的な場面設定が十分に出来て鑄なかったことに加え、明示的な指導が多くなってしまった。教員が導入したい言語事項を含んだ英文を使用しながら、意味を想像させたり、他の文法事項との差に気づかせたりする機会を設けることが重点①につながるのではなかっただろうか。

具体ではI love Snoopy very much.とI have loved Snoopy since I was a child. I have loved it for many years.を音声情報で、時間軸で3つの文を補助的に説明しながら意味を想像させることである。また、この活動を通して、生徒が好きなことや継続して取り組んでいることを英会話で引き出し、表現させる機会を設けることでより理解を深めさせることができたと考えた。

加えて、明示的に過去形(過去の事実)と現在完了形(過去の出来事が現在に影響していること)の違いを示すタイミングの是非が話題になった。指導項目や指導内容が定められていたり、生徒の理解を最短経路で深めたいと思っていたりと、教員の視点で明示的に示すことは避けていくことが望ましいと考えた。

単元全体を振り返って

現在完了形の導入前に次のような条件で英作文を生徒に書かせた。

英語圏へ留学することになった。それに伴い、あなたはホストファミリーを決める会社から、あなたにあったホストファミリーを紹介するために自己紹介文を書いてほしいと頼まれた。あなたがホストファミリーに知っておいてほしいことやホストファミリーが知りたいと思うだろうことを考え、それらを含めた文を書きなさい。

この条件を示し、最初に生徒が書いてきた自己紹介で見られた課題については、「本単元設定の理由」にて記載しているが、単元での学習を進めた後に書き直し(アップデート)させたところ、現在完了形を用いた表現を1文以上書いている生徒が7割以上となった。また、I am interested in American food but I have never been to America. So, I want to eat them when I go.と書いた生徒は、「いままでどう表現したら良いか分からなかったから、できなかったけれどいえるようになって良かった。」と現在完了形を用いて表現できることを増えたと実感している生徒もいる。

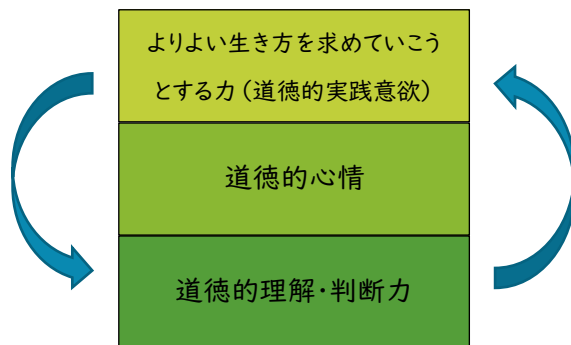
加えて、ALTの授業で What do you want to be or do in the future?というスピーチ課題においても、I have wanted to be a nurse since I was five.と表現する生徒がいたり、I want to go to France again because we saw very beautiful views there.という文に対して、別の生徒が How many times have you ever been to France?と質問し、より深く理解するためのコミュニケーションが行われた。

新しい文法を導入することで生徒の表現の幅が広がることは明らかであるが、豊かなコミュニケーションのためには「使ってみる経験」をたくさん用意することが肝要であり、その文法事項の出会いもコミュニケーションの場であることが望ましいのではないかと振り返った。

教科部で大切にしていること

よりよい生き方について考え、求めていこうとする姿

道徳科の目標は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。道徳性について、右の図から考えてみたい。1時間の授業を、道徳的価値について「どういうことだろう?」、「何がいいのか?」と問いを持ち、「わかった!」、「そういうことか!」と理解する(道徳的理解・判断力)。そして、理解することで「いいなあ〜」、「それは素晴らしいなあ」と心が動く(道徳的心情)。さらに、自分にも同じ心があると自覚すると、「自分もそうありたいな」、「やってみよう」という意欲が生まれる(道徳的実践意欲)。このような思考の流れと心の高まりが道徳性の育成に繋がる。



願う子供の姿

- 当たり前を当たり前とせず、問いをもって考えようとする姿
- 自らの経験や理想とする生き方からよりよい生き方について考えることができる姿
- 目に見える行為だけでなく、目に見えない行為を生む心についても考えることができる姿
- 善悪の間に揺れながらもよく生きようとする人間のよさについて考えることができる姿
- 様々な状況や人物の立場に立って考えることができる姿
- 現在だけでなく、過去や未来もつなげて考えることができる姿
- 1時間の授業だけでなく、これまでの道徳の授業や、他教科領域、家庭生活等とつなげて考えることができる姿
- 学んだよさについて調査したり、実践したりしながら、よりよい生き方について考え、求めていこうとする姿

小中の取り組み

考えの広がりや深まりを生む発問、子供の発言をもとにした問い返し、思考を可視化して整理するための板書、考えを共有するためのICTの活用などから子供とともに作る授業の工夫

小学校

「よりよく生きるための基盤となる道徳性」を養うためには、よりよい生き方とは何かと問いを持ち、対話をしながら追究していくことが重要である。

そのためには、「親切にすることはよいことだ」、「努力することは大切だ」などといった既存の概念に対して、発問や問い返しによって揺さぶりをかける(概念崩し)ことで問いが生まれ、教材や他者、自分自身の経験などと対話をする時間を設けながら価値を再構築していく授業を大切にしたい。

また、図や絵を用いることで思考を可視化し、多面的多角的に考える一助となるような板書を取り入れたり、1時間の授業で完結するのではなく、授業で学んだことをまとめ、学びを継続させていくための掲示物を取り入れたりしていきたい。

中学校

中学生になると、道徳的価値を理解するだけの授業では「表向きはこうすべきだと思うが現実的にはそうではない」と本音を言わずに建前を述べてしまうことも多い。道徳的価値を理解しつつ、そのとおりにできないのはなぜなのか考え、人間理解できるよう促していきたい。そのため、子どもたち同士が考えを深め、議論することができるような環境を作りたい。多面的多角的に考えられる発問、問い返しを工夫したい。

また、子ども同士の話し合いの場を充実させるために、4月の始めに「話し合いの約束」を各クラスで考え、話し合いの前に実践できるよう促したい。

そして、道徳が授業で終わることなく今後の生活に活かせるようにしたい。そのために、ICTを活用して授業の始めに前時の振り返りから子ども同士で道徳的価値について、日常生活の具体例を共有する時間を持ちたい。

取り組みに対する振り返り

成 果

【小学校】

- ・発問、問い返しによる揺さぶりからズレを生み、ズレが問いとなって主体的に学習を進める姿があった。
- ・子供たちは、授業の回数を重ねるごとに思考ツールの使い方を理解し、既存の思考ツールを用いて自分の考えを表出していたり、新たな思考ツールを作り出して考えることを楽しんだりする姿があった。
- ・道徳的価値について、目に見える行為の世界だけで判断するのではなく、目に見えない心の世界や様々な状況など、多面的多角的な視野に立って考えることができた。

【中学校】

- ・道徳的価値を理解するだけの授業ではなく、子供の本音を引き出しやすい発問の仕方を工夫することができた。
- ・問い返しによって道徳的価値を遂行する難しさを共有し、受け入れた上で、現実的にどう考えたらよいかを、考えられるように促すことができた。
- ・デジタルホワイトボードを活用して、他の人の考えを一度にたくさん見られるようにし、自分の考えを広げられる環境を作ることができた。

課 題

【小学校】

- ・道徳の授業は自らの体験や友達の考えを聞きながら道徳的価値について理解を深めていくが、これらは座学による知的な理解に留まることが多かった。さらに理解を深めるためには、他教科や行事などとの活動を、授業で学んだ道徳的価値と意図的に関連させることで体験的な理解を促すことが必要であると感じるが、その機会が少なかった。
- ・内容項目について、1時間の授業で道徳的価値を考えていくことも大切ではあるが、内容項目を様々な面から取り上げて考えていくことも必要であると感じた。

【中学校】

- ・デジタルホワイトボードや、子供の振り返りを一覧にしたシートを共有することによって、他の人の考えを知ることはできたが、共有にとどまり、そこから自らの考えを振り返ったり、深めたりすることにおいては十分とはいえなかった。
- ・各内容項目や教材に対して教師自身の理解が十分でなかったために、発問や問い返しの子供たちにとってより考えを深められるようなものでないことがあった。
- ・教師が子どもの考えをまとめたり読み上げたりすることが多く、子ども自身の言葉で語る場面が少なかった。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

子供たちが考えを広げ深めようとするためには、発問や板書などの授業方法に力を入れるのではなく、教師自身が広く深い考えをもって授業に臨むことを大切にしたい。つまり、教材を読む際に教材をどのように読むか、内容項目をどのように解釈しているかが授業の核になると考える。例えば、「思いやり・親切」について学習する際に、「親切は大切である」ということは誰でも容易に感じていることであり、これでは授業をしても深まりに欠ける。「親切が大切ではない場合はないか」、「人に言われて行く親切も親切といえるか」などと具体的な場面を想像して、時間や場所、相手など、様々な状況から自らを問い続けたり、教材と自分を重ねて考えたりし続けることで考えに広がりや深まりが生まれる。また、教材を読む際に他者と話し合うことで自分と他者との共通点や相違点が見つかり、自分の考えにより納得ができたり、新たな発見ができたりする。このような教材研究、ひいては人間理解を教師自身が求め続けていくことで、授業における子供の深い考えを導き出すことができると考える。

来年度以降も、発問や板書、ICTなど、授業の方法から考えるのではなく、まずは一人の人間として教材を読み、教材を通して道徳的価値とは何かを自問自答して教師自身が考えを広げ深めていく姿勢を大切にしたい。その上で目の前の子供たちの学習能力や道徳的体験、クラスの雰囲気など、子供理解を大切に、目の前の子供たちにあった明確なねらいを立てたい。そして、明確なねらいに向かって「やりたい」を引き出すための発問の工夫や、解決のすべに向かった板書、意思表示の工夫、ICTの活用など、効果的な授業の方法を取り入れていきたい。また、1時間の授業だけでなく、連続した授業の中で同じ内容項目を様々な面からとらえて単元を作ったり、様々な内容項目と関連付けて単元を作ったりすることで学びの深まりを目指したい。

単元名 夢に向かって

本単元に取り組む児童の実態

6年3組の児童たちと道徳の授業を行って3カ月が経過した。その間、「家族愛」、「感動、畏敬の念」など、様々な内容項目を手掛かりにしながらよりよい生き方とは何かを学習してきた。それぞれの授業で、発問や問い返し、友達の発言などがきっかけとなって問いが生まれ、様々な観点から考えを広げ深めていく児童たちの姿が表れはじめている。そして、授業を1時間で完結するのではなく、前の授業や自分たちの生活と関連付けたり、思考を視覚化するために図や表を用いたりする様子も表れてきた。また、授業後に友達のところに行って話し合う姿や、板書を書き足しに来る姿、家に持ち帰ってノートを書きたいと発言する姿を見ていると、よさを追究することの楽しさを実感し始めていることを感じている。その根底には、よりよい生き方について納得解を求めて学び合う楽しさを味わっていることが考えられる。

本単元設定の理由

本単元を中心となる内容項目は「希望と勇気、努力と強い意志」であり、「希望と勇気、努力と強い意志」を手掛かりにして道徳的価値について考えていきたい。

【目標観】

人間には、「わからなかったことがわかるとうれしい」、「できなかったことができるとうれしい」と感じる心をもっている。それと同時に、「つらいことから逃げ出したい」、「がんばることは面倒だ」と感じる心をもっている。つまり、前向きに頑張ろうと思う自分と、怠け心に負けてしまいそうな自分との間で揺れながら生きているのである。怠け心に打ち克つことができるのは、誰もがもつ「よりよく生きたい」と願う心が発揮された状態であり、その心が昨日よりも今日、今日よりも明日へと自分自身の成長に向かって努力をする姿となって表れると考える。また、「よりよく生きたい」と願う心は、夢や目標をもつことによって高まる。しかし、夢や目標をもっている、困難なことにぶつかると挫折を味わい、諦めてしまうことも少なくない。夢や目標に向かって努力を続けるために大切なことは、今の自分を見つめ、自分に合った目標を立てることであり、目標を達成したときの満足感が新たな目標を掲げる活力となり、努力をする姿に繋がる。これらの繰り返しによって、自らの成長を実感するとともに、「よりよく生きたい」という願いが実現することで、大きな喜びを味わうことができると考える。

【児童観】

多くの児童は、目標に向かって努力をすることで、達成感を味わうことができる素晴らしさを感じている。そして、容易に目標を達成できない苦い経験をもちながらも、高い目標を目指して向上していこうという気持ちをもっている。ところが、己の弱さゆえに、達成できない理由を外的な要因にすり替えて安堵し、いつしか諦めそうになってしまうのもまた人間である。そのようなときに、夢に向かってひたすらに歩む人の生き方に触れて感銘を受けることを通して、改めてよりよく生きることについて考え、その実現に向けて歩き出すことができると考える。

【教材観】

第一次では、『夢に向かって～三浦雄一郎～』を扱う。誰でも目標を失ったときや、目標をもっている怠け心から自分の生き方が疎かになってしまうことがあり、三浦雄一郎もそのような心をもった人間である。しかし、「怠け心に負けたくない」、「夢に向かって努力をし、自らを成長させたい」といった三浦雄一郎の努力を生む心に着目して考えを深めていくことで、高みに向かって努力をすることの素晴らしさを考えることができる。

第二次では、『富士観測所をつくるために』を扱う。過酷な環境の中でも、国の発展に尽くそうとする野中到の思いが自らを突き動かすとともに、野中到の熱意に触れた人々がその思いを引き継ごうとする姿から、高い目標をもって努力を続ける人間のよさを様々な視点から捉えることができる。

本単元で願う子供の姿

努力をする姿と努力を生む心について様々な視点から考え、よりよい生き方について追究していこうとする姿。

評価規準

道徳的理解・判断力	道徳的心情	道徳的実践意欲
<ul style="list-style-type: none"> ○人間には、怠け心に負けず、自らを高めたいと願う心があることがわかる。 ○ものごとを成し遂げるには、強い目的意識をもち、粘り強く実行する力が大切であることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○怠け心に打ち克ち、夢に向かってよりよく生きたいと努力を続ける姿に心が動く。 ○国の発展を願って、自分のもっている力を精一杯発揮して生きていくことの素晴らしさに感動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○怠け心に負けず、自らを高めたいと願って努力を続けようとする。 ○ものごとを成し遂げるために、自分のもっている力を精一杯発揮して生きていこうとする。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと意思を生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○教材『夢に向かって ~三浦雄一郎~』を読んで、努力を続けようとするのはなぜかを考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怠け心に負けてしまう自分が嫌だったんじゃないかな。 ・弱い自分でいたくないんだろうね。 ・新しい夢を持ったから頑張れたのかな。 ・夢が実現したときの喜びをもう一度味わいたいんだよ。 ・三浦さんは夢の実現に向けて、今の自分にできることから一步一步始めているね。 ・努力をするのは苦しいけど、夢が実現すると努力した分、喜びは大きくなるね。 ・たとえ登頂できなかったとしても、頑張った自分を誇らしく思えると思うな。 ・努力したことは未来に繋がっていくよ。 ・夢には終わりが無いのかもしれないな。 ・夢に向かって努力をすることっていいな。 	<p>【道徳的理解・判断力】</p> <p>○人間には、怠け心に負けず、自らを高めたいと願う心があることがわかる。 (発言、話し合いの様子、ノート)</p> <p>【道徳的心情】</p> <p>○怠け心に打ち克ち、夢に向かってよりよく生きようと努力を続ける姿に心が動く。 (発言、話し合いの様子、ノート)</p> <p>【道徳的实践意欲】</p> <p>○怠け心に負けず、自らを高めたいと願って努力を続けようとする。 (発言、話し合いの様子、ノート)</p>	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の概念に揺さぶりをかける。 ・道徳的価値について、努力をする姿と努力を生む心から考えられる教材を用いる。 ・理由、比較、仮定等のカテゴリから発問をし、問いを生むきっかけを作る。 <p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考を可視化し、考えやすくするための板書を工夫する。 ・考えを広げ深めるための話し合いの時間を設ける。
2	<p>○教材『富士観測所をつくるために』を読んで、努力を続けようとするのはなぜかを考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三浦さんの努力と違うところがあるな。 ・野中さんは、観測をやめたいと思ったこともあったんじゃないかな。 ・観測をやめなかったのは、外国に負けたくなかったからだよ。 ・自分の研究が日本の人々のためになると信じていたんだよ。 ・誰もやったことがないから、やり遂げたかったんじゃないかな。 ・新しいことがわかる楽しさもあったと思う。 ・家族や周りの人たちの応援に応えたかったんだね。 ・野中さんたちがいたから、今の暮らしができていたんだな。 ・昔の人たちの力かと思いはすごいし、ありがたいな。 	<p>【道徳的理解・判断力】</p> <p>○ものごとを成し遂げるには、強い目的意識をもち、粘り強く実行する力が大切であることがわかる。 (発言、話し合いの様子、ノート)</p> <p>【道徳的心情】</p> <p>○国の発展を願って、自分のもっている力を精一杯発揮して生きていくことの素晴らしさを感じ取る。 (発言、話し合いの様子、ノート)</p> <p>【道徳的实践意欲】</p> <p>○ものごとを成し遂げるために、自分のもっている力を精一杯発揮して生きていこうとする。 (発言、話し合いの様子、ノート)</p>	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材を読む視点(三浦さんと野中さんとの共通点と相違点)をもって教材を読む。 ・教材に描かれているズレから問いを生むきっかけを作る。 <p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考を可視化し、考えやすくするための板書を工夫する。 ・考えを広げ深めるための話し合いの時間を設ける。
3	<p>○三浦雄一郎や野口到の生き方に触れて、自分の生き方に繋げようとする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢を叶えようと努力する姿はかっこいいな。 ・自分だけでなく、誰かのためを思って努力できる生き方って素敵だな。 ・できることから目標を立てて、実行していきたいな。 	<p>【道徳的实践意欲】</p> <p>○ものごとを成し遂げるために、自分のもっている力を精一杯発揮して生きていこうとする。 (発言、話し合いの様子、ノート)</p>	<p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢や目標と、その実現に向けて考えたことをノートなどにまとめる。

本時で目指す子供の姿

- 人間には怠け心もあるけど、それに負けずに夢に向かって挑戦し続ける生き方ってすごいな。
- 自分たちがしている努力も未来に繋がっていくんだな。

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○努力について考える姿

- ・努力をしたけど、結果が出なかったこともあるな。
- ・結果が出なかったとしても、努力が無駄だとは思いたくないな。

○教材『夢に向かって ～三浦雄一郎～』を読んで、努力を続けようとするのはなぜかを考える姿

- ・七十歳を過ぎてでもエベレスト登頂を目指す三浦さんはすごいな。

重点①

- ・既存の概念に揺さぶりをかけ、問いがもてるようにする。
- ・道徳的価値について、努力をする姿と努力を生む心から考えられる教材を用いる。

三浦さんがエベレスト登頂を目指したのはなぜだろう？

- ・怠け心に負けてしまう自分が嫌だったんじゃないかな。
- ・弱い自分でいたくないんだろうね。
- ・新しい夢を持ったから頑張れたのかな。
- ・夢が実現したときの喜びをもう一度味わいたいんだよ。
- ・三浦さんは夢の実現に向けて、今の自分にできることから一步一步始めているね。
- ・努力をするのは苦しいけど、夢が実現すると努力した分、喜びは大きくなるね。
- ・たとえ登頂できなかったとしても、頑張った自分を誇らしく思えると思うな。
- ・努力したことは未来に繋がっていくよ。
- ・夢には終わりが無いのかもしれないな。
- ・夢に向かって努力をすることっていいな。

重点①

- ・理由、比較、仮定等のカテゴリーから発問をし、問いを生むきっかけを作る。

重点②

- ・思考を可視化し、考えやすくするための板書を工夫する。
- ・考えを広げ深めるための話し合いの時間を設ける。

○努力について三浦さんの生き方から学んだことを振り返る姿

- ・人間には怠け心もあるけど、それに負けずに夢に向かって挑戦し続ける生き方ってすごいな。
- ・自分たちがしている努力も未来に繋がっていくんだな。

- 三浦雄一郎の夢に向かって努力をする姿から、道徳的価値についての考えの広がりや深まりを、発言、話し合いの様子、道徳ノートの記述などから見取っていく。

評価

【道徳的理解・判断力】

- 人間には、怠け心に負けず、自らを高めたいと願う心があることがわかる。
(発言、話し合いの様子、ノート)

【道徳的心情】

- 怠け心に打ち克ち、夢に向かってよりよく生きようと努力を続ける姿に心が動く。
(発言、話し合いの様子、ノート)

【道徳的実践意欲】

- 怠け心に負けず、自らを高めたいと願って努力を続けようとする。
(発言、話し合いの様子、ノート)

支援を要する子供に対する手立て

言葉だけでなく、図や表などを用いて思考を可視化し、考えやすくする。また、意思表示を用いることで学習を自分事にしたたり、話し合いの時間を設けて様々な面から考えを広げ深める手助けにしたりする。

本時の子供の姿

本時では、「三浦雄一郎がエベレスト登頂を目指したのはなぜか」という問いから、努力を生むもとの心や目標に向かって努力をすることのよさについて話し合った。三浦雄一郎が人生の目標である六大大陸スキー直滑降達成をしているにも関わらず、さらにエベレスト登頂を目指す理由として、子供たちは「藻岩山に登れなかった自分が悔しい」、「目標を達成しているからこそ、達成したときの喜びを味わいたい」、「藻岩山では刺激が足りない。苦しくても高い目標に挑むことの方が生きがいになる」など、今の自分に満足せず、高みに向かって努力したいと思う心のよさについて話し合いを進めていった。特に子供たちは、エベレストに挑むことが「刺激」になるという言葉から、目標を達成したときの「達成感」を知っている、それが繰り返されることで「生きがい」になる。といった考えに深く共感しており、話し合いを通して、「刺激」から「達成感」、最終的には「生きがい」へと言葉を繋げて深化させていった様子が見られた。

授業の最後に「三浦さんのゴールはどこだろう」と投げかけたところ、子供たちは「ない!」と答え、その理由を聞くと「目標をもってそれに挑む喜びを感じていればゴールはない」と話していた。教材を通して、努力を生む心や目標に向かって努力をすることのよさを、自分と重ねて考えることができたとともに、クラス全体としての納得解を求めていくことができた。

研究協議から考えたこと

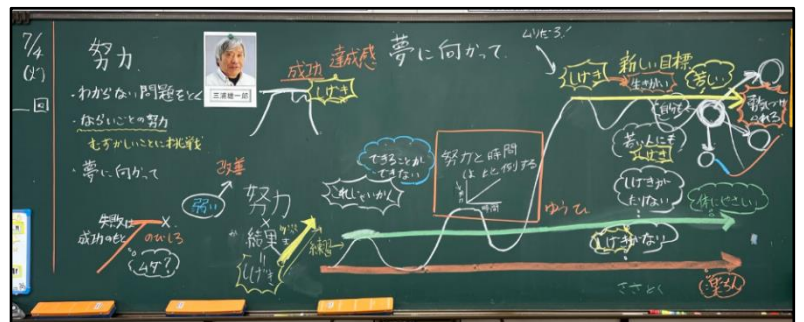
重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

重点①について、「やりたい!」を引き出すためには、問いが生まれることが肝要であり、問いが生まれることで「考えたい」、「伝えたい」、「聞きたい」と意欲的に取り組もうとする姿が表れる。授業では、既存の概念を覆す発問や、子供の発言から問い返して揺さぶりをかけることでズレが生まれ、「～たい!」を生むことができた。具体的には、授業の終盤にある子供が「三浦さんはエベレストに登る人に勇気を与えていると思う」という発言をし、それに対して共感しながらも「エベレストに登らない人には勇気を与えられないかな」と問い返すことで、「それは違う」、「登らない人にも三浦さんの生き方を知ることによって勇気を与えている」などと、さらに追究していく姿が見られた。これは、エベレストに登るという表面的な行為だけでなく、誰もがもっている高みに向かって生きていきたいと願う人間のよさを明らかにすることができたのではないかと考える。

重点②については、三浦さんの努力の過程と、エベレスト、藻岩山、富士山、六大大陸の山々などを比較対象として黒板に表した。これらを視覚化したことで、思考活動の手助けとなったと感じる。また、「三浦さんは多くの人たちを勇気づけている」という子供の発言を、複数の顔(○)にして表したことで、量的な理解を促すこともできたと考える。

板書は授業のねらいに向かって子供たちが自ら広げ深めていける思考の手助けとなるものでありたい。その点から考えると、今回の板書は有効であったと考える。



単元全体を振り返って

子供たちは、学校や家庭、地域での習い事など、多くの場面で様々な努力をしている。努力をすることでわかるようになっていたり、できるようになったりして、自らの成長を感じている。今回の授業では、努力をすることのよさを三浦雄一郎や野中到の生き方を通して、改めて広く深く考えることができた。次の文章は、授業後子供が書いた振り返りの一部である。「三浦さんの挑戦はずっと続くと思う。理由は、ずっと挑戦を続けてきた人があきらめることはないと思うから。挑戦することは大切だ。何もしなければ、刺激のないつまらない人生になり、人生を後悔するのは自分にとっては絶対に嫌いだ。挑戦をし続けることで、見えてくるものがあると思う。これは、がんばりパワーの授業にも繋がっている。今回の授業で学んだことは、「時間は有限、努力と挑戦は無限」ということ。大切だと思うので、忘れないようにしたいと思う。」この学びは、自らの体験を振り返り所にしなが、よさを追究していく知的な活動ができたことと捉えることができる。しかし、授業は一時的な学びで終わってしまうこともある。このような学びを永続的なものとしていくために、授業で学んだ知的な学びと他教科での学習や学校生活、家庭生活など、体験したことを結び付けて、理解(納得)を深めていくことを目指したい。

単元名 思いやりの気持ちと寛容の心

本単元に取り組む子供の実態

2年1組の子供たちと道徳の授業を行って6か月が経過する。4月の始めに、話し合いの内容が深まるように「話し合いの約束」(N・・・仲間の意見を尊重 H・・・本音の話し合い K・・・感情表現を豊かに)を決めた。その後、「自主、自立、自由と責任」「節度、節制」「向上心、個性の伸長」「自然愛護」「国際理解、国際貢献」など、様々な内容項目から人としてよりよく生きるとは何かを学習してきた。

1年次から話し合いの約束を決めて実践し、振り返りをしてきたことで、問いに対して班の人と話し合うこと、相手の発言をしっかりと聞くことには慣れてきている様子が見取れる。

また、問いに対して、表面的に模範的な回答をするのではなく、理想とは違う現状をふまえた本音を出すことができる雰囲気もある。そして、振り返りフォームから前時の振り返りを共有したり、Jamboard(デジタルホワイトボード)を通してクラスメイトの意見を見たりする時には、積極的に他の人の意見を見て、考えようとする姿勢が見られる。

しかし、一部の班では教材の趣旨とは違う点に面白さを見いだして話し合いが脱線したり、話し合いではなく考えの伝え合いになってしまったりして考えが深まらない様子も見受けられる。

本単元設定の理由

本単元の中心となる内容項目は第三次の「相互理解、寛容」である。「公正、公平、社会正義」を手掛かりに、「思いやり、感謝」から「相互理解、寛容」につながるように道徳的価値について考えていきたい。

【目標観】

人は誰もかけがえのない存在である。だから、他者のよいところを認めようとするのが大切であることは誰もが理解をしているところである。しかし、実際には他者のよいところを認めることは意外と難しいということに気づく。これは他者がどうというより自己のものの見方によるところが大きい。まずは、自分が未熟であり、考えが全て正しいわけではないということを自覚することで、自分と異なる他者のよいところや考えを尊重しようとする謙虚な心が生まれる。その心が結果として他者に学び、自己の成長につながると考える。

【生徒観】

多くの子供は、だれしもがかけがえのない存在であることを頭では理解していても、実際に他者を尊重しよう、謙虚に学ぼうとする心まである子供はまだ限定的である。また、他者のよいところを見つけるというものの見方については、できたらよいが実際には難しいと考えたり、相手の嫌なところは好きにならなくてもよいのではないかと考えたりすることが考えられる。よいところを見つけるという、行為のもととなる心を考えることで、自己のものの見方を見直す実践意欲に繋げたい。

【教材観】

第一次では、「公正、公平、社会主義」の内容項目で「わたしのせいじゃない」という教材を扱う。クラス内で起きたいじめについてどうすればよかったかを考えることで、自分も他者もかけがえのない存在であることを自覚し、誰に対しても平等に接することの大切さを学ぶことができる。

第二次では、「思いやり、感謝」の内容項目で「通学電車の中で」、「行為の意味」という二つの教材と子供の随筆作品を扱い、席を譲ろうと思っても中々譲れないという、よくありそうな状況をもとに思いやりについて考える。行為として譲る譲らないに関わらず、譲ろうとする時点で相手のことを思いやっている心があることに気付くことができる。

第三次では、「まるごと好きです」という教材を扱う。かけがえのない存在である他者を、よいところも悪いところも、まるごと好きになるという考え方をすることで、他者の個性を認めること、寛容であることはどのようなことかを班の人たちと話し合い、考えを深めていく。

本単元で願う子供の姿

自分同様かけがえのない存在である他者に対して思いやりの心を持ち、他者のよさを認め、謙虚に学ぼうとする姿。

評価規準

道徳的理解・判断力	道徳的心情	道徳的实践意欲
<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりの大切さがわかる。 ○自分も他者も、共にかけがえのない存在であることがわかる。 ○他者のよいところを見つけようとすることのよさがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの人々の心の中にある善意に心が動く。 ○自分も相手の立場に立って考えられ、思いやりの心があることに心が動く。 ○自分にも他者から謙虚に学ぼうとする心があることに心が動く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他者への思いやりの心を持つとする。 ○他者に謙虚に学ぶことで自分の成長につなげようとする。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと意思を生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○教材「わたしのせいじゃない」を読んで、どうすればよかったかを考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> みんな平等に接するのは難しいことだけと偏見や差別はよくないな。 一人ひとりが相手を思いやる温かい精神、責任感を持っていればいいんだけどな。 	<p>【道徳的理解・判断力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分も他者も、共にかけがえのない存在であることがわかる。(振り返りフォーム) <p>【道徳的心情】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多くの人々の心の中にある善意に心が動く。 <p>【道徳的实践意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他者への思いやりの心を持つとうとする。(振り返りフォーム) 	<p>重点①</p> <p>文章を読む前後に、ひっかかることはないか、問いかけ、道徳的心情を引き出す。</p> <p>重点①</p> <p>教材に関連することについて、自身の経験を周りに話すことで、自分ごととして考えられるようにする。</p>
2	<p>○教材「通学電車の中で」、生徒の随筆作品、「行為の意味」を読み、自分の思いやりの気持ちに気が付く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> この前の校外学習で電車に乗ったとき席を譲ろうと思ってできなかったな。 譲ろうかと迷っている時点で相手のことを思いやっているとことなんだ。自分にも思いやりの気持ちがあったということなんだな。 随筆の○○さんは席を譲れたみたいだけど、思いやりの気持ちがあっても、実際に行動に移さなければ意味が無いのかな。やっぱり実際に声をかけたり、席を譲ったりすることができるほうがいいのか。 相手の立場に立って考えられるといいな。 	<p>【道徳的理解・判断力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○思いやりの大切さがわかる。 <p>【道徳的心情】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分も相手の立場に立って考え、思いやりの心を持っていることに心が動く。 <p>【道徳的实践意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者への思いやりの心を持つとうとする。(振り返りフォーム) 	<p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートフォームに匿名で回答する仕組みにすることで、気軽に答えられるようにする。 <p>重点①</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由、比較、仮定等のカテゴリーから発問をし、問いを生みきっかけを作る。 <p>重点②</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の考えを可視化し、考えやすくするための板書を工夫する。
3	<p>○教材「まるごと好きです」を読み、他者のよいところもよくないところも好きになるという考え方について考える姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手のよいところを見つけるというのは、いい考えだな。 他の人のよいところは好きになれても、よくないところは好きになるのは難しそうだ。そんなことできるのかな。 筆者はどうして「まるごと好きになる」という考えをしようと考えたのかな。 	<p>【道徳的理解力・判断力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他者のよいところを見つけようとする事のよさがわかる。(振り返りフォーム) <p>【道徳的心情】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分にも他者から謙虚に学ぼうとする心があることに心が動く。(振り返りフォーム) <p>【道徳的实践意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他者に謙虚に学ぶことで自分の成長につなげようとする。(振り返りフォーム) 	<p>重点②</p> <p>考えを広げるために話合いの時間を設け、Jamboardを活用して話合いの内容を共有する。</p>

本時で目指す子供の姿

○人のよいところを見つけるというのはよい考えだな、他の人から謙虚に学べるといいな。

○学ぶ子供の姿 ・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○以前の道徳の授業、「譲る気持ちはあるのに・・・」の振り返りを読んでいる姿

・そういえば前に「譲る気持ちはあるのに・・・」をやったな。こんなことを考えていた人がいたんだ。

○自分は人のよいところが目に付く方か、よくないところが目に付く方か、などを考える姿。

・自分はどちらかというところをよくないところを見る方かな。
・自分はどちらかというところをよくないところを見る方かな。

○「まるごと好きです」を読んで、筆者の考えについて、周りと話し合っている姿

・工藤さんは他の人のよいところを真似しようとしているね。
・でも、「まるごと好き」になるのは難しそうだ。どうして難しいのだろう。
・他の人のよいところを見るときは、その人のことを好きだったり、尊敬していたりするかもしれない。
・嫌いな人や、馬鹿にしている人はついよくないところをみてしまうかも。
・では、どうして工藤さんは人のよいところを真似するようになったのだろう。

重点①

・アンケートフォームに匿名で回答する仕組みにすることで、気軽に答えられるようにする。

重点①

・理由、比較、仮定等のカテゴリーから発問をし、問いを生むきっかけを作る。

重点②

・生徒の考えを可視化し、考えやすくするための板書を工夫する。

人を「まるごと好き」になるという生き方のよさはなんだろう。

○班で話し合う姿。話し合った内容について、Jamboardを使い、クラスで共有している姿

・もともとよいところに目がいく性格なんじゃないかな。
・悪いところを見るよりよいところを見る方が気持ちとしては楽なのかもしれない。

○Jamboardに上がったいくつかの考えについて、さらに詳しい考えを聞いている姿

・この班のこの考えはどういうことなのか詳しく知りたいな。
・他の人のよさを学ぶことで自分のよさが増えていって素敵だな。

○感想を書いている姿

・相手のよいところに目を向けるという考えはいいなと思うけれど、それは簡単ではない。でも、人のよいところに目を向けられるかどうかは結局自分次第なのかな。自分も他の人から学ぶ気持ちを持てるといいな。

重点②

・考えを広げ深めるために話し合いの時間を設け、Jamboardを活用して話し合いの内容を共有する。

■「まるごと好きです」の資料から、道徳的価値についての考えの広がりや深まりを、振り返りフォームなどから見取っていく。

評価

【道徳的理解力・判断力】

○他者のよいところを見つけようとすることのよさがわかる。(振り返りフォーム)

【道徳的心情】

○自分にも他者から謙虚に学ぼうとする心があることに心が動く。(振り返りフォーム)

【道徳的実践意欲】

○他者から謙虚に学ぶことで自分の成長につなげようとする。(振り返りフォーム)

支援を要する子供に対する手立て

周りの人や班の人と相談したり、Jamboardでクラスメイトの意見を共有する時間をもったりすることで、自分の考えをもつ時の手助けできるようにする。

本時の子供の姿

まず、自分が人のよいところが目に付く方か、よくないところが目に付く方か考え、アンケートに回答した。回答した理由について、「昔より人のよくないところが目に付くようになった」など、自分の本音を素直に答える姿が見られた。

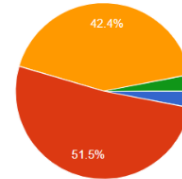
次に、「まるごと好きです」という教材を読んで、人を「まるごと好きになる」というの考えについて、周りと話し合う姿がみられた。さらに、なぜ「まるごと好きになる」という考えをするようになったか班の人と話し合い、Jamboardに考えを書き込む姿が見られた。

最後に、Jamboardに上がったいくつかの考えについて、さらに詳しい考えを聞いている姿が見られた。



自分は、どちらかという人のよいところが目に付く方ですか？それともよくないところが目に付くほうですか？

33 件の回答



● どちらかという人のよいところが目に付く方
● どちらかという人のよくないところが目に付く方
● 同じくらい目に付く方
● どちらも目に付かない方

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

研究協議の質疑応答の中で、話し合いの約束が生かされていた点があまりわからなかったとの指摘があった。班での話し合いの前に確認したり、促したりする時間を設けていなかったのも、意識付けのためにも継続できるとより話し合いが深まったと感じた。

また、Jamboardの活用について、意見を共有したつもりになっていることもあるのでJamboardに書いたことの意図を聞くこと、顔を合わせて話すことが大切ではないかとの指摘もあった。今後、共有する時間を十分にとったり、書き込んだあと、考えの意図を聞きに行けるような機会を設けたりしたほうがより考えが深まると感じた。

また、指導助言である横浜国立大学の藤井教授からは、どこを視点にして良いのかわからない生徒もいたとの指摘があった。発問内容を板書するなどの工夫が必要であると感じた。また、アンケートをとった際に少数派の意見について理由を聞かず次に次の展開に移ってしまったので少数派の意見も尊重できるとよいとも助言をいただいた。

そして、神奈川県教育委員会の安齋先生からは、ねらいである「他の人から謙虚に学べる」ことについて、終末部に工夫が必要だったとの助言をいただいた。また、教材の中にあつた「世界は自己の投影図」についてどう思うかを問うことで、一步深く「相互理解、寛容」について考えることができたのではないかと助言に、より一層の内容項目の理解・教材研究が必要であると感じた。今後は、ゴールを明確にすること、本音を引き出しつつ、問い返しの質問によって内容項目の価値理解、心情理解、実践意欲につなげること、子供の発言から考えを広げていくことをより意識していきたい。

単元全体を振り返って

授業の振り返りでは、「嫌いに着目するより好きな部分に着目すれば、その人自体に好きという気持ちが大きくなるから、嫌いな部分も含めてその人なんだと認めやすくなる。また、この考え方のほうが自分にとっても、嫌いな部分に振り回されて嫌な気持ちになるよりも楽に過ごせると思った。」とあつた。ここから、他者に対して好意的なものの見方をすることのよさを学べたことが見とれた。また、「交友関係が浅くて広いほうが好きな人、深く狭い人が好きな人によって分けられると思った。嫌なところにはノータッチするというのは親友と言える？嫌なところに触れないのでは、関係が進展しない。嫌なことを言い合うからこそまるごと好きになるのでは？」という振り返りもあつた。ここから、「まるごと好きになる」という考え方をきっかけに、人と交友するとはどういうことか、人を好きになるとはどういうことかについて一段階深く考えることができたことを見取ることができた。

総合的な学習の時間 教科デザイン

小学校：村松秀憲 川口翔平

中学校：小山内大地 中村優海 中原幸司
友廣幸平 増尾翼 三井穂高

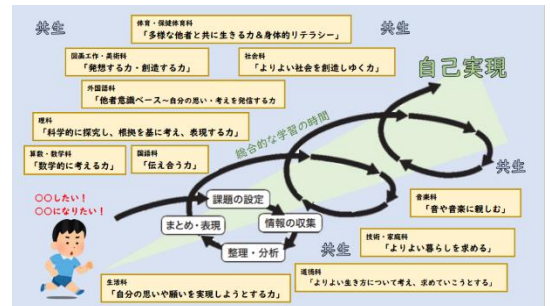
教科部で大切にしていること

自己実現力 ～やりたい事をやりたいように叶えていける力～

総合的な学習の時間は、自分の思いや願いを叶えるためのスキルを身につけ、生活を発展させていくための学びであり、「生きる」という営みそのものだと考えている。

子供たちが自分たちのやりたいことを叶えていくために探究のスパイラル（課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）を習得し、必要な場面で活用できるようになっていくこと。また、様々な問題に、適切且つ個性的・創造的に解決していけるようにするために、各教科で培ってきたものを発揮できるようにしていくことを目指していく。学校の教育活動の中では、総合的な学習の時間を教育課程の中核に位置付ける事で、習得したことを活用・発揮しながら自己実現力を高めていくことを想定している。

自分のやりたい事と本気で向き合い、本気で解決するすべを模索しながら、一人の人間としての生き方を考えていける土台を身につけていってほしいと願っている。そのためにも「こういう時にはこういう風に考えればいいのか。」と新しい発見をしながら、その学びが実際の生活の中で役に立ち、「なるほど」と思えることが増えていくような体験を積み重ねていってほしい。そういう時間を仲間と一緒に過ごし、切磋琢磨することで、「人に頼る」ことのよさも感じられる時間になればと考えている。



願う子供の姿

- めざす姿と今の自分と比較することで課題を見つけ、解決方法を頭に描きながら主体的に解決していく姿。
- 同じ目的をもった友達同士で切磋琢磨する中で、互いの関係が上手くいったところ、上手くいかなかったところに向き合い、よりよいコミュニケーション方法を模索している姿。
- 目的の達成に向けて、身近にある「人・もの・こと」と積極的に関わり、よりよく課題を解決している姿
- 目的を達成するまでにあるいくつかの節目で、解決に向けた取り組み方や友達とのコミュニケーションの取り方を振り返り、次の活動に向けての課題を見出している姿。

小中の取り組み

子供の生活の発展を支援する

小学校

子供の興味・関心があることを大切に、学びを展開していく。学びの一つ一つが生活の発展となるように、教師は学習材に対して興味関心が持てるような仕掛けをしたり、学びが発展していくような環境づくりをしたり、解決に向けての支援をしたりしていく。そして、その学びの中で解決のためのスキルを習得できるようにしていく。高学年では、習得した解決のスキルを活用・発揮できる環境づくりも大切にしていきたい。

中学校

小学校で身に付けた課題解決のスキルをさらに活用・発揮できる環境づくりをする。教室や学校を超えて力を発揮できるよう社会に材を見出す仕掛けをし、自分の興味・関心を大切にした探究課題を設定できるよう個々に支援する。やりたいことを叶えていくための活動が自己満足で終わらず、社会の Well-being (共生)につながるようグループでの活動を展開する。Try & Error を繰り返し、これから先の人生においても挑戦、実践していける子供達を育てていきたい。

取り組みに対する振り返り

成 果

【小学校】

- ・生活の拡充に向けて、子供の身近な学びとして単元を進めることができた。
- ・単元の始まるの時期を早くし、活動に取り組む時間が確保できるようにした。子供たちにとって、十分な活動ができた様子を見ることができた。一方で子供と決める単元だとスタートが遅くなるため、今後は単元開始時期について考えていく必要がある。
- ・友達とかかわる環境、材とかかわる環境を整えることによって、自然と次は「〇〇したい」という思いが出てくる。その思いを醸成させ、とりあえず実践してみることの大切さを感じ取ることができた。また、子供では作れない環境をこちらが提供してあげることに徹底すればよいと考える。
- ・総合の発揮する場として宿泊学習を新たに決めた。子供たちは、個人や集団で身につけた力を環境が変わった時にも発揮していた姿が見られた。

【中学校】

- ・今年度は地域や社会に出て、学習を進めることができた。
- ・鎌倉でのつながりを確保することができた。
- ・子供たちがやりたいことを進められるような手立てをすることで、子供の主体性を引き出しながら学習を進めることができた。
- ・総合的な学習の時間では、教科で知る子供の姿とは違う一面が見られた。

課 題

【小学校】

- ・校内において、さらに探究の意識を高めていきたい。生活・総合の根幹について、理解を深めていく必要がある。
- ・まだ、系統が立てられていないので見直していく。
- ・小学校と中学校の総合の在り方のつながりがまだ軽薄なところがあるので、さらにつながりを強固なものにしたい。

【中学校】

- ・中1は学級総合も視野に入れながら、小学校のやりたいことを引き継ぐようにしていきたい。
- ・子供のゴールの姿を見据えること、単元のストーリーのゴールイメージをしながら、試行錯誤ができる場を設定していく。
- ・生徒の課題を「どの視点や捉え方」をさせるべきかを検討出来ればさらによかった。
- ・1年間をかけて（実際に取り組むのは半年かもしれないが）探究するに値する（深めていける内容かつ資質・能力を育てられる）題材の設定への支援と職員の引き出しを増やしていきたい。

来年度に向けて—成果の継続・発展と課題の解決に向けて—

【小学校】

- ・総合は、子どもにとって面白いし生きる力が身につくと考えている。誰にとっても、1、分かりやすい単元づくり 2、子供とことん楽しむ 3、次の年に得た力を使っている姿が見られることが大切である。
- ・教科・授業 DS はシンプルに分かりやすくしていき、読みやすいものであるが大切だと考える。
- ・また、DS 上でどの力をどのようにつけていくのか？がはっきりしていることで、授業や単元の作り方もシャープになると考える。

【中学校】

- ・課題設定におけた情報収集の時間を今年度よりも多く設定したい。
- ・課題設定や学習材が固まったら、その視点や捉え方で探究するのかを設定していきたい。
- ・実地踏査は2週間に1度は行くなど、校外での活動を充実させて探究させたい。

単元名 **めざせ！ キャンプ名人！！** 探究課題「キャンプの面白さや工夫と生活の発展」

本単元に取り組む児童の実態

これまで子供たちは生活科の学習で、「〇〇したい!」「〇〇をやりたい!」という思いをもって、目の前の「やりたい」を叶える活動をしてきた。その活動の中で、見通しをもちながら材料や道具を自分たちで考えて準備する力は育まれてきている。また、「活動ありき」からの脱却として、体験活動の気付きが深化し、その気付きを次の活動に生かそうとする力の育成に力を注いできた。具体的には、粘り強く取り組めるような連続性のある学習活動を取り入れたり、十分な活動時間の確保を大切にしたりしてきた。そうした取り組みの連続性の中で、見えないなりゆきを楽しみながら追いかける力が育ってきている子が多い。

3年生では、これまで培ってきた情意面や探究する力を生かしながら、より自然な形で解決方法が習得できるようにしていきたいと考えている。

本単元設定の理由

3年生で大切にしたいのは、「実体験の中で学び」「生活の発展となるような学び」の2点である。

「実体験での学び」とは、3年生という発達段階を考えた時に、生活科の延長にある学びというものをイメージしている。まずは体験し、困ったら人に聞く、本を読む、インターネットで調べる。そして、調べたものの中でやりたい事が見つかったらまたやってみる。というような取り組みである。また、そういう活動の中には、子供たちなりに整理し、分析している姿がある。その自然な成り行きを追いかけて一人ひとりの学びを支援していくことを大切にしている。

「生活の発展となるような学び」とは、生きるという営みの中で自分のやりたいことを叶える知恵や方法が身についたり、進化したりしていくことをイメージしている。自分が生き生きするための方法、情報を集める方法、粘り強く取り組むための方法、新たにやりたい事を見つけるための方法、仲間と協力してより良いものを作り出していく方法など、よりよく生きていくための方法を考え、生きる知恵として得られるように支援していく。

本単元では、上記のような考えから「キャンプ」を学習材として取り扱うことにした。「キャンプ」には、火起こし、料理、テントを立てる、楽しい時間の創造など「生きる」という営みに関わる要素が多く盛り込まれている。そのため、日常生活でも学んだことを発揮しやすく、子供たちも学びの意味を感じやすい。また楽しい経験の中で徐々に高まっていく感覚が得られるのが大きな魅力である。

おそらく子供の中には、もっと火起こしを追求したい、もっと料理を追求したいという子が出てくると想定している。その思いを存分に生かせるような単元構想を考えていきたい。



本単元で願う子供の姿

キャンプ名人になるための活動を行うことを通して、火起こしやキャンプ飯、テントの張り方、楽しい時間の創造の仕方について理解し、決まった時間の中でキャンプ名人になるため方法を考えとともに、身につけた自分なりの追求の仕方やり方を生活場面でも生かすことができる。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○火起こしの方法やキャンプ飯の作り方、テントの張り方について理解している。 ○自分の目的に応じた活動を行っている。 ○雄大な自然、野外でのご飯、その日限りの家、ゆったりとした時間の過ごし方など、キャンプには様々な魅力があることに気付いている。 ○キャンプ名人に近づくことができたのは、探究的に学習してきた成果であることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャンプ名人になるまでにある課題を見つけ出し、解決の見通しをもっている。 ○その時々の課題解決に必要な情報を集めたり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら実際に取り組むことを決めている。 ○目的に応じて自分の考えをまとめスライドに残している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○得た知識や技能を交流し、友達と助け合いながら互いにキャンプ名人を目指している。 ○自分が目指すキャンプ名人の姿と今の状況を比較しながら足りないところを見つけ出し、楽しく何度も試行錯誤している。 ○身につけた力を実際のキャンプや自らの生活場面で生かそうとしている。

本単元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	○「キャンプ」について興味をもっている姿 ・みんなで楽しい時間が過ごせそうだ。 ・キャンプに行った事があるから、クラスのみんなどできるのはすごく楽しみ。		重点①② 学習材「キャンプ」は遊び・生活の学びの要素が多く、3年生の子供たちにとって魅力ある学習材である。その点をふまえ、1年間の学習時間を有効に使うため、学習材を教師側が提示する。
2 3	○1年間の活動の見通しをもっている姿 ・1年間で「キャンプ名人」になりたい。 ・「キャンプ名人」になるには、火起こし、料理、テント張り、楽しい時間を作り出すことが大切だと思う。 ・火起こし→テント張り→料理→楽しい時間作りの順番でやろう。 ・9月末の宿泊学習でキャンプ場に行きたい。	【思考・判断・表現】 キャンプ名人になるまでにある課題を見つけ出し、解決の見通しをもっている。 (発言・スライド・ノート)	重点① キャンプ名人になるためにはどんなことができるようになればいいのかを考え、自分たちで課題を見出せるようにしていく。 重点① 宿泊学習で芦ノ湖キャンプ場に行くことを子供たちと一緒に決め、これから進める学びの発揮の場となるように共通理解する。
4 ～ 16 + 夏 休 み	○火を起こせるようになるために試行錯誤する姿 ・どうやったら火を起こせるんだろう。 ・ぼくはきりもみ式でやろうかな。 ・私は虫眼鏡でやってみたい。 ・本当にできるか試してみたい。 ・上手いかなからもう一度調べてみるね。 ・火を起こすには、火だねと燃えやすいものの2つが必要なんだね。 ・どうやったら火は長続きするんだろう。	【思考・判断・表現】 その時々課題解決に必要な情報を集めたり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら実際に取り組むことを決めている。 (行動観察・発言・スライド・ノート) 【知識・技能】 火起こしの方法やキャンプ飯の作り方、テントの張り方について理解している。 (行動観察・発言・スライド・ノート)	重点① 1人1台の焚き火台と料理器具を購入し、自分一人でも探究できる環境を整える。 重点① 一人ひとり、できるようになりたい火起こしの方法や料理が違うことが良い事だと認め、自分のやりたい事を追求できる環境を作る。
17 ～ 23	○テントを素早く立てるために試行錯誤する姿 ・このテントはどうやって立てるんだろう。 ・型番を見て調べてみよう。 ・みんなで協力してやってみよう。 ・すごく時間がかかったから、もう一度整理してから試してみよう。	【知識・技能】 自分の目的に応じた活動を行っている。 (行動観察・発言・スライド・ノート) 【主体的に学習に取り組む態度】 得た知識や技能を交流し、友達と助け合いながら互いにキャンプ名人を目指している。 (行動観察・発言・スライド・ノート)	重点① 火起こしの際、自分が飲みたい粉スープなどをもって来るようにして、火を起こしたいという思いを高める。 重点② 自分の学びの足跡をスライドに残すようにしていく。
24 ～ 29 + 夏 休 み	○おいしいキャンプ飯をつくるために試行錯誤する姿 ・キャンプ場には冷蔵庫が無いから、保冷しなくてよい食材でできる料理って何だろう。 ・2年生の宿泊学習でレトルトのカレーに夏野菜を入れて作ったから、一人でもできるかやってみよう。 ・私はナスとピーマンのトマトパスタにする。	【思考・判断・表現】 目的に応じて自分の考えをまとめスライドやノートに残している。 (スライド・ノート)	重点② できるようになりたい。けど上手いかな。という思いを持たせてから夏休みに入るようにし、夏休みも学びを継続できるようにする。その際、解決したい事とその方法をはっきりさせてから夏休みに




30 ～ 33	<p>○キャンプでの楽しい時間を創造し、企画する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜の森をたんけんしたいな。 ・花火もしたいね。 ・早起きしてジュースを飲みたいな。 ・テントでみんなと遊びたい。 		<p>入ることができるように支援する。</p>
34 ～ 47	<p>○宿泊学習「芦ノ湖キャンプ場」での活動で今までの学びを発揮する姿(9月末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回はきりもみ式では火を起こせないから、ファイヤースターターを使ってやろう。 ・火は起こせたけど、火の調整がすごく難しいな。ご飯がこげてしまった。 ・テントは練習の成果もあって、早く立てることができたよ。役割分担もできた。 ・カレーは美味しかったね。次は、デザートや好きな飲み物を準備するともっと楽しめそう。 ・芦ノ湖のキャンプ場では、キャンプファイヤーができなかったから次はやりたいな。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 身につけた力を実際のキャンプで生かそうとしている。 (行動観察・発言)</p>	<p>重点① 今までに培ってきた力を存分に発揮できるように、しっかりと活動時間を確保する。</p> <p>重点② 困る経験が次の課題を生むため、教師は成功を求めて手伝わずに見守るようにする。</p> <p>重点③ 振り返りをする時間を設け、今の自分ができるようになりたいことと、現状を書き残すようにする。</p>
48 49	<p>○キャンプの魅力について考え、話し合う姿(国語:話す・聞く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分一人で火起こしができた時がとて楽しい時間だった。 ・自分で考えた料理を作ることができた時がとってもうれしくて、美味しかった。 ・自分の力でいろんなことができるようになることがキャンプの魅力だと思う。 ・テントを立てた時、料理を作ることができた時の達成感がある。また行きたくなるのが魅力だと思う。 	<p>【知識・技能】 雄大な自然、野外でのご飯、その日限りの家、ゆったりとした時間の過ごし方など、キャンプには様々な魅力があることに気付いている。 (発言・スライド・ノート)</p>	<p>重点② 一人ひとりの考えが違う中で、誰もが納得のいく「共通理解」を見出していけるようにする。そのために、一人ひとりの意見を伝える時間と収束していくための考えを出していく時間を分けて話し合いを進めていくようにする。</p>
50 51	<p>○宿泊学習の振り返りから、一人ひとりがキャンプ名人になるために次の宿泊までできるようにしたい事を考え、見通しを立てる姿。 (次のキャンプの日程を決める)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次は11月ごろがいいかな。11月くらいだと、もっとできることが増えて楽しめそう。 ・どうしてもきりもみ式で火を起こせるようになりたい。 ・芦ノ湖では友達のをもらって料理を作ったから次は自分の力で全部やりたい。 ・私はレトルト料理だったから、次はもっと料理の工夫をしたいな。 ・今までの取り組みのスライドを振り返ってみると、今回の見通しも立てられそう。 ・11月までに作りたい料理が作れるようになるには、2回くらいは作りたいな。 ・自分で火を起こして料理を作るために、もう一度しっかりと情報を集めて、何度もチャレンジしてみようと思う。 	<p>【思考・判断・表現】 キャンプ名人になるまでにある課題を見つけ出し、解決の見通しをもっている。 (発言・スライド・ノート)</p>	<p>重点① 芦ノ湖キャンプ村での振り返りから次にできるようにしたい事を見つけたいけるように支援する。</p> <p>重点① 11月に学校でキャンプする事を子供と一緒に決め、これから進める学びの発揮の場となるように共通理解する。</p> <p>重点② 今までの自分の学びのストーリーを振り返り、次に自分ができるようになりたい事はどのようにすれば達成できそうか考える時間を設ける。また、できるようになりたい事が同じメンバーで方法を交流できる時間を作り、再考できるようにする。</p>

<p>52 ～ 61</p>	<p>○それぞれができるようになりたいことを追求する姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱりきりもみ式で火を起こすのは難しい。竹を使った方がいいのかな。 ・火を長持ちさせるのってむずかしい。麻紐に火は着くんだけどすぐに消えてしまう。どうしたら上手くいくのか調べてみよう。 ・トマトパスタを作りたいんだけど、どんな具材を入れるとおいしいのかな。調べて色々試してみよう。 ・料理って火加減も大事なんだね。この火加減ってキャンプだと難しそう。どうしたらいいんだろう。 ・具材を入れる順番があることを知った。順番を変えるだけで、料理ってこんなに変わるんだ。 ・キャンプの楽しさって、あるもので工夫してできた時の喜びかもしれない。 	<p>【思考・判断・表現】 その時々課題解決に必要な情報を集めたり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら実際に取り組むことを決めている。 (行動観察・発言・スライド・ノート)</p> <p>【知識・技能】 ・火起こしの方法やキャンプ飯の作り方、テントの張り方について理解している。 (行動観察・発言・スライド・ノート)</p> <p>・自分の目的に応じた活動を行っている。 (行動観察・発言・スライド・ノート)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 得た知識や技能を交流し、友達と助け合いながら互いにキャンプ名人を目指している。 (行動観察・発言・スライド・ノート)</p> <p>【思考・判断・表現】 目的に応じて自分の考えをまとめスライドやノートに残している。 (スライド・ノート)</p>	<p>重点① 子供のやりたいという思いを止めないように子供がとことん試せる環境づくりをする。</p> <p>重点② その都度、子供の変化を追い学びの支援をしていく。</p> <p>重点① きりもみ式の達人とキャンプの料理名人をゲストティーチャーとして呼び、新たな解決方法やキャンプの魅力を知る。</p>
<p>62 ～ 68</p>	<p>○宿泊学習「校庭での宿泊」で今までの学びを發揮する姿(11月ごろ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習の時にはきりもみ式で火を起こせたのに、今日は無理だった。なぜだろう。 ・火起こしから、料理を作ることができた。すごくうれしい。 ・レトルトもよかったんだけど、やっぱり具材を準備して作ると楽しいし、美味しかった。 ・火の調整が少しずつ上手になってきた。木の量や空気が大切だということが分かった。でも微妙な調整が上手くいかないな。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 身につけた力を実際のキャンプで生かそうとしている。 (行動観察・発言)</p>	<p>重点① 今までに培ってきた力を存分に發揮できるように、しっかりと活動時間を確保する。</p> <p>重点② 困る経験が次の課題を生むため、教師は成功を求めて手伝わずに見守るようにする。</p> <p>重点② 振り返りをする時間を設け、今の自分ができるようになりたいことと、現状を書き残すようにする。</p>
<p>69</p>	<p>○キャンプの魅力について考え、話し合う姿(国語:話す・聞く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の苦手な火起こしを A さんがいつも手伝ってくれてうれしい。 ・料理を分け合って食べたよ。色んな人の料理を食べられてうれしかった。 ・ひとそれぞれ、苦手な事があるから友達と助け合いながら楽しい時間を作っているのがキャンプの魅力かな。 	<p>【知識・技能】 雄大な自然、野外でのご飯、その日限りの家、ゆったりとした時間の過ごし方など、キャンプには様々な魅力があることに気付いている。 (発言・スライド・ノート)</p>	<p>重点② 一人ひとりの考えが違う中で、誰もが納得のいく「共通理解」を見出していけるようにする。そのために、一人ひとりの意見を伝える時間と収束していくための考えを出していく時間を分けて話し合いを進めていくようにする。</p>

<p>70 71</p>	<p>○宿泊学習の振り返りから、一人ひとりがキャンプ名人になるために次の宿泊までにできるようにになりたい事を考え、見通しを立てる姿。 (次のキャンプの日程を決める)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次は2月ごろがいいかな。2月だと冬のキャンプだから考えることがたくさんあって楽しそう。 ・どうしてもきりもみ式で火を起こして料理を作りたい。11月の本番では、湿度が高かったから失敗したということが分かった。 ・コンロを使えば、美味しい料理は作ることができるようになったんだけど、自分で火を起こすと難しいから、自分で火の調節ができるようになりたい。 ・次は寒いから、テントの中にどんなものを準備すれば、温かく居心地よく過ごせるかを考えたい。 ・次は冬のキャンプになるから、温かい料理を作ろう。どんな料理があるか調べてから、どんどん作ってみたい。 ・まずは情報を集めて、3回くらい作れば美味しいパスタは作れると思う。 ・今もっている寝袋だけだと寒そう。温かくして寝られる方法を探して試してみる。 ・冬のキャンプの楽しみを見つけてクラスみんなに企画したいな。まだやっていないから冬のキャンプファイヤーを企画したら面白そう。 	<p>【思考・判断・表現】 キャンプ名人になるまでにある課題を見つけ出し、解決の見通しをもっている。 (発言・スライド・ノート)</p>	<p>重点① 学校でのキャンプの振り返りから次にできるようにになりたい事を見つけていけるように支援する。</p> <p>重点① 2月に学校でキャンプする事を子供と一緒に決め、これから進める学びの発揮の場となるように共通理解する。</p> <p>重点② 今までの自分の学びのストーリーを振り返り、次に自分ができるようになりたい事はどのようにすれば達成できそうか考える時間を設ける。また、できるようにになりたい事が同じメンバーで方法を交流できる時間を作り、再考できるようにする。</p>
<p>72 ~ 81</p>	<p>○それぞれができるようになりたいことを追求する姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湿度の低いところってどんなところなんだろう。湿度の高い日はどうしたらいいんだろう。 ・火起こし名人が教えてくれた時の動画をもう一回見て、自分との違いを確認しよう。 ・料理名人は、味付けの工夫をしていたから味付けを学んでから作ろう。 ・やっぱりお米を炊くのが難しい。火加減が上手くないから、動画を見直そう。 ・寝袋の中に湯たんぽを入れると温かいみたいだよ。湯たんぽのお湯は火起こしをして沸かせばできるね。 ・キャンプファイヤーをやるために必要なものって何だろう。みんなで何をやると盛り上がるのかな。どんどん情報を集めてみよう。 	<p>【思考・判断・表現】 その時々課題解決に必要な情報を集めたり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら実際に取り組むことを決めている。 (行動観察・発言・スライド・ノート)</p> <p>【知識・技能】 ・火起こしの方法やキャンプ飯の作り方、テントの張り方について理解している。 (行動観察・発言・スライド・ノート)</p> <p>・自分の目的に応じた活動を行っている。 (行動観察・発言・スライド・ノート)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・得た知識や技能を交流し、友達と助け合いながら互いにキャンプ名人を目指している。 (行動観察・発言・スライド・ノート)</p> <p>・自分が目指すキャンプ名人の姿と今の状況を比較しながら足りないところを見つけ出し、楽しく何度も試行錯誤している。</p>	<p>重点① 子供のやりたいという思いを止めないように子供がとことん試せる環境づくりをする。</p> <p>重点② その都度、子供の変化を追い学びの支援をしていく。</p> <p>重点① きりもみ式の達人とキャンプの料理名人をゲストティーチャーとして呼び、新たな解決方法やキャンプの魅力を知る。</p>

		(行動観察・発言・スライド・ノート)	
		【思考・判断・表現】 目的に応じて自分の考えをまとめスライドやノートに残している。 (スライド・ノート)	
82 ~ 87	○「DAY キャンプ」で今までの学びを発揮する姿(2月) ・きりもみ式から始めて、美味しいパスタ料理を作ることができた。すごくうれしい。 ・テントの中にクッションを置いたり、ランタンを置いたりして、居心地がすごくよくなった。外とは思えない。工夫してよかった。 ・キャンプファイヤーを企画してよかった。みんなで火を囲みながら歌を歌ったり、踊ったりするのってすごくいい時間だった。	【主体的に学習に取り組む態度】 身につけた力を実際のキャンプで生かそうとしている。 (行動観察・発言)	重点① 今までに培ってきた力を存分に発揮できるように、しっかりと活動時間を確保する。 重点② 困る経験が次の課題を生むため、教師は成功を求めて手伝わずに見守るようにする。 重点③ 振り返りをする時間を設け、今の自分ができるようになりたいことと、現状を書き残すようにする。
88 89	○キャンプの魅力について考え、話し合う姿(国語:話す・聞く) ・初めは、火起こしやご飯がなかなかできずにバタバタしていて分からなかったけど、ご飯を食べた後に、ゆっくり火を見ながら友達と話をするのも楽しい。 ・自分のこだわりの場所にテントを立てる楽しさにも気づいた。 ・夜に空を見ながら、散歩をしたり寝そべったりしているとすごく気持ちが楽になる。	【知識・技能】 雄大な自然、野外でのご飯、その日限りの家、ゆったりとした時間の過ごし方など、キャンプには様々な魅力があることに気付いている。 (発言・スライド・ノート)	重点② 一人ひとりの考えが違う中で、誰もが納得のいく「共通理解」を見出していけるようにする。そのために、一人ひとりの意見を伝える時間と収束していくための考えを出していく時間を分けて話し合いを進めていくようにする。
90	○1年間の「キャンプ」の学びを振り返り、身につけたことについて自覚している姿 ・情報を集めて取り組めばできることが増えてきた。 ・たくさんの情報があり過ぎて頭がぐちゃぐちゃになることもあった。でも、大切なのは自分が何をできるようになりたいかを考えることだと思った。 ・クラスの友達がいたからできるようになったこともたくさんあった。友達って本当に大切だと思った。友達がいたからキャンプも楽しかった。 ・「とりあえずやってみる」ということが大切だと思った。やってみることで、少しずつ分かること、できることが増えてきた。	【知識・技能】 キャンプ名人になることができたのは、探究的に学習してきた成果であることに気付いている。 (発言・スライド・ノート)	重点② これから自分ができるようになりたい事を叶えるために、キャンプの学びを通して残しておきたい事を書き残し、鎌小 LIVE で発表する。

(子どもの学びに応じて想定できるプラン)

環境問題	防災
<div data-bbox="113 230 772 367" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>きっかけ ○「はじまりはたき火」の本</p></div> <div data-bbox="363 405 448 488" style="text-align: center;"></div> <div data-bbox="220 506 671 546" style="text-align: center;"><h3>消費エネルギーと環境問題</h3></div> <ul style="list-style-type: none">・火起こしは、数百万年前に人間が生活をするために行っていたことという事実。・時代が変化するつれ、便利になってきたが環境破壊が進んでいるという事実。 <p>この2つの事実をもとに、自分たちのこれからの生活の在り方について考えていく。</p>	<div data-bbox="815 230 1474 539" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>きっかけ ○過去の地震・津波の発生状況 ○鎌倉市津波シミュレーション動画</p><div data-bbox="1187 383 1453 533" style="text-align: right;"></div></div> <div data-bbox="1082 555 1166 638" style="text-align: center;"></div> <div data-bbox="943 656 1347 696" style="text-align: center;"><h3>自分の防災バッグづくり</h3></div> <p>キャンプを通してできるようになったことをふまえ、実際に自分が使えるものを準備していく。</p>

本時で目指す子供の姿

〇できるようになりたい事がはっきりして、見通しを立てることができたから早くやりたい。

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○**宿泊学習の振り返りから、一人ひとりがキャンプ名人になるために次の宿泊までにできるようになりたい事を考え、見通しを立てる姿。**

- ・どうしてもきりもみ式で火を起こせるようになりたい。
- ・芦ノ湖では友達のをもらって料理を作ったから次は自分の力で全部やりたい。
- ・火は起こせたけど、すごく時間がかかってしまったから、早く火を起こせるようになりたい。
- ・芦ノ湖ではご飯が固かったから、おいしいご飯を炊けるようになりたい。
- ・今回はレトルトカレーだったから、レトルトではないカレーをつくりたい。
- ・芦ノ湖では、テントの中でカードゲームとナイトハイクをしただけだったから、もっと楽しいことを考えてみたい。

- ・きりもみ式の方法をもう一度調べて、必要なものを準備してから、繰り返しやってみようと思う。
- ・自分で火を起こして料理を作るために、もう一度しっかりと情報を集めて、何度もチャレンジしてみようと思う。〇〇の動画を見返しながらやってみる。
- ・11月までに作りたい料理が作れるようになるには、情報を集めて、3回くらい作れば上手くいくと思う。
- ・まずは、家庭科室でベーコンのトマトパスタを作れるようになってから自分で起こした火でやってみようと思う。

重点①②

次にできるようになりたい事がはっきりするように、芦ノ湖キャンプ村での活動の振り返りを改めて確認するように伝える。

重点②

今までの自分の学びのストーリー(スライド)を振り返り、次に自分ができるようになりたい事はどのようにすれば達成できそうか考える時間を設ける。また、必要に応じて、できるようになりたい事が同じメンバーで方法を交流できるような場所と時間を作る。

■ワークシートからできるようになりたい事が具体的か、できるようになるための見通しがだまかに立てられているかを見取っていく。

- ・見取った内容から、個別に支援をしていく。
- ・できるようになりたい事と見通しが立てられている子は、活動に入るように声をかける。

評価

【思考・判断・表現】

キャンプ名人になるまでにある課題を見つけ出し、解決の見通しをもとうとしている。
(発言・スライド・ノート)

支援を要する子供に対する手立て

- 〇できるようになりたい事がはっきりしない児童のために、事前にみんなの意見を聞ける時間を作ったり、振り返りを一緒に確認したりして寄り添いながら思いを引き出していく。
- 〇見通しが持てない児童には、事前にみんなの意見を聞ける時間を作ったり、自分の今までの学びのスライドを一緒に確認したりして寄り添いながら考えを引き出していく。

本時の子供の姿

11月のDAYキャンプまで残された時間が10時間であることを確認した時に「めちゃくちゃ練習しないと!」という声が上がっていた。この単元のように単元のポイントで学びを発揮できる場を設けること(子どもと共に考えて決める事)は重要だと感じた場面だった。また、DAYキャンプまでにやりたいことを話す一人一人の語り、根拠を伴ったものになっていたのは、単元ここまでの体験が充実していたからだと考える。やはり、実体験を大切にすることで、子どもの発する言葉が自分の経験に基づいた言葉になっていくことを感じている。

見通しを立てる段階では、スムーズに見通しを立てられた子と困惑して進まない子がいた。見通しを立てるという活動に初めて取り組んだ時間だったため「見通しとは何なんだろう?」「どうして進めていけばいいんだろう?」と思っている子がいたようだった。もう少し丁寧に「見通しとは何か?」「どういう効果があるのか?」「どのようにして立てていくのか?」というのを全体で確認するべきだった。困っている子がいたので、子供が作成していた学びの足跡を想起すること、見通しの例示を入れたことで、思考が再開した子どもたちも多かった。しかし、例示に流されてしまった子どももいたので、やはり初めの全体説明が重要だと感じた。

火起こしの際、一人でできてしまう子もいれば、一人では難しいので、ペアで取り組んでいる子どももいた。またお互いに直接の関与はしないけれど、アイデアは共有する等、様々な協働の姿があった。協働がよりよい効果を上げることを無自覚な児童が多いので、自覚化していけるような教師の働きかけをしていきたい。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

単元では、本時までには子どもたちは実体験に多くの時間を費やし、そこから「火起こしが楽しい」「料理が楽しい」「テントを立てられるようになりたい」という思いを多くの子がもっていたので、子供の「やりたい!」を引き出す事はできていたと考えている。本時では子どもたちに「見通しを立てると上手くいくイメージがもてて、活動が楽しくなってきた。」という思いをもってもらいたかったが、目標は達成できなかった。理由は3つある。

1、子どもが「見通し」という言葉や意味の理解が浅い状態で子どもの活動をスタートしたこと。

→「型は示すが、具体の例示はせず」という手立てをとった。子どもの実態をしっかりと把握できていなかったため、教師が子どもに与える情報の量を捉えきれなかった。

2、子どもたちが作っている学びの物語(スライド)が、子どもたちにとって自分のものになっていない子がいたということ。今回、新たに学んだことが2点ある。

1、机上での言語を使った見通しと、身体上での見通しは表れ方が違うこと。特に1~3年生は。(発達段階による)

2、「見通し」は事前ではなく、ある程度の経験の後に生まれるものだという事。

本時では、意図的に45分では子どもたちの活動は終わらないように授業を設定した。リアルな子どもの普段の様子を参観してもらいたいとの思いからだ。発表場面にもよるが、これからもこの方法を取り入れていきたい。

<奈須正裕先生 指導講評>

- ・常に学びがオーセンティックになっているかを教師は敏感に感じる必要がある。人間が普通に学ぶようにやればよい。
- ・「教える」という考えが古い。教師は子供が自発的に「学ぶ」環境を作っていくことに力を注ぐ。
- ・いろんなことを身につけて使えるようにするには、とことん体験する必要がある。
- ・「ふりかえり」は不自然。大人は普段から振り返りながら何かをやっているのか。

単元全体を振り返って

この単元「めざせ!キャンプ名人!!」で大切にしてきたのは、「実体験での学び」と「生活の発展となるような学び」の2点である。子供たちは、キャンプという遊びの中で、火起こし・料理・テントの組み立て・楽しい時間の創造の追求をしてきた。どの追求にも体験をベースに活動を進めてきたので、実際に試すところからの困り感を次の課題にできている子が多いた。また、どの追求にも情報収集が欠かせないので、自然と情報を集めることの大切さにも気付いていた。

生活科から総合的な学習の時間へ移行する3年生の時期ということもあり、遊び要素、個の学びということを大切にしてきた。子どもの興味のあるようなキャンプを学習材として取り入れ、個がキャンプ名人になるために自分でできるようになりたいことを追求できるように環境を整えてきたのがよかったと思う。個の学びを追いかける事を大切にしてきたので、個の興味に応じて学びを進めてこられた反面、個の見取りと教師のかかわりがもう少し有効に働けば、子どもは成就感や達成感を味わうことができ、より学びを楽しめるのではないかと考える。

単元名

映画づくり 探究課題「映画づくりの楽しさや協働的な製作活動」

本単元に取り組む児童の実態

今までの4年間で子供たちは、「○○したい!」「○○をやりたい!」という思いをもって、様々な学習活動を進めてきた。どのような学習においても、見通しをもちながら繰り返し取り組む活動を経験してきた。また3・4年生の総合的な学習の時間においては、粘り強く取り組めるような連続性のある学習活動を取り入れたり、十分な活動時間の確保を行ってきたりしている。このような積み重ねから、「自分たちが本当にやりたいこと」を見つけ出し、没頭する姿は多くみられている。

5年生では、習得した解決のスキルや自分たちのやりたいことを叶えていくために探究のスパイラル(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を習得し、必要な場面で活用・発揮できる環境づくりも大切にしていきたいと考える。

本単元設定の理由

本校の研究では、「自己実現」と「共生」を研究主題としている。5年生という高学年の発達段階において、「共生」する時間はかけがえのないものであり、最高学年に向けて仲間とともに課題解決ができる力は大切にしていきたいと考える。

学級集団の中で自分のやりたいことを叶える方法が身についたり、さらに深まっていったりすることで、「自分らしく生きていく」という本質にたどり着くと考える。総合的な学習の時間における情報を集める方法、粘り強く取り組むための方法、新たにやりたい事を見つけるための方法、仲間と協力してより良いものを作り出していく方法など、よりよく生きていくための方法を見出せるように、その都度必要に応じて支援をしていく。

本単元では、上記のような考えから「映画づくり」を学習材として取り扱うことにした。「映画づくり」には、映画の完成までに様々な活動を経て、上映に至る。自分たちが表現したいことを「自己実現」し、製作の過程において、「共生」する場面が想定される。さらに、以下のような力も身に付くだろうと考え、本単元を設定した。

- ①コミュニケーション能力・・・シナリオ作成における議論。
- ②想像力と発想力・・・撮影場所の検討や選定をしていく。
- ③撮影方法・編集方法・録音技術能力・・・他者への伝え方を検討していく。
- ④チームワーク・リーダーシップ・・・分担された役割の中で自分の役割を理解していく。
- ⑤トライ&エラーによる粘り強さ・・・あらゆる情報の理解、選択、処理をしていく。
- ⑥自己管理能力・スケジュール力・・・予定を計画、実行する過程。



本単元で願う子供の姿

映画製作の活動を行うことを通して、演出や効果音、撮影や編集の仕方について理解し、決まった時間の中で映画のメッセージや伝えたいことを考え、表現するとともに、映画の完成に向けて何度も試行錯誤し、身に付けた課題解決の力を生活場面で生かすことができる。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○映画は、動画を使用して物語を伝えるもので、演技、音楽、視覚効果などが組み合わさり、主旨を伝える手段であることを理解している。 ○映画製作での自分の役割を理解し、撮影・編集・録音・効果音・道具・小道具づくりができる。 ○台本の内容を自分たちでつくる楽しさを感じ、その表現が自分でできる映画製作のよさに気付いている。 ○映画製作ができたのは、探究的に学習してきた成果であることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○映画完成までにある課題を見つけ出し、解決の見通しをもっている。 ○その時々々の課題解決に必要な情報を集めたり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら実際に取り組むことを決めている。 ○伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、映画で表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○得た知識や技能を交流し、友達と協力しながら映画製作を目指している。 ○自分が目指す映画製作と現在の自分の進捗状況を考えながら、楽しく何度も試行錯誤している。 ○身につけた課題解決の力を自らの生活場面で生かそうとしている。

本单元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1	<p>○「映画づくり」について興味をもっている姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画をつくることができるのはとても楽しみだね。 ・自分たちが映画をつくるにはどんなことをしていけば完成ができるのかな。 		<p>重点① 「映画づくり」で、自分たちがどのような映画を作りたいのか、多くの思いを引き出す。</p>
2 3	<p>○1年間の活動の見通しをもっている姿(6月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画をつくって、人々にどんな思いをもってほしいのかゴールを決めようよ。 ・家族や鎌倉小学校の子ども達にも見てほしいと思っているよ。 ・6月は映画のことを知って、7月から映画の内容や台本を決めていこう。 	<p>【思考・判断・表現】 映画完成までにある課題を見つけ出し、解決の見通しをもっている。 (発言・スライド・ワークシート)</p>	<p>重点① 映画を自分たちで完成させるために、どんなことができるようになってほしいのか考え、自分たちで課題を見出せるように支援する。</p> <p>重点① 映画を通して、自分たちがどんな思いをもちたいのか、見てもらった人にどんな思いをもってもらいたいのか目的の共通理解をする。</p>
4 ~ 8	<p>○映画をつくるために必要な知識・情報を集める姿(6月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画をつくるためには、様々なステップがあるんだ。 ・撮影や編集を繰り返したり、何度も映画を見直したりすることが大切なんだね。 ・伝えたい内容がはっきりしていたり、登場人物のキャラクターが明確だったりすると見やすい映画になるね。 	<p>【知識・技能】 映画製作の方法(撮影・編集・録音・効果音)について理解している。 (行動観察・発言・スライド)</p> <p>【知識・技能】 映画は、動画を使用して物語を伝えるもので、演技、音楽、視覚効果などが組み合わさり、主旨を伝える手段であることを理解している。 (行動観察・発言・スライド)</p>	<p>重点① クラスで一つの映画ではなく、全員が多くの活躍ができるような3つのグループづくりをする。</p> <p>重点① 自分たちが知っている映画のジャンルから、自分がやりたいことを選択し、グループ編成を行う。</p>
9 ~ 14	<p>○映画をつくるためにやるべきことを考え、やりたいことに沿ってグループに分かれる姿(6月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・34人で1つの映画をつくるのもいいけど、個性が発揮される映画づくりにしていきたいな。 ・自分が作りたい映画は、アクションで撮ってみたいと考えているよ。 ・自分たちが撮りたい内容に沿って、グループに分かれてやっていこうよ。 	<p>【思考・判断・表現】 その時々課題解決に必要な情報を集めたり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら実際に取り組むことを決めている。 (行動観察・発言・スライド)</p>	<p>重点① タブレット端末や三脚など、撮影に必要な機材は各グループに準備する。</p> <p>重点② 映画完成に向けて、自分たちが「知るべきこと」と「やるべきこと」をすみ分けて考え、実践できることをスライドにまとめるようにする。</p>
15 ~ 25	<p>○グループに分かれて映画内容や台本を検討していく姿(7月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台本をつくる人と、小道具をつくる人など、役割分担していくよ。 ・3組をアクション、ファンタジー、スポーツの3つのテーマでグループを分けたから、それぞれのグループで進めていこう。 ・まず、どんな内容が映画を見る人にとって楽しいのか考えよう。 ・登場人物や、時間、場所についても設定する必要があるね。 	<p>【思考・判断・表現】 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、映画で表現している。 (スライド)</p>	<p>重点② 毎時間、「今日やること」「今日の自分の取り組み」の振り返りをポートフォリオとしてスライドにまとめるようにする。</p>

26 ~ 30	<p>○グループに分かれて撮影場所や撮影方法を検討する姿(9月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物や時間、場所を考えたから、その設定に合う撮影場所を探していこう。 ・映画の場所が森の設定だから、近くの公園の森にいこう。 ・場所の許可を得るために、電話で区役所に電話をするよ。 ・撮影するために、三脚やタブレットが必要になるね。そのための準備をしよう。 ・撮影するための、編集アプリを見つけて使っていくよ。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 得た知識や技能を交流し、友達と協力しながら映画製作を目指している。 (行動観察・発言・スライド)</p>	<p>重点① 撮影場所の協力は、自分たちで連絡するようにし、自ら作り上げている成就感を高められるように、サポートしていく。</p>
31 ~ 60	<p>○グループに分かれて撮影と編集を行い、試行錯誤する姿(10月~12月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影をする上で、撮影に必要な時間を見積もって考えていこう。およそ30時間あれば作ることができるかな。 ・一回で撮ることができるかどうか撮影が進んでいくね。 ・何回かカットして、つなぎ合わせていくことができれば、1つの作品が完成するよ。 ・どうすれば台本のセリフに感情を入れてうまく言えることができるのだろうか。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分が目指す映画製作と現在の自分の進捗状況を考えながら、楽しく何度も試行錯誤している。 (行動観察・発言・スライド)</p> <p>【思考・判断・表現】 その時々課題解決に必要な情報を集めたり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら実際に取り組むことを決めている。 (行動観察・発言・スライド)</p>	<p>重点① 自分たちが得てきた知識や表現方法を発揮できるように、撮影に十分な時間を確保する。</p> <p>重点② 自分たちが思うように撮影が進まないことを想定しながら、教師は成功をすぐ求めるのではなく、見守るようにする。</p>
61	<p>○中間発表を行い、自分たちの映画について、よい点や改善点を考える姿(12月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬休みに入る前に中間発表会をして、お互いの作品を見合ってみよう。 ・スポーツチームはリアクションがはっきり見えるからいいね。 ・風の音が入って、セリフが上手く伝わっていないところがあるよ。字幕を入れれば内容が伝わるはずだよ。 ・声が聞こえないと、目的である「人々に思いをもってもらう」ことにつながらないと考えよ。何か方法を考えた方がいいね。 	<p>【知識・技能】 台本の内容を自分たちでつくる楽しさを感じ、その表現が自分でできる映画製作のよさに気付いている。 (行動観察・発言・スライド)</p>	<p>重点② 自分たちの目的を再確認できるような、映画を見合う時間を設ける。同じ目的をもつ友達からのアドバイスをもらい、次時に生かすことができるようにする。</p>
62 63 ~ 76	<p>○中間発表で友達から改善点を伝えたり、次の課題解決へ考えを深める姿(1月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度、友達からアドバイスをもらおう。 ・友達からのアドバイスから、自分たちがやるべきことを考えていこう。 ・うまく伝わっていないカットはもう一度撮り直してみよう。 <p>○グループに分かれて映画づくりの最終発表に向けて、撮影と編集を行い、試行錯誤する姿(1月~2月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月の学習発表会の映画上映に向けて、準備を進めていくよ。 ・エンディングロールや予告編なども作っているよ。 ・どうすれば、みんなが来てよかったって思ってもらえる映画に仕上がるかな。 	<p>【思考・判断・表現】 映画完成までにある課題を見つけ出し、解決の見通しをもっている。 (行動観察・発言・スライド)</p> <p>【知識・技能】 台本の内容を自分たちでつくる楽しさを感じ、その表現が自分でできる映画製作のよさに気付いている。 (行動観察・発言・スライド)</p>	<p>重点② 同じグループ内で、何が課題なのか、これから学習発表会に向けて何をすべきなのか見つめる時間として設定する。</p> <p>重点② 学習発表会までの残りの時間を明示する。この時間に何を取り組むのか役割分担をしながら、最後の映画づくりの目的を達成できるように声掛けを行う。</p>

75 ～ 77	<p>○学習発表会でどのような発表を行うのか考える姿(1月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月にある学習発表会で、自分たちの映画づくりについて発表したいね。 ・各グループで分かれて発表ブースのようにしてみようかな。 ・学習発表会のためにもグループで準備を進めていこう。 ・家の人に、今まで身に付けた探究の力のことや撮影編集技術のことを伝えるよ。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分が目指す映画製作と現在の自分の進捗状況を考えながら、楽しく何度も試行錯誤している。 (行動観察・発言・スライド)</p>	<p>重点② 学習発表会で人々にどんな思いをもってもらいたいのかということと、最初に自分たちが決めた映画づくりの目的が合致していることから、学習発表会が成功するイメージをもてるように、リハーサルを行う。</p>
78 ～ 79	<p>○今までの学習を踏まえ、映画の発表を行う姿(2月学習発表会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習の成果をお家の人々に見てもらおう。 ・自分たちが作った映画で見に来てもらった人々に「見てよかった」という思いをもってもらいたいね。 ・限られた時間だけど、内容を精査して、伝えたいことを伝えていくことも大切なんだね。 	<p>【知識・技能】 映画製作ができたのは、探究的に学習してきた成果であることに気付いている。 (行動観察・発言・スライド)</p> <p>【思考・判断・表現】 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、映画で表現している。 (スライド)</p>	<p>重点② 今までの学習で身に付けた力を目で見えるような形でスライド等にまとめ、発表できるようにする。</p> <p>重点② 友達同士やグループ同士の比較ではなく、自分がどのようなことを身に付けたのかという点に着眼できるように声をかける。</p>
80	<p>○学習発表会の反省から、クラスで映画づくりのゴールについて、見通しを再確認する姿(2月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習発表会では、よかったところやさらに高めていくことができることを教えてもらったね。 ・残された時間で、自分たちが映画作りでできることは何だろう。 ・最終発表を3月にやったり、DVDにししたりして仕上げていきたいね。 	<p>【思考・判断・表現】 映画完成までにある課題を見つけ出し、解決の見通しをもっている。 (発言・スライド)</p>	<p>重点① 3月に向けて、どのような形で自分たちの映画づくりを見てもらっている人たちの心に残すことができるのか、あらゆる方法を考えたり情報を集めたりする時間をつくる。</p>
83 ～ 89	<p>○映画の最終発表に向けて撮影や編集を試行錯誤し、発表する姿(3月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会の反省を生かして、最後の発表に向けて、グループごとに活動をしていくよ。 ・DVDなどの形に残すと、みんなの記憶にも残ると思うよ。 	<p>【知識・技能】 台本の内容を自分たちでつくる楽しさを感じ、その表現が自分でできる映画製作のよさに気付いている。 (行動観察・発言・スライド)</p>	<p>重点① 自分たちが得てきた知識や表現方法を発揮できるように、撮影に十分な時間を確保する。</p>
90	<p>○1年間の「映画づくり」の学びを振り返り、身についたことについて自覚している姿(3月頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この映画づくりでは、自分が何に向かってやっているのか「目的」をはっきりさせることが大切だったよ。 ・映画をつくることは、一人ではできない。だから、一つのものを作り上げるときには、友達と一緒に協力することが大切なんだね。 ・繰り返し取り組むことができると、何かの目的を達成することにつながるのだろうね。 	<p>【知識・技能】 映画製作ができたのは、探究的に学習してきた成果であることに気付いている。 (行動観察・発言・スライド)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 身につけた課題解決の力を自らの生活場面で生かそうとしている。 (行動観察・発言・スライド)</p>	<p>重点② 友達同士やグループ同士の比較ではなく、自分がどのようなことを身に付けたのかという点に着眼できるように声をかける。</p> <p>重点② 課題に出会ったときに、自分たちはどのように解決をしてきたのか共通の「納得解」を見出す時間とする。</p>

本時で目指す子供の姿

○映画の完成に向けて、自分たちの映画づくりを進めていきたい。

○学ぶ児童の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○今日の活動で自分は何に取り組んでいくのかについて
見通しをもっている姿。(個人)

- ・今日は、私は撮影をしっかりできるように友達の演技を撮っていくよ。
- ・BGM などを使って、映画の雰囲気が伝わるように選定していくよ。
- ・思いが伝わるように、リハーサルをしていきたいな。
- ・台本をしっかり覚えて、言えるようになりたいな。
- ・誰にとってもわかりやすいようにしたいから、字幕をつけたいな。

○グループに分かれて、映画づくりに取り組む姿。(グループ)

- ・自分は目線に気を付けて表現するよ。
- ・撮れていないところがまだあるから、声が聞こえるようにはっきり表現しよう。
- ・さっそく、音の調整ができるか編集で試してみよう。
- ・大道具を作りたいから、図工室に行って作っていくよ。

○グループ活動などを踏まえ、本時の振り返りを記入する姿。(個人)

重点②

- ・本時において、自分の役割を意識する。
- 自分の役割を明確にして、45分間の学びを深いものになるようにする。
- ワークシートを用いて、自分の役割を意識しながら、学習を進められるようにする。

■校内で自ら場所を選択し、映画づくりができる姿。

- ・3つの映画製作グループで、場所を選択して主体的に活動に取り組むことができるようにする。

■友達と試行錯誤しながら映画づくりができる姿。

- ・友達と共生する場面として、撮影と確認を繰り返す場面が考えられる。互いに認め合い、映画づくりを前向きに取り組むことができるようにする。

評価

【思考・判断・表現】

映画完成までの課題を見つけ、解決の見通しをもち、映画づくりに取り組んでいる。

(行動観察・発言・スライド・ワークシート)

支援を要する子供に対する手立て

- 友達の映画に対し、よいところや真似したいところという視点を設け、映画づくりに生かせるように声掛けを行う。
- 自分の役割が意識できるように、ワークシートを用いて活動の取り組みについて振り返ることができるように支援を行う。

本時の子供の姿

本時において表出していた子供たちの姿として、二点挙げることができる。まず一点目は、「自分の役割を意識して、映画完成に向けて取り組むことができていた姿」である。二点目は、「振り返りから自分の考えを深めようとしていた姿」である。一点目においては、役割分担を明確にすることで、時間のロスがなく45分間の映画づくりにしっかりと向き合えることができていた。外で撮影をしたいグループは、若干の手持ち無沙汰が否めなかったものの、教室でできることを一人ひとりが考え、実行する様子を感じ取ることができた。二点目においては、単元を通して毎時間の振り返りを記入していた。本時においても、「自分は成長することができた」と実感できる振り返りを見る事ができた。一方で振り返りがなかなか進まない子供も見られ、本時の活動が十分でなかったことも伺える。導入は5分、振り返りは10分、活動時間は30分という短い時間ではあったが、各々が没頭できる活動・場面の設定によって、意欲的な姿を多く見る事ができた。

研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

重点①については、活動場所・活動時間・道具・今後のスケジュールなどの要素が大きく子供たちの姿を変容させる。今回の時間では、様々な条件が限られていた。しかしながら、有限の中で生み出す活動に楽しみを感じ取れる子供に育ててほしいと考え、本時を設定した。また、高学年という発達段階においては、取組に受け身になる子供が見られてくる。そこで、「自分のやるべきこと」と「自分がやりたいこと」をすみ分けて考え、役割分担に向き合える姿勢が身に付いてほしいと考えた。「今日の自分の成長は何か」「今日の学習では、どのようなことに取り組むことができたのか」など、振り返りの時間を十分に設けることで子供の「やりたい!」や「もっとこうすればよかった」などの自己内省が深まっていく。本時では「決められたことをやるよりも、自然にやったほうがよい時もある」と書かれていたように、今まで見る事ができなかった新たな視点を得ることができていた。

重点②は、子供たちが試行錯誤している時、教師の出場はどのくらいあればよいのかについて、教師が考えていく必要がある。学年にもよるが、問題に直面したまま解決できない場合、教師の声掛けは適宜していかなければならない。今回では、よりリアルに見えるようにカメラワークの方法について、助言し立ち戻ってもよかったと考える。教師の声掛けは「必要な時に」「適切に」「伝わる」ようにしていくことができれば、解決のすべの育成にもつながるのだろう。

単元全体を振り返って

この単元では、「映画製作の活動を行うことを通して、演出や効果音、撮影や編集の仕方について理解し、決まった時間の中で映画のメッセージや伝えたいことを考え、表現するとともに、映画の完成に向けて何度も試行錯誤し、身に付けた課題解決の力を生活場面で生かすことができる。」ことを目指す姿として設定した。子供たちは、意欲的に1年間通して活動に取り組むことができたと考える。撮影と編集を繰り返すことで試行錯誤する場面をみとることができ、なおかつ、さらによりよい映画をつくろうとする姿勢を育むことができたと言える。「なぜこの映画づくりをしているのか」という原点や意味を適宜再確認することで、今の自分たちの現状と、映画づくりの目指す姿をとらえられるように声かけをおこなった。そのようにすることで、意欲が持続し、誰もが没頭できるようになる。また、ゴールイメージを共有する事で、次に何をするのか、能動的に考えることにつながったと考える。この単元における「自己実現」とは、自分たちのメッセージを表現し、形として残すことであり、「共生」とは、友達とコミュニケーションを図りながら、役割分担をして撮影を円滑に進めることである。学校研究の2つの柱をしっかり理解し、これからも子供たちとつくる総合的な学習の時間を進めていきたいと考える。

単元名 やりたいことに挑戦しよう～“趣味”を生かした課題解決～

本単元に取り組む子供の実態

小中学校総合部の共通テーマである「やりたいことをやりたいように叶えていける力」を子供達が身に付けることを通して、学校教育目標である「自立に向けてたくましく生きる」ことを目標としている。これまでの本校の子供達は、自分の取り組むべきことによさを見出し、積極的に責任を持って最後までやり遂げるという経験が不足しているように感じられる。そのため、中学校3年間の総合的な学習の時間では、まずは自分の「やりたいこと」の中から課題を見出し、その材となるものを地域に求め、やりたいことをまずはやってみることから始めることとした。

やりたいことに対して熱中する姿が見られるようになったが、そこにどのような課題があって、どのような解決方法を見出していくのか、生徒自身の探究活動に対する見通しの甘さや教員側がどのような資質・能力を身に付けたいかを意識した支援ができていない現状が浮かび上がった。そこで、今回の授業では、子供達に身に付けさせたい資質・能力を教員が意識した支援を行い、子供達の姿でそれらを見取っていくことを想定している。

本単元設定の理由

上記の子供達の実態をもとに各学年で設定したテーマである「やりたいこと」に対して、生徒の興味・関心あることをヒアリングし、それらを分類し、グループ分けを行った。146名の生徒が、5グループ35班に分かれ、それぞれ関心のあるテーマで分かれた。グループは、「自然」「観光」「食文化」「地域」「趣味」の5つである。

本授業では、「趣味」のグループが「コスメと鎌倉彫」「寝具の開発」「写真と観光」「音楽と観光マップ」「聖地巡礼」「新しいスポーツの創造」「勉強スペースの工夫」というそれぞれが興味あるテーマを見出し、自分たちのやりたいことを突き進めていった結果、どのように鎌倉の街に還元できるかを見出していく。自分の好きなことが何か社会に役立てられるということに気付き、探究活動のよさを理解し、積極的に社会に参加していこうとする気持ちが芽生えることで、この先の人生でも同じようにまた挑戦していこうとする気持ちを持った生徒の姿を目標としている。



見通しを立て、
実行し、振り返り、次の活動につなげていく

本単元で願う子供の姿

- ・自分たちが目的意識を持って課題解決に積極的に取り組み、挑戦にたとえ失敗したとしてもそこから次の挑戦につながるように工夫や調整をして、また次の挑戦に向かおうとする姿。
- ・自分たちの探究活動を社会に出て生かすために、計画や見通しを立て、実践し、フィードバックをする姿。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○自己実現をするための探究課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、自分のやりたいことをテーマとした活動で挑戦と失敗を繰り返しながら、探究活動のよさを理解している。	○自己実現をするための見通しをもって必要な情報を収集し、取捨選択したり関連付けたりしながら課題解決に向けて考察し、伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	○課題解決の状況を振り返り、あきらめずに自らが立てた計画を実行しようとしている。探究課題に主体的・協働的に取り組み、自らの探究活動で得た成果をもとに、積極的に社会に参画し、社会へ貢献しようとしている。

本單元における重点

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

時	○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応	評価	重点①、②
1 ～ 6	○自分のやりたいことは何かを考える姿 ・自分の好きなことは○○だ ・好きなことをテーマに「自己実現」をしたい(課題解決したい)	【主体的に学習に取り組む態度】 自分の興味・関心が何かを考え、課題の設定につなげようとしている。(LIFEノート)	重点① やりたいことをテーマにするため、自分の好きなものは何かを考えさせる
7 ～ 8	○自分のやりたいことと課題がどう関連していくかを模索する姿 ・鎌倉で課題解決をするにあたり、今どのような問題点または魅力があるのだろうか	【思考・判断・表現】 自分の興味・関心があることと課題を関連付けながら考えている。(LIFEノート・個人面談)	重点② 実社会から課題(問題点の改善、魅力のさらなる向上)を見出すために、フィールドワークを実施
9 ～ 10	○考えるための技法について学び、考えを広げる姿 ・自分の集めた情報を整理・分析するために思考ツールを使って整理してみよう	【知識・技能】 整理・分析のために必要な知識・技能を習得している。(LIFEノート)	重点② 思考ツールを用いて、見方・考え方を養い、各教科で身に付けた力がどう役立つのかを考察する
11 ～ 14	○自分の探究活動の方針を示す姿 ・(中間発表会)「自分は課題解決を通じた自己実現をするために、このような実践を行います」	【思考・判断・表現】 自分の考えや見出した課題、その課題を解決する見通しについて分かりやすく説明している。(発表の様子)	重点① 自分の好きなことで、鎌倉の街にどう働きかけるかという計画を考えさせる
15 ～ 16	○自分の考えを再考する姿 ・自分の考えている課題解決には、新たな視点が必要だ(再度フィールドワークに出よう)	【主体的に学習に取り組む態度】 自分の考えなどを表現した結果、改善点を見出し、また次の挑戦に向かおうとしている。(LIFEノート、話し合いの様子)	
17 ～ 20	○実行計画を考える姿 ・前回のフィールドワークでの実践をもとに、次はどのような実践をしよう	【思考・判断・表現】 次の挑戦に向けて、具体的な方略を考えている。(LIFEノート)	
21 ～ 22	○夏休み中の「自己実現」を語る姿 ・夏休み中にこのような実践をしてきました	【思考・判断・表現】 自分の取り組んできたことについて、分かりやすく説明している。(話し合いの様子)	
23 ～ 26	○「自己実現」を再検討する姿 ・自分の取り組みが、自分だけのもの(自己満足)になってないだろうか ・自分も他者も満足できる「自己実現」をするためにはどうすればいいだろうか	【主体的に学習に取り組む態度】 自分の考えなどを表現した結果、改善点を見出し、また次の挑戦に向かおうとしている。(LIFEノート、話し合いの様子)	重点① やりたいことがテーマであるが、やりたいことが役に立つことであるかどうかを振り返る場を設ける
27 ～ 30	○自己実現を実行する姿 ・課題解決を実行する中で、どんな風に役立つことができるだろう	【思考・判断・表現】 自分のやりたいことを実社会の場で実践している。(社会で取り組む姿)	重点① 鎌倉の街に材を求めながら、自分の好きなことで社会に働きかける場を用意する
31 ～ 34	○探究のサイクルを振り返り、これまでの成果と課題を検証する姿 ・やりたいことに挑戦した結果、こんな成果が出た。新たな課題が生まれた	【思考・判断・表現】 自分の実践してきたことを検証し、新たな挑戦につなげるために改善点を見出している。(LIFEノート、取り組みの様子)	重点② 実社会・実生活に働きかけた結果、上手いかなかったところを修正して次の挑戦につなげるために話し合いや共有の場を設ける
35 ～ 40	○新たなTryに向かう姿 ・課題に向き合い、問題点を修正して再度挑戦してみよう	【主体的に学習に取り組む態度】 自分の考えなどを表現した結果、改善点を見出し、次の挑戦に向かおうとしている。(LIFEノート)	

41 ～ 44	○これまでの探究活動を振り返って、 「自己実現」して気付いたこと、分かったことを整理する姿 ・自分が行った自己実現は、こういう成果があった	【思考・判断・表現】 自己実現して気付いたこと、分かったことについて考え、整理し、学びを振り返っている。 (LIFEノート)	重点① やりたいことをやってみたら、鎌倉の街や人のためになる部分があったことを考えさせる(よさの理解)
45 ～ 48	○自分の「自己実現」を通して得られた成果を分かりやすく説明する姿 ・(LIFE学習発表会)自分が行った取り組みは自分だけのためだけでなく、鎌倉の人たちにとってもプラスになることだ	【思考・判断・表現】 自分の自己実現してきた内容を発表し、自分にとっても他者にとっても満足するような成果を示している。(発表の様子)	
49 ～ 50	○自分の「自己実現」がこの先どのように生かされていくか、自分はこの先どのように生きていくかを考える姿 ・自己実現をめざす取り組みで気付いた、挑戦することのよさを大切に、これから先の人生でもTryし続けよう。	【思考・判断・表現】 探究活動を通して自分の生き方について考えている。(LIFEノート) 【知識・技能】 自己実現をめざす探究活動のよさについて理解している。 (話し合いの様子)	重点② 総合の時間だけでなく様々な教科・領域で身に付けた力を総合的に働かせながらこれまでの取り組みが行われていることを再度考えさせる

テーマ	伝統産業と現代 鎌倉彫とコスメ	寝具の開発 か「まくら」	かまくらに ミュージックを	写真と観光 鎌倉の街で	聖地巡礼 鎌倉と東京	新しいスポーツ の創造
個別実地調査～好きなこと・やりたいことを、地域の中から見つけよう～(課題設定のための情報収集)						
課題設定	鎌倉彫をもっと若い人に広めるためには、UD	心地良い枕を開発し、皆に使うためには	鎌倉に来る観光客が楽しい気持ちになるには	鎌倉の街のよさをより知ってもらうには	ファンが楽しみつつ鎌倉の交通問題も解消	スポーツを通じた人々の交流(楽しさの実感)
実践①	コスメの作り方を探究し、UDの形を追究する	デザイン担当、制作担当、統計(リサーチ)担当分担	実地に赴き曲の長さとお客さままでの距離を測る	学校近隣でひたすら撮りまくる	聖地に関する情報収集・実地調査で問題点確認	スポーツを通して町の人とのつながりを目指す
	年齢層性別に合わせた表現方法に気付く	スケッチ(大仏モデル)、睡眠に関する情報集め	混み具合で到着時間が変わること気付く	テーマを決めて撮る方がいいことに気付く	交通渋滞解消のためにできることは何か考える	附属小との交流小学生が楽しめる
中間発表会(これから鎌倉の街で何を実践するかを示す)						
課題の再設定	鎌倉彫を身近なものにするためには	鎌倉の要素がある枕を作るためには	様々な天候を想定して曲を用意する	テーマ「歴史」「観光」にして何を伝えたいか意識	観光客の流れを変えるためには	小中で連携していくには(スポーツの面で)
実践②	鎌倉彫関係者に構想を話す	枕の構造調べ(分解した後、再生)	観光協会での自分の考えを伝える	鎌倉以外の地で撮影	実地に赴き、時間帯ごとの調査	世の中のスポーツ調べ(球技)
	電話で情報収集(着色の仕方)	まくらを作る前段階準備を終える	市役所のお墨付きをもらうよう言われる	身近な地域と比較して鎌倉でどう撮れるか	混雑しない時間があることが分かった	球技でどんなスポーツが作れるか。
	鎌倉彫にどう着色するか考える	まくらを作り始める	市役所に自分たちの構想を語る	写真集の作成(市役所・観光協会)	ホームページに混雑しない時間示す	新しいスポーツの開発と実践
課題の再設定						
ゴール	鎌倉彫とコスメの融合を通じた伝統産業の普及	まくらを作って自分たちも使い、寄贈もする	観光地まで楽しみを作る with music	写真を撮り、設置場所を決めて写真集を作成する	聖地巡礼を通して地域盛り上げ(東京&鎌倉)	スポーツを通して小学生と交流をする

本時で目指す子供の姿

- やりたいことに挑戦した結果、成果や課題を見出すことできる姿。
- 自己満足だけでなく他者も満足するような、自己実現の達成を模索する姿。
- Errorから改善点を見出し、次のTryに向けて挑戦しようとする姿。

○学ぶ子供の姿・具体的な発言や反応

■子供の見取りプラン

○前回までの取り組みを振り返る姿

- ・鎌倉の街で実際にやってきたけど、上手いかわないところがあったね
- ・自分たちの提案を聞いてもらって、良い点や改善点を教えてもらえたね。

○ある班の報告を聞いて、自分たちの取り組みに生かそうとする姿

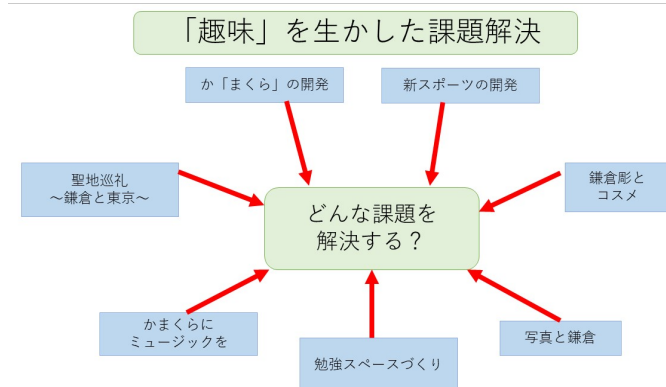
- ・自分たちも同じように提案や実践をしてきたけど、同じような改善点を指摘されていたからすぐに直してみよう
- ・自分たちの班にはない長所があるから取り入れてみよう

○自分たちのErrorは何だったか、そこからの学びは何かを考える姿

- ・街の人に話してきたけど、こうするといいてアドバイスもらったから反映してみよう
- ・同じミスをしないう、次はどういう方法で取り組もう

○それぞれのグループで次はどう挑戦しようか具体的なイメージを持つ姿

- ・作ったもののクオリティをもっと高めて発信しよう
- ・どんな風に役立つか、メリットをもっと考えよう
- ・分担してやっていたけど、協力できる部分は協力しよう



■これまでの取り組み内容をもとに、Errorを検証し、次の挑戦に向けてどのように改善していくのかを考える。

- ・街中に出てTryしてきた内容の成果を大切にしつつ、もっとこうすればよかった、ここはこうできたという次につながる気付きや考察、またやってみようという気持ちが芽生えることを期待する。

重点① 自分たちのやりたいことに本気で取り組むための環境づくり(まずは生徒がやってみることを大切に、好きなことでテーマ設定し、教員がダメ出しするのではなく、世の中でTryしてErrorさせる=「失敗させない教育」をやめるという教員の意識改革を行う)

■これからのTryに向けて、これまでに得た学び(成果)をどう生かしていけるかを考える。

- ・各教科で身に付けた力を発揮したり、見方・考え方を生かしたり、生活場面で挑戦してきたことを生かしたり、これまでの学びがその場限りでは終わらず、意識化しながら次の時間や場所でも使えるようにすることができると考える。

重点② これまでの学びを生かしながら次に生かそうとする授業構成(生徒達の実践を最優先にする単元構想)を考え、Try&Errorを繰り返しながら次に進むことができる環境づくり(保護者・職員への合意形成をする)。

子供達が新たな探究のサイクルに入るにあたり、これまで積み上げてきた成果を確かなものとするために、クラス全体で成果を共有する。これまでやってきたことの中に失敗があったとしても、それを改善して次に挑戦していけば決して失敗ではなかったという考え方が大切である。実践意欲が決して絶えることのない探究活動となるために、教員の適切な評価(資質・能力が養われていたり発揮されていたりする際の適切な見取りや声かけ)が常に求められている。

評価

【思考・判断・表現】

自分がこれまで実践してきたことを検証し、新たな挑戦につなげるために改善点を見出したり、成果について確かめたりしている。(発言・取り組みの観察、LIFEノートの見取り)

支援を要する子供に対する手立て

- ・Errorで立ち止まり、諦めようとする生徒に対し、次のTryに向けて他の方法はないかグループで協議させる
- ・探究活動の手立てを見出せていない生徒に対し、自分のやりたいこと、目標は何だったかを再度振り返らせ、これまでの取り組みの良かった点、改善すべき点を再度考えさせる。役立つ、という意識が強くなりすぎて活動が停滞している生徒に対し、まずは自分のためになっているかを考えさせる

本時の子供の姿

やりたいことに取り組み、そこに課題を見出しながら探究活動に取り組む子供の姿が見られた。子供達の探究活動の進捗状況や、これまでの取り組みの経緯は授業者が把握していたが、「この活動を通して何ができるようになったか」「どんな力が身に付いて、その先により良く生きていくことができるようになるのか」というような、子供達に身に付けさせたい資質・能力を意識した適切な支援ができていたか、検証が必要である。

やってみることで分かることを大切に、研究授業の中でも「ミシンでか「まくら」を作ってみる」「観光を盛り上げる音楽を流して参観者の反応を確かめる」「鎌倉彫に化粧品で着色するための調合」など、様々な実践を行った。自分たちの探究活動に積極的に取り組む姿と、その先にあるものは何かを考える姿が見られた。



研究協議から考えたこと

重点① 子供の「やりたい!」を引き出す手立てと思いを生かす環境づくり

重点② 解決のすべの育成に向けた授業デザイン

重点①に関して、自分たちのやりたいことに取り組める環境づくりを1学期から入念に行った。具体的には、学年集会で今年度の総合の方向性(実践を重視すること)を伝え、やりたいテーマごとに分かれて、一人ひとりと面談をしながら活動グループを決めた。

重点②に関して、実践を最優先とするねらいから、行きたい時に校外へ行けるよう手続きを簡略化し、保護者の協力を得ながら保護者見守りのもと、校外での活動を行える環境を整えた。これまでの学びを生かしながら、修正を加えつつ次の実践につなげていく流れができた。

協議の中で、子供達が自ら自己実現に向かう姿が見られたことや、子供主体で取り組んでいたことなどが成果として挙げられた。一方で、活動の目的や、ビジョン、ゴールをより明確にして共有することが重要だという課題について教えて頂いた。「子供達に手の内を見せる」ような、教室全体で目標を共有しながら取り組んでいくことが、教室を超えた学び(実社会や実生活で生かせる学び)につながっていくのではないかと改めて感じた。

単元全体を振り返って

中学校の総合的な学習の時間では、学習指導要領に例示されている職場体験活動や防災などの内容を、何年生で何を学ぶ、という形を各学校で定めている姿を多く見かける。その地域に見られる課題を扱っていたり、毎年取り組む活動のため成果が蓄積されていたり、その活動自体も重要であるが、場合によっては学区内の小学校で既に学んできたことを中学校で再度取り組むことになるかもしれない。そこで、今年度の総合では、子供達の実態に応じて、子供達の興味・関心(やりたいことは何か)を最も大切にしながら単元を構想した。

活動を進める中で、やりたいことをやるだけでは、「自己満足」で終わってしまうかもしれないという疑問が生じた。そこで、子供達と「やりたいこと」をやれるフィールドである鎌倉に何かお返しができたらいいのではないかと話し合った。その時、子供達から「他者満足」も大切だという発言が出て、「自己満足」と「他者満足」を合わせて「自己実現」という結論に至った。このような子供達とのやりとりを通して探究活動を展開していくことは、小学校から引き続き行われていることであり、中学校でもこのようなやり取り(授業を一緒に作り、授業者がどんな資質・能力を付けられるか想起しながら、必要な支援をしていくこと)が重要であることに改めて気付かされた。小中で連携して育む資質・能力を各教科や総合的な学習の時間で身に付け、発揮し、やがて社会でより良く生きることにつながっていくことを願っている。